アンジェリーク

メッセージコレクション



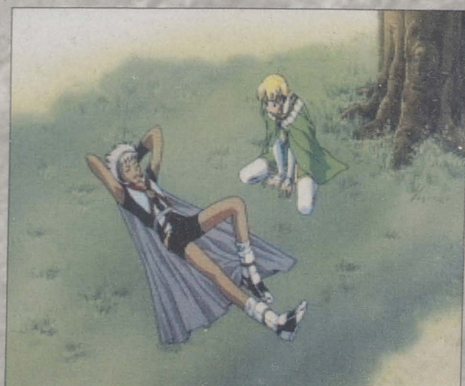
Opening Collection



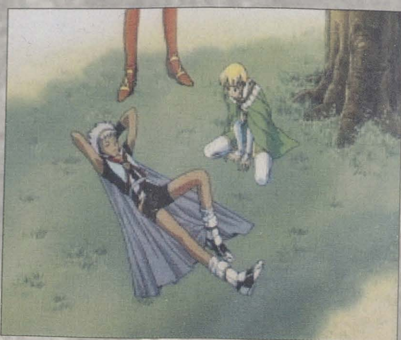




「ねえねえ、もう行かなきゃ……とっても大事なお話があるって聞いたよぉ」



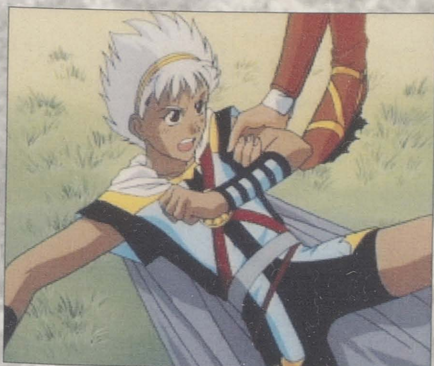
「っせーなー。そんなもんはさぼっちまえばいいじゃねーか」
「またそんなこと言ってぇ……」



「二人とも……遅刻するつもりか？」



「女王陛下にお仕えする守護聖が、そんなことでどうする」



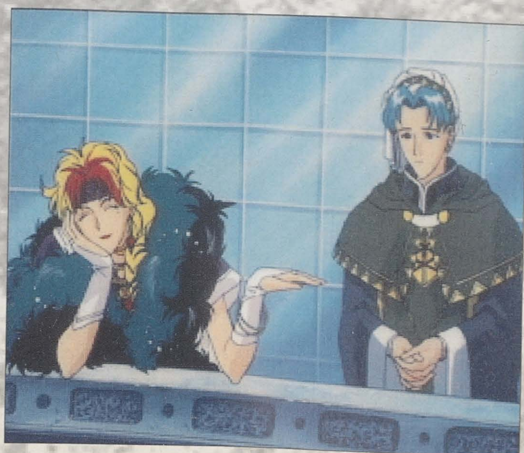
「さ、行くぞ」
「あっ、なにすんだってめぇー」



「あ、あぁ……や、やめてよぉ、二人ともぉ」



「なにをしているんですかね、三人とも……」



「きゃははは、どうせこんなもんだって」

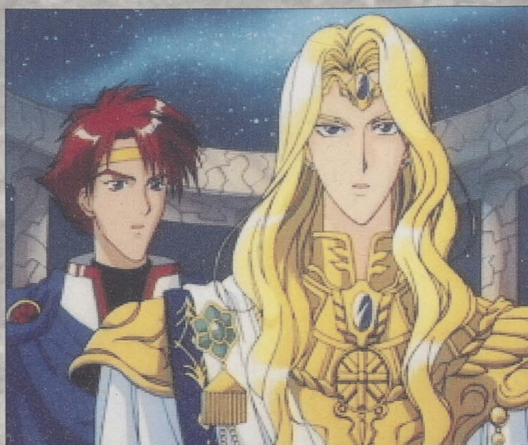


「それより、なんなのさ？　こんな急に……守護聖全員に呼び出しだなんてさ」

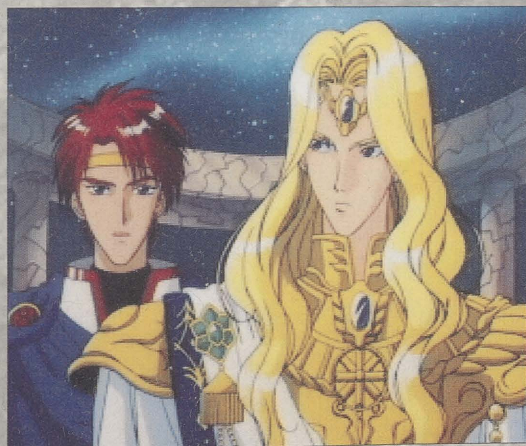


「いや、まあ、それはですねえ……」

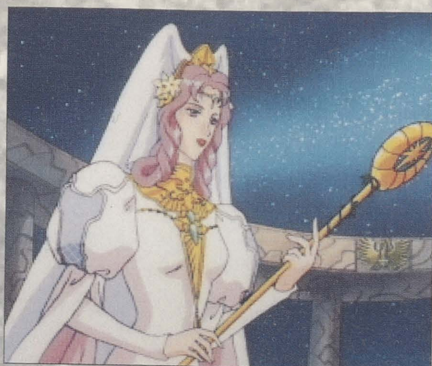




「そうか､ついに見つかったのだな。次期女王候補と例の惑星が……」



「女王候補と惑星……それはいったい？」



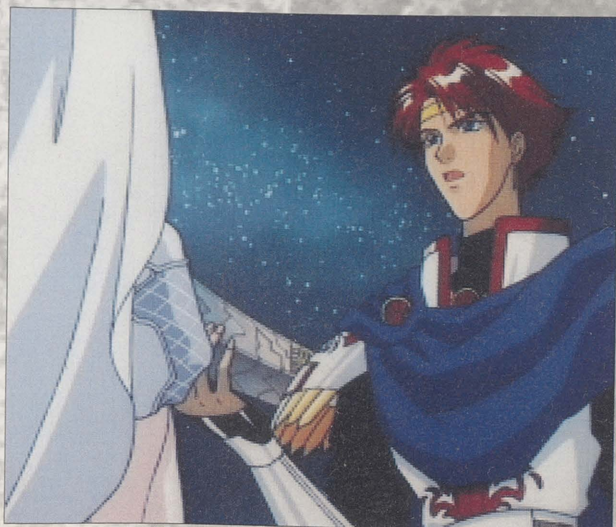
「候補が二人あがっているのです。そのどちらかを次期女王と決めるにあたって、惑星を育てる試験をおこなおうと、陛下はお考えです」

「私たち守護聖の力を正しく使いこなせるかどうか……」





「その惑星で試させるという試験なのですね」



「それで、次期女王候補の二人とは？」



「ええ、一人はロザリア・デ・カタルヘナ」



「女王や守護聖を多く出した名門貴族、カタルヘナ家の出身で、彼女自身も、女王候補として非常に優秀な素質をもっています」



「そしてもう一人は……」



「……」

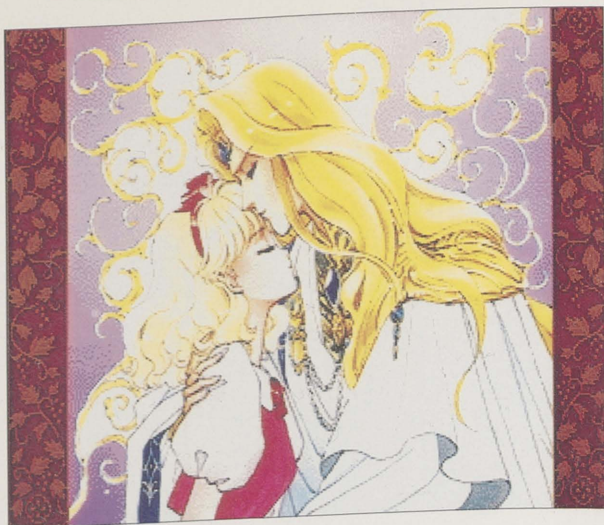

「……」




「……」


「金の髪の……女王候補か……」

ジュリアス恋愛エンディング

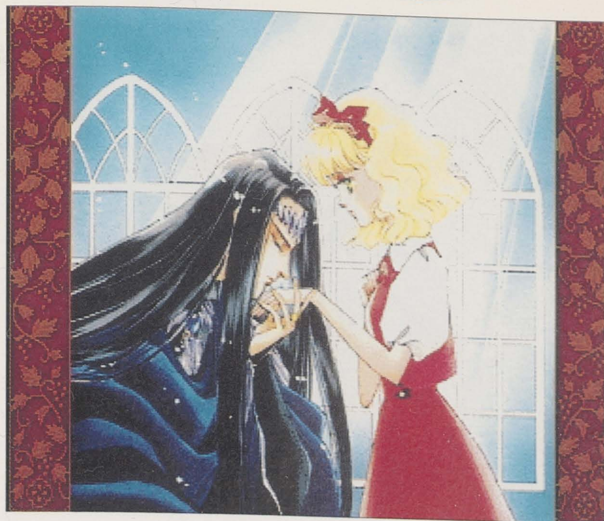


「試験の方はどうだ？うまくいっているか？」
▶「…はいっ！」「いいえ…」
「そうか…。だが正直言って今の私には試験などどうでもよいのだ。いや、なければよいとさえ思う。女王陛下に最も忠誠を誓う光の守護聖ジュリアス、この私が、だ。笑ってくれてもいい。だが、私の「誇り」のすべてを投げうってでもお前を離したくはない。アンジェリーク！世界の女王ではなく、私一人の女王になってくれ！」
▶「よろこんで！」
「ああ、アンジェリーク。お前は私にとって、まさしく光の天使だ…。私の全身全霊をかけて誓う。全宇宙で最も幸福な光をお前に贈ろう。そして永遠の愛を…」

ジュリアスはそっとアンジェリークを抱き寄せ、その額に口付けた。「私の、アンジェリーク…」目を閉じた少女の、夢見るような表情に、ジュリアスはたとえようのない愛しさを感じていた…。

BAD
▶「ごめんなさい」
「……それはこの私の愛を受け入れないということだな。よかろう、ならば目指すがいい、女王の座を！そして見事、世界に冠たる女王となってみせるがいい。…このジュリアスを捨ててまで選んだ道なのだからな」
「……」
「ごめんなさい、ジュリアス様…」

クラヴィス恋愛エンディング



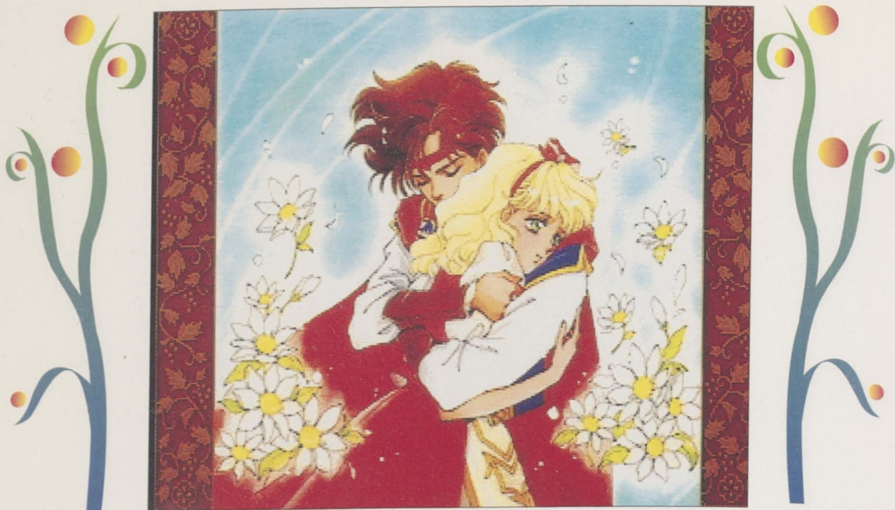
「…アンジェリーク…」
「??なんですか、クラヴィス様?」
「…いや、なんでもない。機会があれば話そう」

「アンジェリーク、少し時間をくれないか。私自身、もう一度この言葉を使うとは思いもよらなかった。だが、あえて言おう。アンジェリーク。私にはお前が必要だ。お前のいないこれからの時間などもはや考えられない。これからもずっと私のそばにいてくれないか?
▶「よろこんで!」
「アンジェリーク…私は待っていた。この永遠の闇を共に生きてくれる者を。だがお前は闇には染まらずそこに差し込む一筋の希望となっていてほしい。守護聖としての長い時間が終わっても、お前ならば私を導いてくれるだろう。アンジェリーク。私の天使よ。

ふれあった指先から、暖かさが流れ込んでくる。クラヴィスはもう一度目の前の少女を見た。やっと守るべきものを見つけた…。そう悟った瞬間、ずっと心の奥底でその瞳の中に映る自分自身をも…。凍っていたものが、溶けていくのがわかった…。

BAD
▶「ごめんなさい」
「お前が女王になっても、ならなかったとしても、これでお前と私は違う時間を生きることになる。…さらばだ、アンジェリーク
もう二度と私が人を愛することはないだろう」
「…クラヴィス様…」

ランディ恋愛エンディング



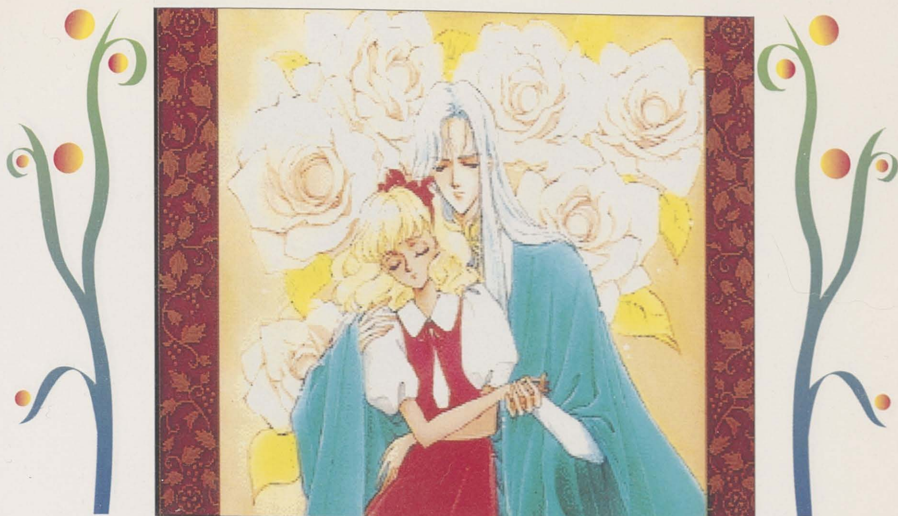
「アンジェリーク。今日も君と一緒にここに来れるのがすっごくうれしいよ。でも、なんていうか、…近頃どうも気持ちがすっきりしないんだ。自分で自分の気持ちを持て余してるような…よくわからないんだ。…ゴメン！　せっかくのデートなのに、こんなこと言ってて。さ、歩こうか！」

「アンジェリーク。俺さ、自分の気持ちが今はっきりわかったんだ。この気持ちを君に聞いてほしい。あの…その…何だ。俺は…君のことが好きらしい…いや好きなんだ！　あー、やっと言えたっ。今じゃないと、もう二度と言えないかもしれないからこの想いだけでも伝えておきたかったんだ。じゃあ今日はもう帰るよ」
「ランディ様！」
「…俺は君の瞳に見つめられているだけで幸せなんだ。そして俺にはもう君しか見えない。その瞳が永遠に俺一人を見つめていてくれたら…君が好きだ…。今、胸を張って言える。君は俺のすべてだ!!　アンジェリーク!!　…どうかこの想いにこたえてくれ！」
▶「よろこんで！」
「アンジェリーク…いつもの俺だったら照れちゃって言えないだろうから今、君に言っておくよ。ありがとう…この世に生まれてくれて、俺と出会ってくれて…そして俺を愛してくれて…ありがとう」

ランディの両腕が、痛いくらいにアンジェリークを抱きしめた。そして、アンジェリークの腕も遠慮がちにランディの背中に回される…「…ずっと一緒にいたい」それ以外に、今の自分の気持ちを伝える言葉を、ランディは見つけられなかった。

BAD
▶「ごめんなさい」
「そう…か、わかったよ。君がそう言うのなら、俺もこれ以上は何も言わない。アンジェリーク、君は俺の前に舞い降りた天使だったよ。さようなら。一瞬だけの、俺の天使…」
「…ランディ様、ごめんなさい…」

リュミエール恋愛エンディング



「アンジェリーク…今日は折り入ってお話があるのです。あなたと私自身の話なのですが…聞いていただけますか？」
▶「…はいっ！」
「よかった。そう言っていただけると、私も自分の気持ちを素直に伝えられそうです」

▶「いいえ」
「どうかこれだけは聞いてください」

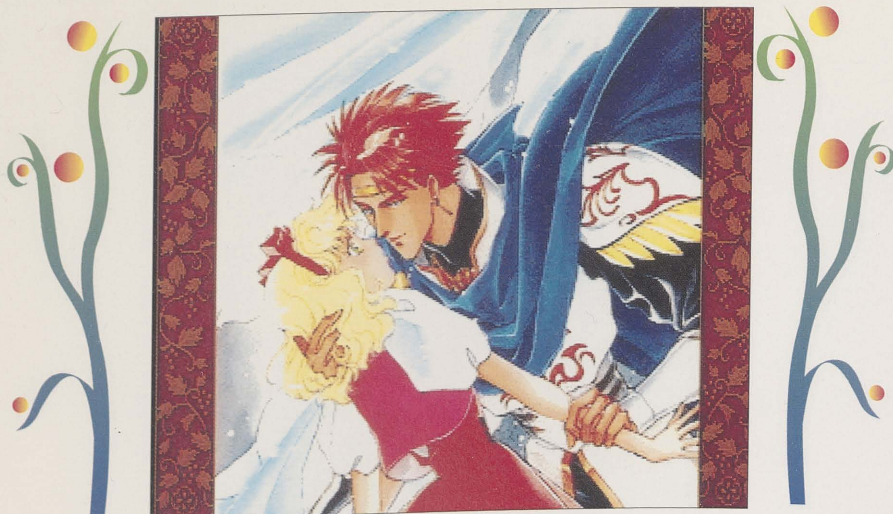
「…ご存じの通り、私は水の守護聖として人々の心に『優しさ』を送っています。そのとき、なぜかある人の笑顔が心に浮かぶのです。…アンジェリーク……あなたの笑顔が、です。たくさんの人々の心をいやす私の、この心を、アンジェリーク、あなたはいやしてくれるのです。今ではあなたと共に過ごす時間が私の生命の源であるような気さえします。アンジェリーク…守護聖の私が、女王候補のあなたに言えることではないのでしょうが、どうか私と一緒に生きてはいただけませんか。無論、答えによってはあなたが女王となる資格を放棄しなければならないことはわかっています。その上で言わせてください。どうか私と共に…」
▶「よろこんで！」
「ありがとう、アンジェリーク。本当はあなたこそ女王にふさわしかったのかも知れない。それでもなお、私を選んでくれたあなたを…アンジェリーク。あなたを愛しています。二人で時を重ねていきましょう。これからの、長い長い時を…」

そっとまわした両腕から、温もりが伝わる。リュミエールの細い指先がさらに細い少女の指に重なって…優しく包み込んだ。
自分は決して、強い人間ではない。でも、だからこそ、この人を…「あなたを支える役目をください、アンジェリーク…」

BAD
▶「ごめんなさい」
「…そうですね。これからは一人の守護聖として、あなたに助力をいたしましょう。ただ、しばらくはあなたに会うのがつらいかも知れませんが…」

「また顔を合わせることも多いでしょうが、あなたはいつものように明るい笑顔を見せてくださいね。私にとっては、あなたの沈んだ顔を見ることの方が何倍もつらいのですから」
「リュミエール様…」
「…さようなら、アンジェリーク」
「リュミエール様…」

オスカー恋愛エンディング



「アンジェリーク。君に謝ることがある。君は、今まで俺が出会った、どんな女とも違う気がするんだ。どの女にもなかった魅力が…なんだかとても不思議な魅力がある。それに気づかず、子供扱いしてきた俺を許してくれ」
「オスカー様…」
「君と一緒にいると時はまたたく間に過ぎ去りそうでない時は悲しいほどに長い。今の俺にとって、一緒にいられるわずかな時間が、生きていることを最も実感できるときだよ」

「…アンジェリーク…」
「オスカー様？どうかなさったのですか？」
「…俺は今悩んでいる。君のために、俺はできるだけ力を尽くしたい。しかしそうすればするほど君は女王に近づいていく。女王と守護聖の関係になったら、こうして二人きりで過ごすこともできなくなるだろう。アンジェリーク、君はそれでもいいのか？」
▶「そんなぁ！」
「本当か？　アンジェリーク。…今まで、こんな気持ちになったことはなかった…。こんなに本気で人を好きになったことは…。俺に真実の愛を教えたのは君だ、アンジェリーク。ここに永遠の愛を誓おう。そして…俺の命ある限りアンジェリーク、君を、この愛を離しはしない…しかし、この俺がこんなにマジになっちまうとはな。そんなにきょとんとしてるなよ、お嬢ちゃん。いいか、俺の目をまっすぐ見て、そうだ、そのまま…」

…その瞳を見つめたとき。この愛を決して失いたくないと心から思った。この瞬間が永遠であれば、と心から願った。「この俺が、だぜ？」「アンジェリーク…」

BAD
▶「そうかも」
「…フッ、仕方ないな。結局、お嬢ちゃんじゃ俺の魅力はわかってもらえなかったようだな。やれやれ。俺としたことがとんだ道化を演じちまったようだぜ。あばよ、お嬢ちゃん。そのうち俺が驚くほどのとびっきりイイ女になってみせてくれよ」

マルセル恋愛エンディング



「アンジェリーク、試験の方はどう？　がんばってる？　つらい事や悩んでいる事があったら何でも話してね？」
▶「うれしい」
「ぼくは他の人たちみたいに的確なアドバイスはできないかもしれないけれど、君のために一緒に考えてあげることはできるよ。ぼく、誰よりも一生懸命考えるからね！　だってぼくは、アンジェリーク大好きなんだもん！」
▶「あの、でも…」
「ねえ、アンジェリーク、確かにぼくはちょっと頼りないかもしれないけど君のこと、誰よりも大切に思ってる。この気持ちは他の誰にも負けないよ。だってぼくは、アンジェリーク大好きなんだもん！」
「アンジェリーク。ぼくは君のこと大好きなんだ。友達とかお姉さんみたいとかじゃなくて…。アンジェリーク…ぼくのこと…好き？」
▶「そうかも」
「よかった！　違うって言われたらどうしようかと思っちゃった。あのね、もう一つ聞きたいことがあるんだ。すっごく大事なことなんだけど。もしぼくが星に帰るときは一緒に来てほしいんだ。女王様になんかならないでずっとぼくと一緒にいてほしいんだ。お願いだから、ぼくだけの君でいて！」
▶「よろこんで！」
「ありがとう。本当に。アンジェリーク。ぼく、好きになってよかった。ぼくの星に来てくれたらねあのお気に入りの森を紹介するよ。そのころにはきっと、ぼくの植えたドングリも大きな木になってると思うんだ。そしたら二人でいろんなお話をしようね。その木の下で、ゆっくり…」
いつの日か…。緑の森の中、やわらかな陽光の下。遊び疲れた二人は、樹とお互いに寄りかかったまま眠ってしまう。
…ゆっくり、時間が流れる。その幸せな天使の寝顔は、木の葉のささやきだけが聞こえる世界で、静かに輝いていた…。

BAD　▶「そんなぁ！」「ごめんなさい」
「そうなの…？　ぼくのこと、ほんとは好きじゃなかったの…？　ぼくは…ぼくは本当に大好きだったのに！　ひどいや、アンジェリーク、もう大っ嫌いだ!!」
「マルセル様…。ごめんなさい」

ゼフェル恋愛エンディング



「アンジェリーク、試験の方はちゃんとやってんのか？」
▶「…はいっ！」①
「けっ、なんだ、結構マジメじゃねーか。でもそーゆうトコがおもしれーんだけどな。でも、おめーも一応、女王候補なんだよな。場合によっちゃ女王になっちまうのか…。ま、お前はどう見ても女王って感じじゃねーけどな！」

▶「いいえ…」①
「そりゃあ、こんだけオレと遊んでりゃあな。ま、あきらめちまえよ」

「今日も一緒に過ごせてとっても楽しかったです」
「アンジェリーク、おめーさ本当に女王になりてーか？」
▶「…はいっ！」②
「アンジェリーク！　女王になっちまったらもうこんなふうに会えなくなるんだぜ、それでもいいのかよ!?」

▶「いいえ…」②③（共通）
「じゃあ女王になるよりオレを選んでくれるんだな？」
▶「よろこんで！」
「オレは…オレはさ、よく聞けよアンジェリーク。いいか、オレはおめーが好きなんだよ！　前からずっと…、これから先もずっとだ！　絶対、絶対だからな！」

「…あのよ、アンジェリーク。」そう言うゼフェルが少しふるえていたことに、アンジェリークは気づいただろうか。
「オレ、ずっと、おめーのこと　ずっと大切にする…」

BAD ▶「…はいっ！」③「ごめんなさい」（共通）
「じゃあアソビだったっていうのかよ!?　あんだけ気ィもたせといて何なんだよ、おめーは！　ばかやろー、もう顔も見たくねーや!!」
「ごめんなさい、ゼフェル様…」

オリヴィエ恋愛エンディング



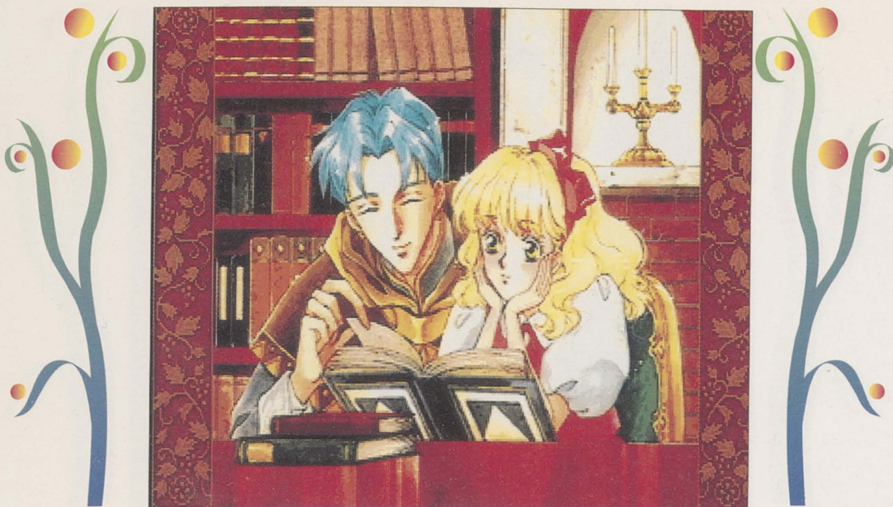
「さぁて、アンジェリーク、今日はちょっとマジメに夢の話でもしちゃおうかな　夜見る夢と、希望や願望の夢って同じだと思う？」
▶「…はいっ！」「いいえ…」
「はぁい、どっちでも正解！　というのは、どちらも心の願いを違う形で表現してるだけだからさ。たとえば、毎日私のことばっかり考えてると私の夢とか見ちゃうよー？　なぁんてね。冗談！つまりいつも楽しいことを考えてれば、眠ってても楽しいし、いい夢見たらさらにうれしいでしょ？　で、私のお仕事は、人に美しい、楽しい夢を見せて楽しく生きてもらっちゃうってコトなんだ」

「今日はおもしろいお話をありがとうございました」
「どういたしまして。そうだ、アンジェリークちょっと目をつぶってて」
「どうしてですか？」
「あんたに楽しい夢を見せてあげるための、テストをするんだよ。…好きだよ、アンジェリーク。ふふっびっくりした？　でも今のは冗談じゃないよ。本気。この私を本気にさせちゃうなんてね。今のが私の告白。どう？　うなずいてくれるかなァ？」
▶「よろこんで！」
「アンジェリーク、これからは毎日楽しい夢を見せてあげるよ。じゃなかった。楽しい夢は二人で見よう。…ね」

アンジェリークの頬が、みるみるバラ色に染まる。それを楽しそうに見ていたオリヴィエの余裕の笑みが…ふと、止まった。
「見つけたよ、アンジェリーク。」夢よりも、もっと美しい現実を。今、自分の目の前に…。

BAD
▶「ごめんなさい」
「ここまできてフラれちゃうとは、ねェ。まあ、仕方ないかな。アンタもせいぜいがんばって、女王様にでもなってちょうだい。じゃあねー」
「オリヴィエ様…」

ルヴァ恋愛エンディング



「あのー、あのですね、アンジェリーク。今日も難しい話をしちゃうかもしれません」
「どんなことですか？　ルヴァ様」
「この前、知識と知恵の話をしましたよね。あれからずっと考えてたんですが、私たちは、知識と知恵のように、お互いをおぎないあって生きていくことができるんじゃないかと…アンジェリーク、あなたは私にいつも新しい知識と感動をもたらしてくれる天使なんです。私はそんなあなたをいつまでも見つめていたいし、できればずっとそばにいて支えてあげたい。もし…もし、あなたさえよければ、なんですが…。女王としてではなく、私と一緒に生きていく道を選んでくれませんか？」
▶「よろこんで！」
「よかった。アンジェリーク、あなたならそう言ってくれると思ってました。いろいろ大変なこともあるかもしれません。でも、あなたとなら、どんな道も歩いていけそうです。一緒に、ゆっくりと、歩いていきましょう。…アンジェリーク」

ふと、アンジェリークの金色の髪が、ルヴァの頬にふれた。それほど近くに、自分の近くに、アンジェリークがいる…。
それがどんなに幸福なことか、ルヴァは今初めて幸福という言葉の本当の意味を知った気がした…。

BAD
▶「ごめんなさい」
「ああ、そうですよね…。いつも軽やかで輝いているあなたには、私では不釣り合いですよね。…はあ…本当に駄目だったんですねー。でも、何かまだ実感がわきませんよ。こういうことは言うのも言われるのも初めてだったもんで…」
「ルヴァ様…」
「アンジェリーク…まだ何を言ったらいいか…でも、私があなたを大切に思っている、この気持ちは今も変わりません。…だから、立派な女王に…いえ、幸せになってください。それが一人の人間としての私の願いです」
「ルヴァ様…。本当にごめんなさい…」

アンジェリーク
メッセージコレクション……

Contents

☆メッセージは『アンジェリークSpecial』WIN95版をベースにしています。
☆全守護聖のメッセージを掲載しています。ただし、別のシチュエーションに同じメッセージが使用されている場合、一部割愛いたしました。ご了承ください。

オープニング ノベル

女王試験の始まり

「物語」のプロローグを小説タッチで紹介します。

●1●

私は聖地に来ていた。恐れ多くも、次期女王候補として…。これから女王様に直接お会いできるっていう謁見の間に入らなくちゃいけないんだけど…あーん、足がふるえるぅ！

扉の前で迷っていると、こっちに向かって歩いてくる人の姿が見えた。たぶんもう一人の女王候補…ロザリアだわ。

ものすごい勢いで私の前まで来るとピタッと立ち止まった。

「あんたなの？ 私のほかに女王候補に選ばれたのは…。同じスモルニィ女学院の生徒といっても、大貴族で優等生で、しかも美人の私とは大違いの、なんの取りえもないあんたが…？」

ひ、ひど――い！ と思う反面、言い返せないところが悲しい。どーせ私は庶民の、ふつーの女の子よ。でも、精一杯がんばろうって心に決めてここまで来たんだから！ 簡単にはあきらめないわ。

あら？ いつの間にか足のふるえが止まってる。…しゃくだけどロザリアのおかげってことかしら？



ロザリアは、さらにもう一歩近づいて言った。

「まあ、いいわ。どうせ私が女王になるんだから。じゃ、扉を開けるわよ。いいわね」

私は深くうなずいた。どんな試験だって負けるもんですか！ 私とロザリアは一緒に扉を開けた。

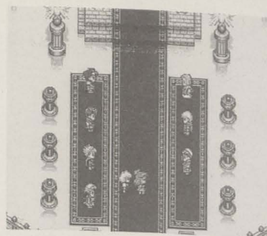
●2●

謁見の間は、広くて、美しくて、子供のころに夢で見た王様のお城よりももっとステキなところだった。扉から女王様の席まで、高貴な感じの真っ赤な絨毯がまっすぐに延びている。その両脇に、女王様と共に世界を司る守護聖様たちが並んでいた。わぁっ、きれいな方ばかり！

私たちは絨毯の上を、女王様に向かって進んだ。もちろん緊張してるんだけど、それ以上に守護聖様たちが気になった。守護聖様たちも興味深そうに私たちのことを見てるから、すぐに視線が合っちゃう。思わず足を止めると、ロザリアがすごい顔で私を引っ張った。ちょっとくらいいいじゃない。

女王陛下の前で立ち止まると、私のすぐ隣に立っておられた守護聖様が、私たちに向かってお話になられた。

「次期女王候補に選ばれし者たちよ。女王陛下にご挨拶を申し上げるように」



まず、ロザリアが一歩進み出た。

「ロザリア・デ・カタルヘナでございます」

彼女は、続けて守護星座と血液型を告げると後ろに下がった。くやしいけど見事なあいさつだわ…。

今度は私の番ね。心を決めて、一歩前へ進んだ。

「私の名は…」

私は、自分の名前を告げた。

「アンジェリーク」と。

いちおうきちんと言えたんじゃないかしら？ ホッとしていると、女王様が…。

「アンジェリークそなたの守護星座は？」

あっいけない！ ロザリアは聞かれる前にちゃんと言ったのに…え、えーと…。私はあたふたとしながらも、なんとか守護星座と血液型を告げた。

「アンジェリーク、ロザリア。女王の名において、二人を次期女王候補としてここに指名する。これからそなたたちはどちらが宇宙を統べる女王と

してふさわしいかを決める試験をうけるのだ。次代の女王を試験で決めるのは異例なことであるがこれもそなたたちの優れた資質に期待するゆえ。次期女王として、自身の持てる力を示してほしい。試験には、彼ら守護聖達と我が代理の…ディア」
　…私にもすぐれた資質なんてあるのかしら？　とか考えていると、ディアと呼ばれた方が近づいてこられた。
「女王補佐官のディアを遣わそう。そなたたちは彼らの力を借りて、この試験を行うことになる。星を導く使命を持つ者達よ。そして我が志を継ぐ者よ。どうか、我が期待にこたえてほしい…」
　幕が下り、陛下のお姿が見えなくなった。これって、ホントに現実なのかしら？　ぼーっとディア様の背を見ていたら、急に私たちのほうに向き直ったのでビックリ。初対面の時くらい、ちゃんとしなくちゃ。
「私は、ディア。この試験中二人の相談役を務めます。わからない事があれば何でも聞いて下さい。試験の方法についての、説明をいたしましょうか？」
　ロザリアは私のほうにチラッと目線を向けた。瞳が「私には必要ありませんけど、あんたは？」って言ってる。…くやしいけど、そんなこと言っていられない。ロザリアに置いていかれないためにもちゃんと聞かなきゃ！　私は「はい」と答えた。
　すると先ほどと同じ、金色の髪の守護聖様が言った。
「では、私から試験の方法を説明する。それは、新しい宇宙に生まれた新しい世界を育てること。世界を発展に導く力を持つ我々９人の守護聖は、二人の依頼の通りそれぞれ司る力を送る。この力をうまく使い、早く規定に達した者…、新しい世界をより発展に導いた者を次期女王とする。二人ともよいな。女王陛下の御期待に背くことのないようにな」
　え、え？　新しい宇宙に生まれた新しい世界って…どういうことかしら？　思いっきり頭を悩ませていると、ディア様がおっしゃった。
「守護聖の方々については後ほどご紹介いたします。では、アンジェリーク、ロザリア。参りましょう」
　ディア様に連れられて、私とロザリアは謁見の間から退室した。あーん、どなたかもう一度説明してくださーい！

3

　二人の女王候補が退室すると、漆黒の髪をした守護聖が口を開いた。
「…結局こうなってしまうのだな？　ジュリアス」
　ジュリアスという名に反応したのは、女王謁見の進行をして



いた金の髪の守護聖だった。
「クラヴィス、これは女王陛下のご意志なのだ。それに従うのが、我々のつとめ。そうではないのか？」
「…」
漆黒の髪の守護聖は、険しい表情で応えた。その態度に不満を見せながら、誇りを与える「光」の守護聖、ジュリアスは退室した。クラヴィス──安らぎをもたらす、光とは対極にある「闇」の守護聖は、ジュリアスに続いて退室しようとした。そのクラヴィスに清流を思わせる、長く美しい髪の守護聖が近づく。
「クラヴィス様…。この次期女王選出には一体何があるのです。女王陛下の御意志とはいえ…」
「聞くな、リュミエール」
最後までかたくなな態度を崩さぬまま、闇の守護聖は立ち去った。
「…クラヴィス様」
その背中を見送りながらつぶやいたのは、やさしさをもたらす「水」の守護聖。名をリュミエールと言った。
「女王試験か…。面白いことになりそうだぜ。ただあのお嬢ちゃん方はこの炎のオスカーにはお子様すぎるかな」
いかにもプレイボーイを気どった守護聖は、そう言って扉の向こうに消えていった。強さを与える「炎」の守護聖、オスカーである。
うるさ方が消えたと見て、ひと目で最年少とわかる守護聖が、赤いマントがひときわ目立つ青年に近づいて言った。
「ねえ、ランディ。みんななに難しい話をしてるの？　ぼく、よくわかんないよ」
「うーん…。実は俺もよくわからないんだ」
ランディは、勇気を運ぶ「風」の守護聖だ。彼もまた、守護聖の中では年少組である。彼は笑顔で言葉を続けた。
「ま、俺やマルセルにはあまり関係ないと思うけどな！」
弱冠14歳といわれる、豊かさをもたらす「緑」の守護聖、マルセルも笑顔で
「そうなの？でも女王試験…なんかワクワクしちゃうよね。ぼくもがんばろっと！」
と言い残して、自分の部屋へと帰っていった。
「ハハッ、はりきってるな！マルセルは初めて本格的に力を使うんだもんな。俺も負けられないぞ！」
ランディはは つらつとした表情で、緑の守護聖の後を追うように退室した。すると、これまた年若い少年守護聖が口を開いた。
「でもよー、新しい宇宙に行けるなんて、けっこうおもしろそうだよな。オレちょうど退屈してたんだ」

「ゼフェル、遊びに行くんじゃないんですよー？　いいですかー、女王の存在は宇宙にとって…」

あまりにもスローなテンポにいらだったのだろうか。器用さをもたらす「鋼」の守護聖、ゼフェルは叫んだ。

「ったく、またルヴァの説教かよ！」

ルヴァ――知恵を与える「地」の守護聖は、あわてて言葉を継ぐ。

「説教じゃなくって説明…」

言いかけた時には、ゼフェルの姿はすでになかった。

「…だったんですけどねー。うーん、いつもながらすばやいですねー」

ルヴァは困った表情でつぶやいた。

「宇宙を支え世界を導く女王…か。きゃははっ。何みんなムキになってんだろーねっ」

鳥の羽根でつくったショールを肩にかけた守護聖が、みんな出ていった扉のほうを見て笑い飛ばした。

「オリヴィエ、みんな行っちゃいましたよー」

ルヴァは美しさをもたらす「夢」の守護聖に話かける。オリヴィエはルヴァに向き直り、皮肉を込めて言った。

「…ルヴァ、あんたはいつもと変わんないね」

「は？」

ルヴァは皮肉られたとは夢にも思わない。その返答に気が抜けたようすで、

「あーあ、結局行かなきゃなんないワケね。でも、何となく面白くなりそう…かな？」

オリヴィエは足取りも軽く扉の向こうに消えていった。その後を追って、ルヴァも謁見の間から出ていく。

…女王、守護聖、そして女王候補――。それぞれの想いがからまる中、女王試験は始まるのである。

●4●

私は、空から惑星をながめていた。しかも私たちが住んでいるのとは違う宇宙の！　私、本当に宇宙を統べる女王になる試験を受けているんだわ。改めて実感！

「ここは、新しい宇宙に生まれた惑星の上空です。女王試験は、この惑星で行います。そしてここがあなたたちの育てる惑星の中央の島です。それぞれの大陸の両端から人々を導き、どちらかがこの島に到着した時点で、試験は終了となります。それぞれの大陸から一人ずつ、人々の希望をあなたたちに伝える役の大神官を選んでおきました」



私とロザリアは、惑星の上空を移動しながらディア様のお話に聞き入っていた。しばらくすると、大陸の端に小さな建物が見えた。ディア様が、そこを指し示しながらロザリアに言った。

「ロザリア、ここがあなたの育てる大陸です。この地の呼び名を決めて、大神官にあいさつを…」

「はい、ディア様。この地はフェリシアと呼ぶことにします。じゃね、アンジェリーク」

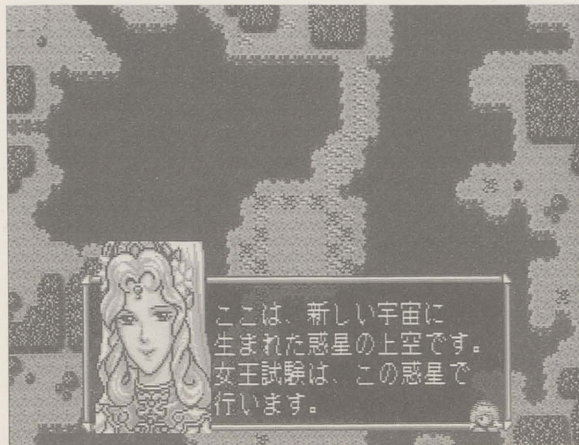
言うが早いか、彼女は大神官の所へ挨拶に行ってしまった。ロザリアってば、なんであんな簡単に答えられちゃうの？　しかもとってもすてきな名前。うーん、やっぱり才能の違いかしら…。

やがて、反対側の大陸の端に到着すると、ロザリアの大陸にあったものと同じような建物が見えた。

「アンジェリーク、あなたが育てる大陸はこちらです。ふさわしい名前をつけてあげてくださいね」

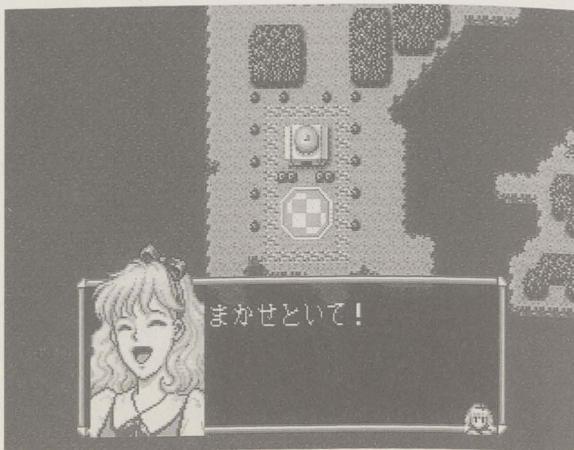
えっと、どうしよう！　いい名前がぜんぜん浮かばないわ!!　パパかママの名前にしちゃおっかな？　それとも「明日までに考えときます」って言おうかな？　あ～ん、決められなーい！

視線をさまよわせていたら、





いつの間にかディア様と目が合ってしまった！ あわてて逸らす。すると、ディア様は言われた。
「あなたが育てる地です。よい名をつけてあげてください。自分で決められないなら、私がよい名を授けましょう」
えっ!? どうしようかしら…。私はちょっと悩んで「お願いします」と言った。このままじゃ、たぶん何時間かかっても決められそうになかったから。
「では、エリューシオンはどうかしら？」
…エリューシオンか…すてきな響き！ 私はその名前がすごく気に入った。さすが女王補佐官のディア様だわ！
「古い言葉で『幸せの地』という意味だそうですよ。あなたの育てる地が幸せに満たされますように…」
ありがとうございます！ ディア様!!
「それではエリューシオンの大神官にあいさつをいたしましょう」
大神官って、どんな人かしら？ やっぱり“大”が付くくらいだものね。きっとお年寄りだわ。
…でも、私の目に映ったのは、まだあどけない可愛らしい子供だった！ 本当にこの子が大神官なのぉ？
「あ、見えたです見えたです。ほんとに見えたです！ あの夢のお告げは、本当だったです！ 申し遅れました、私はここの大神官となるようにお告げをいただいたです。えとえと…えっと、お名前を教えてくださいです」
言葉もたどたどしくて、思わず私は微笑んでいた。お年寄りよりはずっとリラックスして話せるわ。
「私の名前はアンジェリークよ」
素直に答えたら、大神官…くんは瞳を輝かせた。
「アンジェリーク…それはここの言葉で天使っていう意味です！ じゃあ、天使様って呼ばせていただくです。いいですよね、天使様！ 天使様にお願いです！ 私達の暮らす土地に名前をつけてほし…え、もう決めてくれたですか？」
大神官くんが一気にまくしたてるので、私は笑いながら大陸の名前を教えてあげた。それにしても“天使様”だなんて…こっちのほうが恥ずかしくなっちゃう。
「さすが天使様です！ 私達の願いをわかってくれてたですね！ …エリューシオン…すごくいいです！」
やっぱり喜んでくれたわ。ディア様につけていただいたとはいえ、私もすっごく気に入っている名前だもの。
でも、心の中ではしゃぐ私を置いて、大神官はまじめな顔になって言った。
「実はもう一つお願いがあるです。今この地では、どうしても、人が増えなくて困ってるです」
だんだん思い詰めた表情になってきたわ…。
「私達も一生懸命がんばって暮らしているですが…。天使様のお力で何とか助けてほしいです。お願いしていいですよね？ 大丈夫ですよね？」
そんな顔でお願いされたら断れっこないじゃない！ 自信なんてぜんぜんないけど、私は精一杯力強く言った。
「まかせといて！」
「天使様、どうか私たちを導いてくださいです！ よろしくお願いしますです！」
やる気が出てきたわ！ 試験も大切だけど、何よりもこの大陸に住む人たちのためにがんばろっと！
「そろそろ行きましょうか、アンジェリーク」
私はうなずいた。大神官は「お願いしますです、天使様ー！」と叫びながら、笑顔で見送ってくれた。
いよいよ明日から試験が始まるのね。…ううん、もう始まっているんだわ！



ACT. 1
ジュリアス編



Julious

私の部屋



もっとあなたのことを教えてください！

デートのお誘い

よろこんで！（共通）

◆通常◆

それでは今日はどのように過ごすか、決めておかねばなるまい。お前はどうしたいのだ？

☞外へ行きたい

どこへ行きたいのだ？

☞公園

そうか。では行こうか。

☞森の湖

そうか。では行くぞ。

☞キャンセル

a.どっちでもいいです

A. では、どこか外に行くことにしよう。

B. では、ここで話をしよう。

b.あなたの好きな所で

A. では、公園にしよう。

B. では、森の湖に行くぞ。

ごめんなさい…

◆平日：約束あり◆

アンジェリーク。約束は日の曜日だったが、今日に変更しないか？

☞ことわる

予定には余裕を持っておくべきなのだがな。まあいい。日の曜日に会おう。

◆平日：約束なし◆

アンジェリーク。今日は私と共に過ごそうか。

☞ごめんなさい

この私の誘いを断るとはよほど熱心に育成に励んでいるのだろうな。結果を楽しみにしているぞ。

◆土の曜日：約束あり◆

明日の約束だったが、用事が入るかもしれない。今日でよければ付き合えるのだが。

☞ことわる

ならば仕方あるまい。今回は中止だ。次は予定を空けておくように。わかったな。

◆土の曜日：約束なし◆

アンジェリーク。今日は土の曜日だがお前さえよければどこかに出かけてもよいが。

☞ことわる

なるほど。女王候補としてそれが最も大切なことだというのはわかっているようだな。

◆日の曜日：約束あり◆

アンジェリーク。今日はお前と約束があったな。

☞ごめんなさい

アンジェリーク。一度約束したことを取り消すのは、女王候補として、望ましいことではないな。

◆日の曜日：約束なし◆

アンジェリーク。今日は私も時間がある。どこかに出かけてもかまわないが。

☞ごめんなさい

アンジェリーク。私は忙しいのだ。次はいつ予定が空くか、わからないぞ。

デート中

…どのようなことについて話せばよいのだ？

好きな物

A. コーヒーであれば、やはりエスプレッソだな。あの深い味わいとコクのある香りとの調和が心地よいのだ。

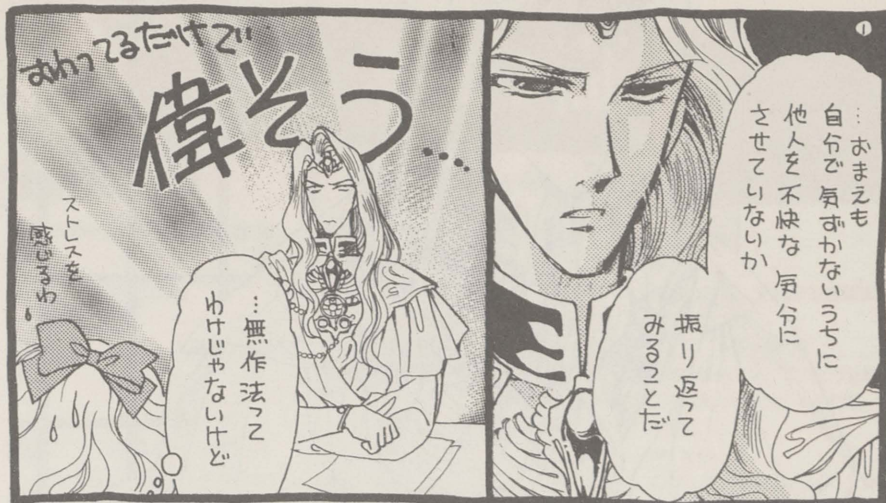
B. 私はテリーヌが好きだな。美味であるばかりでなく上品なものだから、雰囲気まで上等にしてくれる。雰囲気は、料理の味を左右する最も重要なものの一つだからな。テリーヌはその点も申し分ない。

嫌いな物

A. そんな物を知ってどうするのだ？…まあ、よい。答えてやろう。オイスターだ。オイスターを見ただけで私は、食欲がなくなってしまうのだ。



この私の誘いを断るとはよほど熱心に育成に励んでいるのだろうな。結果を楽しみにしているぞ。



B. 私の嫌いな物か…そんなことを知ってどうするのだ？…まあ、よい。答えてやろう。私はフライドライスという無粋なものは好みでない。あの油っこさが、私には耐えられないのだ。

理想の女性像

お前は、そんなことが知りたいのか…。まあ、よい。答えてやろう。私の理想を一言で言えば、美しさと優しさと賢さを兼ね備えた女性だな。…こんなことをお前に話しても仕方あるまい。この話はここまでだ。

苦手な女性像

特に苦手という女性像というものはないが…、無作法な女性は、どうしても好きになれない。理由か？それは無作法であることは他人に不快な思いをさせることが多いからだ。お前も自分でも気づかないうちに他人を不快な気分にさせていないか、振り返ってみることだな。

趣味の話

A. 私の趣味は乗馬だ。馬を私の意のままに優雅に、そして華麗に舞うように走らせる。あの心地よさは言葉では伝えられないものだ。

B. チェスだ。相手の手を読み、最善の手を考えていく。これがなかなかに面白いものなのだ…あるいは女王候補試験にも通じるものがあるかも知れないな。

故郷のこと

私が生まれたのは、この世界の中心、主星だ。そこで、幼い頃より英才教育を受けてきた。それは私の家が、これまで何人も守護聖を生み出してきた家だったからだ。厳しいと思っていたが今では、それこそが私に注がれた愛情だったことがわかるようになった。…愛情というのは、ときに厳しく与えられるものだ。覚えておくことだな。

身近なこと

A. 私は他人に厳しいと言われるが、それ以上に自分に厳しくしている。人を指導する立場の者であれば、それが当然であろう。

B. 私の身近なことなど聞いても、女王になるにはなんの役にも立たないはずだ。そうであるのなら、私には答える理由はないな。

物の考え方

何についての考えを聞こうというのだ？

▶星への関心

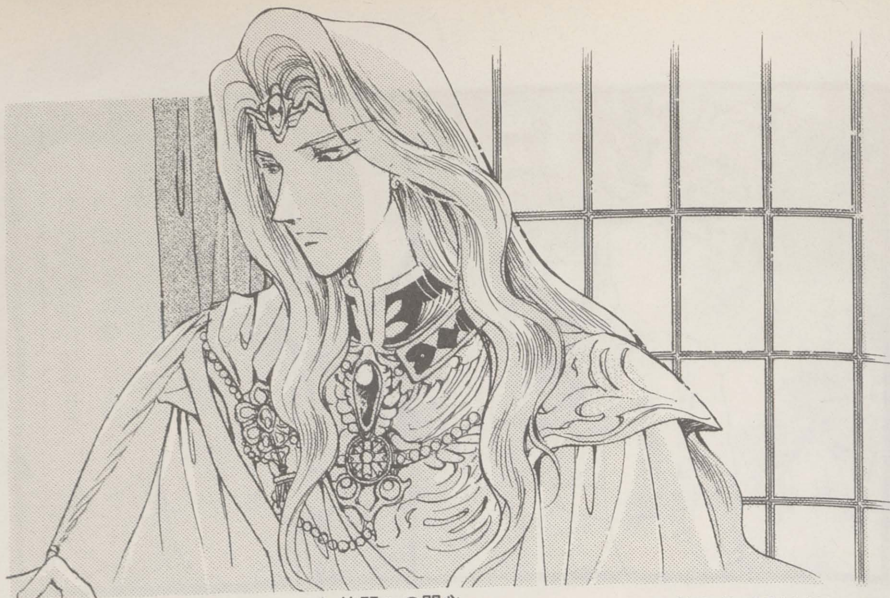
A. エリューシオンに住む者はそれぞれが懸命になって生きている。彼らの運命は、他の誰でもない、お前が握っているのだ。お前は、女王候補としてだけではなく、彼らの運命を握る者としても、がんばってほしい。

B. 私も守護聖だからな。人並にはエリューシオンのことが気になる。だがそれだけのことだ。特別な思いは抱いてはいない。

C. あれはお前が育てるべきものだ。私がどう思っているかなど関係ないだろう。

▶女王候補の事

A. 女王とは、この世界を導くことのできるただ一人のお方だ。そして、自ら望んだのではないにしても、お前はそんな女王の候補として選ばれたのだ。お前が、最終的に女王になるかどうかは、まだわか



らない。だがお前はその能力があるとして選ばれたのだから、この世界の未来のために力を発揮してほしい。

B. お前は女王候補だ。誰でも選ばれるというものではない。もっとそのことに自信を持ってよいぞ。大変だろうとは思うが全力でがんばることだ。私からは、そうとしか言えないな。

C. …誰かが女王にならねばならないのだ。そのことだけはお前も知っておくがいい。誰かが守護聖とならねばならないのと同様にな。

▶仕事は好きか

A. この世界を支える女王の手助けをしているのだ。これほどやりがいのある仕事は他にはないぞ。女王候補のお前には、世界を支えることに対して私以上に強い思いを抱いていてほしいものだ。

B. 好きとか嫌いなどという問題ではない。これは私の使命なのだ、と思っている。光の守護聖としての力を持つ私に課せられた使命なのだ、とな。

C. 職務だからな。好きだの嫌いだのと言ってはいられない。

▶仲間への関心

A. 変なことを聞くのだな。時に意見の相違はあるがそれも世界をより良くしたいからだ。守護聖とは一致団結して女王を盛りたてるもの。だから私にとってはみな、頼もしい仲間だ。

B. そうだな、信用できる者もいるし、そうではない者もいる。9人もいれば仕方ないことだろうがな。お前もせいぜい人を見る眼を養うことだ。

C. 私は他の守護聖は当てにはしていない。だからこそ、私は力を尽くさねばならない。私から見れば、皆、自分の責任を果たそうとしていないように見えるのだ。

▶外は好きか

A. 私は、外に行くのは好きだぞ。意外か？外に行くのは、いい気分転換になるからな。それに外に出ると、様々なことを見聞きできるのだ。そうして他人の考えを知ることができる。このことは非常に大事なことだと思うぞ。

B. ときには外へ行くのは気分転換になって良いことだと思う。ただし度が過ぎるのは良くないぞ。民はお前しか頼りにできないのだからな。

C. 私は、外に行くのは好きではない。お前も外で遊び回る暇があるくらいなら、育成にはげむことだな。

▶話は好きか

A. 人と話すことは好きだな。人と話すことで自分と違う考え方を知ることができるからな。逆に言えば、自分と違う考えを聞くことで自分の考えをより明確にできる。つまり相手を知ることで自分自身をより知ることができるのだ。そう、人と話すことは自分を高めることにつながると思うぞ。

B. 相手を知り、自分を知ってもらうという意味では話すことは重要なことだと認識している。だが、ダラダラと話すのは私は好きではないな。

C. あまり好きではない。議論になるのならよいがなかなかそうはならないからな。時間をムダにするだけのものだ。

私の答えはこの程度だ。これでよいな？では私は帰らせてもらう。

Julious

森の湖

ここでは職務は忘れてください



散歩中

あっ！ジュリアス様だわ

◆通常◆

ほう、アンジェリーク、偶然だな。

A. ここは不思議な感じがするな。…何かが私の心をなごませるのだ…。

B. 自然に囲まれているせいだろうか、ここではなぜか心が落ち着くのだ。

約束しちゃおっかな

☞お願いする

確認しておくが、お前はその日予定はないのか？

☞はい

ふむ…覚えておくこととしよう。

☞いいえ

お前はいったい、何が言いたかったのだ。お互いにとって、こんなことはムダだぞ。

☞やめとく

ああ。その明るさがお前の取り柄なのだ。それを生かして育成も行なうのだな。

◆平日：約束あり◆

アンジェリークよ、日の曜日のこと、忘れるのではないぞ。

祈りの滝

滝にお祈りしてみようかな？

☞そうしよっと

ほう、アンジェリーク、偶然だな。

☞会いたかった

…そうか。不思議だな。私はお前に呼ばれたような気がして、ここにやって来たのだが。これもお前の力なのかもしれないな。

☞偶然ですね

ああ、アンジェリーク、お前も、なんとかがんばっているようだな。

デート中

ロマンチックだわ

A. 世界を、より良く導く。それが女王の務めであり、それを助けるのが守護聖の務めだ。お前は女王候補…女王になるかもしれないのだ。そのことだけは忘れないでいてほしい。

B. お前も私も、お互い世界全体のことを考えなければならない立場にある。そういった意味ではお前と共感できる部分があるのだろうな。

C. お前は女王候補であり、私は守護聖だ。それ以上の関係ではないはずだが…お前とここにいると、なぜか心がなごむのだ。お前の明るさのおかげかもしれないな。

パシャ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい

水が冷たい？当然だ。…お前は女王候補だ。あまり子どものようなまねはしないことだな。

どこまで行けるかな？

☞ここから先は行けないのね

アンジェリーク、そこから先は立入禁止になっているのだ。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

部屋に帰るのか？

☞はい

帰るのだな。それでは部屋まで送っていこう。

◆私の部屋◆

今日は楽しめたぞ。このような息抜きならばまた行きたいものだな。それではな。

☞いいえ

わかった。それならばもう少しここにいることとしよう。

デートトラブル！

Wブッキング!!

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中、約束中の守護聖様がロザリアとツーショットで出現！◆

A. そういえば今日はお前と約束していたな。この私としたことが忘れていた。だが、お前はお前なりに楽しんでいるようだな。ということは、私もあやまる必要はないな。

B. やはりそうか…そんなことだろうと思っていたぞ。

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日：散歩◆

アンジェリークよ、女王候補であることを常に忘れずに行動するのだぞ。

◆日の曜日：ロザリアとデート中◆

育成の方はうまくいっているのか。女王候補としての務め、おろそかにしないことだな。

Julious

執務室

厳しい助言が、やがて暖かいささやきに変わる…

平日

お前は女王候補だ。そのことを忘れるのではないぞ。

女王候補として、どの様な行動をとればよいのかは、わかっていると思うが…最善を尽くしてほしい。

私の力は、自らを導く光を与えるものだ。この力を欲するとはなかなか感心なことだ。

…お前は女王候補らしくなったな。私の目にはそう見えるぞ。

よく来たな。最近、私はお前の訪問が楽しみなのだ。この私としたことが…。

よく来てくれたな。アンジェリーク。なぜだか最近のお前はまぶしく感じられる…。

→ それで私に何の用だ？

- 力を貸して → 私の力が必要なのだな。それでどうするのだ？
  - 育成 → どのくらい力を贈ればよいのだ？
    - 少し
    - たくさん
    - (力がたりない)
  - 妨害 → どのくらい力を奪えばよいのだ？
    - 少し
    - たくさん
    - (力がたりない)
- 話に来た → 私と何の話をすると言うのだ？
  - 私のこと → お前のことか。そうだな…
    - お前の育てている大陸はエリューシオンという名前だったな。どうだ、エリューシオンを育てるのは楽しいか？ ●
    - では聞くが、お前はどこかに行くことは好きか？ ■
    - それでは聞くが、お前は女王になりたいのか？ ◆
    - では聞くが、お前は真剣に試験を受けているか？ ♥
    - お前は女王候補だ。そこで聞くがロザリアが今どんなことをしているのか私たち守護聖のことなどが気になるか？ ♠
    - お前は、他の守護聖ともこうやって話しているのだろうな。お前は人と話すことは好きなのか？ ♣
    - → はい！／いいえ！
  - ②へ
  - (力がたりない) → それにはお前の力が2必要なのだ。…だが、お前にその力はもはや残ってはおらぬようだな。
- ①へ



★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方
各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次(右どなり)のブロックの中からいずれか(14通りあります)の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

少し育成するのだな。わかった。覚えておく。

たくさん育成するのだな。わかった。覚えておく。

それにはお前の力が（2／4）必要なのだ。だがお前にはその力は残っていないようだな。

それでは、少し妨害することを覚えておく。

それでは、たくさん妨害することを覚えておく。

それにはお前の力が（2／4）必要なのだ。だがお前にはその力は残っていないようだな。

やはりな。私が思ったとおりだ。

…私は少し違う考えだな。

ほう…、お前もそう思うのか。私と同じだな。

…私は少し違う考えだな。

私がお前の立場なら同じ答だろうな。

ほう…。やはりそうなのか。

ほう、お前はそう思っているのか。だが、

お前はそのように感じていたのか…。私とは異なる感想だな。

そうだろうな。私がお前の立場であったとしたら、きっと同じことを答えただろう。

そのようなことでは女王候補は務まらないぞ。もっとしっかりしてもらわねば困るな。

ほう…、お前もそう思うのか。私と同じだな。

私とお前とでは考えが違うのだな。

ほう、お前もそう思うのか。

ほう、お前はそう思っているのか。

●
…お前を見ているだけでもエリューシオンの民が彼らなりに努力していることがうかがえるな。彼らの思いにこたえるためにも、お前は、より一層の努力をしなければならないのだぞ。

…お前に頼りきったままで自立心の乏しいエリューシオンを育てることは私には到底楽しいことだとは思えないな。

■
…部屋の中に閉じこもっていても新しい発想は生まれてこないからな、私は外に行くのは好きなのだ。

…外をうろつき回るよりは部屋で思索にふけった方が有意義な過ごし方だろう。そう思うから私はどこかに出かけるということが好きではないのだ。

◆
…女王陛下というのはこの宇宙を統べるお方。この私が忠誠を誓うほどの存在なのだ。お前は女王候補なのだから女王とは、真に偉大な存在であることを忘れず、努力するのだな。

女王であることは大変なことのようだ。私では無理だろうな。

♥
女王候補である以上、試験を真剣に受け、常に全力を尽くすことは当然だろうな。

…女王候補試験は、変に力まずに、自然体で受けた方が良い結果につながるだろうな。ただしキッチリとやるべきことはやらなければならないぞ。

♠
ロザリアや守護聖たちが何をしているかを知ることは、自分を優位な立場にするぞ。なるべく知っておいた方がいいな。

彼らは彼らなりの判断で行動しているのだ。他人が彼らの行動に口を出す必要はないだろうし、気にする必要もない。

♣
…様々な人間と話すことで多くのことを学ぶことができるものだぞ。

…無節操にベラベラと話すことに、何らかの意味を見いだすことなど私はできない。

なんにせよ、今回話したことで、お前のことを少しは理解することができたようだ。

①

②

人のうわさ — 私と誰の話をすると言うのだ？ — キャラクター選択
- お前のことか。そうだな…
- ロザリアのことか…。そうだな…
- ××のことか…。そうだな…

キャンセル — ここに来たのに、何の用事もないというのか？

キャンセル — ここに来たのに、何の用事もないというのか？
- はい — こんなことで時間をつかうのは、お前にとっても、この私にとっても全くムダなことだな。
- いいえ — それではもう一度聞く。今度はきちんと答えるのだぞ。

（再訪問）またお前か…。今日はよく会うな。
- 今日は、すでにお前から育成の依頼を聞いているぞ。前の依頼を取り消すと言うのだな？
- 今日は、すでにお前から妨害の依頼を受けているぞ。前の依頼を取り消すと言うのだな？
  - はい — では、前の依頼はなかったこととしておくぞ。では、あらためて願いを聞こう。
  - いいえ — では、前の依頼はそのままということにしておくぞ。

女王候補として当然とはいえ、お前はよく努力しているようだな。よいことだ。

お前には女王候補としてがんばってもらいたいものだな。

はっきり言わせてもらえば私は、お前のやることがどうにも気に入らんな。

この私が今、お前に話すことはこの程度のことだな。どうだ、参考になったか？

ロザリアは女王候補として立派にやっている。私もロザリアとは気が合うようだ。

すばらしい人間だ、とまではいかないが、悪い人間ではないな。

守護聖としては好き嫌いなどあってはならないが、ロザリアとは気が合わないのだ。

この私が今、お前に話すことはこの程度のことだな。どうだ、参考になったか？

この私から見ても××は尊敬に値する立派な人間だな。

すばらしい人間だ、とまではいかないが、悪い人間ではないな。

守護聖としては好き嫌いなどあってはならないが、××とは気が合わないのだ。

どうやらお前のことをかなり気に入っているようだぞ。

私情をまじえず、言いかえれば適当に、お前の相手をしているようだな。

お前のことは嫌っているようだぞ。

性格的には女王陛下を敬う心が非常に強いのが特徴だな。気に入られたいのなら、女王候補試験をがんばることだ。

性格的には、人との会話を好む社交的なタイプと言えるだろう。

…そういえば他の守護聖の行動をいちいち気にしないタイプのようだな。

…そういえば、他人の行動を非常に気にするタイプだな。

…そういえば、あまり動き回ることは好きではないようだな。

…そういえばエリューシオンのことにはまるで関心がないようだ。

…そういえば、エリューシオンのことをかなり気にかけていたようだったぞ。

…そういえば、権力という言葉すら嫌悪するほどの権力嫌いだったぞ。

…そういえば、常に理由を持って行動しているように見えるぞ。

それにな、私から見れば何を考えているか理解できない行動をとることがよくあるぞ。

…そういえば人と会ったり話したりすることが、好きではないようだな。

…そういえば執務室でじっとしているようなことは苦手な性格らしいな。

この私が今、お前に話すことはこの程度のことだな。どうだ、参考になったか？

日の曜日

今日も元気なようでなによりだな、アンジェリーク。

今日は日の曜日だ。よって育成や妨害は行わない。アンジェリーク、お前は何のために来た？

今日はお前と約束をしていたのだったな。で、どうするのだ、アンジェリーク。

- 部屋への誘い
  - 女王候補の日常を見ておくのも必要だな。よし、お前の部屋へ行くこととしよう。
  - …守護聖が女王候補の部屋に行くのはあまり、よいこととは思えぬな。私はよいことと思えぬことはできない。遠慮させてもらおう。
    - （再訪問）何度言われても気が乗らんな。
  - …確かに約束していたが守護聖が女王候補の部屋に行くのはあまり、よいこととは思えぬな。よいことと思えぬことはできない。今日の約束はなかったものとするぞ。
    - （再訪問）何度言われても気が乗らんな。
  - （力がたりない）
    - だが、お前には、私を誘うだけの力がもう残っていないな。もし私を誘おうというのであれば、もっと力がある時にするのだな。
- 外への誘い
  - 外に行くと言うのか…で、お前はどこに行こうと言うのだ？
    - 公園
    - 森の湖
    - （力がたりない）
    - キャンセル
- キャンセル
  - ここに来たのに、何の用事もないというのか？
  - お前が望んだことだろう。どうしたのだ？

趣味イベント

『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

…ちょうどいい。これから私の馬の様子を見に行く所だったのだが、お前も一緒に来るか？
☞はい
私の愛馬に子が生まれたと知らせがあったのでな。では、出かけよう。
（イベント→私の部屋）
時の流れとは早いものだ。あの母馬が生まれたのがつい昨日のことのようだ。馬にとっての時間は人とは違うが、我々守護聖は、人とも違う時間を生きているのだからな。ではな、アンジェリーク。
☞いいえ
そうか。では、私は出かけるので、お前も引き取ってくれ。



素直に可愛い仔馬を見てたかったけど、ジュリアス様にかかると何でもお勉強になっちゃうのね。



ちょっと緊張しちゃったけど、ジュリアス様とゲームを楽しめたなんて、とっても得した気分♥

…今日は時間があるのでチェスでもしようと思っていた所だ。私の相手をしてみるか？
☞はい
では、覚えるつもりでやってみるのもよかろう。
（イベント→私の部屋）
惨敗でも仕方あるまい。手加減していたのではお前の上達のためにもならないからな。チェスでの考え方は、女王試験と通じるものがある。これで試験の参考となるとよいのだがな。
☞いいえ
そうだな。お前では私の相手は無理というものだったな。

まあ、よいだろう。それでは行くぞ。

お前には、やるべきことが山のようにあるはず。帰って、そのことを考え直すのだな。

お前には大事な使命があるはず。私と公園に行くヒマはないはずだ。帰ってそのことを考えるのだな

（再訪問）何度言われても気が乗らんな。

まあ、よいだろう。それでは行くぞ。

お前には悪いが私は湖に行く気はない。用が済んだなら帰るのだな。

私は湖に行く気はない。今日の約束はなかったこととするぞ。

（再訪問）何度言われても気が乗らんな。

だが、お前には、私と外へ出かけるだけの力がもう残っていないな。今日は、もう帰って寝た方がよいぞ。

外へ行くのをやめると言うのか？
- はい → では、お前の部屋に来いとでも言うのか？
- いいえ → やはり外へ行きたいと言うのだな。ならば、そう言えばよいのだ。

- はい → こんなことで時間をつかうのは、お前にとっても、この私にとっても全くムダなことだな。
- いいえ → それではもう一度聞く。今度はきちんと答えるのだぞ。
- どこにしよう → …お前は、どうしたいのだ？
- 帰ります… → 帰るのか。今回のお前の行動はよくわからぬな。

他の守護聖の執務室

…というわけなのだ。ああ、アンジェリークか。…では私は失礼するぞ。それではな、アンジェリーク。

Julious

公園



たくさん勉強しておかなくっちゃ

散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

ほう、アンジェリーク、偶然だな。

◆２度目以降◆

またお前か…。今日はよく会うな。

☞デートのお願いする

ふむ…覚えておくこととしよう。

☞やめとく

ああ。その明るさがお前の取り柄なのだ。それを生かして育成も行なうのだな。

◆他に約束あり、力がたりない◆

お前はいったい、何が言いたかったのだ。お互いにとって、こんなことはムダだぞ。

◆平日：約束あり◆

アンジェリークよ、日の曜日のこと、忘れるのではないぞ。

◆平日：約束なし◆

ここで充分に気分をリフレッシュさせたら女王候補としての仕事にいそしむのだな。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

ロザリアと約束したのでここで待っているのだ。私を待たせるとは、何を考えているのか…。

◆２度目以降◆

ロザリアか、いやアンジェリークか…。お前は私を待たすような真似はするなよ。

◆日の曜日：ロザリアとデート中・約束なし◆

育成の方はうまくいっているのか。女王候補としての務め、おろそかにしないことだな。

デート中

私の方が早く来たのでな、待っていたぞ。

公園入り口（デートスタート）

少し歩くことにするぞ。

◆噴水右まで移動◆

ん？ベンチに人が座っているようだな。向こうへ行ってみるぞ。

ベンチの前

あの者たちはいつもベンチにいるようだな。まったくヒマなことだと思うのだが、お前は二人のことをうらやましいと思うか？

☞はい

A. なるほど、そうなのか。まあ、素直に答えたことは評価できるぞ。

B. なるほど、そうなのか。お前は女王候補なのだからそんなことでは困るのだ。そんなお前と過ごすことは私にはできないな。今日はもう帰るぞ。

☞いいえ

A. なるほど、そうなのか。女王候補としては、それが当然の答えだな。

B. なるほど、そうなのか。しかし、お前は本当にそう思っているのか。私にはそうは見えないが…女王たる者、自分の言動を疑われるようなことがあってはならないのだ。今日はもう帰るぞ。

神鳥の像（右）

では、神鳥の像のところへ行くぞ。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ。」

なぜそんな変な声がかかるのだ。理解に苦しむな。

お前は、今はこうして私と過ごしている。だが、お前は女王候補であるのだから、様々な守護聖から話を聞く必要があるが…お前が話を聞きたいと思うのは、どちらの守護聖だ？

☞（正解）

ほう…、意外とお前は人を見る目があるのだな。話を聞けばお前のためになるだろうな。

☞（不正解）

お前には、人を見る目があまりないな。誰の言うことが有益なのか即座に判断できてこそ、女王候補といえるのだ。お前は、女王候補としてもっと努力が必要だな。もう、帰るぞ。

ときめきの丘

それでは女王候補であるお前にたずねるが

A. エリューシオンの人口は〇〇人より多いのか？

☞（正解）

ほう、だてに女王候補というわけでもないのだな。いい心がけだぞ。私も今後はもう少しエリューシオンに注目してみることとしよう。

☞（不正解）

お前は女王候補であるのにそんなことさえも知らないのか。お前の意識がその程度に過ぎないのなら、私もエリューシオンのことを気にする必要はないな。今日はこれで帰るぞ。

B. フェリシアの人口は〇〇人より多いのか？

☞（正解）

ほう、ロザリアの育成している

大陸のこともきちんと知っているのか。私も、お前のその姿勢を見習うこととしよう。

☞（不正解）

知らないだと！！お前には女王候補としての自覚がないのか。

C. ロザリアと仲の良い守護聖はどちらだ？

☞（正解）

ほう、そんなことまでよく知っているな。少しばかり感心したぞ。私も他の守護聖のことをもう少し知るようにしよう。

☞（不正解）

知らないのだな。そうだろうな。別に他の守護聖と仲良くする必要もないからな。

D. エリューシオンの建物数はフェリシアより多いのか？

☞（正解）

ほう、さすがに気になるとみえてよく判っているな。ここはさすが女王候補と言っておこう。女王候補は、やはり女王をめざすべきだな。私はその思いがより強くなったぞ。

☞（不正解）

お前は女王候補だというのに、そんなことも知らないのか。まったくお前のような者をなぜ女王陛下はお選びになったのか私には理解できないな。もう今日は帰るぞ。

女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ。」
二人で散歩しているだけでなぜあのようなことを言われるのだ。わからぬな…。
ここにあるのは女王陛下の像だ。この像からも陛下の慈愛に満ちた御心が感じられるな。お前はそんな女王の後を継ぐ女王候補として選ばれたのだ。そこでお前に聞くが女王候補というものは大変なものなのか？

☞はい

A. なるほど。まあ正直といえば正直な答えだな。だが、お前は選ばれたのだから、自分の力を信じてやるべきだ。お前にはそれができるはずなのだからな。

B. やはり大変だと感じているのか。ならば今日は帰った方がよいだろうな。今日はゆっくり休んで明日からまた女王候補として力を尽くすのだな。

☞いいえ

A. ほう…、女王候補が大変だとは感じていないのか。そのくらいの方が頼もしいな。

B. …そのような答えを返すとは、お前には何もわかっていないようだな。お前は、この世界の未来をになう女王の候補なのだ。遊び半分では困るぞ。今日はこれで帰るからな、ゆっくりと考えてみることだな。

神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますから頑張ってくださいね」
このようなことを言われたからには、がんばらねばならないな。ところでアンジェリーク。少し歩き疲れたのではないか？

☞はい

A. やはり疲れていたのか。だが、もう少し歩くぞ。

B. お前もか。私も少しばかり疲れたなと思っていたのだ。仕方あるまい。今日はもう帰ることにしよう。

☞いいえ

A. そういえばお前の取り柄は明るくて元気なことだったから、この程度は平気だろうな。それならばもう少し歩くぞ。

B. お前はまだ元気があり余っているようだが私は少し疲れてしまった。お前には悪いが今日はここまでだ。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート中◆

休憩しようと思ったが先客がいるようだな。仕方がないな、行くぞ、アンジェリーク。

たたずみドーム

…いい機会だ。少し話をさせてもらうぞ。

A. 女王陛下は主星にいらして世界の形成と存続に必要な力を統制されているのだ。お前は女王候補なのだからその役割を受け継ぐのかも知れないのだ。女王陛下もお前たちには期待なさっている。そのご期待を裏切ることのないようにするのだぞ。

B. この飛空都市は、新しい世界をより良く導くために、様々な援助や管理を行う施設だ。女王陛下のいらっしゃる主星とは次元回廊によってつながっているのだ。飛空都市にはお前たちや私たち守護聖の他にも多くの人々が住んでい



ほう…、女王候補が大変だとは感じていないのか。そのくらいの方が頼もしいな。

る。そんな人々からも話を聞いてみることだ。何か発見があるかもしれないぞ。

C. …今の女王陛下が選出されたときには私はすでに守護聖だった。そのときの守護聖で今も残っているのは私の他に、クラヴィスとルヴァだけだ。女王候補だった頃の陛下はお前と似たところもあったな。無論、全く違う部分も多かったがな。お前は女王候補としてお前なりの女王像をめざすのだな。

D. 王立研究院のパスハと占いの館のサラは私たちとは異なる種族なのだ。異なる文明で育ったためか特殊な力を持っている。それゆえに彼らには敬意を表している。パスハを王立研究院の責任者としているのはその表れだ。

E. 守護聖の力というものは無限ではない。いつの日か力が弱まるときが、やって来る。その時には、役割を託すにふさわしい者に守護聖の地位を譲るのだ。おそらくは、この私とて例外ではあるまい。私はその日まで女王にこの力を捧げよう。

◆お話終わり◆

…そろそろ行くことにするか？

☞はい

→移動

☞いいえ

それでは、もう一度話してやろう。

入り口

このまま帰るのもな…。もう少しだけ私についてこい。

ドキドキの木陰

こうして見てみるとお前は、まあ可愛いといえる容姿なのだな。光の守護聖であるこの私でさえ、お前をまぶしく感じるのだぞ。

☞そんな…

フフ…そうやって照れると普通の女の子なのだな。だが女王候補としても力を発揮してくれよ。…それでは、そろそろ行くことにするぞ、アンジェリーク。

お花畑

ほう、馬子にも衣装というが、花に囲まれたお前もなかなかのものだな。

☞そんな…

照れることはない。私が見た客観的な判断を言っているだけだ。お前は元気者だからな、その明るさが花の明るさと合うのだろう。…それでは行こうか、このうえなく花の似合うアンジェリークよ。

噴水の前

この噴水の流れは絶えることがないのだ。それは絶えることのない人の思いを表している。お前の心は、そんな人の思いを感じられるほど澄みきったもののようだな。

☞そんな…

フッ、このようなことは私などよりもエリューシオンの民の方が知っているだろうがな。民のためにも育成をしっかりとやるのだぞ。…ではそろそろ行くぞ、限りなく澄んだ心のアンジェリークよ。

入り口

A. では、そろそろ帰ることにしよう。部屋まで送るぞ。

B. そろそろ帰ることとするぞ。お前の部屋まで送っていこう。

C. それでは帰ることにしよう。部屋まで送らせてもらうぞ。もう少しの間お前と一緒にいたい気分なのだ。なぜかな…。

私の部屋へ

A. 今日は本当に楽しい時間を過ごすことができた。礼を言うぞ。守護聖として質問していたつもりが、少しばかり私情が入ってしまったほどだ。この私がな。…それでは、失礼する。

B. 今日は、私もまあ楽しませてもらった。守護聖として、いくつかお前に質問したが、まあ、まずまずと言ってもよい結果だった。これからも女王候補としてがんばることだな。

C. …こんなこともあるだろうな。今日のことは仕方ないだろう。また共に公園に行くことがあればよいな。では失礼させてもらう。

デートトラブル！

ひっどーい！これって二股!?

◆平日：ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. 落ち着け！アンジェリークよ。私は確かにロザリアと約束していた。だがその約束は今ここでなかったことにする。ロザリア、聞いての通りだ。日の曜日の約束のことは忘れるのだな。

B. ロザリアとの約束のことでお前にとやかく言われる筋合いはないはずだ。不愉快だ。もう今日は帰るぞ。

次の日の曜日に約束している守護聖様がいる！

◆平日：他の守護聖様に約束をほのめかされて◆

アンジェリーク、これはどういうことなのだ？

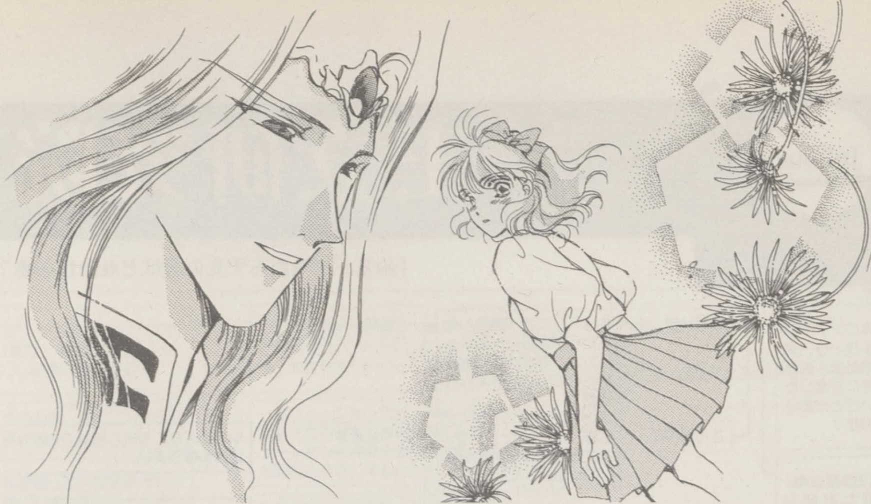
☞正直に言う

A. …女王候補としてより多くの守護聖から話を聞くことはよいことだな。守護聖もわざわざお前の相手をしてくれるのだ。皆の話を参考にするのだぞ。

B. このジュリアスも軽く見られたものだな。不愉快だ。今日はもう帰るぞ。

☞やめとく

A. …このようなことは実はどう



でもいいことだな。お前が日の曜日に何をしようと、私とは関係のないことなのだからな。

B. お前は私の質問を無視するのか。不愉快だ。今日はもう帰るぞ。

まさか！ジュリアス様が…

◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

そうだったかな。多忙だったのでな、忘れていた。すまぬな。

☞もう帰る!!

A. 帰ったところで、お前には何の益もないぞ。

B. お前自身がそう言うのであれば仕方がないな。帰ることにするぞ。

☞そこまでは…

A. ロザリアは怒って帰ってしまったのか。仕方あるまいな。では行くぞ。

B. 私はロザリアとの約束を破ったのでな、お前とばかりつきあうのは不公平というものだろう。お前には悪いが、今日はもう帰るぞ。

きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中◆

アンジェリーク、今日は私と約束していたはずだ。この私との、約束を破ったというのだな。

☞あやまる

A. 終わってしまったことをとやかく言っても仕方あるまい。二度とこういったことがないようにするのだぞ。

B. 私は約束を破るような者と言葉をかわす気はない。

☞ごまかす

A. お前がそう言うのなら私の勘違いだったかも知れないな。では私は失礼する。

B. 私は約束を破るような者と言葉をかわす気はない。

あっ！今日は○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：ジュリアス様とデート中◆

アンジェリーク、これはどういうことなのだ？

☞あやまる

A. ほう…よく正直に謝ったな。私は、適当にごまかすのではないかと思っていた。少しばかり感心したぞ。

B. なるほどそういうことだったのか。お前は人との約束も守れないのだな。…今日はもう帰ることにするぞ。

☞ごまかす

A. 結局、何だったのだ。何にせよ、私には関係のないことだったようだな。

B. なるほどそういうことだったのか。お前は人との約束も守れないのだな。…今日はもう帰ることにするぞ。

ひっどーい！約束してたのに

◆日の曜日：ロザリアとのデートに遭遇◆

そういえばお前とも約束していたな。多忙さゆえ忘れていた。悪かったな。

他の守護聖様とデート中

たたずみドームの前

◆通常◆

ほう、一人ではないのか。アンジェリーク、意外にお似合いだぞ。

☞そんな

照れることはあるまい。私は見たままを言っているのだ。

☞うふふ

楽しそうだな。だが自分が女王候補であることを忘れるなよ。

◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

ほう、お前たちも二人か…私もロザリアと約束していたのでな待っているのだ。

たたずみドーム内

◆日の曜日◆

ロザリアか…？いやアンジェリークか。失礼した。ロザリアを待っているのだがまだのようだな。

Julious

王立研究院

「誇り」をもたらす光の力はどれだけ必要？

ほう、アンジェリーク、偶然だな。私に、なにか言いたいことがあるのか？

(2回目以降) またお前か…。今日はよく会うな。

- お願いが → 私は、ここで「誇り」をもたらす光の力がエリューシオンでどれだけ必要とされているか教えられるが…
  - お願いします
  - やめます → やめるのか。それがお前の判断ならば何も言うまい。
  - (力がたりない) → それにはお前の力が1必要だ。…だがお前にはその力はもはや残ってはおらぬようだな。
- こんにちは → ああ、アンジェリーク。お前も、なんとかがんばっているようだな。

Julious

占いの館

私の願いを伝えてください！

ほう、アンジェリーク、偶然だな。私に、なにか言いたいことがあるのか？

- お願いが → ここでのお願いとは対人関係についてだが…？
  - 仲良くしたい → お前は誰と仲良くしたいというのだ？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くしたいのだな？
    - 守護聖本人 → 私と仲良くなりたいというのだな？
  - 仲良くして → お前は私に、誰と仲良くしろと言うのだ？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くすればよいのだな？
    - キャンセル → やめるというのか？
  - (力がたりない) → それにはお前の力が1必要だ。…だがお前にはその力はもはや残ってはおらぬようだな。
- こんにちは → ああ、アンジェリーク。お前も、なんとかがんばっているようだな。

(2回目以降) またお前か…。今日はよく会うな。私に、なにか言いたいことがあるのか？

- お願いが → 今日はすでにお前の願いを聞いているが…？
  - それでも！！ → では、あらためて願いを聞こう。
  - やめます… → やめるのか。それがお前の判断ならば何も言うまい。

- エリューシオンでは人々に「誇り」を与える光の力を、〇〇必要としているぞ。
- 私の力は、あと〇〇必要だな。
- 私が贈った力は今までに合計〇〇だ。エリューシオンで、〇番目の勢力だぞ。
  - うむ…そうだな、まあ、誇りも必要とされているようだから少し贈った方がよかろう。機会を見て私のところに来るがよい。
  - …エリューシオンでは人々に「誇り」を与える光の力が強く求められているぞ。エリューシオンの発展を望むのなら、すぐにでも私のところに来るのだな。
  - 私の力は、さしあたって必要とされていないな。エリューシオンの育成をするのなら、他の力を贈るべきだな。
    - 今度は望みの予測を見るべきだな。
    - よりよい発展のために参考にするのだぞ。

- ええ！ — お前の願い、覚えておこう。
- いいえ！ — お前は誰と仲良くしたいというのだ？
- キャンセル — やめるというのか？
  - はい — やめるのか。それがお前の判断ならば何も言うまい。
  - いいえ — お前は誰と仲良くしたいというのだ？

- ええ！ — お前の願い、覚えておこう。
- いいえ！ — お前は誰と仲良くしたいというのだ？
- キャンセル — やめるというのか？
  - はい — やめるのか。それがお前の判断ならば何も言うまい。
  - いいえ — お前は誰と仲良くしたいというのだ？

- ええ！ — お前の願い、一応、覚えておこう。
- いいえ！ — お前は私に、誰と仲良くしろと言うのだ？

- ええ！ — やめるのか。それがお前の判断ならば何も言うまい。
- いいえ！ — お前は私に、誰と仲良くしろと言うのだ？

Julious

恋愛イベント

女王候補と守護聖…だけですか？



第1段階

◆森の湖◆

「断っておくが、お前と私は女王候補と守護聖以外のなにものでもない。それはわかっているのだろうな？」

☞「…はい！」

「それがわかっているならばかまわない」

☞「いいえ…」

「ではこれからは気をつけて行動することだ」

◆私の部屋◆

「送ってくださってありがとうございました」

「礼には及ばない。だが、そういう気持ちを持つのはよいことだ。人は謙虚であっても卑屈になってはいけない。誇りを持ち続けていても高慢であってはならない。私の言っていることが理解できるか？」

☞「…はいっ！」

「それでこそ女王候補、といったところか。これからも自らを高める努力を怠らぬようにな」

「…ジュリアス様にほめていただけたわ」

☞「いいえ…」

「この程度のこともわからんようでは、先が思いやられるな」

「ジュリアス様にしかられちゃったわ…」



第2段階

◆森の湖◆

「今日もジュリアス 様と一緒に歩けるなんて、うれしいです」

「あ、ああ。そうだな。今日もいい天気だ」

「？？」

◆私の部屋◆

「アンジェリーク、お前は自分では気がついていないのだろうが、お前には人を引きつける何かがある。私が今日ここにいるのも、そのせいかもしれない。最近、無意識のうちにお前のことを考えている自分に気づいて、驚くことがある。こんなことは今まで一度もなかったことだ。お前の存在が私の中で日に日に大きくなっているのがわかる。…アンジェリーク、私のことを特別に思ったことはあるか？」

☞「…はいっ！」

「そうか。私も少し考えてみたい。後でまた会えることを心待ちにしていよう」

「ジュリアス様、ひょっとして私のことを…やーん、うれしいっ！」

☞「いいえ…」

「そうだな。お前と私は女王候補と守護聖の関係にすぎない。そう言ったのは私だったな。今日言ったことは全部忘れるように。いいな、アンジェリーク」

「…ごめんなさい。ジュリアス様」

告白

◆森の湖◆

「ジュリアス様、私、あなたのことが好きなんです」
「アンジェリーク…。その言葉の意味は重いぞ。お前は女王候補の資格を放棄するというのだな？」
☞「…はいっ！」
「そうか…。お前がそこまで言うのなら私も自分の気持ちに正直になろう。…アンジェリーク。お前のことを思うたびに、私の中で暖かい光が生まれた。お前がほほえむたびに私の心に課せられていた何かが溶けていくような気がした。こんな事は初めてだった。私は…、私の心は、もはやお前のものだ。アンジェリーク、私は、お前を、愛している…」

☞「いいえ…」
「今回のことは、私は何も聞かなかったものとする。女王の座の重さを、お前もよく考え直すのだな」

◆失敗◆

「私は守護聖で、お前は女王候補だ。それ以上でもそれ以下でもない」

◆私の部屋◆

「私は何よりも、この世界の安定と女王陛下のために役立ちたいと思っている。お前も、そのように考えてくれることを望みたい。お前は女王にふさわしいと思うからこそ…」



力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

では、女王候補たちの望みのままに我々の力を贈る。

アンジェリークの願い通り我が司る、光のもたらす「誇り」を贈ろう。
アンジェリークの願い通り我が司る、光の「誇り」をフェリシアより奪い去る。
我が司る光の「誇り」を特別に贈ることとしよう。エリューシオンとアンジェリークのため…
我が司る光の「誇り」、フェリシアにあるのは似つかわしくない。…奪い去る！
光の力よ！エリューシオンの人々に「誇り」を与えよ！

フェリシアから人々に「誇り」を与える、光の力を奪ってしまうのだ！

ささやかだが、光輝く「誇り」を持つように。
みなが誇りを持つように、多くの「誇り」を。
輝く「誇り」よ、少しだけ我が手に戻れ。
多くの、輝く「誇り」を我が手に戻そう。



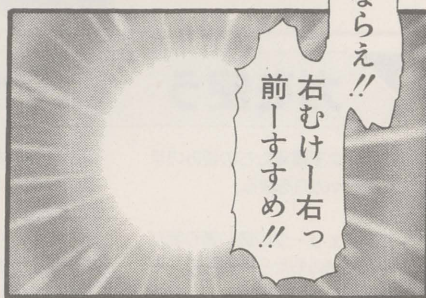


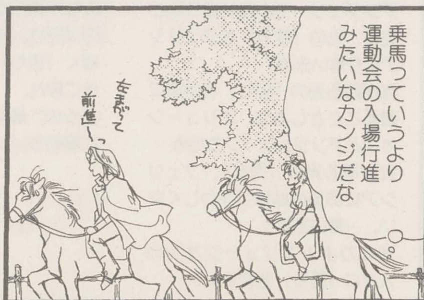
杉山志保子

ジュリアス様と乗馬





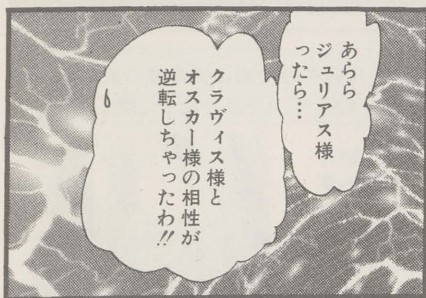




仲間への関心









メッセージ♥テスト<ジュリアスの答え　1C　2B　3A　4B　5C　6A　7C　8B　9A　10C-A-B-D

ACT.2 クラヴィス編



Clavis

私の部屋

一度でも多く、あなたの笑顔がみたい…



デートのお誘い

よろこんで！（共通）

◆通常◆

そうか。そう言われると悪い気はしないな。で…どうする？

☞外へ行きたい

どこへ行く？

☞公園

そうだな。

☞森の湖

そうだな。では行こうか。

☞キャンセル

a.どっちでもいいです

A. そうだな…どこか外に行くか？

B. そうだな…ではここで話そうか？

b.あなたの好きな所で

A. 公園へ行くか？

B. では森の湖でいいか？

ごめんなさい…

◆平日：約束あり◆

日の曜日の約束だったが…今日にしないか？

☞ことわる

…そうか。では日の曜日に会おう。

◆平日：約束なし◆

アンジェリーク。何故かお前に会いたくなってな。…会いに来た。

☞ごめんなさい

…そうか。残念だな。

◆土の曜日：約束あり◆

約束は明日だが…。今日はどうする？一緒に出かけるか？

☞ことわる

そうか。明日では私の都合が悪い。…手間を取らせたな。

◆土の曜日：約束なし◆

アンジェリーク。今日は土の曜日だが…どうする？

☞ことわる

そうか。熱心だな。結構なことだ。

◆日の曜日：約束あり◆

アンジェリーク。今日はお前と出かけることになっていたな。…行こうか。

☞ごめんなさい

…そうか。

◆日の曜日：約束なし◆

アンジェリーク。…誘いに来た。

☞ごめんなさい

そうか。

デート中

…そう、何を話そうか？

好きな物

A. あまり、好き、嫌いというものはないのだが…そうだな、あれは何と言ったか…アイリッシュカフェ。あれは美味しかったと思う。

B. 特に好きなものというのはないが…あっさりしたものは嫌いではない。果物類、そう、ライチは美味しいと思う。

嫌いな物

A. ロブスター。あれはまずかった…と思う。食べ方が悪かったのかもしれないが。

B. そんなことを聞くのか。そうだな…。エスカルゴ。他人がうまいというのがわからんな。

理想の女性像

そんなことを聞いてどうするのだ？…まあ一言で言えば聡明な、というところか女性ならば、というわけではなく、人間一般に対する希望だがな。

苦手な女性像

…その質問についてはあまり関心はない。だが…。そうだな、異性に限らず、騒がしい人間とはあまり近づきたくないものだ。



ロブスター。あれはまずかった…と思う。食べ方が悪かったのかもしれないが。



趣味の話

A. 趣味か…。特にはない。ただ、いろいろなことをとりとめもなく考えながらゆっくり時間を過ごすのは悪くないと思う。

B. 趣味といえるようなものは特にはないが…。しいて言えば、夜空の星や水晶球を見ることか。目的や期限にしばられて何かをするというのは好きではないのでな。

故郷のこと

…私の生まれた星、か。お前に話せるようなことは何もない。それだけだ。

身近なこと

A. ………。すまないが、お前に話して楽しんでもらえるようなことは、何もない。

B. 私が執務室においている水晶球。あれは私が守護聖となる前から持っていた唯一のものだ。なぜあんなものを持っていたのか、今では思い出せないくらい昔のことだが…。

物の考え方

何についての考えだ？

▶星への関心

A. エリューシオンのことは私も関心を持っている。女王候補としても、彼らの未来を決める者としてもかの地の育成をおろそかにしてほしくはないな。

B. それはお前の育てている大陸だったな…。関心がないわけではないがそれ以上ではないな。

C. …興味はないな。

▶女王候補の事

A. 女王候補か…。もし、女王をめざすのならば…お前には最も幸福な女王となってほしい。運命に流されるのではなく自分自身で望んだ女王に。そうであれば、私も守護聖の一人として、女王にできる限りの力を捧げるだろう…。

B. …女王をめざすか、他の道を選ぶか。それは誰でもない、お前自身が決めることだ。私が言えるのはそれだけだ。

C. 女王候補か…。もしお前がまだ女王となる決意をしていないのなら、試験などやめてしまえ。望まずに女王となり、自分を含まぬ世界の幸福しか祈れぬようになるくらいならば、…な。…ずっと昔のそういう話を私は知っている。だから幸福でない女王など見たくはないのだ。

▶仕事は好きか

A. 世界の形成と存続がかかっていると言われてみろ。やらないわけにもいくまい。

B. 好き、嫌いを言える問題ではないと思っている。…これでは答えにならないか？

C. 嫌いだ。守護聖も、守護聖である私もな。



趣味の話

A. 趣味か…。特にはない。ただ、いろいろなことをとりとめもなく考えながらゆっくり時間を過ごすのは悪くないと思う。

B. 趣味といえるようなものは特にはないが…。しいて言えば、夜空の星や水晶球を見ることか。目的や期限にしばられて何かをするというのは好きではないのでな。

故郷のこと

…私の生まれた星、か。お前に話せるようなことは何もない。それだけだ。

身近なこと

A. ………。すまないが、お前に話して楽しんでもらえるようなことは、何もない。

B. 私が執務室においている水晶球。あれは私が守護聖となる前から持っていた唯一のものだ。なぜあんなものを持っていたのか、今では思い出せないくらい昔のことだが…。

物の考え方

何についての考えだ？

▶星への関心

A. エリューシオンのことは私も関心を持っている。女王候補としても、彼らの未来を決める者としてもかの地の育成をおろそかにしてほしくはないな。

B. それはお前の育てている大陸だったな…。関心がないわけではないがそれ以上ではないな。

C. …興味はないな。

▶女王候補の事

A. 女王候補か…。もし、女王をめざすのならば…お前には最も幸福な女王となってほしい。運命に流されるのではなく自分自身で望んだ女王に。そうであれば、私も守護聖の一人として、女王にできる限りの力を捧げるだろう…。

B. …女王をめざすか、他の道を選ぶか。それは誰でもない、お前自身が決めることだ。私が言えるのはそれだけだ。

C. 女王候補か…。もしお前がまだ女王となる決意をしていないのなら、試験などやめてしまえ。望まずに女王となり、自分を含まぬ世界の幸福しか祈れぬようになるくらいならば、…な。…ずっと昔のそういう話を私は知っている。だから幸福でない女王など見たくはないのだ。

▶仕事は好きか

A. 世界の形成と存続がかかっていると言われてみろ。やらないわけにもいくまい。

B. 好き、嫌いを言える問題ではないと思っている。…これでは答えにならないか？

C. 嫌いだ。守護聖も、守護聖である私もな。



相手にもよるが…。こうしてお前と話すのは悪くはないな。

▶仲間への関心

A. 長ければ千年単位の時間を共に過ごすわけだからな。その中の良き一員であろうと心がけてはいる。

B. 一口に守護聖といっても様々な人間がいる。関心がないわけではないが取り立てて興味があるというほどではないな。

C. …他人。それ以外の何者でもないな。

▶外は好きか

A. ここに来てからは外に出ることも心がけている。私が部屋に閉じこもっているといって気にする者もいるのでな。

B. …まあ、たまには悪くないと思う。好んで外に行きたいとまでは思わないがな。

C. …出歩くのはあまり好きではない。

▶話は好きか

A. 相手にもよるが…。こうしてお前と話すのは悪くはないな。

B. 嫌いだとは言わないが…好んで話そうということもないな。

C. …嫌いだ。
…私の話はこれくらいだが…

もうよいか、アンジェリーク。では、アンジェリーク。私はこれで失礼する。



Clavis

森の湖

あなたの「安らぎ」になりたい…



散歩中

あっ！クラヴィス様だわ

◆通常◆

…フッ、アンジェリーク、こんな所でお前と会うとはな。

A. アンジェリーク、時には休息も必要だ。もっとも休息だけでは何もならないがな。

B. こんな自然の中も悪くない。

約束しちゃおっかな

☞お願いする

お前には、日の曜日予定はないのか？

☞はい

では、覚えておこう。

☞いいえ

そうか。私に言いたいことはそれだけというわけか。

☞やめとく

ああ、アンジェリーク。まったく不思議なほどお前は元気だな。その明るさを忘れるな。

◆平日：約束あり◆

日の曜日のことなら覚えているぞ。

祈りの滝

滝にお祈りしてみようかな？

☞そうしよっと

…フッ、アンジェリーク、こんな所でお前と会うとはな。

☞会いたかった

…そうか。実は私もお前がここにいるような気がして、な。…足を向けてみたのだ。

☞偶然ですね

アンジェリークか。まあ、せいぜいがんばることだな。

デート中

ステキなところですね

A. アンジェリークよ。とりあえず礼を言うぞ。いい気分転換になった。

B. ここに来たおかげで気分が安らいだ。礼を言っておくぞ。安らぎをもたらす闇の守護聖である私に安らぎを与えるとはな、さすが女王候補…か。

C. お前とこうして過ごすとなぜか心がなごむのだ。自分でも不思議なことなのだが…。お前の明るさが、私の忘れかけていた何かを思い出させてくれたのかもしれない…。

パシャッ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい

フッ、まるで子どもだな。だが、そこがお前らしいところなのだろうな。

どこまで行けるかな？

☞ここから先は行けないのね

アンジェリーク、そこから先は立入禁止だ。戻ってくるのだな。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

帰るのか？

☞はい

では部屋まで送ろう。

◆私の部屋◆

今日は、まあ、楽しませてもらった。感謝するぞ。

☞いいえ

そうか。…ではもうしばらくここにいるか。

デートトラブル！

Wブッキング!!

日の曜日：他の守護聖様とデート◆中、約束中の守護聖様がロザリア◆とツーショットで出現！

A. わかった。

B. …今日はお前と約束していた日だったな。…お互いにそのことは触れないこととしよう。

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日：散歩中◆

アンジェリーク、時には休息も必要だ。もっとも休息だけでは何もならないがな。

◆日の曜日：ロザリアとデート中◆

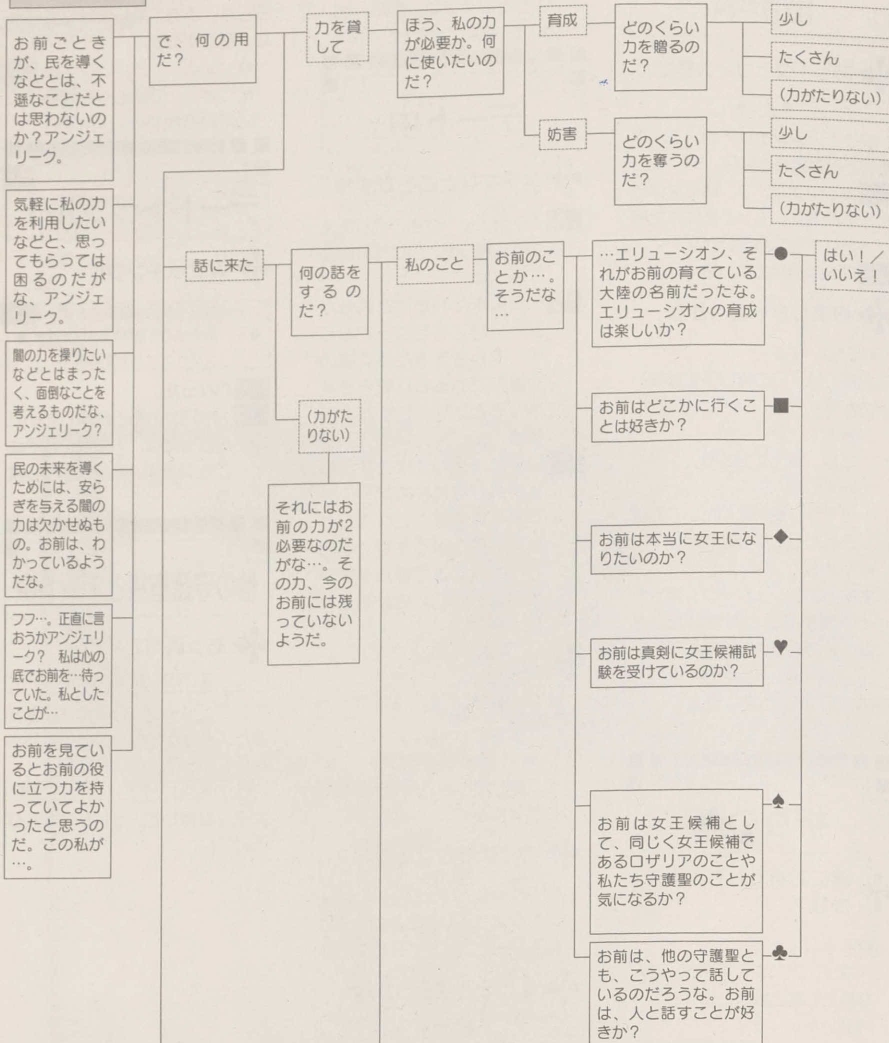
女王を目指して、せいぜいがんばるのだな。

Clavis

執務室

「お前を…待っていた」なんて言っていただきたい！

平日





★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方
各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次(右どなり)のブロックの中からいずれか(14通りあります)の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

少し育成するのか…。よかろう。闇の力を贈ってやろう。

たくさん育成するのか…。よかろう。闇の力を贈ってやろう。

それにはお前の力が（2／4）必要なのだがな…その力、今のお前には残っていないようだ。

では、少し妨害することを覚えておこう。

では、たくさん妨害することを覚えておくとしよう。

それにはお前の力が（2／4）必要なのだ。だがお前にはその力は残っていないようだな。

だろうな。そう答えると思っていた。

そうか…、私と同じだな。

お前もそう思うのか。…だろうな。

やはりそうか。思った通りだな。

そうだろうな。私でも同じ答だろう。

ほう…、私と同じだな。

私がお前の立場なら同じ答だろうな

そうなのか……

そうか…。…それは残念だな。

そうか…。だがな、

なるほどな、お前はそう考えていたのか。

お前は女王候補だろう。そんなことでは困るな。

私の考えとは違うな

そうか…

●
…自分の力でどんどん発展していくエリューシオンを見るのは楽しいだろうな。だが、民自身の努力がなければ、発展はできないことを忘れぬように…な。

…お前には悪いが私はエリューシオンには関心がない。さらに言えば関心がないものを育成する楽しさなどわからんな。

■
…執務室に閉じこもってばかりではな…。やはり外に出かければ気分転換になるからな。

…わざわざ外に出かけて疲れるより、部屋にいるほうが、心が安らぐとは思わないか？

◆
…女王は、私が忠誠を捧げる唯一の対象だ。女王のためならば、私はこの身を捨てることすらいとわないだろう…。

…女王になると犠牲にするものも大きいだろう。そう言う私も、守護聖なのだがな。

♥
他の試験ならともかく、女王を決める試験なのだからな、真剣に受けるのが当然だろう。

…ときには気の向くままに行動した方が、良い結果を生むこともあるだろう。まあ、失敗することの方が多いかもしれぬが。

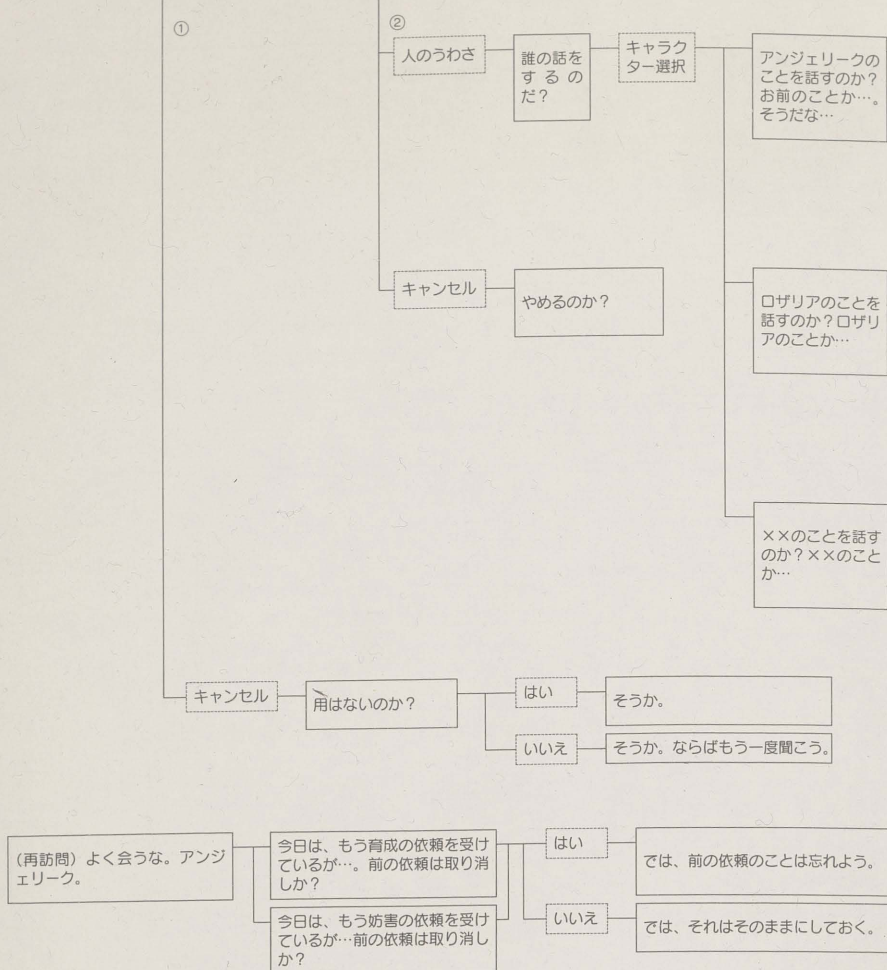
♠
…ロザリアや守護聖が何をしているかというのは自分の行動を決めるうえで参考となるものだ。

それぞれ皆、考えて行動しているはずだ。自分が気にする必要はないだろう。

♣
…いろいろな人間と話すことによって、自分がどんな人間なのか、より理解できるだろう。それに、自分と違う考えを持つ人間と話すことは結構おもしろいものだと思うが…。

…言葉を並べるよりもっと大切なこともあるのだ。お前が気づいているかどうかは知らないが…。

…今回の話で、少しはお前のことを知ることができたな。



（再訪問）よく会うな。アンジェリーク。

- 今日は、もう育成の依頼を受けているが…。前の依頼は取り消しか？
- 今日は、もう妨害の依頼を受けているが…前の依頼は取り消しか？
  - はい → では、前の依頼のことは忘れよう。
  - いいえ → では、それはそのままにしておく。

お前は、よくがんばっているようだな。…そんなお前は輝いて見える。フッ、私がこんなことを言うのは似合わないか…だが正直な感想だ。

お前も女王候補なのだからいろいろとあるだろうが、がんばることだな。

…言わせてもらえば、私はお前のことが嫌いだ。お前もそのつもりで私と接するのだな。

私がお前に話すことはこれくらいだな。せいぜい参考にすることだな。

ロザリアか…。私とは仲がよい方だが…ほかにお前に言うようなことはないな。

私とは、特に仲が良くもなければ、悪くもないという関係だな。

…私はロザリアとは気が合わない。

私がお前に話すことはこれくらいだな。せいぜい参考にすることだな。

××は信用できる人間だ。本当の意味で頼りになる奴だと思っている。

私とは、特に仲が良くもなければ、悪くもないという関係だな。

…私は××とは気が合わない。

…お前のことをかなり気に入っているようだな。

…お前のことは、特に嫌っても、気に入ってもいないようだな。ということは良くも悪くも適当にお前の相手をしているのだろうな。

…お前のことが嫌いなようだな

性格的には、女王のことを非常に尊敬しているのが特徴だな。試験に力を入れていれば、気に入られるだろうな。

性格は社交的で…、人と話すことが好きなタイプのようだな。

…そういえば他の守護聖の行動を気にするようなことはないな。

…そういえば、他人のやることを気にするところがあるな。

…そういえば、外に出歩くことはあまり好きではないようだな。

…そういえばエリューシオンのことにはまるで関心がないようだったな。

…そういえば、エリューシオンのことを気に入っているようだったな。

…そういえば、あまり女王候補に関心を持っていなかったようだ。

…それに自分の執務室に閉じこもって、じっとしている、などということは性に合わないらしいな。

…そういえば人と話すことは嫌いなようだ

性格的には、とにかく気まぐれで…、思いつきだけで行動することがあるようだ。

…そういえば、気まぐれで行動するということはないようだな。

私がお前に話すことはこれくらいだな。せいぜい参考にすることだな。

日の曜日

がんばっているようだな。アンジェリーク。

…今日は育成も妨害も行わない日だが…私に何か用か？

今日はお前と約束していたな。で、どうするのだ。

部屋への誘い

よかろう。お前の部屋に行こう。

…私がお前の部屋に行くのは、よいこととは思えない。今回は遠慮させてもらう。

…守護聖と女王候補が必要以上に親密になるのはどうかと思うぞ。今回は遠慮させてもらう。約束もなかったこととする。

（再訪問）断ると言ったはずだ

（力がたりない）

しかしお前には、もう私を招くだけの力が残っていないようだ。招くのであればもっと力がある時にするのだな。

外への誘い

外か…

公園

森の湖

（力がたりない）

キャンセル

キャンセル

用はないのか？

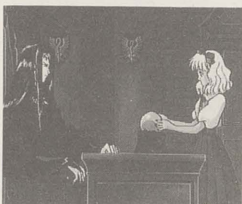
…どうした？アンジェリーク。

趣味イベント

『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

日の曜日にまで私の所に来るとは、暇なことだな。…せっかく来たのだ。星空でも見てゆくか？
「…昼間なのに星空って…？」
☞はい
…では、一瞬目を閉じて…いいぞ、アンジェリーク。
（イベント→私の部屋）
「本当に、とってもきれいな星空でした！」
…あの星々の一つ一つに歴史があり、物語がある。人はその中でどれほどの存在なのだろうな。だが、そんな人の身であるにもかかわらず、星々の運命を左右する力を持つ。…疲れるわけだ。アンジェリーク。お前も同じ立場になるかもしれないのだな。ああ、もうこんな時間か。アンジェリーク。…では、な。
☞いいえ
そうか。…まあ、いい。


思わずステキな体験ができたけど女王になることの意味を教えていただいた気がするわ。


私の心の中がお花でいっぱいだなんて…。次はクラヴィス様が映ったらどうしよう！

今、水晶を見ていたのだ。そうだ、おまえが望むならこの「遠見の水晶」が映すものを見せてやるが？
☞はい
では、こちらに来てここに手をかざすのだ。
（イベント→私の部屋）
そうか。おまえの喜ぶ顔を見るのは、私にとっても悪くない…。…先ほど見えたものは、お前の心の中の光景だ。見えるはずのないものとは見ない方がよいもの…。今までそう思っていたが、お前の心はそうではないようだな。…けっこう時間がたってしまったものだな。では、な、アンジェリーク。
☞いいえ
そうか。望まぬものを、無理にとはいわぬ。

よかろう。

私には、そんな気は全くない。帰れ。

公園か…。気が乗らない。帰ってくれ。

（再訪問）
断ると言ったはずだ。

よかろう。

そこまで行く気はない。…帰れ。

そこまで行く気はない。約束は取り消しだ。

（再訪問）
断ると言ったはずだ。

しかしお前には、私と外へ行くだけの力が残っていないようだな。もう帰って寝た方がいいだろう。

やめるのだな？
- はい → それでは、お前の部屋に来いと言うのか？
- いいえ → そうか、やはり外に行くと言うのだな。

- はい → そうか。
- いいえ → そうか。ならばもう一度聞こう。
- どこにしよう → お前の好きにするがいい。
- 帰ります… → そうか。

他の守護聖の執務室

…というのだ。…アンジェリークか。…そろそろ私は帰ろう。

Clavis

公園

どうか、心を開いてください…



散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

…フッ、アンジェリーク、こんな所でお前と会うとはな。

◆2度目以降◆

よく会うな。アンジェリーク。

☞お願いする

では、覚えておこう。

☞やめとく

ああ、アンジェリーク。まったく不思議なほどお前は元気だな。その明るさを忘れるな。

◆他に約束あり、力がたりない◆

そうか。私に言いたいことはそれだけというわけか。

◆平日：約束あり◆

アンジェリーク、日の曜日のこと、忘れぬようにな。

◆平日：約束なし◆

ここは心が安らぐな。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

…私はロザリアを待っているのだ。お前には関係ない。

◆2度目以降◆

遅い…。ロザリアはまだ来ないのか。

◆日の曜日：ロザリアとデート中・約束なし◆

女王を目指して、せいぜいがんばるのだな。

デート中

公園入り口（デートスタート）

お前ならここに来ると思ってな…待っていた。少し歩くか。

◆噴水右まで移動◆

…向こうの二人が気になっているようだな。行ってみるか。

ベンチの前

…だそうだ。お前はあの二人のことがうらやましいと思うか？

☞はい

A. …そうか。まあ、それならそれでいいが。

B. …そうか。今日はお前と過ごそうという気が失せた。悪いが帰らせてもらう。

☞いいえ

A. …そうか。少しはものを考えて話しているようだな。

B. …そうか。私とは話をしたくないという意味にもとれるな。今日はもう帰るが、よく考えて話してほしい。

神鳥の像（右）

あの神鳥の像のところに行ってみるか。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ」

…フッ…。

お前は、今はこうして私と過ごしているが、様々な守護聖から話を聞くことも必要だろう。この二人だったら、どちらの話が聞きたいと思うか？

☞（正解）

そうだな。お前の選択は正しいと思うぞ。

☞（不正解）

…そちらを選ぶとはお前は、物事をよくわかっていないのだな。今日は帰る。

ときめきの丘

では、女王候補としてのお前に聞こう。

A. エリューシオンの人口は○○人より多いのか？

☞（正解）

なるほど、それくらいは知っているようだな。私もエリューシオンのことを、もう少し考えるようにしよう。

☞（不正解）

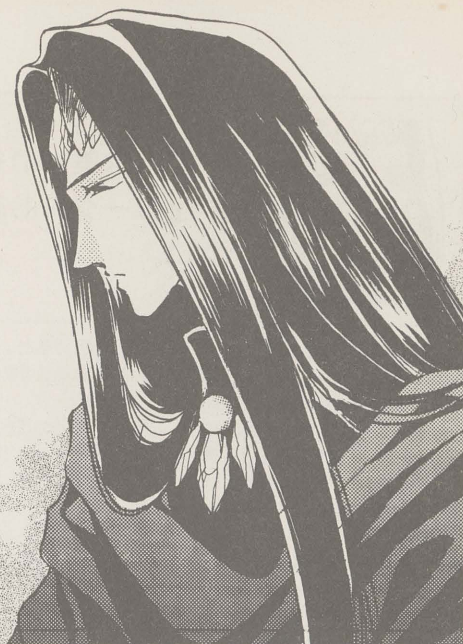
お前がその程度の関心しかないエリューシオンだ。私の関心が低くても当然だな。今日は帰る。

B. フェリシアの人口は○○人よ



…そうか。今日はお前と過ごそうという気が失せた。悪いが帰らせてもらう。





り多いのか？

☞（正解）

ロザリアの育成している地のことも知っているのか。…では、私もその姿勢を少しは見習おう。

☞（不正解）

知らないのか…。

C. ロザリアと仲の良い守護聖はどちらだと思う？

☞（正解）

知っているのか。私も少しは他の守護聖のことを知るように心がけよう。

☞（不正解）

知らないか。…まあ、それでもかまわんがな。

D. お前の育てているエリューシオンの建物数はフェリシアの建物数よりも多いのか？

☞（正解）

なるほど、さすがは女王候補、といったところか。女王をめざすお前ならば応援しよう。

☞（不正解）

そんなことも知らないのか。…見損なったな。今日はこれで帰らせてもらう。

女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ」

…だそうだ。フッ。

これは女王の像。…一般の人々にとっては守護聖も女王も、しょせん現実感のない存在だ。だが、現女王もかつてはお前と同じような女王候補の時があったのだ。…アンジェリーク。女王候補は大変か？

☞はい

A. …そうか。だがお前には、お前自身が納得するまでがんばってほしいと願っている。

B. そうか…。そうだろうな。では今日はもう帰ろう。女王候補にも休息は必要だろうからな。

☞いいえ

A. そうか。さすがだな。…ほめているのだぞ。

B. 信じられんな。それともまだよくわかっていないのか…。まあ、いい。今日はこれで帰ることにしよう。ゆっくり考えてみることだな。

神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますからがんばってくださいね」

人気があるようだな、アンジェリーク。…ところで、少し歩き疲れたのではないか？

☞はい

A. そうか。…近くに休憩できるところがある。すまないが、そこまでもう少し歩こう。

B. そうか。実は私もだ。今日はもう帰ることにしよう。

☞いいえ

A. お前は確かに元気なようだな。ならばもう少し歩くか。

B. 私の方はそうではない。…悪いが今日はこれで帰ろう。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート中◆

先客がいるな。仕方あるまい。行くぞ、アンジェリーク。

たたずみドーム

…少し話をしてやろう。

A. 女王は、宇宙を支え、世界を導いている。それゆえにあの宇宙を離れることはできない。女王や守護聖の力は、次元の壁を超えては伝わらないからだ。だから我々はこの飛空都市に来て、お前たちの試験につきあっているというわ



…花とは美しいものだと知っていたが、アンジェリーク、お前も……フッ、いや、何でもない。

けだ。

B. この飛空都市やお前たちが育成している惑星は、女王の統べる世界とは別の宇宙にある。次元の違う宇宙を行き来するには、次元回廊を使うのだが、…こんな話はお前には難しかったな。

C. …現女王が選出されたとき私はすでに守護聖だった。その時の守護聖で今も残っているのは私の他には、ジュリアスとルヴァだけになった。女王候補だった頃の陛下はお前とどことなく似ているような気がする。…その、金の髪のせいか…。

D. 王立研究院のパスハと占いの館のサラは私たちとは異なる文明を持つ、異種族だ。彼らの特殊な力は我々とはかなり違うものだが、その能力と彼らの人格は尊重すべきだと思う。

E. 私とジュリアスは、ほぼ同じ時期に守護聖となり、今日に至っている。だが守護聖の力も限りはある。いつか私も守護聖の地位を降りるだろう。それが、いつになるかはわからないが、…な。

◆お話終わり◆

…そろそろ行くか?
☞はい
→移動
☞いいえ
では、もう一度話そう。

入り口

少し話がある。私についてこい。

ドキドキの木陰

…こうしてみると、アンジェリーク、お前は結構可愛らしいのだな。
☞そんな…
フ…。本当のことだ。照れることもあるまい。では行こうか。アンジェリーク。

お花畑

…花とは美しいものだと知っていたが、アンジェリーク、お前も……フッ、いや、何でもない。
☞そんな…
私は思ってもいないことを言えるほど器用ではないのでな。…では行こうか。アンジェリーク。

噴水の前

…アンジェリーク。この流れる水のように澄んだお前の心にふれると私の心も洗われるようだ。
☞そんな…
こんなことは私よりもエリューシオンの民の方がよくわかっているだろうがな。…ではそろそろ行こうか、心優しき天使、…アンジェリーク。

入り口

A. では帰るぞ。部屋まで送ろう。

B. それでは帰るぞ。部屋まで送らせてもらおう…お前ともう少し話してみたいのでな。

C. では帰るぞ。部屋まで送らせてもらおう。…もう少しの間だけお前と一緒にいたいのだ。

私の部屋へ

A. …こんなこともあるだろう。次の機会を待っているぞ。では失礼させてもらう。

B. 今日は、私もそこそこには楽しませてもらった。お前の答えも、まずまずまともなものであったぞ。…では私はこれで失礼させてもらう。

C. 今日は本当に楽しい時間を過ごすことができた。礼を言わせてもらう。遠い日になくした思いを取り戻したような気さえするぞ。…では失礼させてもらう。

デートトラブル!

ひっどーい!これって二股!?

◆平日:ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. 聞け、アンジェリーク。確かに私はロザリアと約束していた。だが、私は今ここでその約束は、なかったものとしよう。ロザリア、聞いた通りだ。日の曜日のことはなかったことにしてくれ。

B. お前に文句を言われる理由はない。…今日はもう帰るぞ。

次の日の曜日に約束している守護聖様がいる!

◆平日:他の守護聖様に約束をほのめかされて◆

…どういうことだ?
☞正直に言う

A. …確かにより多くの者から話を聞いた方がいい。聞いた話は参考にするのだな。

B. 何か隠しているようだな。…それぐらい察しがつく。そんなことなら今日はもう帰るぞ。

☞やめとく

A. お前が日の曜日に誰と約束していようと私とは関係ない。

B. 何か隠しているようだな。…それぐらい察しがつく。そんなことなら今日はもう帰るぞ。

まさか！クラヴィス様が…

◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

そうだったか。…すまなかった。

☞もう帰る!!

A. …もう少しいてくれないか。

B. お前がそう言うのなら仕方がない。今日は帰るぞ。

☞そこまでは…

A. 怒って帰ったのがお前でなくてよかった…。

B. お前には悪いが今日はもう帰るぞ。

きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中◆

お前は、今日は私との約束の日だったはずだが…そうか。約束を破ったのだな…。

☞あやまる

A. これからはこういうことのないように…な。

B. 約束を守れない者と話すことはない。

☞ごまかす

A. そうだったか…。まあ、どちらでもいい。私は失礼させてもらう。

B. 約束を守れない者と話すことはない。

あっ！今日は○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：クラヴィス様とデート中◆

…どういうことだ？

☞あやまる

A. よく正直に言ったな。アンジェリーク。お前は私が考えていたより素直だったらしいな…。

B. お前は人との約束さえ守れないのか…。…今日はもう帰ることにするぞ。

☞ごまかす

A. 何だったのだ…。私たちとは関係ないことだったようだな。

B. お前は人との約束さえ守れないのか…。…今日はもう帰ることにするぞ。

ひっどーい！約束してたのにー

◆日の曜日：ロザリアとのデートに遭遇◆

…約束か、そうだったな。忘れていた。すまなかった。

他の守護聖様とデート中

たたずみドームの前

◆通常◆

今日は連れがいるのか、アンジェリーク。いい雰囲気のようだな。

☞そんな

照れる必要はない。私がそう感じただけだ。それとも…違うのか？

☞うふふ

……楽しくて何よりだ。

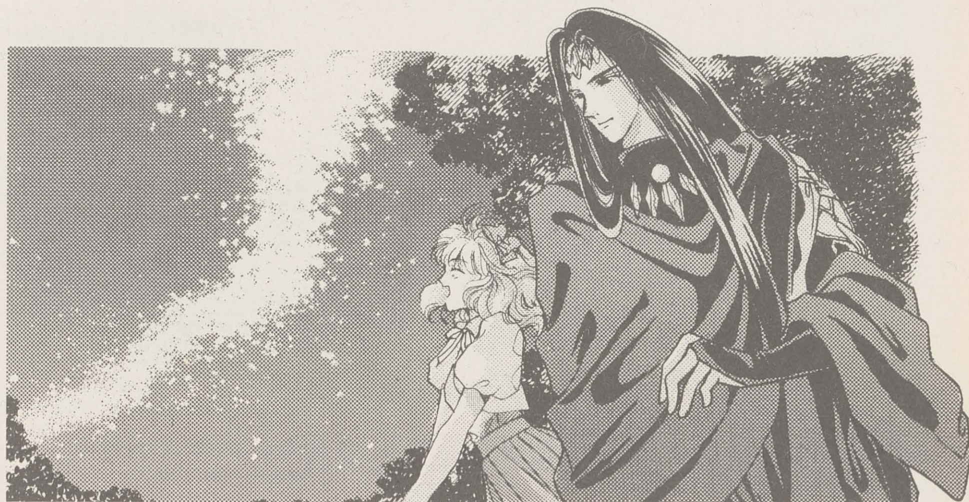
◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

私はロザリアを待っている。お前たちには関係ない。

たたずみドーム内

◆日の曜日◆

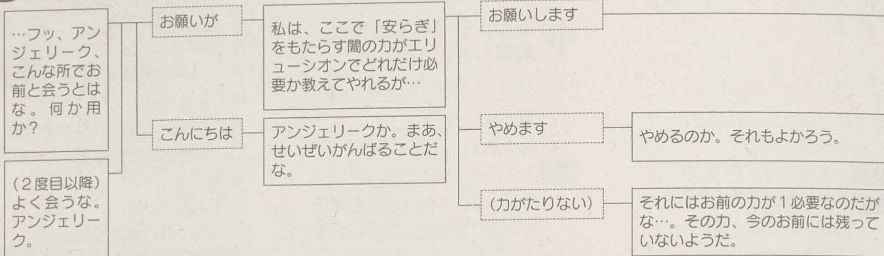
ロザリアか…？違ったか…。ロザリアを待っているのだがまだ来ないのだ。



Clavis

王立研究院

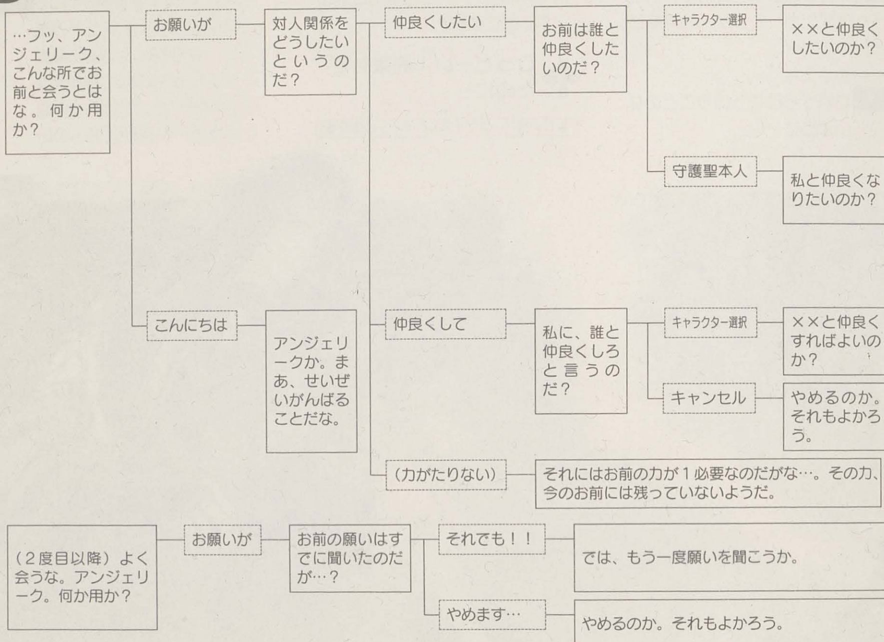
無口なところが好きなんです！



Clavis

占いの館

このお願いは…ムリがありそうだわ…



…エリューシオンでは人々に「安らぎ」をもたらす闇の力を、〇〇必要としているな。

あと〇〇…それが必要とされる私の力だな。

私の力は今までに〇〇贈ったぞ。これはエリューシオンで〇番目の勢力だ。

…安らぎも少しは求められているようだな。私の力も、少し贈った方がよいだろう。気が向いた時、私のところに来るのだな。

…エリューシオンでは人々に「安らぎ」をもたらす闇の力を求める声が強いぞ。エリューシオンの発展を望んでいるのであれば私のところに来ることだ。

私の力は、必要とはされていないな。エリューシオンの育成には他の力を贈るべきだ。

今度は望みの予測を見るのだな

せいぜい参考にすることだな

ええ！ — では、覚えておこう。

いいえ！ — お前は誰と仲良くしたいのだ？

キャンセル — やめるのか？ — はい — やめるのか。それもよかろう。

いいえ — お前は誰と仲良くしたいのだ？

ええ！ — では、覚えておこう。

いいえ！ — お前は誰と仲良くしたいのだ？

キャンセル — やめるのか？ — はい — やめるのか。それもよかろう。

いいえ — お前は誰と仲良くしたいのだ？

ええ！ — では、一応、覚えておくことにしよう。

いいえ！ — 私に、誰と仲良くしろと言うのだ？

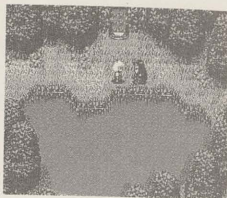
ええ！ — やめるのか。それもよかろう。

いいえ！ — 私に、誰と仲良くしろと言うのだ？

Clavis

恋愛イベント

あなたを失うほうが恐い…です



第1段階

◆森の湖◆

「アンジェリーク。お前は私を恐れないな。大抵の者は『闇』と聞くだけで私を避けるというのに。お前は『闇』とはどんなものか知っているのか？」
☞…はいっ！」
「ほう、知っていてなお恐れぬのか。そう、闇は人々に『安らぎ』をもたらす。つかの間の休息も、永遠の眠りも。ゆえに人は私を恐れるのだ。確かに安らぎだけでは何も生み出さない。だがいつも張り詰めた状態では人は生きられない。だから闇は必要なのだ。…多分」

☞「いいえ…」
「何も知らなければ恐れぬのも道理か。だが闇が何を司るかは知っているだろう」

◆私の部屋◆

「今日は久しぶりにたくさん話してしまった。相手がお前だったからかもしれん。私がお前にひかれているせいだと…思うか？
☞「…はいっ！」
「人の心がそんなに単純なものだと思っていたのか？まあいい。また会おう。…今日は楽しかった」
「クラヴィス様が楽しかったって言ってくださったわ！」

☞「いいえ…」
「…くだらんな」
「クラヴィス様、お気を悪くなさったみたい…」



第2段階

◆森の湖◆

「アンジェリーク、お前にはなぜかいろいろな話をしてみたくなる。よければ聞いてくれ。…他の守護聖たちはどうか知らないが、私は守護聖としての自分に疲れはじめている。私が守護聖となってからかなりの時が過ぎた。このまま、いつまで私は『闇の守護聖』として生きていかなければならないのかと思うとな…」
「クラヴィス様…」
「私を気遣ってくれるのか、アンジェリーク」
☞「…はいっ！」
「お前はどこか、穏やかな春の光を思い出させる。私がまだ闇も守護聖も知らなかった頃の…」

☞「いいえ…」
「そうだな。お前には、同情だけはされたくない」

◆私の部屋◆

「アンジェリーク。お前と会うだけでなぜか、闇の中よりも心が安らぐのを感じる。また、こうして私の話を聞いてくれないか？」
☞「よろこんで！」
「そうか。お前がそう言ってくれるならば、また話を聞いてもらいたいものだな。…ありがとう」
「クラヴィス様が私に、『ありがとう』って言ってくださったわ…」

☞ごめんなさい」
「なるほど。お前にそんな期待をかけても無理だったな」
「クラヴィス様、ごめんなさい…」

告白

◆森の湖◆

クラヴィス様、私、あなたのことが好きなんです」

「なるほど。女王の座はあきらめるか…？」

☞「…はいっ！」

「…そうか。この私を想ってくれる者がいたとはな。それも女王候補のお前が…アンジェリーク…私は待っていた。私を永遠の孤独から救ってくれる者を。静かな、だが何の変化もない闇の中から、私を連れ出してくれる者を…。…ずっと。それは…お前だったのだな。アンジェリーク…」

☞「いいえ…」

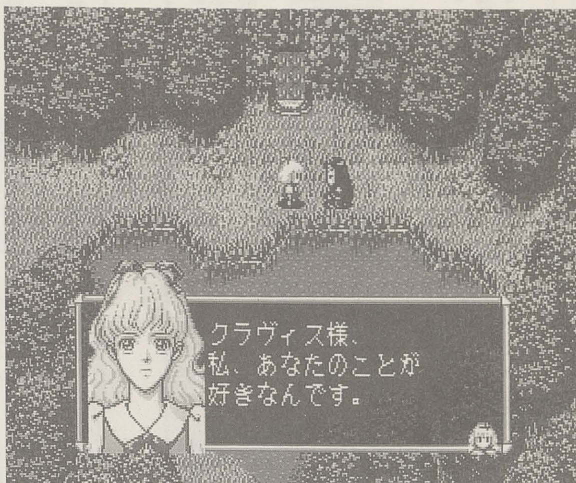
「それもよかろう。今の話は忘れる事にする」

◆失敗◆

「…私は違うな」

◆私の部屋◆

「私はお前が思っているほどの男ではない。…早く忘れることだ」



力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

女王候補たちの望みのままに我々の力を贈ろう。

アンジェリークの願いにより、私の闇がもたらす「安らぎ」をかの地に贈ろう…。
アンジェリークの願いにより、「安らぎ」をフェリシアからなくしてしまおう。
闇がもたらす「安らぎ」をエリューシオンに満たし、私からアンジェリークへの贈り物としよう。
闇がもたらす「安らぎ」をフェリシアの地から消し去ってしまおう。
闇の力よ！エリューシオンの人々に「安らぎ」をもたらすのだ！
フェリシアから人々に「安らぎ」をもたらす、闇の力を奪い去るのだ！

ささやかな「安らぎ」を…
多くの「安らぎ」を…
闇の「安らぎ」よ、少しだけ、我がもとに…。
多くの、闇の「安らぎ」よ我がもとに戻るがいい…。

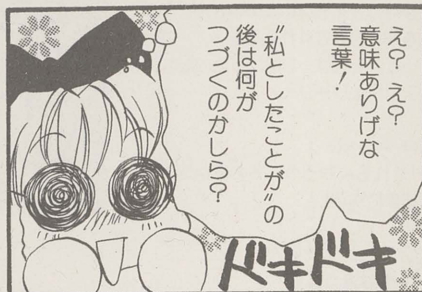




押田J・O

スキあり!!









扉を開けて



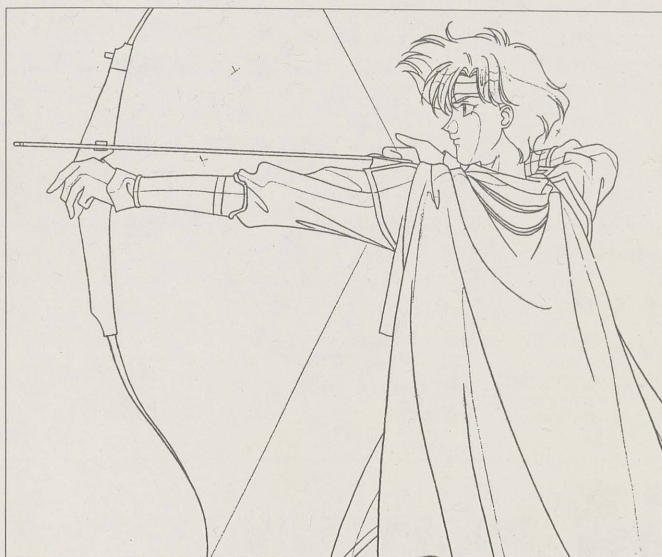






メッセージ♥テスト〈クラヴィス〉の答え　1B　2A　3B　4C　5C　6B　7C　8B　9B　10C-D-B-A'

ACT.3
ランディ編



私の部屋

Randy



私に元気を分けてください！

デートのお誘い

よろこんで！（共通）

◆通常◆

本当かい！？俺も、すごくうれしいぜ、アンジェリーク！じゃ今日はどうしようか？

☞外へ行きたい
公園か、森の湖か。どっちに行こうか？

☞公園
うん、楽しそうだよな！じゃ、さっそく行こうか！

☞森の湖
森の湖か。知ってるかい？あそこにはステキな別名があるんだぜ！じゃ、行こうか！

☞キャンセル
a．どっちでもいいです
A. じゃ、どこかに行こうか？
B. じゃ、ここで話でもしようか？
b．あなたの好きな所で
A. よし、じゃあ公園に行こうか？
B. じゃ、森の湖はどうだい？

ごめんなさい…

◆平日：約束あり◆

やあ、アンジェリーク、日の曜日に約束してたけど今日はどうかな？

☞ことわる
うーん、じゃあがんばって日の曜日に時間を作るよ。何たって君との大切な約束だからな！

◆平日：約束なし◆

アンジェリーク、君と一日一緒にいたくなってさ。日の曜日でもないのに悪かったかな？

☞ごめんなさい
じゃあ、しょうがないな。また来るよ。そのときはうん、と言ってくれよな！

◆土の曜日：約束あり◆

あのさ、アンジェリーク。明日の約束、行けなくなるかもしれないんだ。今日の予定は空いてるかい？

☞ことわる
そうか。じゃあ残念だけど今回の約束はなかったことにしよう。すまないな。次からはこんなことのないようにするよ。

◆土の曜日：約束なし◆

やあ、アンジェリーク！今日はヒマかい？よかったらどこかへ遊びに行きたいんだけど…

☞ことわる
やっぱりそうだよな。困らせて悪かったよ。じゃあ、また今度！

◆日の曜日：約束あり◆

やあ、迎えに来たぜ、アンジェリーク！今日もいい天気だぞ。さあ、行こうぜ！

☞ごめんなさい
ええっ具合でも悪いのか？ま、しょうがないさ。気にするなよ。じゃあな、アンジェリーク。

◆日の曜日：約束なし◆

やあっ、アンジェリーク！今日は日の曜日だし、よかったらどこかに遊びに行かないかい？

☞ごめんなさい
せっかく日の曜日なのに…まあ仕方ないか。今度は一緒に遊びに行こう！それじゃあ！

デート中

…さて、何を話そうか？

好きな物

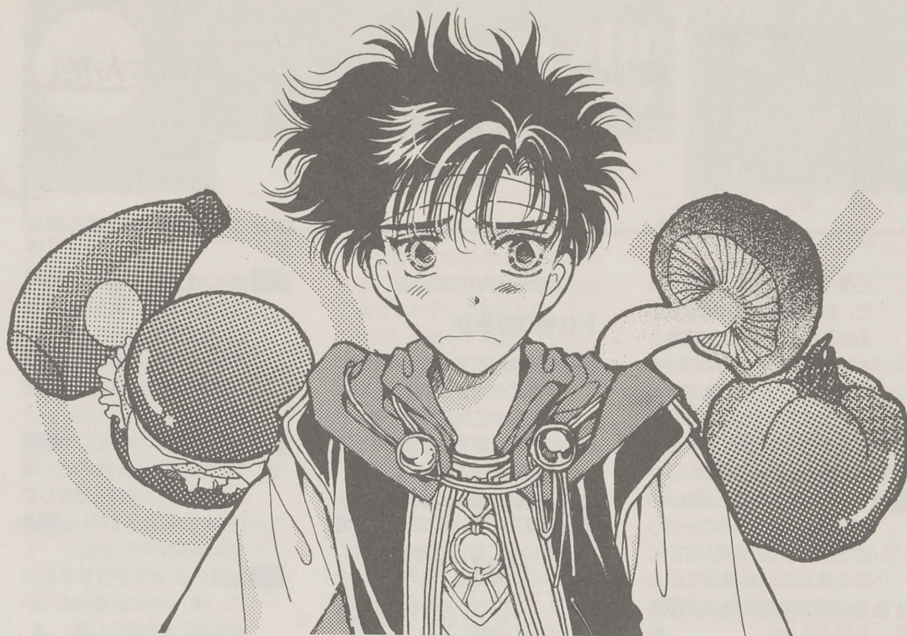
A. 俺の好きな物ねえ…飲物でいえばコーラだよ。のどをしびれさせるようなところがいいんだよな。それに気取って飲む必要がないだろう。その気楽さもいいな。
B. 俺の好きな物か…食べ物でいえばテリヤキバーガーだな。フライドポテトがつけば最高さ。お手軽だけど、本当にうまいものさ。

嫌いな物

A. そうだなあ…、食べ物だと、



やあ、迎えに来たぜ、アンジェリーク！今日もいい天気だぞ。さあ、行こうぜ！



シイタケが嫌いだな。あのなんともいえない舌ざわりに、あのなんともいえない匂い…ちょっと苦手だな。

B. トマト！！俺の嫌いな物は、なんといってもトマトだな。あの舌ざわり、あの味、あの匂い…どれをとっても俺は嫌いなんだ。でもトマトケチャップは平気なんだ。ハハハ、不思議だろう。

理想の女性像

理想の女性像！？困ったな。そんなこと考えたことなかったんでね。うーん、そうだな、自分をしっかり持った、「大人」って感じのする人かな。…ハハ、自分で言ってて照れくさくなっちゃったな。

苦手な女性像

苦手な女性像か…、うーん、むずかしいな。そうだな…うーん…。まあ、あえて言うとすれば相手のことを考えないわがままな女の子は好きになれないな。ん！？君はそんなことないよ、心配するなって。この俺が保証するよ。

趣味の話

A. アーチェリーだよ。集中して的を狙うときの、あのなんともいえない緊張感が最高なんだ。変かもしれないけれどあの瞬間だけは、ああ、俺は生きているんだって実感できるんだ。うまく説明できないんだけど、この気持ち、君にもわかってほしいな。

B. スポーツだな。スポーツで、自分の力を出しきったときの充実感はいいものだよ。綱渡りのようなギリギリのプレイが成功したときには自分に酔ってしまうほど、うれしいもんさ。それに、なによりも友達が増えるのがいいことだね。

故郷のこと

俺は世界の中心である主星で生まれ育ったんだ。…この機会に君には話しておこうかな。俺の父親は貴族で、母親は庶民だったんだ。…まあ、いろいろなことがあったみたいだよ。でもね、父も母も笑みを絶やさなかったんだ。絶やすとまわりの人を暗い気持ちにさせるってね。俺はそんな両親を誇りに思っているんだ。この思い、君にもわかってほしいな。

身近なこと

A. 俺ってさあ、スポーツでもゲームでも、勝負ごとになると、つい熱くなってしまうんだ。自分で言うのもなんだけれど、かなりの負けず嫌いみたいなんだよ。

B. 俺はいつも赤いマントをしているだろ。今日はそれがなんでか教えてあげよう。なんて言ってみたけどじつは理由はないんだ。ま、単なるカッコつけのためのものなんだ。

物の考え方

どんなことについての考えを聞きたいんだい？

▶星への関心

A. 実はさ、俺はエリューシオン



俺は外をブラブラするのって、嫌いなんだ。それくらいなら寝てる方がいいな。

の様子を見るのが好きなんだ。民が懸命にがんばっているのを見ていると、俺ももっとがんばろうって勇気づけられるんだ。だから君も自分のためだけでなく、彼らのためにも発展させてやってくれよ。期待してるからさ。

B. うーん、なんて言えばいいのかな…気になるものの一つってところだね。発展していくのを見るのは結構楽しいんだ。だからがんばって発展させてくれよな。

C. 君が、がんばっているのはよくわかるんだけど正直言うと俺はあんまり興味持ってないんだ。

▶**女王候補の事**

A. 女王候補は、誰にでもなれるものじゃないよ。素質があると認められたから、選ばれたんだ。だから君は女王になるかも知れないんだ。世界の中心となるべき女王に。君は望んでいなかったことかも知れない。でも多くの人を幸せにすることができるんだ。大変なことだろうけれど俺は君ならできると信じているよ。

B. 君は女王候補だ。俺が守護聖であるのと同じように、それから逃げることはできない。確かに大変だとは思うけれど、お互いがんばろう。

C. うーん、正直に言うとね、女王になることが、その人自身の幸福につながるかどうかはわからない。女王は自分のことよりみんなのことを考えないといけないからね。

▶**仕事は好きか**

A. この俺の力で、他人を幸せにすることができるんだ。守護聖になって良かったと思っているよ。君も俺の力を使ってより多くの人を幸せにしてくれよ。

B. …答えにくい質問だね。でも嫌いってわけではないんだ。…この俺には、風の守護聖としての力が、あるわけだからやるしかないよね。

C. じつを言うと、あんまり好きじゃないんだ。まあ、仕方がないからやっているだけって感じだね。

▶**仲間への関心**

A. 俺にとっては家族みたいなものさ。ひょっとしたらそれ以上の存在かもしれないな。まあ、良くも悪くも長いつきあいだからね、とても強い親近感を持っているな。

B. そうだね…まあ、信頼できる人もいるけれど、そうではない人もいるな。悪い人はいないんだから信頼できない人がいるってことは、俺自身がまだまだということだろうね。

C. じつを言うと、あんまりなじめないんだ。みんな本当の自分を見せようとしないからね。だからかな？他の守護聖のやることに腹のたつことが多いんだ。ちょっとさみしいことだけどね…。

▶**外は好きか**

A. 俺は、外に行くのは大好きだな。外に出て、風を感じるってのは気持ちいいことさ。身体を思いっきり動かせば嫌なことなんて、吹き飛ばせるものだよ。

B. たまには外に出ておいしい空気を吸うのもいいものさ。君も外に出て、身体を動かしてごらんよ。きっと新しい考えが浮かぶはずさ。

C. 俺は外をブラブラするのって、嫌いなんだ。それくらいなら寝てる方がいいな。

▶**話は好きか**

A. 人と話すのは好きだよ。人と話すとその人のことをもっと深く知ることができるだろう。それに話しているうちにそれまで気付かなかった自分の考えや気持ちがわかることもある。それに人と話すのはけっこう、楽しいしね。特に君と話すのは楽しいな。

B. …どうなんだろう。好きかって聞かれると考えてしまうな。嫌いではないのは確かなんだけどまあ、話すことでお互いに元気になれるようだったらいいね。

C. 俺って、あんまり話すのが得意じゃないからさ、その…正直言って苦手だな。特に女の子と二人だったりすると、つい緊張してしまうんだ。

…こんなところかな。こんなものでいいかな？そろそろ俺は帰るよ。じゃあ、また。

Randy

森の湖

私の気持ち、受け止めてくれますか？



散歩中

あっランディ様だわ

◆通常◆

やあ、偶然だな。アンジェリーク。

A. ここってなんか気分がスッキリするよね。これは、やっぱり自然の力なのかな。

B. たまにこんな所に来るのも気分転換になっていいな。君もそうだろ。やっぱり自然はいいよなあ。

約束しちゃおっかな

☞お願いする

君の方で他に予定は入ってないよね？

☞はい

わかったよ。君と一緒に過ごせるなんてうれしいよ。楽しみにしておくよ。

☞いいえ

おいおい、俺の前で緊張することはないよ。じゃ、また機会があったら会おうな。

☞やめとく

こんにちは！元気よく、あいさつしてくれて気持ちいいよ。どうもありがとうな。

◆平日：約束あり◆

日の曜日の約束、楽しみにしてるよ。忘れないでくれよな。

祈りの滝

滝にお祈りしてみようかな？

☞そうしよっと

やあ、偶然だな。アンジェリーク。

☞会いたかった

そう言ってもらえるとうれしいよ。俺もここに君がいるような気がしてやって来たんだ。二人の思いが通じたのか…おっと、なに似合わないこと言ってんだろ。変なこと言ってごめん。

☞偶然ですね

こんにちは。やっぱりあいさつはよりよい人間関係の基本だよな。

デート中

すがすがしいわ

A. ここは想いを寄せあったカップルがよく来るんで「恋人達の湖」とも呼ばれているんだ。自然の中、ゆったりとした気持ちで好きな人と過ごすのは、最高の時間かもしれないね。

B. ここは自然に囲まれていて空気がおいしいよなあ。ゆったりした気分になるよ。きっと君と一緒だからだろうな。

C. ここってホントに気持ちいい場所だよね。今日は君と一緒だからなおさらさ。君の笑顔は、春風のようなさわやかさとともに俺に勇気を与えてくれるよ。

パシャッ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい

ハハハハハ。熱かったら温泉だよ。でも自然にふるまう君はかわいいよ。

どこまで行けるかな？

☞ここから先は行けないのね

アンジェリーク、そこから先は立入禁止になってるんだ。戻ってきなよ。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

もう帰るのかい？

☞はい

よし、だったら部屋まで送るよ。俺、君ともう少し一緒にいたいんだからさ。

◆私の部屋◆

今日は楽しかったよ。君と一緒だったからだろうな。また行こうな。

☞いいえ

そうだね。せっかく来たんだ。もう少しゆっくりしていこう。

デートトラブル！

Wブッキング!!

◆ 日の曜日：他の守護聖様とデート中、約束中の守護聖様がロザリアとツーショットで出現！ ◆

A. まあ、いいさ。俺も忘れていたからな。

B. あ！！そういえば今日は君と約束していた日だったんだよね。すっかり忘れていたよ。まあ、今回はお互い様だな。

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日：散歩中◆

いろいろ大変だろうけれどがんばってくれよな。俺にできることなら力を貸すからさ。

◆日の曜日：ロザリアとデート中◆

がんばってるかい？俺にできることがあれば力になるよ。

Rundy

執務室

あなたの励ましは心にまで染みわたります…

平日

俺はけっこう気が短い方なんだ。自分の行動は、とっとと決めてくれよな、アンジェリーク。

風の力は勇気を運ぶんだ。発展のためには勇気が大事だと思うよ。君は判っているようだね。

元気でやってるみたいだねアンジェリーク。君の顔をみると、なんだかほっとする感じだよ。

アンジェリーク…君なら、きっと素晴らしい女王様になれるだろうな。頑張ってくれよ！

アンジェリーク、負けるなよ！！俺で出来ることなら、なんでもするから。

俺の力は君の役に立つ。なぜだかよくわからないけど、俺、それがうれしいんだ。

君はどんな用事で来たんだい？

- 力を貸して
  - 俺の力が必要なんだね。で、何をしたいんだい？
    - 育成
      - どのくらい力を贈ればいいんだい？
        - 少し
        - たくさん
        - (力がたりない)
    - 妨害
      - どのくらい力を奪えばいいんだい？
        - 少し
        - たくさん
        - (力がたりない)
- 話に来た
  - どんな話をしようか？
    - 私のこと
      - 君のことか、そうだねえ…
        - 君の育てている大陸はエリューシオンという名前だったね。大陸を発展させるのは楽しいかい？ ●
        - じゃあさ、君はどこかに行くことって好きかい？ ■
        - 君は本当に女王になりたいのかい？ ◆
        - 君は真面目に女王候補試験をやっているのかい？ ♥
        - つい忘れちゃうけど君は女王候補なんだよね。やっぱりさ、ロザリアが何をしているのかとか俺たち守護聖のこととか気になるかい？ ♠
        - 君は、いろんな人とこうやって話しているんだろうね。君は人と話すことが好きなのかい？ ♣
          - はい！／いいえ！
    - (力がたりない)
      - それには君の力が2必要となるんだ。でも…今の君にはその力は残ってないようだね。

①へ

②へ



★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方
各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次（右どなり）のブロックの中からいずれか（14通りあります）の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

少し育成するんだね。俺に任せてくれよ。

たくさん育成するんだね。俺に任せてくれよ。

それには君の力が（2／4）必要となるんだ。でも…今の君にはその力は残ってないようだね。

少し妨害するんだね。君の依頼は覚えておくから任せておいてくれよ。

たくさん妨害するんだね。君の依頼は覚えておくから任せておいてくれよ。

それには君の力が（2／4）必要となるんだ。でも…今の君にはその力は残ってないようだね。

やっぱりね。そうじゃないかなって思っていたんだ。

そうか、そうだよな！よかった、俺もなんだ。

君もそう思うんだね！俺が君の立場でもそう答えただろうな。…だってさ、

俺もそうじゃないかと思っていたんだよ。

そうだね。俺が君の立場でも同じ答えだったと思うよ。

君もそう思っていたのか…俺もだよ。気が合うな！

君もそう思うんだね！俺が君の立場でもそう答えただろうな。

なるほど…。それも間違いじゃないだろうけれど…。

なるほど…。君はそうなのか。でも、俺は少し違うんだ。

君はそう考えているのか。だけど、

育成について、君と俺とは違う考えを持っているようだね。

君は女王候補なんだからそんなことではダメだよ。

君と俺とでは少しばかり違うみたいだね。

君はそう考えているのか。うーん…。

●
…エリューシオンの民は本当に一生懸命だからね、幸せになってほしいんだ。がんばってくれよ。

…俺は実際に民と接触しないせいかな、エリューシオンの育成が楽しいとは思えないな。

■
…明るい日差しとさわやかな風を感じれば、俺は、充実した気分になるんだ。外に出て、いろんな所に行ってみることは楽しいことだと思うよ。

…だって、出かけるのってけっこう面倒だろう。その面倒なのが嫌いなんだ。それを思えば部屋でのんびりしている方がいいな。

◆
女王陛下の存在が世界を支えているんだ。それほど偉大な方なんだ。俺は心の底から尊敬しているよ。

…女王って、大変なだけでなにもいいことなさそうに見えるんだ。俺には絶対無理だな。

♥
やっぱり俺は手抜きする人間ってのは嫌いだな。一生懸命やっている姿は輝いているものさ。君もエリューシオンのみんなのためにもがんばってくれよ。

…まあ、無理してもいい結果は望めないから自然体で、やっていった方がいいだろうね。無理をしなくても、周りを見れば、やるべきことが見えてくるものさ。

♠
他人が何をしているかということは、結構重要な情報だと思うんだ。まあ、それを生かせるかどうかは君次第だけどね。

他の守護聖のみんなもそれぞれ自分で考えて行動しているんだ。それをいちいち気にしてもしようがないよな。

♣
…いろんな人と話してみるのはいいことだと思うよ。きっとなにか新しい発見があるはずさ。

…俺って話すのがあまり得意じゃないから、人と話すのは好きじゃないんだ。

でもさ、なんにしても今の話で、君のことを前よりも知ることができて、よかったよ。

①

②

人のうわさ

誰の話をすると言うんだい？

キャラクター選択

アンジェリークのことを話すのかい？君のことか、そうだねえ…

ロザリアことを話すのかい？ロザリアのことについてか…。そうだね…

××のことを話すのかい？××のことについてか…。そうだね…

キャンセル

やめるのかい？

キャンセル

何も用はないのかい？

はい

そうかい。ちょっと残念な気もするな

いいえ

わかった。じゃあ、君にもう一度聞くよ。

（再訪問）やあ、アンジェリーク。ハハ、また会ったな。

今日は、もう君から育成の依頼を受けているんだけど…前の依頼を取り消すのかい？

今日は、もう君から妨害の依頼を受けているんだけど…前の依頼を取り消すのかい？

はい

じゃあ、前の依頼のことは忘れるよ。

いいえ

じゃあ、前の依頼のままにしておくよ。

女王候補って大変なのに君は、よくがんばっているみたいだね。君を見ていると、俺もがんばろうという気分になるんだ。

俺は守護聖で、君は女王候補だけど…。お互い、がんばっていこうぜ。

今のところ、俺は君のことに興味はないんだ。今後のことはわからないけどね。

俺が今、君に話せることはこのくらいだね。参考になったかな。君の役に立ったのならうれしいんだけど。

ロザリアは、とてもいい子だと思うよ。けっこう俺とは気が合うな。

俺とは、特に親しいってことはないけれど、決して嫌いなわけではないよ。

誰とでも仲良くするべきだと思うんだけどロザリアとは仲良くなれないんだ。

俺が今、君に話せることはこのくらいだね。参考になったかな。君の役に立ったのならうれしいんだけど。

俺は心から信頼しているし困ったことがあった時にも頼りになるだろうね。

俺とは、特に親しいってことはないけれど、決して嫌いなわけではないよ。

誰とでも仲良くするべきだと思うんだけど××とは仲良くなれないんだ。

どうも君のことを結構気に入っているようだぞ。

守護聖という立場を忘れることなく、君の相手をしているようだね。

君のことは、どうも、よく思っていないみたいだよ。

性格的にはね、女王陛下のことをすごく尊敬してるのが特徴だね。君も試験をがんばれば仲良くなれるんじゃないかな。

性格的にはね、人と話すことがとても好きなタイプのようだよ。

…そういえば他の守護聖の行動を気にするようなタイプじゃないよ。

…そういえば、他の人の行動をとても気にするタイプみたいだよ。

…そういえば、外を出歩くよりも、じっとしている方が好きなタイプみたいだね。

…そういえばエリューシオンのことは全くと言っていいほど関心がないみたいだよ。

…そういえば、君の育成している大陸、エリューシオンのことを気に入ってるようだよ。

…そういえば、女王になろうとする感覚がわからない、なんて言っていたようだよ。

…そうだな、付け加えるとすれば、執務室でじっとしていることは嫌いなタイプということかな。

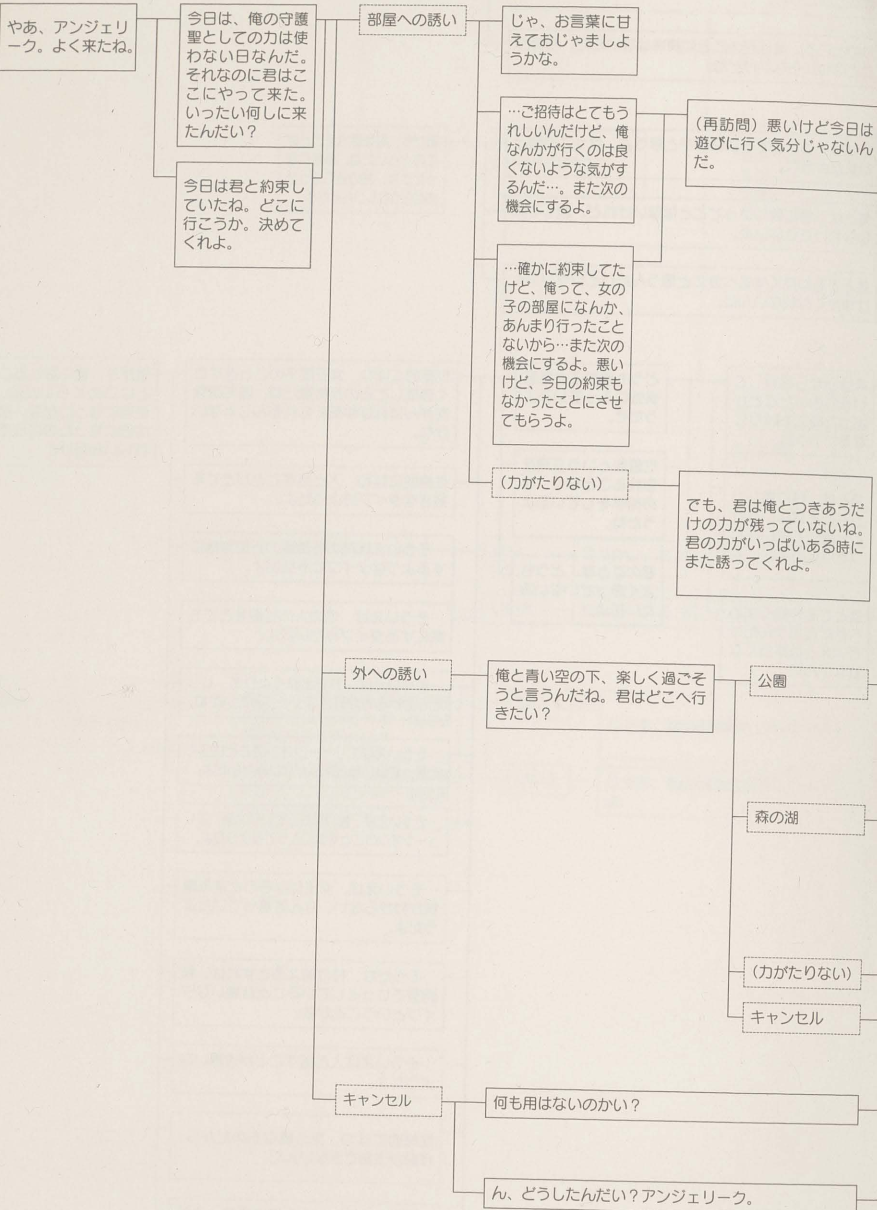
…そういえば人と話すことが大嫌いなようだよ。

性格的にはね、気分屋なものだから、行動が予測できないんだ。

…そういえば、いつも理由を持って行動しているみたいだよ。

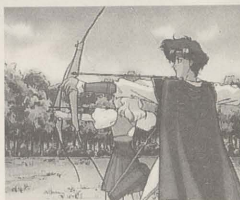
俺が今、君に話せることはこのくらいだね。参考になったかな。君の役に立ったのならうれしいんだけど。

日の曜日


やあ、アンジェリーク。よく来たね。
今日は、俺の守護聖としての力は使わない日なんだ。それなのに君はここにやって来た。いったい何しに来たんだい？
今日は君と約束していたね。どこに行こうか。決めてくれよ。
部屋への誘い
じゃ、お言葉に甘えておじゃましようかな。
…ご招待はとてもうれしいんだけど、俺なんかが行くのは良くないような気がするんだ…。また次の機会にするよ。
(再訪問) 悪いけど今日は遊びに行く気分じゃないんだ。
…確かに約束してたけど、俺って、女の子の部屋になんか、あんまり行ったことないから…また次の機会にするよ。悪いけど、今日の約束もなかったことにさせてもらうよ。
(力がたりない)
でも、君は俺とつきあうだけの力が残っていないね。君の力がいっぱいある時にまた誘ってくれよ。
外への誘い
俺と青い空の下、楽しく過ごそうと言うんだね。君はどこへ行きたい？
公園
森の湖
(力がたりない)
キャンセル
キャンセル
何も用はないのかい？
ん、どうしたんだい？アンジェリーク。

趣味イベント 『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

俺、今からアーチェリーの練習に行くところだったんだ。君も一緒にくるかい？
☞はい
そうか！　じゃ、行こう！
（イベント→私の部屋）
はは、アンジェリーク、今日は楽しかったな。でも、君にいいとこが見せられてよかったよ。久しぶりだったんで実はあんまり自信がなかったんだ。それじゃ俺はこれで帰るよ。じゃあな！
☞いいえ
そうか…。まあいいや。じゃ、俺、練習に行くからまたな！！


アーチェリーなんてめったにできない体験！ むずかしかったけど、ランディ様といっしょなら…。


フリスビーって思ってたより大変！ ランディ様をお誘いする前に、もっと体力をつけとかなくっちゃ！

今日は、外で思いっきり運動したいな。そうだ、一緒にフリスビーでもやってみないか？
☞はい
そう来なくっちゃ！！じゃ、行くよ！！
（イベント→私の部屋）
疲れなかったかい？フリスビーって、けっこういい運動になるもんな。じゃあ、もう時間も遅いし俺は帰るよ。おやすみ、アンジェリーク。
☞いいえ
そうか…。仕方ない。また次の機会にって事にしておこうか。

- よーし、わかった。さあ、行こう。
- 誘ってくれてありがとう。でも今日は公園に行こうという気分じゃないんだ。すまないな。
- 公園か。今は、そんな気分じゃないんだ。すまないな。
  - （再訪問）悪いけど今日は遊びに行く気分じゃないんだ。

- よーし、わかった。さあ、行こう。
- 湖まで行くのは気が進まないんだ。せっかく誘ってくれたのにすまない。
- 湖まで行くのは気が進まないんだ。だから俺は、湖には行かないよ。君には悪いけど、今日の約束はなかったことにするよ。
  - （再訪問）悪いけど今日は遊びに行く気分じゃないんだ。

- でも、君は俺と遊びに行くだけの力が残っていないね。残念だけど、もう今日は帰って寝た方がいいよ。

- おっと、外へ行くのはやめるのかい？
  - はい → それじゃあ、君の部屋に呼んでくれるのかい？
  - いいえ → ハハハ、やっぱり外に行きたいんだろ。そう思ってたよ。

- はい → そうかい。ちょっと残念な気もするな
- いいえ → わかった。じゃあ、君にもう一度聞くよ。

- どこにしよう → 君に任せるよ。
- 帰ります… → 帰るのかい。残念だな。また来てくれよ。

他の守護聖の執務室
…というわけらしいんだ。おや、アンジェリークか。…じゃあ、俺は帰るよ。じゃあな、アンジェリーク 。

Randy 公園



ここに来ると楽しそうですね❤

散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

やあ、偶然だな。アンジェリーク。

◆2度目以降◆

やあ、アンジェリーク。ハハ、また会ったな。

☞お願いする

わかったよ。君と一緒に過ごせるなんてうれしいよ。楽しみにしておくよ。

☞やめとく

こんにちは！元気よく、あいさつしてくれて気持ちいいよ。どうもありがとうな。

◆他に約束あり、力がたりない◆

おいおい、俺の前で緊張することはないよ。じゃ、また機会があったら会おうな。

◆平日：約束あり◆

アンジェリーク、日の曜日の約束、楽しみにしてるよ。忘れないでくれよな。

◆平日：約束なし◆

たまにこんな所に来るのも気分転換になっていいな。君もそうだろ。やっぱり公園は落ち着くなぁ。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

ロザリアと約束してたから待ってるんだけど…遅いなあ、ロザリア。

◆2度目以降◆

アンジェリークか…。ロザリアは、まだ来ないのか…

◆日の曜日：ロザリアとデート中・約束なし◆

いろいろ大変だろうけれどがんばってくれよな。俺にできることなら力を貸すからさ。

デート中

待っていたよ。君との約束は、本当に楽しみにしていたんだ。

公園入り口（デートスタート）

さあ、一緒に歩こうぜ！

◆噴水右まで移動◆

君とこうして公園に来ることができて俺はうれしいんだ。そうだな、まずはあっちのベンチの方に行ってみようぜ。

ベンチの前

…聞いてるこっちの方が照れちゃうな。いつもあんなこと話してるんだろうな。アンジェリークは、二人がうらやましいかい？

☞はい

A. やっぱりそうなのか…。俺は、女の子と話すのは得意な方じゃないけど…今日は、君と楽しく過ごしたいなって思ってるんだぜ！

B. やっぱりそうなのか…。俺は、女の子と話すのは苦手なんだ…これは出直して来た方がいいだろうな。今日はもう帰ろう。

☞いいえ

A. やっぱりそうなのか…。口下手な俺としてはそう言ってくれた方がありがたいよ。君って優しいんだな。

B. やっぱりそうなのか…。俺は、あの二人のように君といろんなことを話そうと思っていたけど…仕方がないね。今日はもう帰るよ。

神鳥の像（右）

今度はあそこに見える神鳥の像のところに行ってみよう。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ」

そのとおり、俺はいつも決まっている男さ。

君は今、俺と公園で過ごしているよね。でも考えてみれば君は女王候補の一人なんだ。俺以外の守護聖からもいろいろと話を聞かなくちゃいけないと思うんだ。そこで聞くけど、君はどちらの話を聞きたい？

☞（正解）

うんうん。その通りだよ。君は人を見る目があるよ。話を聞いて、まあ、損はしないと思うよ。

☞（不正解）

がっかりだな。君には人を見る目がないんだね。残念だけど君とはとても話が合わないみたいだ。もう帰るよ。

ときめきの丘

それじゃあ、女王候補である君に質問するけれど、

A. エリューシオンの人口は○○人より多いのかい？

☞（正解）

へえ…、やっぱり自分の育てている地のことは、ちゃんと知っているんだね。俺もこれからはもっとエリューシオンのことを考えるようにするよ。

☞（不正解）

君の育てている大陸のことなんだよ。こんなことを間違っちゃダメだな。君でもそうなんだ。俺がエリューシオンのことを気にする必要はないね。今日はもう帰るよ。

B. フェリシアの人口は○○○人より多いのかい？

☞（正解）
ロザリアの育成している大陸のことも、ちゃんと知っているんだ。さすが女王候補、偉いもんだな！！俺も見習わなきゃな。
☞（不正解）
知らないのかい。君たちは競い合っているんだ。相手のことをチェックするべきだよ。

C. ロザリアと仲のいい守護聖はどっちかな？
☞（正解）
さすが女王候補。よく知っているね。俺も他の守護聖のことを知らなくちゃいけないね
☞（不正解）
知らないのかい。…別にそれでもいいな。他の守護聖と仲良くすることもないからな。

D. 君が育成しているエリューシオンの建物数はフェリシアの建物数より多いのかい？
☞（正解）
やっぱり知っていたね。今試験を受けてるんだから簡単すぎた質問だったかもしれないね。俺さ、その答えを聞いてやっぱり女王候補は女王をめざした方がいいと思ったよ。
☞（不正解）
君は女王候補なのにそんなことさえも知らないのか！！俺は女王候補なら、せめてそのくらいは知っていると思っていたよ。がっかりだな。もう今日は帰ろう。

♣女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ」
あんなこと言ってるぜ、いやあ、照れてしまうな。
これはね、女王陛下の像なんだよ。陛下はいつも世界全体のことを考えていらっしゃるんだ。君は、そんな女王の候補として選ばれて試験を受けているんだよね。そこで質問だけどやっぱり女王候補って大変なのかい？
☞はい
A. そうかもしれないね。守護聖だって、まあ結構大変なものなんだからね。だからといって、へこたれないでくれよな。そうなったら自分自身が一番さみしいものだよ。
B. 君は女王候補が大変だと感じているんだね。じゃあ少しは休んだ方がいいと思うな。今日はこれで帰るからゆっくり休んでくれよ。
☞いいえ
A. さすがに女王候補だね。俺なら大変だと思うようなことでも、平気なんだね。感心するよ。
B. 本気で言っているのかい。守護聖でさえ、結構大変なものなんだよ。君は女王候補の重要性がわかっていないんだよ。今日はもうこれで帰るから、ゆっくりと考えてみなよ。

♣神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますからがんばってくださいね」
ハハハハハ。あんなことを言われたらがんばるしかないね。ところでアンジェリークちょっと歩き疲れたんじゃないのかい？
☞はい
A. やっぱり疲れてたんだね。近くに休憩できる場所があるから、もう少しだけつきあってくれよ。
B. 君もかい。俺もちょっと疲れたなって思ってたんだ。うーん、じゃあ、もう今日は帰ろうか。
☞いいえ
A. そうなのかい。確かに君は元気いっぱいのようだね。じゃあ、もう少し歩こうか。
B. 情けないんだけど俺、もう疲れちゃったんだ。君と一緒だったから緊張したのかな。悪いけれど今日はこれで帰ろうよ。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート中◆
あれ？ どうやら先客がいるようだよ。おじゃましてはいけないだろうな。行こうぜ、アンジェリーク。

♣たたずみドーム

…少し話をするから聞いてくれよ。
A. 女王陛下の話をしようか。女王陛下は主星にいらして世界を統治していらっしゃるんだよ。そのために君は定期審査のときぐらいしか女王陛下に、お会いすることが、できないよね。でも陛下は君たちのことを期待していらっしゃるよ。それにこたえるよう、がんばってくれよ。
B. この飛空都市は新しい世界を、より良く発展させるための援助や管理を行う施設なんだ。女王陛下のいらっしゃる



君は女王候補なのにそんなことさえも知らないのか！！俺は女王候補なら、せめてそのくらいは知っていると思っていたよ。

主星とは、次元回廊でつながっているよ。ただ次元回廊を自由に行き来できるのは、俺たち守護聖とディア様だけなんだ。

C. 今の女王陛下が選出された頃は、まだ俺は守護聖ではなかったんだ。その頃からずっと守護聖なのは、ジュリアス様とクラヴィス様、ルヴァ様の3人だけなんだ。俺にとっては君たちが最初の女王候補なんだ。ひょっとしたら最後になるのかもしれない。だから俺としては君たちには本当にがんばってほしいんだよ。

D. 王立研究院のパスハと占いの館のサラは俺たちとは違う種族なんだ。なんでもあの二人は愛を貫くために遠い星からやってきたそうなんだ。愛を貫くためにはやっぱりそれなりの努力が必要なものなんだね。

E. 俺たち守護聖の力は永遠のものではないんだ。いつかは力が弱まるときがやってくるんだよ。こればっかりは気力とか根性とかで、なんとかなるものではないんだ。そんな時は同じような力を持った人に守護聖の地位を譲るんだよ。

◆お話終わり◆

…そろそろ行こうか?

☞はい

→移動

☞いいえ

じゃあ、もう一度話すよ。

入り口

すまないけど、もう少しだけつきあってくれよ。

ドキドキの木陰

木陰ってすずしいよな。でも俺は今、暑いなって思ってるんだぜ。君のようにかわいい人と二人きりだからだろうな。

☞そんな…

そうやって君が照れると俺の胸はまたまたドキドキしてしまうよ。君はホントにかわいいよ…そろそろ行こうか、アンジェリーク。

お花畑

こうして見てみると、花に囲まれている君ってとてもかわいいよ。

☞そんな…

照れた君のその頬の色もどんな花の紅色よりもきれいだよ。君を囲んだ花は、君の引き立て役でしかないよ。本当さ、信用しなって。…じゃあ、行こうか。どんな花よりもかわいいアンジェリーク。

噴水の前

アンジェリーク、俺はな、この噴水を見ているとなんか心が落ち着くんだ。この澄みきった水はまるで君の美しい瞳、そして純粋な君の心のように感じられるよ。

☞そんな…

ハハ、君の心が純なことは俺なんかよりもエリューシオンの民の方が知っていることだろうな民のためにも育成をしっかりな。…じゃあ行こうか、清水のように純な心のアンジェリーク。

入り口

A. それじゃあ、帰ろうか。部屋まで送るよ。

B. それじゃあ帰ろうか。俺、君ともう少しだけ話したいんだ。だから部屋まで送ってくよ。

C. じゃあ、そろそろ帰ろうか。俺、もう少しだけ君と一緒にいたいんだ。だから、部屋まで送らせてもらうよ。

私の部屋へ

A. 今日は本当に楽しかったよ。最高といってもいいような時間だったな。はじめは守護聖として君にいろいろ聞いてたんだけどそのうちに守護聖という立場を忘れたほどさ。また一緒に行きたいな。じゃあ、またな。

B. 今日は楽しかったよ。これは君と一緒だったからに違いないな。また公園に一緒に散歩に行きたいものだよ。じゃあな。

C. こんなこともあるさ。また一緒に公園を歩くのを楽しみにしているよ。じゃあな。

デートトラブル!

ひっどーい!これって二股!?

◆平日:ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. 落ち着いてくれよ、アンジェリーク。俺は確かにロザリアと約束していたよ。でも、今はもう気が変わったんだ。ロザリア、悪いけれど約束はなかったことにするよ。またそのうちにな。

B. …えーと、その…、なんだ…まあ人生いろいろあるからな………もういいや、今日は、もう帰るぞ。

次の日の曜日に約束してる守護聖様がいる!

◆平日:他の守護聖様に約束をほのめかされて◆

アンジェリーク、いったい今のは本当なのかい?

☞正直に言う

A. やっぱり俺だけでなく、他の守護聖からも話は聞いた方がいいな。いろいろ参考になる話が聞けるだろうからね。

B. そうなのか…。俺、そういうのはちょっと気に入らないな。悪いけど、今日はもう帰るよ。

☞やめとく

A. まあ、そんなことはどっちでもいいことだね。少なくとも、君は今日は俺とこうして楽しく過ごしているんだからさ。

B. すっきりしない答えだね。なんかしらけたな。もう帰



ろう。

まさか！ランディ様が…

◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

すまない。すっかり忘れてしまっていたんだ。

☞もう帰る！！

A. 俺が悪かったよ。帰るなんて言わないでもう少しつきあってくれよ。

B. 君がそう言うのなら仕方ないね。帰ることにしよう。

☞そこまでは…

A. ロザリアには悪いことをしてしまったな。でも君の方が残ってくれて俺はうれしいよ。

B. アンジェリーク、ごめん。今日はこれで帰るよ。

きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中◆

おい、今日は俺との約束があっただろう。…そういうことか、わかった。

☞あやまる

A. 誰にでも、失敗はあるからな。仕方ないな。でも今度は約束を守ってくれよ。

B. 君を見損なったよ。約束を守らないなんてな。最低だよ。

☞ごまかす

A. あれ…？俺の勘違いだったかな？…、じゃ、俺は帰るよ。

B. 君を見損なったよ。約束を守らないなんてな。最低だよ。

あっ！今日は○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：ランディ様とデート中◆

アンジェリーク、いったい今のは本当なのかい？

☞あやまる

A. よく正直に言ったね。素直にあやまることは簡単なようで難しいことだからね。それをちゃんとやれる君はえらいと思うよ。

B. そういうことか。俺はごまかそうとする君の心の方が悲しいよ。…アンジェリーク、もう今日は帰ろう。

☞ごまかす

A. なんだったんだ。まあ、いいか。こういうこともあるだろうからな。

B. そういうことか。俺はごまかそうとする君の心の方が悲しいよ。…アンジェリーク、もう今日は帰ろう。

ひっどーい！約束してたのにー

約束を破ってしまって悪かった、許してくれ。反省してるよ。

他の守護聖様とデート中

たたずみドームの前

◆通常◆

あれ、どうして二人が一緒にいるのかな？あ、そうか、ごめん、おじゃまみたいだね。

☞そんな

照れることはないよ。実際、二人はお似合いなんだからさ。

☞うふふ

今度は、俺とここに来てくれないかな。

◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

ロザリアか…？と思ったけれど違ったな。ロザリアと約束してたんで待ってるんだ。でもまだみたいだな…もうちょっと待つか…。

たたずみドーム内

◆日の曜日◆

ロザリアか…？と思ったけれど違ったな。ロザリアと約束してたんで待ってるんだ。でもまだみたいだな…もうちょっと待つか…。

Rundy

王立研究院

「やめます」でもやっぱりさわやか♥

やあ、偶然だな。アンジェリーク。俺に、なにか用があるのかい？

（２度目以降）やあ、アンジェリーク。ハハ、また会ったな。

- お願いが → 俺は、ここで「勇気」をもたらす風の力がエリューシオンでどれだけ必要なのか教えてやれるんだけど…
  - お願いします →
  - やめます → やめるのかい。それもいいさ。また何かの機会にな。
  - （力がたりない） → それには君の力が１必要となるんだ。でも…今の君にはその力は残ってないようだね。
- こんにちは → こんにちは。やっぱりあいさつはよりよい人間関係の基本だよな。

Rundy

占いの館

気軽にお願いできそうね

やあ、偶然だな。アンジェリーク。俺に、なにか用があるのかい？

- お願いが → 俺に何を頼みたいんだい？
  - 仲良くしたい → 君は誰と仲良くしたいのかな？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くしたいのかい？ →
    - 守護聖本人 → 俺ともっと仲良くなりたいのかい？ →
  - 仲良くして → 君は俺に、誰と仲良くしろと言うんだ？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くすればいいのかい？ →
    - キャンセル → お願いをやめるのかい？ →
  - （力がたりない） → それには君の力が１必要となるんだ。でも…今の君にはその力は残ってないようだね。
- こんにちは → こんにちは。やっぱりあいさつはよりよい人間関係の基本だよな。

（２度目以降）やあ、アンジェリーク。ハハ、また会ったな。俺に、なにか用があるのかい？

- お願いが → 今日は君のお願いをもう聞いたんだけど…？
  - それでも！！ → よし、じゃあ、あらためてお願いを聞くよ。
  - やめます… → やめるのかい。それもいいさ。また何かの機会にな。

エリューシオンでは人々に「勇気」を運ぶ風の力を、〇〇必要としているよ。

俺の力は、あと〇〇くらいは、必要みたいだね。

俺の力は今までに合計〇〇贈ったよ。これはエリューシオンで〇番目のものだな。

うーん、勇気は、わりと求められているようだね。俺の力も少しは贈っておいた方がいいな。そのうち、俺のところに来るといい。力を贈ってあげるよ。

…エリューシオンでは人々に「勇気」を運ぶ風の力が、多くの人に求められているよ。エリューシオンの発展のためにも、今度は俺のところに来たらいいよ。

さしあたって、俺の力は必要とされていないみたいだね。エリューシオンの育成を効果的にするのには他の力を贈った方がいいと思うな。

今度は望みの予測を見るといいよ。

参考になったかな。君の役に立ったのならうれしいんだけど。

ええ！ — 君のお願い、忘れずに覚えておくよ。俺に任しときな。

いいえ！ — 君は誰と仲良くしたいのかな？

キャンセル — お願いをやめるのかい？
- はい — やめるのかい。それもいいさ。また何かの機会にな。
- いいえ — 君は誰と仲良くしたいのかな？

ええ！ — 君のお願い、忘れずに覚えておくよ。俺に任しときな。

いいえ！ — 君は誰と仲良くしたいのかな？

キャンセル — お願いをやめるのかい？
- はい — やめるのかい。それもいいさ。また何かの機会にな。
- いいえ — 君は誰と仲良くしたいのかな？

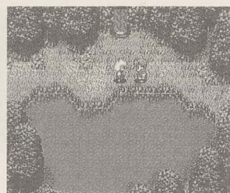
ええ！ — 君のお願い、忘れずに覚えておくよ。

いいえ！ — 君は俺に、誰と仲良くしろと言うんだ？

ええ！ — やめるのかい。それもいいさ。また何かの機会にな。

いいえ！ — 君は俺に、誰と仲良くしろと言うんだ？

Randy 恋愛イベント



私もあなたのこと！…気になってます

第１段階

◆森の湖◆

「アンジェリーク、君はいつも元気だね。君を見ていると、本当に若さを感じるよ。ん、おじさんみたいな言い方だって!?　俺だって若いんだぞ！　９人の守護聖の中で『若さあふれる』っていえば、このランディを指すくらいなんだぜ。どうだい、俺だって君に負けないくらい元気だろ？」
☞「そうかも」
「そうだろ？　何たって俺は『勇気を運ぶ風の守護聖』なんだからな！　だから、たまに心が沈んでしまうようなことがあっても、なるべくいつも元気に振る舞おうと思ってるんだ。心が沈んでいる時に、身体まで元気なく動かしてると俺から元気の素がなくなってしまいそうで…君も、いつも元気に振る舞ってるね。それはいつまでも忘れないでほしいな。自分では気づいてないかも知れないけど、君の明るい笑顔は、周りの人をも元気にさせてくれるんだよ」

☞「そんなぁ！」
「そりゃないだろ。アンジェリーク。でも俺はね」（以下「たまに心が…に続く）

◆私の部屋◆

「今日はありがとうございました」
「へぇ…アンジェリーク、君ってよく見ると、明るくて元気なだけじゃなくてすごく可愛いんだね。他の人にも言われてるんじゃないか。今まで気づかなくて悪かったよ。俺はどうだい？カッコよくりりしい男に見えるかい？」
☞「…はいっ！」
「ありがとう。そう言ってもらえると君が一段と可愛く見えるよ」
「ランディ様に「かわいい」って言われちゃった！」

☞「いいえ…」
「ちぇっ、残念だな。せっかくほめたんだぜ。ほめてくれてもいいじゃないか」
「ランディ様、怒っちゃったみたい…」



第２段階

◆森の湖◆

「今日もいい天気でよかったな。森の湖はいつも静かで風も気持ちいいし。いや、それよりも俺は君と一緒にいられるほうがもっとうれしいんだけどね。ホントだぜ！　君はどうだい、俺と一緒にいて楽しい…？」
☞「…はい！」
「そうかあ。そう言われるとますますうれしくなってくるよ」

☞「いいえ…」
「うーん。まだまだ努力が足りないのかな？」

◆私の部屋◆

「送っていただいてありがとうございました。とっても楽しかったです」
「…アンジェリーク、正直言って、今の俺にとって、君は、とても気になる存在なんだ。こうして会っている時には言葉に詰まり、別れたあとはあれも言えばよかった、これも話せばよかったって思ってしまう。この気持ちを俺は大事にしたい。大事に育ててみたいんだ。育ててみてもいいかい？」
☞「…はいっ！」
「本当か!!　ありがとう!!　どうもこんな気持ち、初めてなんで、自分でもよくわからないけど。でも今の君の言葉を聞いた瞬間、何かこう、世の中が急に明るくなったみたいに感じたよ」
「ランディ様の言ってたことって…ひょっとして私を好きってことなのかしら!?」

☞「いいえ…」
「そうか。すまなかったな。何も聞かなかったことにしておいてくれ」
「ごめんなさい、ランディ様」

告白

◆森の湖◆

「ランディ様、私、あなたのことが好きなんです」
「アンジェリーク。その気持ちはとってもうれしいよ。俺だって…でも君は女王になれなくなるんだぞ、いいのか!?」
☞…はいっ！」
「俺なんかにそこまで…。アンジェリーク、実は俺も…君のことが好きなんだ！　君のためなら、今、俺はどんなことでもできそうな気がするよ。そうさ、アンジェリーク俺は俺の全てをかけて君を守る。君は…、俺のこの言葉を信じていてくれればいい。君は俺の…天使だ。アンジェリーク…」

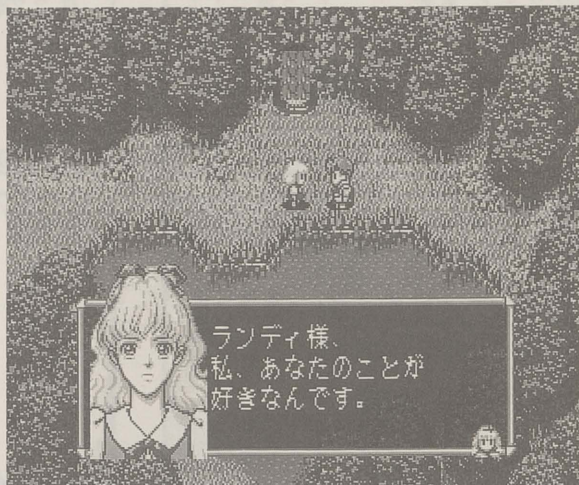
☞「いいえ…」
「それなら、今日は何も聞かなかったことにするよ。正直言ってちょっと残念だけどね」

◆失敗◆

「ごめんよ、アンジェリーク　君の気持ちはうれしいんだけど、俺にとって君は妹のようなものなんだ」

◆私の部屋◆

アンジェリーク、君のことは妹のように大切に思っている。俺にできることなら何でも力を貸すよ。ただ、兄貴には妹の幸せを願うことはできても、妹を幸せにすることはできない…じゃあ、な。



力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

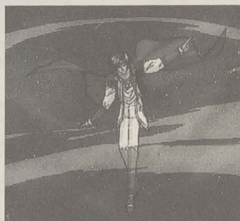
じゃあ、女王候補たちの望んだように俺たちの力を贈るよ。

アンジェリークの願いをのせて、風の力よ！「勇気」を運べ、エリューシオンへ！！
アンジェリークの願いのとおり、「勇気」をフェリシアから運び去れ！！
風の力よ。「勇気」の力をエリューシオンに運び、アンジェリークのもとに俺の思いを届けろ！！
フェリシアにある風の力の「勇気」をふきとばしてしまえ！
風の力よ、エリューシオンの人々に「勇気」を運ぶんだ！！

フェリシアから人々に「勇気」を運ぶ、風の力を減らしてしまうぞ。

少しの「勇気」だけど大陸のみんなのもとへ！
たくさんの「勇気」をみんなのもとへ！
風と共に、「勇気」よ、少しだけ俺のところへ！
風と共に、たくさんの「勇気」を俺のところへ！





杉山志保子

青春のバカ野郎





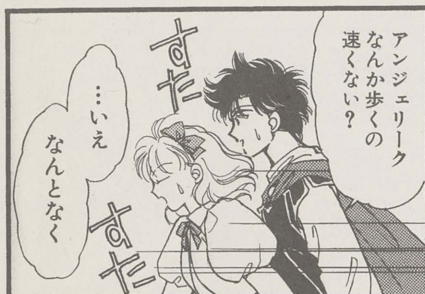




嵐のデート



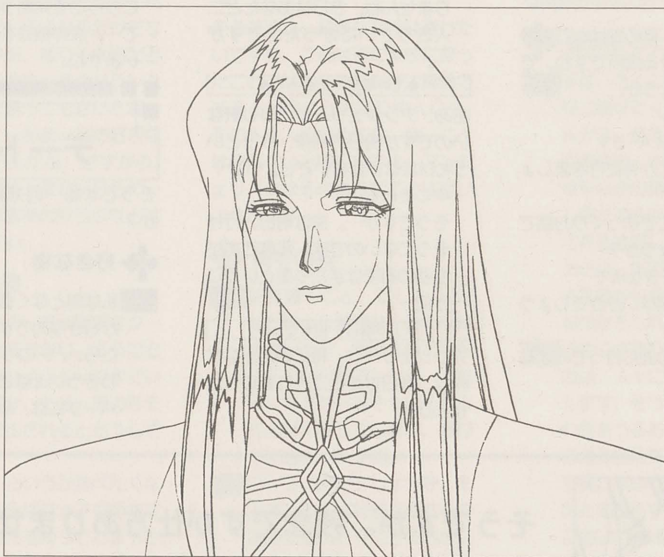






メッセージ♥テスト〈ランデブ〉の答え　1C　2B　3B　4C　5C　6B　7B　8A　9C　10C-B-D-A

ACT.4 リュミエール編



Lumiele 私の部屋

ゆっくり時が流れていくようです



デートのお誘い

よろこんで！（共通）

◆通常◆

よかった。そう言っていただけると、私もとてもうれしいですよ。では、今日はどのように過ごしましょうか？

☞外へ行きたい

そうですね…。どこに行きましょうか？

☞公園

そうですね。公園は楽しそうですよね。

☞森の湖

そうですね。森の湖はとても静かで落ち着ける場所ですね。では行きましょうか。

☞キャンセル

a.どっちでもいいです

A. では、どこか外に行きましょうか？

B. では、ここでゆっくりお話でもしましょうか？

b.あなたの好きな所で

A. では、公園はいかがでしょうか？

B. では、森の湖に行ってみましょうか？

ごめんなさい…

◆平日：約束あり◆

ああ、アンジェリーク。約束は日の曜日でしたけどどうしても今日、あなたと一緒に過ごしたくて…。

☞ことわる

そうですね、あなたもお忙しいのですから…。日の曜日を心待ちにしていますね。

◆平日：約束なし◆

アンジェリーク。よろしければ今日は一緒にゆっくり話をしながら散歩でもしませんか？

☞ごめんなさい

そうですか。残念ですが仕方ありませんね。今日はあなたと二人きりでいたかったのですが…。

◆土の曜日：約束あり◆

ああ、アンジェリーク。申し訳ないのですが明日の約束、今日というわけにはいかないでしょうか？

☞ことわる

そうですか…。実は明日、行けそうにないのです。残念ですが、今回の約束はまた今度ということに…

◆土の曜日：約束なし◆

アンジェリーク、特に予定がなければ、今日は私と二人で過ごしませんか？

☞ことわる

そうでしたね、こちらこそ申し訳ありませんでした。では、エリューシオンの人々によろしく。

◆日の曜日：約束あり◆

アンジェリーク、今日は二人で過ごそうということでしたね。迎えに来ましたよ。

☞ごめんなさい

そうですか…。それでは仕方ありませんね。

◆日の曜日：約束なし◆

アンジェリーク、約束はしていませんでしたが、よろしければ、今日は私と共に過ごしませんか？

☞ごめんなさい

こちらこそ突然うかがったりして…。次の機会を楽しみにしていますね。

デート中

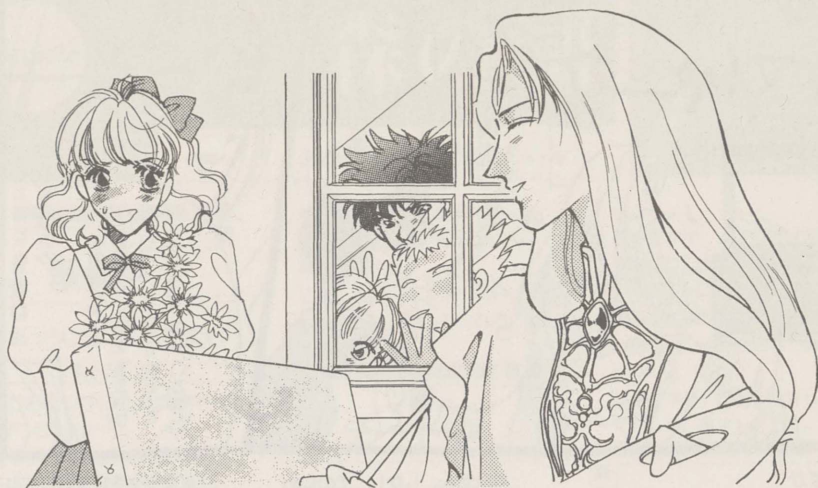
そうですね…何を話しましょうか？

好きな物

A. 私は何となく香りの良いものが好きなのです。飲み物でしたら、ハーブティーなどですねそういえばご存じですか？ハーブには、心を落ち着けた



そうですか。残念ですが仕方ありませんね。今日はあなたと二人きりでいたかったのですが…。



り、元気にしたりする効果もあるのですよ。私のおすすめはカモミールティーですね。心地よい眠りに誘ってくれるそうですよ。

B. 好きな物…食べ物ですか？私は美味というのは味だけでなく、色や形、香りも大切だと思っています。そのバランスは芸術と言っても良いと思いますね。…ああ、私の好きな物の話でしたね。ですから、香りがよく、きれいなもの…たとえば香草のサラダなどは好きですね。

嫌いな物

A. 嫌いなもの…食べ物ではターキーは苦手ですね。そうだとわからないようならばまだいいのですが、その、鳥の形そのもので出されるとどうしても…。

B. 嫌いな…というか食べたくないものならばフォアグラですね。作り方を知ってしまうと、そんな自然に反したものは食べたくないと思ってしまうのですよ。

理想の女性像

そうですね…、思いやりのある人ですね。どんなに外見が美しくても思いやりを持たない人は本当に美しいとは言えないと思います。

苦手な女性像

そうですね…高慢な女性は避けたいですね。これは別に女性に限ったことではありませんが。高慢であるということは周りの人にも、その人本人のためにも、良いことは何もないと思いますよ。アンジェリークはそのようなことはないようですね。

趣味の話

A. 絵を描くこと、でしょうか。私が育った星では、みんな絵を描いたり、音楽を奏でたりするのが日常でしたが、こちらに来てからはそういうことも少なくなってしまい、さびしい気もしますね。

B. ハープの演奏でしょうか。もともと音楽は好きなので私の演奏で喜んでくださる方がいらっしゃると思うとますますうれしいですね。

故郷のこと

星の大半が海におおわれた惑星です。温暖でとても住みやすい所でしたよ。人々は皆、芸術を愛し、思いやりの心を何よりも大切にしていました。私が水の守護聖となったのも、生まれ育った環境と少しは関係があるのかもしれませんね。

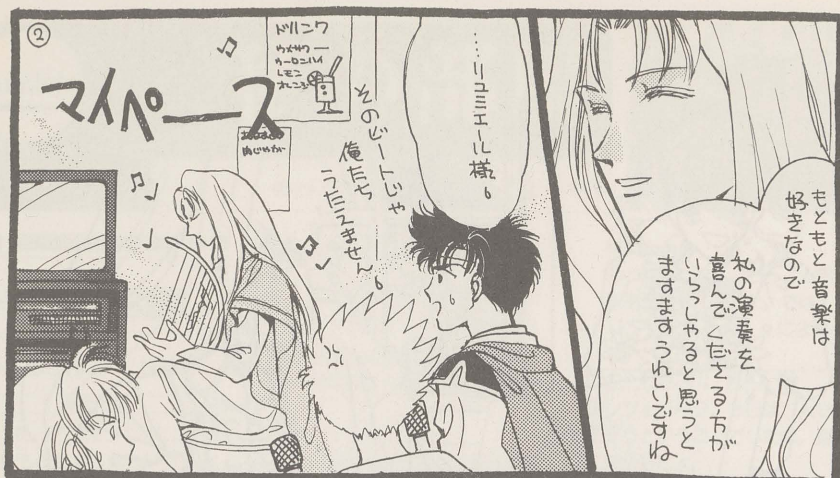
身近なこと

A. 水は、そこにあるだけで心をなごませてくれると思いませんか？…例えば、公園の噴水や森の湖。水面のきらめきやせせらぎの音は、水の持つ優しさと清らかさを実感させてくれる気がします。守護聖の力とは、本当はそんな小さなところから起こってくるものなのかもしれませんね。

B. ご存じの通り、私の司る水の力は、人々に優しさをもたらします。そう、水がのどのかわきをうるおすように、人の心のかわきをいやし、優しさで満たすのですよ。守護聖の力ともたらすものには、みなこのような意味があるのです。考えてみると面白いと思いますよ。

物の考え方

どのようなことについて聞きたい



のですか？

▶星への関心

A. エリューシオンのことは私も大変興味を持っています。私の力を贈ることが、かの地の人々の幸福に結びつくなら、これにまさる喜びはありませんね。

B. そうですね、積極的に関わっていきたいというほどではありませんが、関心はありますよ。

C. エリューシオンですか…。それについては、私に言えることは何もありませんね。

▶女王候補の事

A. あなたがた二人のことは心から応援していますよ。どちらに決定するとしてもすばらしい女王となられることを信じています。がんばってくださいね。

B. 女王候補は選ばれた存在。私は何も言う必要はないと思いますが、あえて言うならば…女王をめざすならば相当の努力が必要でしょうね。あなたの未来はあなたが決めるのですから…。

C. 女王をめざすというのは確かに最も優先されることかもしれません。しかし、そのために自分の一番大切な何かを忘れてしまわないようにしていただきたいのです…。

▶仕事は好きか

A. ええ。私が守護聖としての力を使うことで人々の心が満たされるならば、それは私の幸せでもあります。

B. 水の守護聖として選ばれた以上、私は私のできることを誠意をつくして行うだけです。好き、嫌いと言えるようなことではないと思っていますから。

C. 守護聖として選ばれたからにはその職務を果たすのは義務であると思ってはいますが…どうしても気が進まないことも多いですね。

▶仲間への関心

A. ええ、皆良い方ばかりだと思っています。信頼し、理解し合える関係であると思いますよ。

B. いろいろな方がいらっしゃいますからね。守護聖同士、無関心ではいられませんから、なるべく普通に接したいと思っていますよ。

C. 実は私は、他の守護聖の方々にはやや失望を感じているのです。なぜ皆、他人に対して思いやりの気持ちを持って接することができないのかと…。

▶外は好きか

A. ええ、好きですよ。自然の大気は、気持ちをなごやかにしてくれますからね。

B. そうですね、たまには外に出て、ゆっくり散歩などするのも良いと思いますよ。いい気分転換にもなりますしね。

C. どちらかと言えば、屋内で過ごす方が好きですね。

▶話は好きか

A. ええ、好きですよ。親しい人との会話は、それだけで心を豊かにしてくれますからね。

B. 嫌いではありませんよ。ただ、その相手にもよるでしょうね。

C. 私はあまり…。言葉というものが人の心をすべて伝えてくれるならばよいのですが…そうはいきませんからね。

…私の話はこれくらいになりますが…よろしいですね？それではアンジェリーク。私はそろそろ失礼いたしますね。

Lumiele

森の湖



あなたと二人で水辺にいると…

散歩中

あっリュミエール様だわ

◆通常◆

ここでお会いするとは偶然ですね、アンジェリーク。

A. ここはどこよりも自然の優しさを感じさせてくれますね。

B. こんな美しい自然の中にいると、本当に心がなごみますね。

約束しちゃおっかな

☞お願いする
日の曜日、あなたに他の予定はありませんか？

☞はい
わかりました。では日の曜日を楽しみにしておきますね。

☞いいえ
そうですか…。今度はゆっくりとお話してみたいものですね。

☞やめとく
こんにちは。元気にあいさつされるとうれしくなりますよ。

◆平日：約束あり◆

日の曜日のこと、楽しみにしています。忘れないでくださいね。

祈りの滝

滝にお祈りしてみようかな？

☞そうしよっと
ここでお会いするとは偶然ですね、アンジェリーク。

☞会いたかった
そうなのですか。私もあなたにお会いしたいと思っていたのですよ。水が二人の気持ちをくみとってくれたのでしょうね。

☞偶然ですね
こんにちは、アンジェリーク。元気にあいさつしてくれてうれしいですよ。

デート中

ロマンチックだわ

A. ここはとても美しい場所ですね。心がなごみます。あなたもこの美しさを楽しんでくださいね。

B. ここの水はいつも穏やかで優しさを感じますね。私の心も優しさで満たされるようです。そして、あなたの優しい心もいつも以上に感じられますよ。

C. ここに来ると、あなたはいつもよりかわいらしく見えますよ。だからなのでしょうか。あなたといると、とても楽しいのですよ。

パシャッ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい
ふふ…あなたの無邪気な笑顔を見ていると私まで幸せな気持ちになりますね。

どこまで行けるかな？

☞ここから先は行けないのね
残念なんですが、そこから先に行くことはできないのですよ。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

それでは、帰りましょうか？

☞はい
そうですか…。それでは部屋までお送りしましょう。

◆私の部屋◆

今日は、楽しませていただきました。また機会があったら行きましょう。

☞いいえ
そうですか。ではもう少しゆっくりしていきましょうか。

デートトラブル！

Wブッキング!!

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中、約束中の守護聖様がロザリアとツーショットで出現！◆

A. …そうでしたね、私も忘れていました。私の方こそ申し訳ありません。

B. おや?…そういえば私は、今日はあなたと約束していましたね。私は、そのことをすっかり忘れていました。どうも申し訳ありませんでしたね。

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日：散歩中◆

こんにちは、アンジェリーク。いろいろ大変でしょうががんばってください。

◆日の曜日：ロザリアとデート中◆

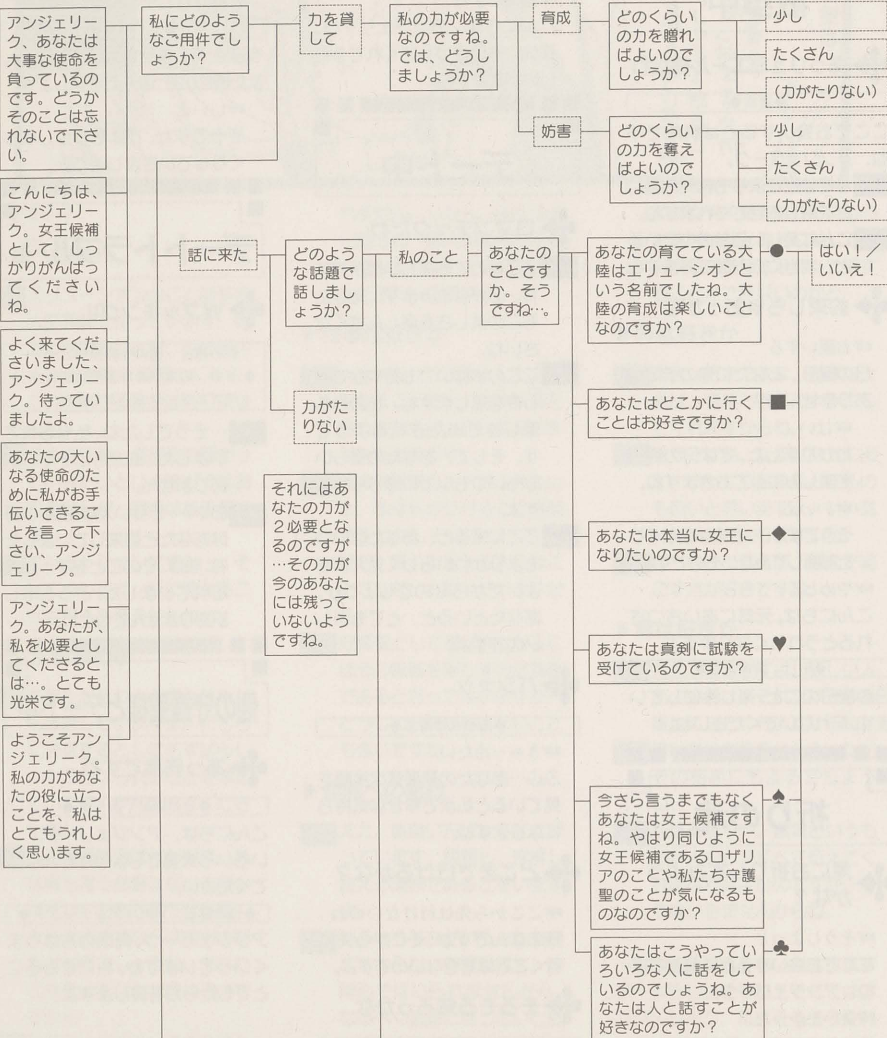
アンジェリーク、育成の方はうまくいっていますか。私にできることでしたら力を貸しますよ。

執務室

Lumiele

あなたと話すと本当の「やさしさ」がわかります…

平日





★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方
各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次（右どなり）のブロックの中からいずれか（14通りあります）の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

少し育成することを覚えておきますよ。私に任せてください。

たくさん育成することを覚えておきますよ。私に任せてください。

それにはあなたの力が（2／4）必要となるのですが…その力が今のあなたには残っていませんね。

少し妨害することを覚えておきますよ。

たくさん妨害することを覚えておきますよ。

それにはあなたの力が（2／4）必要となるのですが…その力が今のあなたには残っていませんね。

やはりそうですか。そうではないかと思っていましたよ。

そうなのですか。私と同じですね。

そうなのですか。私があなたの立場でも同じ答えでしょうね。

やはりそうなのですね。思っていた通りですよ。

そうでしょうね。私があなたの立場としたらきっと同じことを答えたと思います。

そうなのですか。私もそう思っていました。気が合いますね。

そうなのですか。私があなたの立場でも同じ答えでしょうね。

そうなのですか…。私の考えとは少し違うのですね。

そうなのですか…。それも悪くはないと思いますが、私とは少し違うようですね。

そのように考えていたのですね…。ですが、アンジェリーク、

そうなのですか。私とは異なる考えをお持ちなのですね。

そうなのですか…、それではまだ女王への道は険しいと思いますよ。

そうなのですか…。私とは違うのですね。

そのように考えていたのですか…。

●
- エリューシオンに贈った愛情は、大陸を発展させ人々に幸せを与えているだけではなく、喜ぶ人々を見るあなた自身にも、喜びをもたらすでしょうね。
- エリューシオンの民と直接接する機会がないからなのでしょうか、私はどうにも大陸を育成することが楽しいようには思えないのですよ。

■
- …部屋の中にいるだけでは心もふさいでしまうことでしょう。そんな時、外を歩いてみると、心を洗われるような出来事に出会えるかもしれませんからね。
- …私はどこかに出かけるよりは、部屋で楽器を奏でて時を過ごす方が好きなのです。

◆
- …女王陛下は世界のためにいつもお心をくだいていらっしゃるのです。やはり偉大な御方だと尊敬してしまいますね。
- …女王の役割と責任は非常に重いものなのです。もし私が務めようとしてもとても無理でしょうね。

♥
- 新しい女王を決める大事な試験なのですからやはり全力を尽くしてほしいものですね。
- …常に力を出しきるということは不可能ですからね、ある程度、心に余裕を持っていた方がいいですよ。そうしておいて、ここぞという時に力を出せば結果もついてくると思いますよ。

♠
- 自分の行動を決めるためにも、なるべく他人の行動を知っておいた方が有利だと思いますよ。ほら、人のふり見て我がふり直せと言うでしょう。あれと同じですよ。
- …私は自分なりの価値判断の基準を持っていますし、他の守護聖の方々もたぶんそうでしょう。ですから、必要以上に他の人の行動を気にすることはないと思うのです。

♣
- …人と話しているといろいろと新しい発見があって、興味深いものですし、それに、話してみないと相手のことを、なかなか理解できないと思いますよ。
- …言葉は、人の心を曲げて伝えてしまうこともありますからね。私はあまり好きではないのです…。

こうして話したおかげで、私も、あなたのことをより知ることができたと思いますよ。

①

②

人のうわさ → 誰のことを話しましょうか? → キャラクター選択
- アンジェリークのことを話すのですね？ あなたのことですか。そうですね…。
- ロザリアのことを話すのですね？ ロザリアのことについてですか…。そうですね…。
- ××のことを話すのですね？ ××のことについてですか…。そうですね…。

キャンセル → やめるのですか？

キャンセル → 何も用事はないのでしょうか？
- はい → そうですか。では、また何か頼みがあれば、来てくださいね。
- いいえ → それではもう一度聞きますよ。

(再訪問)
おや、今日はよくお会いしますね。アンジェリーク。
- 今日は、もうあなたから育成の依頼をうかがっています。前の依頼を取り消すのですか？
- 今日は、もうあなたから妨害の依頼をうかがっています。前の依頼は取り消すのですか？
  - はい → それでは、前の依頼は忘れることにしますね。わかりました。あらためて願いをうかがいましょう。
  - いいえ → それでは、前の依頼のままにしておきます。

いろいろ大変なのにあなたは、本当に一生懸命がんばっているようですね。私もつい応援したくなるのですよ。これからもがんばってくださいね。

私は、女王候補としてのあなたに期待しているのですよ。これからもがんばってくださいね。

申し訳ありませんが今の私はあなたのことにほとんど関心がないのですよ。

私が今、あなたにお話しできることは、このくらいですよ。参考になりましたか？

私は…、ロザリアには親しみを感じています。たぶん、お互いに…。

私とは、特に仲の良いわけではありませんが決して悪い人ではないと思いますよ。

私とはあまり親しくないので、何か言おうにも何とも言えないですね。

私が今、あなたにお話しできることは、このくらいですよ。参考になりましたか？

私にとっては、尊敬できる人、ですね。心から信頼することができるのです。

私とは、特に仲の良いわけではありませんが決して悪い人ではないと思いますよ。

私とはあまり親しくないので、何か言おうにも何とも言えないですね。

どうやらあなたのことをとても気に入っているようですよ。

…あなたのことは、特に気に入ってはいませんが嫌ってもいないようですね。

あなたのことは…あまり好きではないようですね。

…そういえば、女王陛下のことをとても尊敬しているのですよ。もし、あなたが女王候補として優秀なら、きっとあなたを見る目が変わると思いますよ。

…そういえば、人と話をすることがとても好きな、社交的な人のようですよ。

…そういえば他の守護聖の行動をあまり気にしないタイプの方ですね。

…そういえば、人の行動を気にする方と聞いていますが…。

…そういえば外に出かけるよりは、自分の執務室にいる方が多いようですね。

…そういえばエリューシオンには関心がないようです。

…そういえば、エリューシオンのことをとても気にしているようでしたよ。

…そういえば、女王になりたいという気持ちが理解できないと言っていましたね…。

自分の執務室に閉じこもって、じっとしているなんてことはきっと耐えられないと思いますよ。

性格的には気まぐれでしてね、思いつきだけで行動することがあるのですよ。

あとは…そうですね、そういえば気まぐれで行動するようなことはあまりない方ですね。

他に付け加えることは…人と話すのが好きではないことくらいですね。

私が今、あなたにお話しできることは、このくらいですよ。参考になりましたか？

日の曜日

こんにちはアンジェリークよく来てくださいました。

- 今日は日の曜日なので育成や妨害といったお願いはお受けできないのですが…どのような用事で来られたのですか？
- 今日はあなたと約束していた日ですね。どうしましょうか、アンジェリーク。

部屋への誘い

- せっかくのご招待ですからお受けいたします。
- …アンジェリーク、それはあまり好ましいことではありませんよ。今回はご遠慮させていただきます。
  - （再訪問）気分がすぐれなくて…こんな気分であなたと過ごすわけには…。
- …私があなたの部屋に行くのは、あまり好ましいことではありませんよ。今回はご遠慮させていただきます。今日の約束もなかったことにしてください。
  - （再訪問）気分がすぐれなくて…こんな気分であなたと過ごすわけには…。
- （力がたりない）
  - 残念ですが、あなたには力が残っていませんね。ですから、招待を受けるわけにはいきません。今度はもっと力がある時に招待してくださいね。

外への誘い

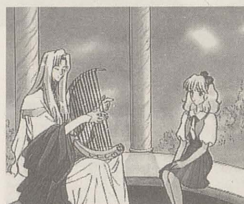
- 外に遊びに行くと言うのですね。あなたはどこへ行きたいのですか？
  - 公園
  - 森の湖
  - （力がたりない）
  - キャンセル

キャンセル

- 何も用事はないのでしょうか？
- どうかしたのですか？アンジェリーク。

趣味イベント 『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

ちょうど今、ハープの調律をしていたんですよ。…そう、よかったら、何かお聴かせしましょうか？
☞はい
そうですか。ではこちらのテラスに移りましょう。さわやかな陽射しの中で演奏してみますね。
（イベント→私の部屋）
いいえ。こちらこそ。誰かに聴いてもらっている方が、何倍も上手にひけるような気がしますから…では、アンジェリーク。ごきげんよう。
☞いいえ
そう…ですか。押しつけがましいことを言ってしまいましたね。申し訳ありません。


こんなに優しい音楽があるなんて…。私もとってもおだやかな性格になったみたい？


私って絵の才能ないからなぁ。リュミエール様、私の絵をご覧になって、どう思われたかしら？

…これから写生に行こうと思っていたのです。よろしければ、一緒に絵を描きに出かけませんか？
☞はい
では今日は森の湖の風景を描くことにしましょうか。…では、アンジェリーク。参りましょう。
（イベント→私の部屋）
写生というのは、風景だけでなく、その時の気持ちまでも写し取っている…そんな気がします。今日の風景は紙の上だけでなく、あなたの心にも描かれていることを願っていますよ。では、ごきげんよう、アンジェリーク。
☞いいえ
そうですか。残念ですね。

それは楽しそうですね。それでは行きましょうか。

お誘いはうれしいのですが今日は、そんな気分ではないのです。申し訳ありません。

今日は気分がすぐれないのです。申し訳ありませんがお引き取りください。

（再訪問）
気分がすぐれなくて…こんな気分であなたと過ごすわけには…。

それは楽しそうですね。それでは行きましょうか。

今日は湖に行くのには、気が乗りません。お誘いしてくださったのに申し訳ありませんが…。

今日は湖に行くのには気が乗りません。申し訳ないのですが今日の約束はなかったことにしていただけませんか。

（再訪問）
気分がすぐれなくて…こんな気分であなたと過ごすわけには…。

残念ですが、あなたには外へ出かけるだけの力がもう残っていませんよ。今日は、もう帰ってお休みになった方が…。

外へ行くのはやめるのですね？
- はい — では、あなたの部屋へ招待してくださるのですか？
- いいえ — そうですか。やはり外へ行くというわけですね。

- はい — そうですか。では、また何か頼みがあれば、来てくださいね。
- いいえ — それではもう一度聞きますよ。

- どこにしよう — それはあなたの方で決めていただけませんか。
- 帰ります… — 帰るのですか。都合が悪いならば仕方ありませんね。

他の守護聖の執務室
…とのことだそうです。おや、アンジェリーク。…私は失礼させていただきますね。それでは、アンジェリーク。

Lumiele

公園



優しくエスコートしてください

散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

ここでお会いするとは偶然ですね、アンジェリーク。

◆2度目以降◆

おや、今日はよくお会いしますね。アンジェリーク。

☞お願いする

わかりました。では日の曜日を楽しみにしておきますね。

☞やめとく

こんにちは。元気にあいさつされるとうれしくなりますよ。

◆他に約束あり、力がたりない◆

そうですか…。今度はゆっくりとお話してみたいものですね。

◆平日：約束あり◆

日の曜日のこと、楽しみにしています。忘れないでくださいね。

◆平日：約束なし◆

この公園は、人の心をなごやかにしてくれます。こんな心のゆとりを大切にしたいですね。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

今日はロザリアと約束していたのですが…どうしたのでしょうか、まだ来ないのです…。

◆2度目以降◆

…ロザリアはまだのようですね。

◆日の曜日：ロザリアとデート中・約束なし◆

アンジェリーク、育成の方はうまくいっていますか。私にできることでしたら力を貸しますよ。

デート中

アンジェリーク、お待ちしていました。

公園入り口（デートスタート）

少し歩きましょうか。

◆噴水右まで移動◆

あなたと公園に来ることができてうれしく思います。あちらの木陰のベンチに行ってみましょうか。

ベンチの前

先客がいらっしゃったようですね。それにしても…あの二人がうらやましいと思いますか？

☞はい

A. そうですね…。心を正直に表現できるというのは良いことだと私も思いますよ。

B. そうですね…。しかし、私はあのようなことは好ましくないと思うのですが…。…今日は気持ちがかみ合わないようです。ここで帰った方がいいかもしれませんね。

☞いいえ

A. そうですね…。確かに、あてられてしまいますよね。

B. そうですね…。…今日は、あなたと仲良く過ごしたいと思っていたのに…残念です。もうこれで帰りましょう。

神鳥の像（右）

向こうに神鳥の像が見えますね。あそこに行ってみましょう。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ」

言われてしまいましたね。

今、あなたはこうして私と話をしていますが、女王候補である以上、他の守護聖の方のお話を聞くことも、とても大切だと思いますよ。…もし話を聞くとしたらあなたはどちらの方のお話が聞きたいですか？

☞（正解）

そうですね。その方がよいと私も思いますよ。

☞（不正解）

…あなたはまだ、私のことも他の守護聖のこともよく理解されてはいないようですね。二人きりで公園に来る前にやるべきことがたくさんあると思いますよ。今日は帰りましょう。

ときめきの丘

それでは、女王候補としてのアンジェリークに質問させてください。

A. エリューシオンの人口は〇〇〇人より上ですか？

☞（正解）

さすがは女王候補ですね。きっとエリューシオンの人々もあなたを慕っているのでしょうね。私もこれからはもっとエリューシオンのことを気にかけるように心がけますね。

☞（不正解）

アンジェリーク…。あなたは女王候補なのですよ。こんな基本的なことさえも知らないようでは…。私の、エリューシオンに対する興味も失われてしまいますよ？

B. フェリシアの人口は〇〇〇人より上ですか？

☞（正解）

ロザリアの育成している大陸のことも…。さすがは女王候補で

すね、アンジェリーク。私も、あなたのその姿勢を見習わなくては、と思います。

☞（不正解）

知らないのですね…。そういうことも知っておくべきですね。

C. ロザリアと仲の良い守護聖はどちらでしょう？

☞（正解）

よくご存じですね。私も少しは他の守護聖の方のことを知るように心がけたいと思います。

☞（不正解）

知らないのですか。…他の方のことですし、私もあえて親しくしようとは思いませんが…。

D. あなたが育てているエリューシオンの建物数はフェリシアの建物数より多いのですか？

☞（正解）

さすがにご存じでしたね。女王候補のあなたには簡単すぎた質問だったかも知れませんね。私は、女王候補はやはり女王をめざす方が好ましいと思いますね。

☞（不正解）

アンジェリーク。女王候補のあなたが知らないのですか？…女王候補には女王をめざしてほしかっただけに残念です。今日はもう帰ることにしましょう。

女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ」
ありがとうございます。
こちらは女王陛下の像。女王陛下は常に、世界をよりよい方向に導くことを考えておられるのです。あなたはその女王の次期候補に選ばれたわけですが…やはり、女王候補というのは大変なのですか？

☞はい

A. そうですか…。でもがんばってくださいね。アンジェリーク。私には、いつも元気にがんばっている姿が一番あなたらしいと思えるのですから。

B. そうですか、やはり女王候補は大変なものなのですね…。では、今日はこれで帰ることにしましょう。明日からまた元気な姿を見せてくださいね。

☞いいえ

A. さすが、アンジェリークですね。その調子でがんばってくださいね。

B. そうなのですか…？守護聖の役目さえ、非常に重いものなのですよ。ましてあなたは女王候補、かなりの負担と思いますが…まだよくわかっていないのかもしれませんね。今日はこれで帰ることにして、ゆっくり考えてみてくださいね。

神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますからがんばってくださいね」
応援されてしまいましたね、アンジェリーク。ところで、少し歩き疲れたのではありませんか？

☞はい

A. では、休憩できる場所に行きましょうか。すぐそこですから。

B. そうだったのですか。私も少々疲れてきていたので…。では今日はこれで帰ることにしましょう。

☞いいえ

A. いつもアンジェリークは元気いっぱいですね。ではもう少し歩きましょうか。

B. アンジェリークは元気ですね。もう少し一緒にいたいのですが、私は疲れてしまいました申し訳ありませんが、今日はこれで帰らせていただきたいのですが…。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート中◆

…すでに先客がいらっしゃるようですね。仕方ありません。行きましょう。

たたずみドーム

…この世界のことを少しお話ししましょう。

A. 女王陛下はつねに、主星にある宮殿で世界をより良く導けるよう、考えをめぐらせていらっしゃいます。ですからアンジェリークも定期審査のときくらいしかお会いすることができませんよね。でも、女王陛下はあなた方のことを、とても期待していらっしゃるようですよ。

B. 飛空都市というのは新しい世界の調査や発展の手助けのために設置されるものなので、私たち守護聖がいる聖殿は女王試験に使うため特別に建てられたものなのです。ですから守護聖は、時々、次元回廊を通って、主星の女王陛下の宮殿にうかがうこともあるのですよ。

C. 今の女王陛下が選出されたとき、私はまだ守護聖ではありませんでした。そのときの守護聖で、今も守護聖なのはジ



私には、いつも元気にがんばっている姿が一番あなたらしいと思えるのですから。

ュリアス様とクラヴィス様、ルヴァ様の3人の方だけですね。だから私にとって、女王候補というのはあなた方がはじめてなのですよ。がんばってくださいね。

D. 王立研究院のパスハと占いの館のサラは私たちとは異なる種族なのだそうです。故郷の星を二人で出て宇宙を放浪してきたそうですよ。主星でようやく落ち着いたのだということです。この飛空都市でも幸せそうですね。

E. 私たち守護聖の力は永遠のものではないのです。いつかは力が弱まるときがやってくるでしょう。そのときはしかるべき人に守護聖の地位を譲ることになります。…それがいつになるかはわかりませんがその日が来るまで、私も女王陛下と世界のために微力を尽くしたいと思っています。

◆お話終わり◆

…そろそろ行きましょうか?

☞はい

→移動

☞いいえ

それでは、もう一度お話ししますね。

入り口

申し訳ありませんがもう少しだけおつきあいください。

ドキドキの木陰

こうして静かな木陰にいると、たいていは心も落ち着くものなのですが…あなたと二人きりだと心が落ち着いてくれません。これも、あなたが愛らしいからなのでしょうね。

☞そんな…

そういうところも、あなたのすべてが愛らしいですよ、アンジェリーク。では、そろそろ行きましょうか。

お花畑

こうして見てみると、あなたに花が似合うというのがよくわかりますね。

☞そんな…

本当ですよ。あなたの微笑みは百億の花にもまさるでしょう。では、行きましょうか。アンジェリーク。

噴水の前

この水の流れを見ていると心が洗われるようですね。でも、アンジェリーク。あなたの笑顔を見ているだけで、心が優しさに満たされていくのはなぜなのでしょうね…。

☞そんな…

このようなことは、エリューシオンの人々も他の守護聖の方もみんなご存じなのでしょうね。…では、行きましょうか。優しく美しい心のアンジェリーク…。

入り口

A. それでは帰りましょう。部屋までお送りしますよ。

B. それでは帰りましょう。あなたの部屋までご一緒させてください。

C. それではそろそろ帰りましょうか。よろしければ部屋まで送らせてください。もう少しだけ、あなたと過ごしたいのです。

私の部屋へ

A. 今日は本当に楽しかったですよ。私は守護聖としてあなたに質問していたはずなのにそのことを忘れてしまうほどでした。またご一緒したいですね。それでは私は、これで失礼させてもらいます。

B. 今日は楽しかったですよ。きっとあなたが一緒だったからでしょうね。これからもがんばってくださいね。…では、私はこれで失礼させていただきます。

C. 早く帰ってくることになりましたが、こんなこともあるものです。また一緒に公園に行くのを楽しみにしていますよ。…では、私はこれで。

デートトラブル!

ひっどーい!これって二股!?

◆平日:ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. アンジェリーク、落ち着いてください。ロザリアとの約束があなたを傷つけたのですね。わかりました。ロザリアとの約束は白紙にしましょう。ロザリア、大変申し訳ないのですがあなたとの約束はなかったことにします。

B. …そうですね。あなたの言うとおりです。申し訳ありません。私が悪いのです。もう今日はあなたと過ごすわけにはいきませんね。帰りましょう。

次の日の曜日に約束している守護聖様がいる!

◆平日:他の守護聖様に約束をほのめかされて◆

アンジェリーク、今の話は本当のことなのですか?

☞正直に言う

A. そうですね。私だけでなくいろいろな方からお話をうかがうのは、とてもいいことだと思いますよ。

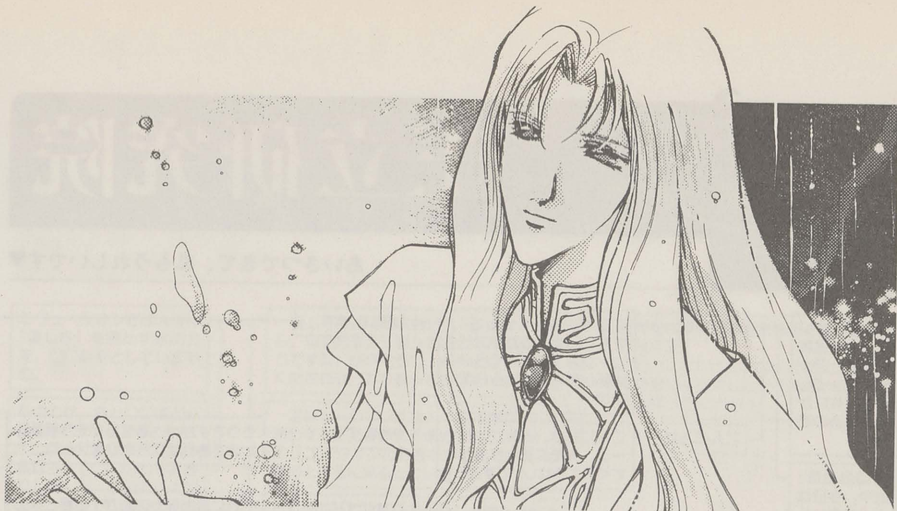
B. そうなのですか…。私とこうしているのも日の曜日の練習のようなものなのでしょうね。…今日は、もう帰りましょう。

☞やめとく

A. 考えてみれば私はあなたにそのようなことで口をはさむような権利はありませんね。

B. 私の質問に答えてくださらないとは…残念です。…今日はもう帰りましょう。

まさか!リュミエール様が…



◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

申し訳ありません、ロザリア。あなたとの約束を忘れてしまっていました。

☞もう帰る！！

A. 申し訳ありませんでした。ですから帰るなんて言わないでくださいね。

B. あなたがそのようにお思いなのでしたら仕方ありませんね。帰ることにしましょう。

☞そこまでは…

A. ロザリアには悪いことをしてしまいました。でもあなたが残ってくれて私はうれしいですよ。

B. 申し訳ありませんが今日は、これで帰りましょう。

きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中◆

…今日は私と約束をしていたはずですが…そういうことなら仕方ありませんね。

☞あやまる

A. 仕方ありませんね。でも、素直に謝るあなたの心は美しいと思いますよ。

B. うそをつく方とは話したくありませんね。

☞ごまかす

A. そうでしたか？…でしたら私の記憶違いかもしれませんね。では私は帰ります。ごきげんよう。

B. うそをつく方とは話したくありませんね。

あっ！今日は○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：リュミエール様とデート中◆

アンジェリーク、今の話は本当のことなのですか？

☞あやまる

A. 言ってくださいましたね。約束を破ったのはいけないことですが、素直に謝ったのは立派なことですよ。そんなあなたの素直な心はこれからも大事にしてくださいね。

B. そういうことなのですか…私にはそのことよりもごまかそうとするあなたの心の方が悲しいです。…アンジェリーク、今日はもう帰りましょう。

☞ごまかす

A. 今のはなんだったのでしょう。まあ、いろいろなことが起こるものですね。

B. そういうことなのですか…私にはそのことよりもごまかそうとするあなたの心の方が悲しいです。…アンジェリーク、今日はもう帰りましょう。

ひっどーい！約束してたのにー

◆日の曜日：ロザリアとのデートに遭遇◆

あなたとの約束を破ることになってしまいました。本当に申し訳ありません。

他の守護聖様とデート中

たたずみドームの前

◆通常◆

今日はお二人なのですか…ふふ…いや、何でもありません。お似合いですよ。

☞そんな

そんなに照れることはありませんよ。私はありのままを言っているのですから。

☞うふふ

今度は、私とゆっくり過ごしてほしいものですね。

◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

おや、あなた方もお二人なのですか…私もロザリアを待っているのですよ。

たたずみドーム内

◆日の曜日◆

ロザリア…？　と思ったのですが、違いましたね。失礼いたしました。ロザリアを待っているのですが…まだのようですね。

Lumiele

王立研究院

あいさつできて、私もうれしいです♥

- ここでお会いするとは偶然ですね、アンジェリーク。私に、なにか用があるのですか？
- (2回目以降) おや、今日はよくお会いしますね。アンジェリーク。
  - お願いが → ここで、私は「優しさ」をもたらす水の力がエリューシオンでどのくらい必要か教えてあげられますが…
    - お願いします
    - やめます → そうですか…。あならがそう判断したのであれば仕方ありませんね。
    - (力がたりない) → それにはあなたの力が１必要となるのですが…その力が今のあなたには残っていないようですね。
  - こんにちは → こんにちは、アンジェリーク。元気にあいさつしてくれてうれしいですよ。

Lumiele

占いの館

安心してお願いできそうです

- ここでお会いするとは偶然ですね、アンジェリーク。私に、なにか用があるのですか？
  - お願いが → あなたのお願いとはどちらなのですか？
    - 仲良くしたい → あなたはどなたと仲良くしたいのですか？
      - キャラクター選択 → ××と仲良くしたいのですね？
      - 守護聖本人 → 私ともっと仲良くなりたいのですね？
    - 仲良くして → 私はどなたと仲良くすればよいとお考えですか？
      - キャラクター選択 → ××と仲良くするのですね？
      - キャンセル → 今回はお願いをやめるのですか？
    - (力がたりない) → それにはあなたの力が１必要となるのですが…その力が今のあなたには残っていないようですね。
  - こんにちは → こんにちは、アンジェリーク。元気にあいさつしてくれてうれしいですよ。
- (2回目以降) おや、今日はよくお会いしますね。アンジェリーク。私に、なにか用があるのですか？
  - お願いが → あなたのお願いはもううかがったのですが…？
    - それでも！！ → わかりました。あらためてお願いをうかがいましょう。
    - やめます… → そうですか…。あなたがそう判断したのであれば仕方ありませんね。

- エリューシオンでは人々に「優しさ」を満たす水の力を、〇〇必要としていますね。
- 私の力は、あと〇〇ほど必要とされているようですね。
- 私は今まで〇〇の力をお贈りしました。この力はエリューシオンで〇番目のものになります。
  - …優しさも必要とされているようですから、私の力を少し贈っておいた方がよいようですね。機会を見て、私のところに来てくだされば、力を贈ってさしあげますよ。
  - …エリューシオンでは人々を「優しさ」で満たす水の力が、強く求められていますよ。エリューシオンの発展を望むのでしたら、私のところに来るとよいでしょう。
  - さしあたって、私の力は特に必要とされていないようですね。エリューシオンの育成には、他の力を贈った方がよいでしょう。
    - 今度は望みの予測を見るとよいと思いますよ。
    - 参考になりましたか？民のためにもがんばってください。

- ええ！ — あなたのお願いは覚えておきますよ。安心してください。
- いいえ！ — あなたはどなたと仲良くしたいのですか？
- キャンセル — 今回はお願いをやめるのですか？
  - はい — そうですか…。あなたがそう判断したのであれば仕方ありませんね。
  - いいえ — あなたはどなたと仲良くしたいのですか？

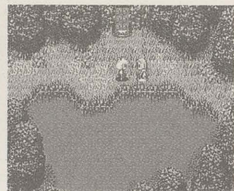
- ええ！ — あなたのお願いは覚えておきますよ。安心してください。
- いいえ！ — あなたはどなたと仲良くしたいのですか？
- キャンセル — 今回はお願いをやめるのですか？
  - はい — そうですか…。あなたがそう判断したのであれば仕方ありませんね。
  - いいえ — あなたはどなたと仲良くしたいのですか？

- ええ！ — あなたのお願いは覚えておきますよ。安心してください。
- いいえ！ — 私はどなたと仲良くすればよいとお考えですか？

- ええ！ — そうですか…。あなたがそう判断したのであれば仕方ありませんね。
- いいえ！ — 私はどなたと仲良くすればよいとお考えですか？

Lumiele 恋愛イベント

うれしい！きれいに描いてくださいね♥



第１段階

◆森の湖◆

「ここは大変きれいで静かな場所ですね。あなたは、ここにはよく来るのですか？」
☞「…はい！」
「そうですか。私もこの場所は気に入っているのです。」
☞「いいえ…」
「そうですか。私はこの場所を気に入っているのです」

「…水辺という所は人の心をなごやかにしてくれますからね」

◆私の部屋◆

「アンジェリーク、あなたに一つだけ言っておきたいことがあるのです。私は、人は争うべきではないと思っています。たとえどのような理由があっても。ですから、あなたとロザリアが女王候補として努力しているのは大変よいことなのですがそのことでお互いに憎しみの心を抱いてしまうことだけは避けていただきたいのです。あなた方は最高の友人同士になることもできるのですから。私の言うこと…わかっていただけますか？」
☞「…はい！」
「そうですか。よかった あなたは本当に素直で聡明なのですね」
☞「いいえ…」
「…そうですか。残念です。機会があればこのことをゆっくり考えてみてほしいですね」



第２段階

◆森の湖◆

「アンジェリーク。この森の湖が何と呼ばれているか、知っていますか？」
☞「…はい！」
「そう、『恋人達の湖』」
☞「いいえ…」
「知らなかったのですか？　でもこのことは、誰か他の人に聞いてみた方がおもしろいかも知れませんね」

「私は、この場所をあなたと二人で歩けるというだけでうれしいのですが、…ね」

◆私の部屋◆

「リュミエール様、今日もとっても楽しかったです」
「いいえ、こちらこそ。ああ、そうでした、アンジェリーク。あなたに聞いておきたいことがあるのですが」
「えっ、どんなことですか？　リュミエール様」
「私の生まれた星では愛しい人の肖像画を身近に飾るという習慣があるのですが…アンジェリーク、あなたの肖像を私の部屋に飾ってもよいでしょうか？」
☞「うれしい♥」
「そう言っていただけると私もうれしいですよ。今度私の部屋に見に来てみてくださいね」
「リュミエール様のお部屋に私の肖像画が…。考えただけでドキドキしてきちゃう」
☞「あの、でも…」
「そう…ですね。あなたの良き協力者でいる…それ以外は考えないことにします」
「…結局リュミエール様の『愛しい人』にはなれなかったわ」

告白

◆森の湖◆

「アンジェリーク。あなたのお気持ちは大変うれしいと思います。ですが…あなたは女王候補の資格を失ってもいいのですか？」

☞「はい」

「それでも私を選んでくれるのですね。うれしいです、アンジェリーク。あなたとずっと一緒にいられたら、どんなに幸せだろうかと…。私はいつも思っていたのですから」

☞「いいえ」

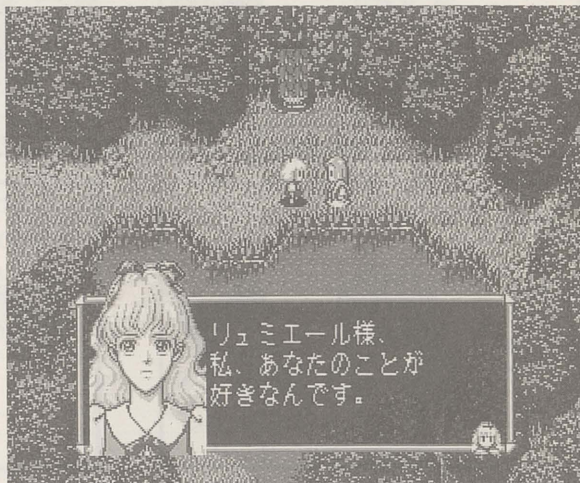
「そうですね。あなたは次代の女王となるべき人なのですから。今日のことはなかったことにしましょう」

◆失敗◆

「お気持ちはうれしいのですが、今のままが一番いいと私は思っているんですよ」

◆私の部屋◆

「アンジェリーク、あまり気を落とさないでください。決してあなたのことを嫌いなわけではないのです。ただ、あなたのその輝きは周りの人すべてに向けられるべきであるような…気がするのですよ」



力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

それでは、女王候補たちの望みのままに私たちの力を贈りましょう。

水のもたらす「優しさ」がアンジェリークの望み通りエリューシオンの地をうるおすように…。
水のもたらす「優しさ」をアンジェリークの望み通りフェリシアの地から枯らしましょう。
フェリシアに満ちる水の力の「優しさ」を、私の手に戻してしまいましょう。
水の力の「優しさ」よ。エリューシオンに満ちてアンジェリークに優しさをもたらすよう…

水の力よ、エリューシオンの人々を「優しさ」で満たしておくれ。
フェリシアから人々を「優しさ」で満たす水の力を減らしましょう。

ささやかですが、私の力を贈りましょう。
たくさんの力を贈りますね。
少しだけ、力を引き上げることにいたしましょう。
力をたくさん引き上げることにいたしましょう。





押田J・O

くか〜〜〜

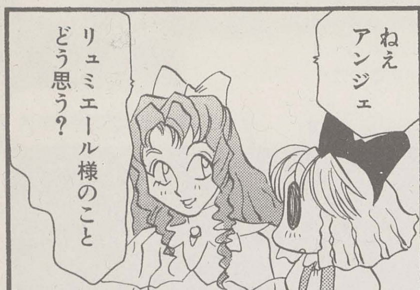








ここで一句









メッセージ♥テスト〈リュミエール〉の答え 1A 2B 3A 4A 5A 6B 7C 8B 9B 10C-B-D-A

ACT.5
オスカー編



Oscar

私の部屋



二人きりだとドキドキしちゃう！

デートのお誘い

よろこんで！（共通）

◆通常◆

そう、お嬢ちゃんのそのうれしそうな顔が見たかったんだよな。で、今日はどうしたいんだ？

☞外へ行きたい

行くとすれば、公園か、森の湖だな。どうする？

☞公園

じゃ、行こうか。ただ、お嬢ちゃん。公園のベンチはいつもカップルに占領されてるぜ。

☞森の湖

森の湖が何て呼ばれてるか知ってて言ってるのか？まあいいか。行こうぜ、お嬢ちゃん。

☞キャンセル

a．どっちでもいいです

A. そうだな、どこかに出かけるってのはどうだ？

B. じゃ、お嬢ちゃん、ここで話そうか？

b．あなたの好きな所で

A. お嬢ちゃん、公園はどうだい？

B. そうかい、お嬢ちゃん。なら、森の湖に行こうか？

ごめんなさい…

◆平日：約束あり◆

よう、お嬢ちゃん。日の曜日の約束だが、俺も忙しくてね。ま、今日なら空いてるんだがな。

☞ことわる

しょうがないな。ま、お嬢ちゃんのためだ。日の曜日まで楽しみはとっておくぜ。

◆平日：約束なし◆

よう、お嬢ちゃん、ちょっと顔を見に来たぜ。今日は俺も時間があるんで遊びに行かないか？

☞ごめんなさい

いいさ。お嬢ちゃんが気乗りしないのに無理に付き合ってもらってもお互いつまらないからな。

◆土の曜日：約束あり◆

お嬢ちゃん、悪いんだが、明日の約束を、今日に繰り上げたいんだがどうかな？

☞ことわる

じゃ今回は中止だな。実は、明日は俺が都合悪くなりそうでね。お嬢ちゃんとは、また今度…な。

◆土の曜日：約束なし◆

よう、お嬢ちゃん、ちょっとヒマができたんで誘いに来たぜ。俺と遊ばないかい？

☞ことわる

ほう、けっこう真面目にやってるじゃないか。その調子だぜ。でも次は誘いに乗ってくれよな。

◆日の曜日：約束あり◆

よう、お嬢ちゃん、支度はできてるか？そろそろ出かけようぜ。

☞ごめんなさい

お嬢ちゃんが、そう言うんなら仕方ないな。次の機会を楽しみにしておくぜ。

◆日の曜日：約束なし◆

よう、お嬢ちゃん、せっかくの日の曜日にヒマしてるんじゃないのか？誘いに来てやったぜ。

☞ごめんなさい

なんだ、お嬢ちゃん、この俺が誘いに来たってのに断るのかい？…やられたな。

デート中

…お嬢ちゃん、どんなことを話そうか？

好きな物

A. そうだな…カプチーノ、コーヒーならカプチーノに限るぜ。シナモンの香りとコーヒーの香りが生み出すハーモニーが、より味わいを高めているんだぜ。

B. お嬢ちゃんは俺の好きな物も知っておきたいのか…フッ、なら答えてやらないといけないな。食べ物ならシュラスコ



なんだ、お嬢ちゃん、この俺が誘いに来たってのに断るのかい？…やられたな。



が俺の好物だな。うまいんだぜ。

嫌いな物

A. 食べ物でいえば、グリンピースが嫌いだな。あれには独特の青臭さがあるだろう。あの青臭さが、俺には我慢できないんだ。

B. それは秘密なんだが…お嬢ちゃんには教えてやろう。じつは、俺はマヨネーズが嫌いなんだ。あの妙に酸っぱくて、妙に油っこいところがどうしても好きになれないんだ。

理想の女性像

理想の女性像ね…やっぱりいい女だな。でもな、俺を好きになってくれる子なら、みんな好きだぜ、お嬢ちゃん。

苦手な女性像

そんなのはないな。女性ってのは偉大でな、必ずその人だけの美しさが隠されているんだぜ。俺は、それを見つけることが大好きなんだよ。それを見つけると俺はうれしくなるんだ。ハハハ、そういう意味では女性は、この俺に活力を与えてくれてるって言えるかもな。

趣味の話

A. 趣味か…見知らぬ女性と仲良くなることかな。…フッ。初対面でも、俺の誠意を感じてくれる人とは仲良くなれるもんだぜ。

B. お嬢ちゃん、実は、俺はな、フェンシングが得意なんだぜ。華麗な剣さばきで相手の攻撃をかわし、剣先に精神を集中させて突く。我ながらカッコいいぜ。

故郷のこと

お嬢ちゃん、教えてやるから憶えておいてくれよ。俺は草原の広がる星で生まれ育った。俺の家は代々軍人の家系なんだ。小さい頃から草原を駆けずりまわって身体を鍛えたものさ。考えてみれば今の俺の原点はすべてあの星にあったと思うぜ。

身近なこと

A. 俺は心ある人からは「愛と正義と真実の人」と呼ばれているのさ。うそじゃないぜ。3つとも大切なものだが俺は「愛」がもっとも大切なものだと思うぜ。

B. 俺の髪の色は、見てのとおり赤色さ。これは俺の燃える心のあらわれなんだぜ。情熱と行動の男である、このオスカーにもっともふさわしい髪の色だと思うぜ。

物の考え方

何についての考えを聞きたいのかな？

▶星への関心

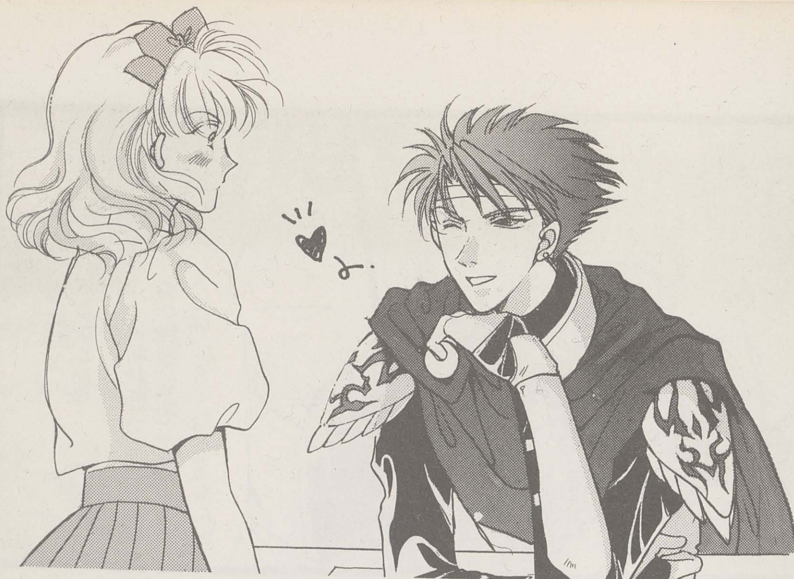
A. お嬢ちゃん、俺はエリューシオンに住む民のことを、結構気に入ってるんだぜ。だからお嬢ちゃんにはがんばってもらってエリューシオンを発展させてほしいな。おっと…でもな、妬くんじゃないぜ。お嬢ちゃんのことも気にしてるんだからな。

B. お嬢ちゃんの星だからな、気にはなっているぜ。もっともお嬢ちゃんがあんまりエリューシオンのことばかり考えていると妬けてくるけどな。

C. エリューシオンねえ…お嬢ちゃんには悪いが特に興味はないぜ。

▶女王候補の事

A. 女王候補と言えば天使様と呼ばれるんだからな、思わず憧れちまうな。エリューシオンの民もきっと憧れてるだろうな。そしてお嬢ちゃんを頼りにしているだろうぜ。お嬢ちゃんはエリューシオンの民に天使様としての愛を贈ってや



りな。それが女王候補としてのお嬢ちゃんの使命、なんだと思うぜ。

B. お嬢ちゃん、守護聖でも結構大変なものだぜ。女王はもっともっと大変だぞ。それをめざすとは、お嬢ちゃんも大変だな。ま、がんばれよ。

C. そうだな、正直言って女王になるってことはものすごく大変なことだと思うぜ。守護聖だって結構大変だからな。お嬢ちゃんもよく考えることだな。

▶仕事は好きか

A. 一言で言えば天職だな。お嬢ちゃんも知ってのとおり俺は炎の守護聖だ。フッ、誰よりも熱いハートを持つこの俺に、これほどふさわしい仕事は他にないだろうな。

B. 嫌いじゃないな。そこそこにはやる気もあるぜ。でもな、別に女の子と仲良くなれるわけでもないんで、特に仕事が好きってことはないな。

C. あんまりな。守護聖やってると女の子とも、なかなか仲良くなれないんだ。まあ、でもお嬢ちゃんと知り合えたことはラッキーだったと思うぜ。

▶仲間への関心

A. 一言で言ってしまえばいいヤツら、だな。少なくとも、悪人はいないぜ。まあ、その中でも俺が一番いい男であることは覚えておいてくれよな、お嬢ちゃん。

B. お嬢ちゃんみたいに素直なヤツばかりじゃないんでな。いいヤツもいれば、気に入らないヤツもいるぜ。ま、それぞれにおもしろいところがあるからな、結構楽しませてはもらってるぜ。

C. お嬢ちゃんとは違って女ではないからな、仲良くなる理由はないな。しかも他の守護聖のやることは、いちいち気にさわるんだ。困ったことだぜ。

▶外は好きか

A. そんなことを聞くところをみると、お嬢ちゃんは、今度は、俺とどこかに行きたいようだな。俺も外に行くのは好きだからな、まあ機会があったら、どこかに行こうぜ。

B. お嬢ちゃん、外に出て身体を動かすのも気持ちいいものだぜ。それに、忘れちゃいけないのは、外に出れば、出会いが生まれるということだな。

C. お嬢ちゃん、俺はどちらかというと、部屋で語りあう方が好みだぜ。もっともお嬢ちゃんと一緒なら、どちらでも楽しいだろうな。

▶話は好きか

A. 人と話すのは好きだぜ。話さないことには、相手と仲良くなれないだろう。言葉にすることで自分の伝えたい考えや思いが相手に伝わるものさ。だから、覚えときな。言葉ってのは発した瞬間に真実を生み出すものだってことを。フッ、ちょっとキザだったかな。

B. 嫌いではないな。言葉を通じてこそ、思いが伝わることも、よくあることだしな。でもな、お嬢ちゃん、ときには、話し相手が口に出さないことも感じてやらないといけないぜ。

C. 言葉で話すというのならそんなに好きじゃないな。俺は、この瞳で語りかけることが多いんでな。お嬢ちゃんも俺の瞳を見つめてみなよ。熱いハートを感じるだろ。ハハハハ。

…こんなところかな。どうだい、お嬢ちゃん、このくらいでいいかな?そろそろ俺は帰らせてもらうぜ。またな。

Oscar

森の湖

私たち、恋人同士に見えるかな？



散歩中

あっオスカー様だわ

よう、お嬢ちゃん、ここで会うとは偶然って奴も粋なはからいをするもんだな。

A. お嬢ちゃん、自然はいいよな。人も自然な思いのままにいるのが一番なんだぜ。

B. お嬢ちゃんのかわいさはなかなかこの自然の美しさにマッチしているぜ。

約束しちゃおっかな

☞お願いする

お嬢ちゃんはその日ヒマなのかな？

☞はい

お嬢ちゃんの願い、このハートで受け取った。日の曜日には、俺の心を受け取ってくれよ。

☞いいえ

お嬢ちゃん、熱い想いに言葉が出なかったんだろ。気持ちの整理がついた頃また会おうぜ。

☞やめとく

お嬢ちゃんの瞳にあいさつさせてもらおう。お嬢ちゃんの心そのままの澄んだ美しい瞳に。

◆平日：約束あり◆

日の曜日のこと、楽しみにしてるからな。二人でドキドキしようぜ、なんてな、ハハハ。

祈りの滝

滝にお祈りしようかな?

☞そうしよっと

よう、お嬢ちゃん、ここで会うとは偶然って奴も粋なはからいをするもんだな。

☞会いたかった

そう言われると悪い気はしないぜ、お嬢ちゃん。俺もここにお嬢ちゃんがいるような気がしたんだ。お嬢ちゃんの思いが俺を呼んだんだろうな。

☞偶然ですね

お嬢ちゃんのあいさつへのお返しはこの笑顔さ。この顔は心に花束を抱いた笑顔なんだぜ。

デート中

ロマンチックだわ

A. お嬢ちゃん、見てみなよ。この、繊細さと強さとが織り込まれた自然を。きれいだよな。だけど、お嬢ちゃんのかわいさも負けてないな。うそじゃないぜ。また来ような。

B. この間、俺の夢にお嬢ちゃんが出てきたぜ。夢の中でもかわいかったが本物はそれ以上だな。今度は、俺をお嬢ちゃんの夢の中に招待してくれよ。

C. お嬢ちゃんは小悪魔だぜ。このオスカーを惑わせるなんてよ。でもな、惑わされてもそれが心地いいんだから自分でも始末におえないぜ。

パシャッ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい

水は冷たくて当然さ。その分、俺のハートは熱いんだぜ、お嬢ちゃん。

どこまで行けるかな？

☞ここから先は行けないのね

お嬢ちゃん、残念だがそこから先は立入禁止だぜ。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

帰ることにするか？

☞はい

じゃあ、部屋まで送ろう。可愛いお姫様を守る騎士を気取らせてもらうぜ。

◆私の部屋◆

今日は楽しかった。今日のことがお嬢ちゃんの心のアルバムに残ったならうれしいぜ。

☞いいえ

それじゃあ、もうしばらく自然と語らっていこうか。次に来る時までの思い出にするために…な。

デートトラブル！

Wブッキング!!

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中、約束中の守護聖様がロザリアとツーショットで出現！◆

A. おっと、お嬢ちゃん。今日は俺と約束してたな？なのに他の男と現れるっていうのは反則だぜ。とはいうものの、俺も人のこと言えたもんじゃないな。お互い様か。

B. 気にしなくていいさ、今度付き合ってくれればいいだけだぜ。

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日：散歩中◆

お嬢ちゃん、なにか悩みごとがあったら、すぐ俺のところに来るんだぜ。この炎の守護聖オスカーが力になってやるぜ。

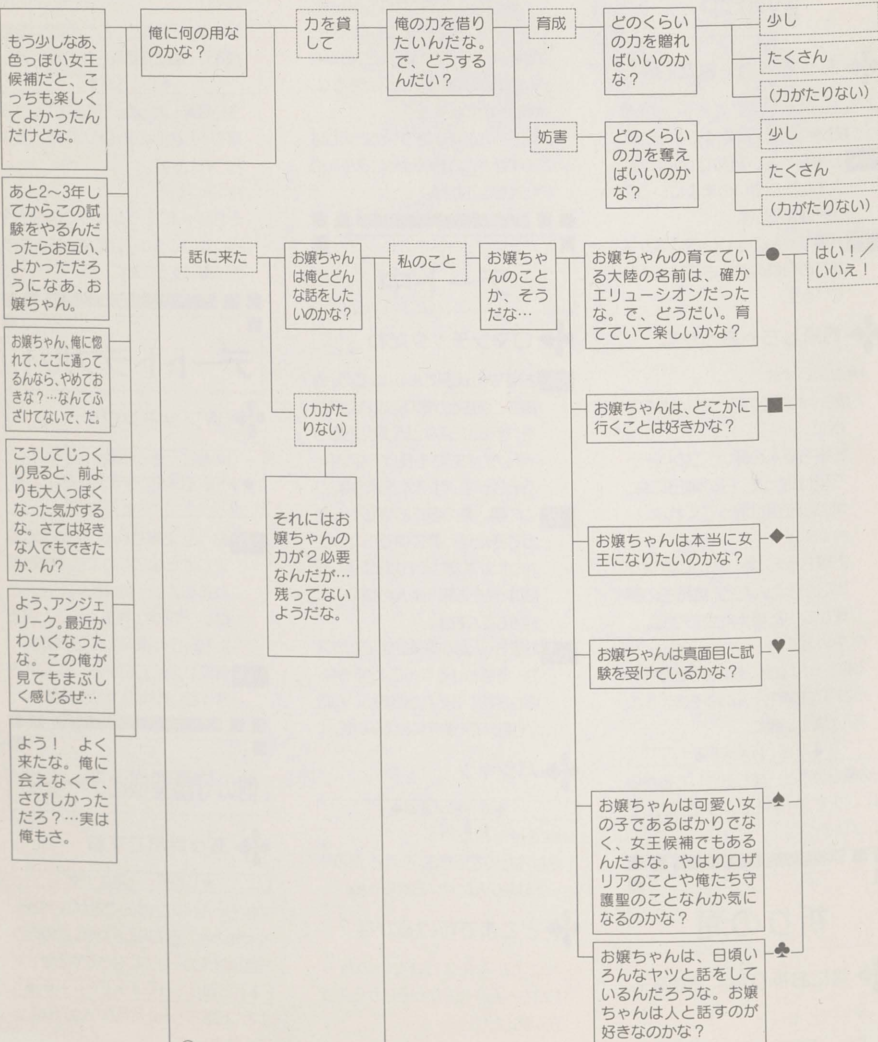
◆日の曜日：ロザリアとデート中◆

よぉ、お嬢ちゃん、元気かい。がんばってくれよ。

Oscar 執務室

本当にさびしかったのは…あなた？

平日





★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方
各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次(右どなり)のブロックの中からいずれか(14通りあります)の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

- 少し育成するか…俺に任しときな。お嬢ちゃんの期待は裏切らないぜ。
- たくさん育成するか…俺に任しときな。お嬢ちゃんの期待は裏切らないぜ。
- それをやるにはお嬢ちゃんの力が（2／4）必要なんだが…残ってないようだな。
- 少し妨害するっていうお嬢ちゃんの依頼、覚えておくぜ。
- たくさん妨害するっていうお嬢ちゃんの依頼、覚えておくぜ。
- それをやるにはお嬢ちゃんの力が（2／4）必要なんだが…残ってないようだな。

- そうだろうな。俺のにらんだ通りだぜ、お嬢ちゃん。
- お嬢ちゃんもか。俺もそうなんだ。俺たち、気が合うな。
- やっぱりな。俺がお嬢ちゃんの立場でも同じ答えだろうな。…考えてもみてくれよ、
- そうか…、お嬢ちゃんらしいな。
- そうだろうな。俺がお嬢ちゃんの立場だとしても多分同じ答えだったろうな。
- お嬢ちゃんもか。俺もそうなんだ。俺たち、気が合うな。
- やっぱりな。俺がお嬢ちゃんの立場でも同じ答えだろうな。
- お嬢ちゃんもか。俺もそうなんだ。俺たち、気が合うな。
- そうなのか？俺とは、ちょっとばかり違うんだな、お嬢ちゃん。
- お嬢ちゃんが、そんな考えだったとはな。ちょっと意外だぜ。…だがな、
- お嬢ちゃんと俺とはこの件に関しては考えが違うみたいだな。
- お嬢ちゃん、そんなことでは女王にはなれないぜ。
- この件に関する限りお嬢ちゃんと俺とは違うようだな。
- お嬢ちゃんが、そんな考えだったとはな…。ちょっと意外だぜ。

●
- …エリューシオンの民はいつも一生懸命だからな、俺も教えられることが多いんだぜ。お嬢ちゃんも負けないようにがんばらないとな。
- …エリューシオンも俺にとってはお嬢ちゃんの育成している大陸という認識しかないんだ。

■
- …俺はどこかに出かけるのは好きだぜ。部屋にじっとしていてもつまらないからな。なんと言ってもじっとしてたら出会いのチャンスは来ないしな。ハハハ。
- …お嬢ちゃん、どこかに行くっていってもな、一人じゃさみしいもんさ。一緒に行く相手がいない時は、部屋で寝ていた方がいくらかマシだぜ。

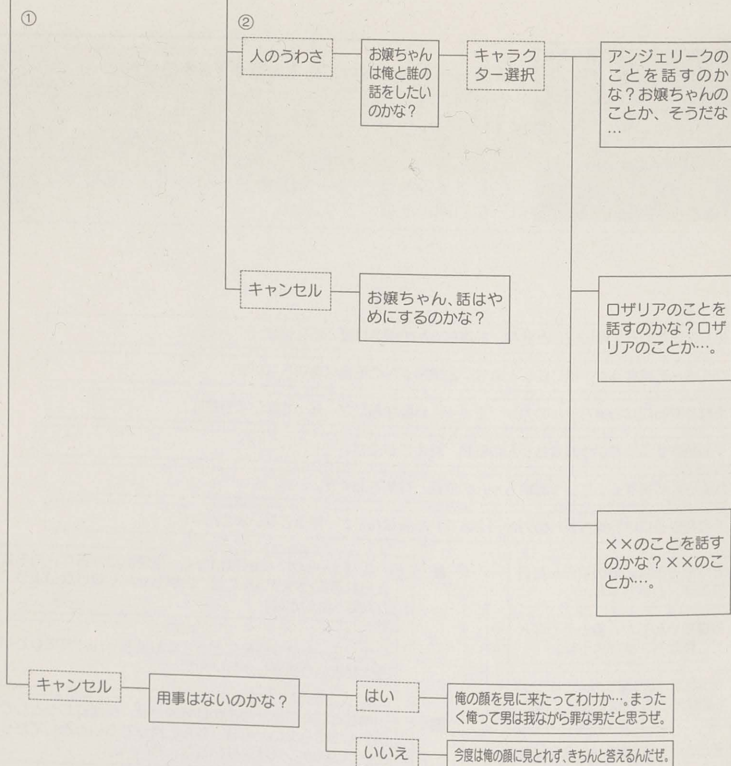
◆
- …やっぱり女王陛下というのは偉いものさ。いつでも世界を支えているんだからな。この俺でさえ、尊敬してしまうほどだからな。
- …女王陛下は常に世界全体のことを考えないといけないからな、俺なら遠慮するぜ。

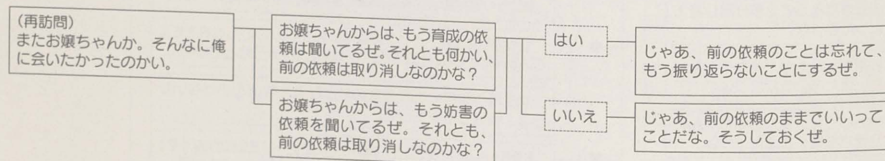
♥
- …お嬢ちゃん、俺は一途な女性も結構好きなんだぜ。一生懸命にがんばる姿って感動を呼ぶだろう。こう見えても俺は好きなんだ、感動するってことがな。
- …ある程度は適当でいいと思うぜ。いつもいつも全開で試験を受けていたら体が持たないだろう。力の出しどころさえ、間違えなければいいのさ。

♠
- ロザリアや守護聖たちが何をしてるかということを知っておけば、自分の行動を決める時の参考にもなると思うぜ。
- 他人のことをいちいち気にしてたら、身が持たないぜ。少なくとも俺は気にしないな。それに、みんな考えて行動してるんだから俺が気にしても仕方ないさ。

♣
- …お嬢ちゃんもいろんなヤツと話をしてみることだな。なにかおもしろいことがあると思うぜ。
- …お嬢ちゃん、俺はな、ダラダラと話すなんてのは大嫌いだぜ。言葉は少なめに、その分瞳に思いをこめるというのが俺のやり方さ。

ま、なんにせよ、今の話でお嬢ちゃんのことが今まで以上にわかってうれしかったぜ。





（再訪問）
またお嬢ちゃんか。そんなに俺に会いたかったのかい。

お嬢ちゃんからは、もう育成の依頼は聞いてるぜ。それとも何かい、前の依頼は取り消しなのかな？

お嬢ちゃんからは、もう妨害の依頼を聞いてるぜ。それとも、前の依頼は取り消しなのかな？

はい → じゃあ、前の依頼のことは忘れて、もう振り返らないことにするぜ。

いいえ → じゃあ、前の依頼のままでいいってことだな。そうしておくぜ。

お嬢ちゃんは、どんどん美しくキレイになっているような気がするな。そんなお嬢ちゃんは、この俺でさえ、ちっとばかし心魅かれる存在なんだぜ。

お嬢ちゃんのこれからの成長に、俺は期待しているんだぜ。

お嬢ちゃんは、お嬢ちゃんなりにかわいいんだが、もう一つ俺好みではないな。

→ お嬢ちゃん、俺が話せることは、この程度だぜ。参考になったか？

俺とは、気が合うな。イイ女ってのは、どうしてこう、俺の魅力がわかるんだろうね。

お嬢ちゃんがどう思っているかは知らないが、決して嫌いなタイプじゃないぜ。

お嬢ちゃん、俺はロザリアのこと、どうにも気に入らないんだ。

→ お嬢ちゃん、俺が話せることは、この程度だぜ。参考になったか？

この俺でさえ一目置くほどのできたヤツなんだぜ、お嬢ちゃん。

お嬢ちゃんがどう思っているかは知らないが、決して嫌いなタイプじゃないぜ。

お嬢ちゃん、俺は××のこと、どうにも気に入らないんだ。

→

お嬢ちゃんのことを気に入っているようだぞ。お嬢ちゃんの魅力に気付いたのかな？

あくまで守護聖と女王候補という立場でお嬢ちゃんの相手をしているようだな。

お嬢ちゃんのことはどうやらあまり好きではないみたいだぜ。

→

性格的には、女王陛下のことを尊敬する思いが強いのが特徴だな。どうしても仲良くなりたいというのなら、試験をがんばることだな。

性格的には、社交的でな、いろんな人と話すことが好きみたいなんだぜ、お嬢ちゃん。

…そういえば他の守護聖の行動を気にするタイプじゃないんだぜ、お嬢ちゃん

…そういえば、他の守護聖の行動を気にするタイプだな。

…そういえば、自分の執務室でくつろぐことが好きなタイプのようだぜ。

…そういえばエリューシオンのことはまるで関心がないみたいだぜ、お嬢ちゃん。

…そういえば、エリューシオンのことを気に入っていたようだから頼りに出来るぜ。

…そういえば、女王になりたがるってことが、どうもわからないようだぜ。

性格的には、じっとしているのが嫌いなタイプだな。

…そういえば人と話すことが苦手なタイプのようだな。

性格的にはな、気まぐれな点があってな、結構行き当たりばったりなんだぜ。

…そういえば、いつでも理由を持って行動していて無意味なことをしないタイプだぜ。

→ お嬢ちゃん、俺が話せることは、この程度だぜ。参考になったか？

日の曜日

よお、お嬢ちゃん、今日も元気みたいだな。やっぱりお嬢ちゃんはそうでなくちゃな。

- お嬢ちゃん、今日は俺の守護聖としての力を休ませる日なんだ。何をしに来たのかな？
- 今日は、お嬢ちゃんと約束していたよな。どうするんだい、お嬢ちゃん。

部屋への誘い
- 可愛い女の子の部屋へのご招待を断るなんてことはしないぜ。
- …お嬢ちゃんの部屋には行ってみたいんだがな、今日はもう一つ気が乗らないんだ。今日のところはやめにしてまたの機会に楽しみを残しておくぜ。
  - （再訪問）お嬢ちゃん、悪いが今日は気分が乗らないんだ。
- …あと2、3年たったら、お嬢ちゃんの部屋に行きたいんだがな、今は、まだやめとくぜ。もう一つ気が乗らないんでな。今日の約束もなしってことにしておいてくれよ。
  - （再訪問）お嬢ちゃん、悪いが今日は気分が乗らないんだ。
- （力がたりない）
  - でも、お嬢ちゃん、どうもお嬢ちゃんには俺とつきあうだけの力が残ってないみたいだぜ。俺を誘うんだったら、お嬢ちゃんの力がもっといっぱいある時にしてくれよ。な。

外への誘い
- 外で遊ぶか…、悪くはないかもな。それじゃあ、お嬢ちゃん、どこに行こうか？
  - 公園
  - 森の湖
  - （力がたりない）
  - キャンセル

キャンセル
- 用事はないのかな？
- お嬢ちゃん、どうしたんだい？

趣味イベント

『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

そうだ、お嬢ちゃん。公園にちょっとおもしろい場所があるんだぜ。一緒に行ってみないか？
☞はい
お嬢ちゃんは幸運だぜ。俺のとっておきの場所を分かち合うんだからな。じゃあ、行こうか。
（イベント→私の部屋）
お嬢ちゃんは、さっきのベンチに座ってみたかったのか？だけどあのベンチはな、人目を忍ぶ恋人達のための秘密のベンチと呼ばれているらしいぜ。俺とお嬢ちゃんはそんなんじゃないからな。座る必要はないのさ。…わかったかな？おっと、こんな時間か。これ以上ここに居ると、帰りたくなくなるからな。じゃあな、お嬢ちゃん。
☞いいえ
そうなのか。まあ、お嬢ちゃんとはまた今度行くことにしような。


…座る必要がない…ですか？　それは私達が恋人同士じゃないから？　それとも…公然のカップルだからってこと!?


そんなに大切な剣を持たせていただけたなんて…とっても感動しました！

せっかく来てくれたんだ。俺って男をよく知る為に今日は特別に、俺の大事なものを見せてやろうか？
☞はい
俺の、大事な剣…だぜ。持ってみるかい？見た目より重いから気をつけてな。
（イベント→私の部屋）
あの剣は俺の家に代々伝わっていたものでな、守護聖になったときに譲り受けてきたのさ。以来、この炎のオスカーの精神の象徴になっているといっても過言じゃないな。お嬢ちゃんに喜んでもらえて光栄だったぜ。じゃあな、お嬢ちゃん。
☞いいえ
おやおや。興味ないとは残念だな。ま、いいさ。今日の所はやめておこう。また、気が向いたらな。

可愛いお嬢ちゃんに誘われて、断るわけにはいかないな。じゃ、行こうか。

可愛い女の子の誘いだから断りたくはないが、今日はそんな気分じゃないんだ。悪いな。

（約束あり）公園ねぇ…。あんまり今日は公園に行こうって気分じゃないんだ。悪いな、お嬢ちゃん。

（再訪問）
お嬢ちゃん、悪いが今日は気分が乗らないんだ。

可愛いお嬢ちゃんに誘われて、断るわけにはいかないな。じゃ、行こうか。

お嬢ちゃん、俺は湖に行く気はないんだ。せっかく誘ってくれたのにすまないな。

（約束あり）お嬢ちゃん、今日の俺はそこに行く気はないんだ。悪いが今日の約束はなかったことにするぜ。

（再訪問）
お嬢ちゃん、悪いが今日は気分が乗らないんだ。

でも、お嬢ちゃん、どうもお嬢ちゃんには外に出かけるだけの力が残ってないみたいだぜ。今日は、もう帰って寝た方がいいぜ。

どうした？外へ行くのをやめるのか？
- はい → ん、お嬢ちゃん、俺を部屋に呼びたいのかな？
- いいえ → やっぱり外に行くんだな。フッ、じらして俺を惑わそうなんてところも可愛いもんだぜ。

- はい → 俺の顔を見に来たってわけか…。まったく俺って男は我ながら罪な男だと思うぜ。
- いいえ → 今度は俺の顔に見とれず、きちんと答えるんだぜ。
- どこにしよう → お嬢ちゃんはどうしたいのかな？
- 帰ります… → 帰るのか。仕方ないな。俺の瞳の輝きを思い出したらまた来てく

他の守護聖の執務室
…というわけでな。おっと、お嬢ちゃんか。…じゃあそろそろ俺は帰るからな。じゃあな、お嬢ちゃん。

Oscar 公園



あんまり振り回さないでくださいね

散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

よう、お嬢ちゃん、ここで会うとは偶然って奴も粋なはからいをするもんだな。

◆２度目以降◆

またお嬢ちゃんか。そんなに俺に会いたかったのかい。

☞お願いする

お嬢ちゃんの願い、このハートで受け取った。日の曜日には、俺の心を受け取ってくれよ。

☞やめとく

お嬢ちゃんの瞳にあいさつさせてもらおう。お嬢ちゃんの心そのままの澄んだ美しい瞳に。

◆他に約束あり、力がたりない◆

お嬢ちゃん、熱い想いに言葉が出なかったんだろ。気持ちの整理がついた頃また会おうぜ。

◆平日：約束あり◆

お嬢ちゃん、俺は日の曜日のこと、楽しみにしてるからな。

◆平日お互いに散歩：約束なし◆

お嬢ちゃん、たまにこんな所に来るのも気分転換になっていいな。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

今はロザリアを待っているんでお嬢ちゃんの相手はできないんだ。悪いな。

◆２度目以降◆

ロザリアはまだだ。俺に会うから、いつもよりきれいにしていこうと迷ってるんだろうさ。

◆日の曜日：ロザリアとデート中・約束なし◆

お嬢ちゃん、なにか悩みごとがあったら、すぐ俺のところに来るんだぜ。この炎の守護聖オスカーが力になってやるぜ。

デート中

待ってたぜ、お嬢ちゃん。今日はいつも以上に可愛いな。

公園入り口（デートスタート）

少し歩こうぜ。

◆噴水右まで移動◆

お嬢ちゃんと公園に来ることができてうれしいよ。まずはあちらのベンチに行ってみようぜ。

ベンチの前

…熱い、熱い、本当にお熱いカップルだな。あいつら、いつもここでイチャついてるんだぜ。お嬢ちゃんは二人がうらやましいかな？

☞はい

A. 正直な答だな。思っていることを素直に口に出せるってことはいいことだぜ。

B. お嬢ちゃん、正直に答えてくれてうれしいよ。でもな、俺はあのカップルのまねはしたくないのさ。今日は帰って、また出直すことにするぜ。

☞いいえ

A. お嬢ちゃん、俺の前でなら正直になってほしいな。それとも彼らのまねはしたくないのかな。ま、どっちにしろ、俺たちも負けずにお熱くいこうぜ。

B. お嬢ちゃん、心にもないことを言うもんじゃないぜ。その答えには本当にがっくりしたな。今日はもう帰るぜ。

神鳥の像（右）

そろそろ行こうか。そうだな、あそこに見える鳥の像のところに行こうぜ。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ」

当然さ。俺とアンジェリークなんだからな。

俺は今、お嬢ちゃんとこうして過ごしているがお嬢ちゃんは女王候補…なんだよな。いくら俺がいい男でもときには他の守護聖からも話を聞いた方がいいな。話を聞くとしたらどっちがお嬢ちゃんの好みだい？

☞（正解）

確かに、聞く価値があるよな。お嬢ちゃん、なかなか人を見る目があるぜ。

☞（不正解）

あんなヤツの話が聞きたいのか。お嬢ちゃん、俺は、お嬢ちゃんのことがわからなくなったぜ。悪いが今日はこれで帰るぜ。

ときめきの丘

ところで、女王候補としてのお嬢ちゃんに質問するがな、

A. エリューシオンの人口は〇〇〇人より多いのかな？

☞（正解）

さすがに女王候補だ、よく知っているな。俺はここに来る前にちょっと調べたんだ。もっと俺もエリューシオンのこと、考えるようにするぜ。

☞（不正解）

お嬢ちゃん、悪いが今日はこれで帰るぜ。こんなことを間違うなんてまだまだだな。ま、お嬢ちゃんでもそうなんだから、俺がエリューシオンのことを気にすることはないな。

B. フェリシアの人口は〇〇〇人

より多いのかな？
☞（正解）
ロザリアの育成している大陸のことまで知っているのか。さすがに女王候補だな。俺も見習うことにしよう。な、お嬢ちゃん。
☞（不正解）
知らないのか。こうしたこともちゃんと調べておくべきだな。

C. ロザリアと仲のいい守護聖はどちらかな？
☞（正解）
こいつは感心した。よく知っているな。さすがに女王候補だな。俺も、他の守護聖のことをもう少し知っておかないといけないな。
☞（不正解）
知らないのか。そうだろうな。別に他の守護聖と仲良くやる必要はないのさ。

D. お嬢ちゃんの育てているエリューシオンの建物数はフェリシアの建物数より多いのかな？
☞（正解）
ほう、さすがに当事者だけあって、よくわかっているようだな。やはり女王候補は女王をめざしている方がいいような気がするな。お嬢ちゃん、女王陛下をめざしてがんばれよ。
☞（不正解）
お嬢ちゃんは女王候補だというのに、そんなことも知らないのか。結構、いい加減だな。ちょっと女王候補に対して幻滅したよ。悪いがもう今日は帰るぜ。

女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ」
ご声援ありがとうよ。
これは女王陛下の像だ。陛下はいつも世界全体のことをお考えになっている偉い御方だ。お嬢ちゃんも、そんな女王の候補として選ばれて試験を受けているわけなんだよな。で、どうかな。やっぱり女王候補って大変かい？
☞はい
A. そうだろうな。守護聖だって結構大変なものだからな。でもな、へこたれないでがんばってくれよ。お嬢ちゃんのがんばる姿はかわいいんだからな。
B. ふーん、そうなのか。大変だってことを聞くと俺は、休ませてあげたくなったな。今日はもう帰るぜ。お嬢ちゃんには、元気でいてもらわないといけないからな。
☞いいえ
A. ほう、そいつはすごいな。苦労を苦労と感じないその明るさを、俺も見習わないとな。
B. 本当なのかな。守護聖でも結構大変な仕事なんだぜ。お嬢ちゃんは、まだよくわかってないんじゃないのかな。今日はもう帰るから、よく考えてみな。

神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますからがんばってくださいね」
こんなことを言われたらがんばらないわけにはいけないな。ところでお嬢ちゃん、ちょっと歩き疲れたんじゃないのかな？
☞はい
A. やっぱり疲れていたのか。この近くに休憩できる場所があるんで、もうちょっとつきあってくれよ。
B. お嬢ちゃんもそうか。俺もちょっとくたびれたなと思っていたんだ。じゃあ、今日はもう帰ろうぜ。
☞いいえ
A. そうか。やっぱりお嬢ちゃんは元気者なんだな。それじゃあ、もう少しつきあってくれよ。
B. お嬢ちゃんは元気だな。情けないことに、俺はくたびれてしまったぜ。だからな、悪いがもう帰ることにするぜ。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート中◆
ん？　ああ、お嬢ちゃん、どうやら先客がいるらしいぜ。ジャマしちゃ悪い、行こうぜ。

たたずみドーム

…お嬢ちゃんに、ちょっと話をしてやろう。
A. 女王陛下は主星にいらして宇宙全体を統治していらっしゃるんだ。だからお嬢ちゃんは、定期審査のときぐらいしか女王陛下に会うことができないよな。でもな、女王陛下はお嬢ちゃんたちのことをとても期待しているみたいだぜ。
B. この飛空都市は、新しい世界をより良く導くための、援助や管理を行う施設だぜ。女王陛下のいらっしゃる主星とは次元回廊でつながっているんだ。次元回廊ってのは、王立



でもな、へこたれないでがんばってくれよ。お嬢ちゃんのがんばる姿はかわいいんだからな。

研究院の下にあるでっかい穴が入り口になってるんだぜ。

C. 今の女王陛下が選出されたとき、俺はまだ守護聖ではなかったんだ。そのときの守護聖で、今も守護聖なのはジュリアス様とクラヴィス様、ルヴァの3人だけだ。つまり、俺にとっては女王候補というのはお嬢ちゃんたちがはじめてなんだよ。だから興味もあるし、ぜひともがんばってほしいな。

D. 王立研究院のパスハと占いの館のサラは、俺たちとは違う種族なんだ。異なる文明で育ったためか俺たちとは違う意味で特殊な力を持っているんだ。特にサラは女の子に人気があってな。俺もあやかりたいほどなんだ。

E. 俺たち守護聖の力も永遠のものではないんだ。いつかは力が弱まるときがやってくる。そうなったときには、同じような力を持った者に守護聖の地位を譲るんだ。まあ、できれば、この俺と同じように熱いハートを持ったヤツに譲りたいね。

◆お話終わり◆

…そろそろ行こうか、お嬢ちゃん?

☞はい

→移動

☞いいえ

じゃあ、もう一度話してやるよ。

入り口

すまないが、帰る前にもう少しだけつきあってくれよ、お嬢ちゃん。

ドキドキの木陰

こうして二人きりで木陰にいると、俺でもドキドキしてくるな。これは何といってもお嬢ちゃんがかわいいからだろうな。

☞そんな…

そうやって照れるところもかわいいぜ。このオスカーでもクラッときそうだな。…そろそろ行こうか、お嬢ちゃん。

お花畑

こうして見てみるとお嬢ちゃんには花がよく似合うな。

☞そんな…

うそじゃないさ。花の国からやってきたお姫様のように見えるぜ。信用しな。…そろそろ行こうぜ、花よりかわいいお嬢ちゃん。

噴水の前

この噴水の流れは絶えることがないんだ。まるでお嬢ちゃんの優しさのようにね。

☞そんな…

こんなことは俺よりもエリューシオンの民の方がよく知っていることだろうがな。民のためにも育成の方、がんばってくれよ。…そろそろ行こうか、限りない優しさを持つお嬢ちゃん。

入り口

A. そろそろ帰るぞ。部屋まで送るからよ。

B. そろそろ帰ろう。部屋まで送らせてくれよ。お嬢ちゃんともう少し話したいんでな。

C. そろそろ帰ろう。お嬢ちゃん、部屋まで送らせてもらうぜ。

もう少し宝石のように輝くお嬢ちゃんのきれいな瞳を見つめていたいんでな。

私の部屋へ

A. お嬢ちゃん、今日は本当に楽しい時間をありがとう。お嬢ちゃんのその美しい瞳に、また俺の姿を映してくれる日のことを楽しみにしているぜ。じゃあな。

B. 今日は楽しかったな。これはお嬢ちゃんがお相手してくれたからだろうな。また一緒に行きたいものだぜ。じゃあな。

C. お嬢ちゃん、今日はお互い物足りなかったな。また今度一緒に公園に行こうぜ。俺は楽しみにしているからな。じゃあな。

デートトラブル!

ひっどーい!これって二股!?

◆平日：ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. お嬢ちゃん、落ち着いてくれ。確かにロザリアとは約束していたが、気が変わった。ロザリア、悪いが約束はなしだ。またそのうちにな。

B. …その、なんだ。男の甲斐性ってヤツかな。……わかった。俺が悪かった。だから今日は、もう帰るぞ。



そうやって照れるところもかわいいぜ。このオスカーでもクラッときそうだな。



そういうわけか。俺は両天秤にかけられるのは嫌いでな。今日はもう帰るぜ。

次の日の曜日に約束している守護聖様がいる!

◆平日：他の守護聖様に約束をほのめかされて◆

お嬢ちゃん、今の話はどういうことなのかな？

☞正直に言う

A. そうだな…いろんなヤツから話を聞いた方がいいからな。おもしろい話があったらそのうち俺にも教えてくれよ。

B. …お嬢ちゃん、俺と楽しく過ごしているときに他のヤツとの約束の話なんか、しないでくれよ気分が台無しだ。今日はもう帰るぜ。

☞やめとく

A. まあ、いいさ。今度の日の曜日のことなんてな。お嬢ちゃんは、今は俺とこうやって、楽しく過ごしているんだからな。

B. すっきりしないな。なんか気分がしらけてしまったぜ。今日はもう帰るぜ。

まさか！オスカー様が…

◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

見つかってしまったな。悪いな、ロザリア。

☞もう帰る！！

A. おいおい、お嬢ちゃん。帰るなんて言わないでくれよ。

B. お嬢ちゃんが、そう言うのなら仕方ないな。残念だが帰ることにしよう。

☞そこまでは…

A. 怒って帰ったのがお嬢ちゃんじゃなくて俺はうれしいぜ。

B. お嬢ちゃん、すまないが今日はもうここまでだ。

きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中◆

今日は俺と約束していたと思うが…俺は、ふられちまったってわけだな。冗談きついぜ、お嬢ちゃん。

☞あやまる

A. かわいい女の子にふられるのは男の勲章さ。でも今度は約束を守ってくれよ。

B. お嬢ちゃん、約束を破るのは、いけないな。俺はうそつきは嫌いだぜ。

☞ごまかす

A. そうだったかな？何しろ予定が多いんでな。ひょっとしたら俺の勘違いかもな。さてと、俺は帰るぜ。じゃあな、お嬢ちゃん。

B. お嬢ちゃん、約束を破るのは、いけないな。俺はうそつきは嫌いだぜ。

あっ！今日は○○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：オスカー様とデート中◆

お嬢ちゃん、今の話はどういうことなのかな？

☞あやまる

A. よく正直に言ったな。そんなお嬢ちゃんの純で素直な心根は大事にしなよ。

B. そういうわけか。俺は両天秤にかけられるのは嫌いでな。今日はもう帰るぜ。

☞ごまかす

A. あんまりお嬢ちゃんがかわいいから記憶が混乱したのかもな。まったくお嬢ちゃんも罪作りだな。

B. そういうわけか。俺は両天秤にかけられるのは嫌いでな。今日はもう帰るぜ。

ひっどーい！約束してたのにー

◆日の曜日：ロザリアとのデートに遭遇◆

悪いな、男には男の事情ってやつがあってね。また気が向いたら誘ってくれよ。



他の守護聖様とデート中

たたずみドームの前

◆通常◆

お嬢ちゃん、今日もかわいいな。それに…おあついな。

☞そんな

お嬢ちゃん、照れることはないぜ。悔しいが、なかなかお似合いだぜ。

☞うふふ

今度は、俺にお嬢ちゃんの相手をさせてくれよ。

◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

見つかっちまったな。今、ロザリアを待っている所なんだ。

たたずみドーム内

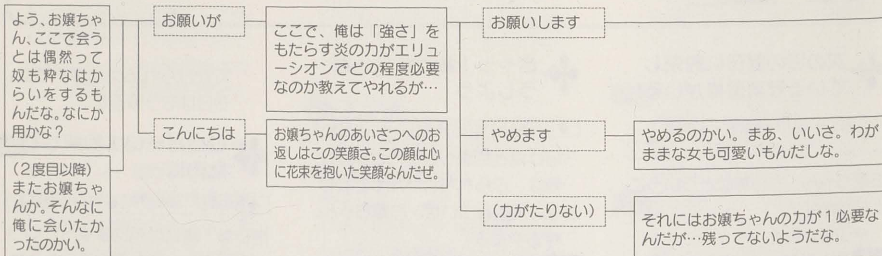
◆日の曜日◆

ロザリア…？と思ったけれど違ったな。ロザリアを待ってるんだがまだ来ないんだぜ。きっと俺に会うためにおめかししているに違いないな。

オスカー …王立研究院

Oscar 王立研究院

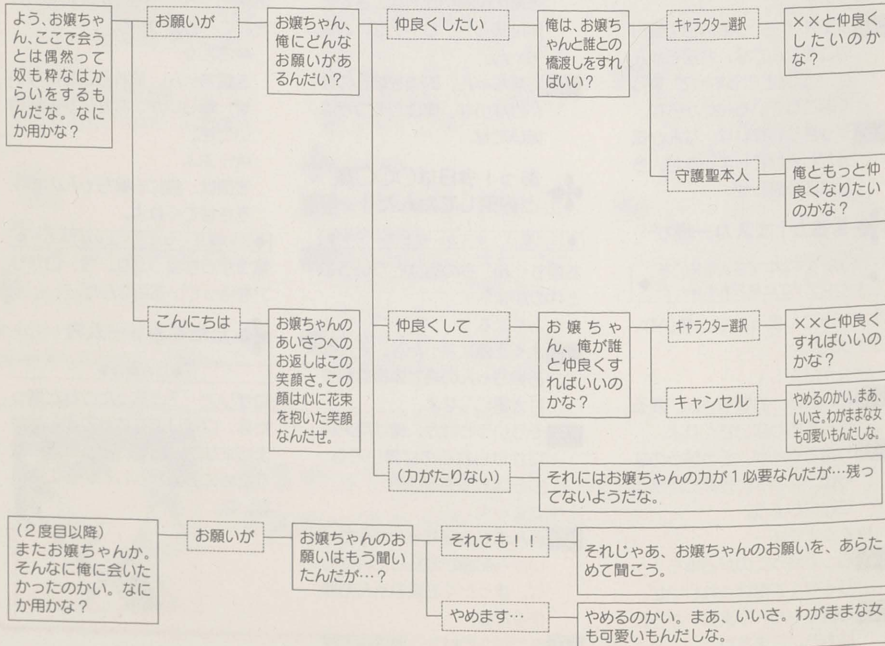
炎の「強さ」はどのくらい必要ですか？



オスカー …占いの館

Oscar 占いの館

こんなステキな偶然は何度でもあるといいな



エリューシオンでは人々に「強さ」を与える炎の力を、〇〇必要としているな。

俺の力は、あと〇〇程度必要だな。

俺は今までに〇〇の力を贈ったぜ。この力はエリューシオンの〇番目の勢力だな。

そうだな、強さも必要とされているみたいだな。ってことは、俺の力を贈っておいた方がいいな まあ、俺の顔が見たくなった時にでも、やって来ればいいさ。力を贈ってやるぜ。

…エリューシオンでは人々に「強さ」を与える炎の力が、とても求められているぞ。エリューシオンの発展を望むのなら、近いうちに俺のところに来るんだな、お嬢ちゃん。

残念ながら、俺の力は必要ないみたいだな。エリューシオンの育成のためには他の力を贈った方が効果的だぜ。

今度は望みの予測を見るといいぜ。

参考にしてくれよ

ええ！ — お嬢ちゃんのお願い、覚えておくぜ。

いいえ！ — 俺は、お嬢ちゃんと誰との橋渡しをすればいい？

キャンセル — お嬢ちゃん、お願いをやめるのかな？
- はい — やめるのかい。まあ、いいさ。わがままな女も可愛いもんだしな。
- いいえ — 俺は、お嬢ちゃんと誰との橋渡しをすればいい？

ええ！ — お嬢ちゃんのお願い、覚えておくぜ。

いいえ！ — 俺は、お嬢ちゃんと誰との橋渡しをすればいい？

キャンセル — お嬢ちゃん、お願いをやめるのかな？
- はい — やめるのかい。まあ、いいさ。わがままな女も可愛いもんだしな。
- いいえ — 俺は、お嬢ちゃんと誰との橋渡しをすればいい？

ええ！ — お嬢ちゃんのお願い、覚えておくぜ。一応、な。

いいえ！ — お嬢ちゃん、俺が誰と仲良くすればいいのかな？

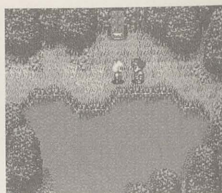
ええ！ — やめるのかい。まあ、いいさ。わがままな女も可愛いもんだしな。

いいえ！ — お嬢ちゃん、俺が誰と仲良くすればいいのかな？

Oscar

恋愛イベント

私、きっとキレイになってみせます！



第1段階

◆森の湖◆

「デートってのも悪くないんだけどね、お嬢ちゃん。俺はお子様は相手にしないことにしてるんだ。そうだな、もうあと2、3年たったら、喜んでお相手させてもらおう。も少し育てばお嬢ちゃんもあでやかになってとびきりのイイ女になるかも知れないしな。お嬢ちゃん、ちょっと顔をよくみせてみな。ほう、結構タイプだぜ。先が楽しみだな」

◆私の部屋◆

「わざわざ送っていただいてありがとうございました」

「礼は要らないんだぜ。紳士として当然だろ。それより俺とのデートでご満足いただけたかな？」

☞「…はいっ！」①

「お嬢ちゃん、ひょっとして俺に気があるのかい？」

☞「…はいっ！」②

「こりゃあ正直だな。俺も正直なのは嫌いじゃない。ただ俺にほれてヤケドしないように気をつけな」

「オスカー様って、ホントにかっこいい！ワイルドでキザで、それでいて優しいのね」

☞「いいえ…」①②（共通）

「意外ときついな。ちょっと残念だぜ。ま、お嬢ちゃんではまだ俺の魅力がわからないんだろうがな」

「…うまく言葉で伝えることができなかったわ」



第2段階

◆森の湖◆

「俺と『恋人達の湖』に来るなんて、まったくこりないお嬢ちゃんだな、あんたは…。まあ、いいか。俺も可愛い女の子とデートして悪い気はしないからな。ところで、お嬢ちゃんとロザリアは次の女王陛下の座を目指して試験を受けているんだよな。試験の結果、どちらが女王陛下になっても、俺は精一杯協力するぜ。それが守護聖の使命だ、なんてな。実は、俺は女性の願いをかなえずにはいられないタチでね。女王陛下のためにもできる限りのことをしたいのさ。しかし、お嬢ちゃんが女王候補だなんて、俺には今でもピンとこないな。女王陛下は優雅で気品があって慈愛に満ちた御方でな…どうもお嬢ちゃんとは違うんだ。でも人を明るくしてくれるところなんかはどことなく似てるな。お嬢ちゃんも磨けば光ると思うぜ」

◆私の部屋◆

「今日はいろいろなお話が聞けて、とっても楽しかったです」

「いきなり女王候補になって戸惑ったろうが、そろそろ慣れてきて他の守護聖とも話してるみたいだな。お嬢ちゃんを誘う奴も多いだろ？」

☞「そうかも」

「そうか、連中も隅におけないな。お嬢ちゃんもなかなかやるじゃないか、お嬢ちゃんに本気になっていそうな奴はいるかい？」

☞「そんなぁ！」「いいえ…」

「それじゃ仕方ないな、お嬢ちゃん。もっと自分を磨く努力をした方がいい。俺がつきっきりで、アドバイスしてやってもいいぜ。もちろんお嬢ちゃんが望むんならな」

「オスカー様が、私につきっきりで!?」

☞「…はいっ！」

「じゃあ、俺は手を引こう。人のエモノに手を出すほどがっついちゃいないんでね」

「オスカー様ってば他の人を理由にするなんてあまり私の事を好きじゃなかったのかしら」

告白

◆森の湖◆

「オスカー様、私、あなたのことが好きなんです」
「おいおい、お嬢ちゃん。いいのかい？　お嬢ちゃんは女王の座より俺を選ぶって言うんだな？」
☞「…はいっ！」
「困ったお嬢ちゃんだな。だが嫌だって訳じゃない、正直言ってうれしいんだ。アンジェリーク。まだ子供だと思ってたのに…ま、たまには、サナギが蝶になるまでを見守るのも悪くはないかな」

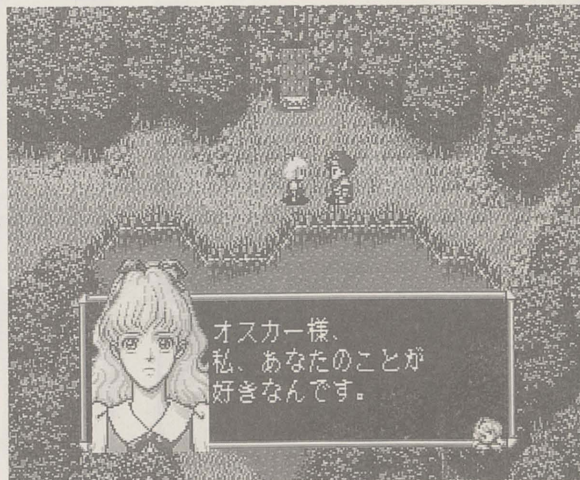
☞「いいえ…」
「その覚悟がないときには言うもんじゃないぜ。ま、今日の所は何も聞かなかったことにしておこう」

◆失敗◆

「俺にほれちゃいけないって言っただろ？お嬢ちゃんにはもっと似合いの男がいるさ」

◆私の部屋◆

「お嬢ちゃんの今の気持ちはうそじゃないだろうけど、俺に対してじゃなくて恋に恋しているだけさ。いつかは本気の恋をする時が来る。お嬢ちゃんの幸せな未来を願ってるよ」



力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

じゃあ、女王候補たちの望みのままに俺たちの力を贈るぞ。

アンジェリークのいう通り俺の炎の力で、「強さ」をエリューシオンに与えてやるぜ！！
アンジェリークのいう通り俺の炎の力で、フェリシアの「強さ」を奪ってやる！
俺の炎の力の「強さ」をフェリシアから奪う！
俺の炎の力を贈って、アンジェリークに「強さ」をアピールしてやるぜ！！
炎の力よ、エリューシオンの人々に「強さ」を与えるんだ！
フェリシアから人々に「強さ」を与える、炎の力を吸い取ってしまうぞ。

少し贈るから、受け取ってくれよ。
たくさん贈るから受け取ってくれよ。
少し「強さ」がなくなるぜ覚悟しな。
たくさんなくなるぜ、覚悟しな。

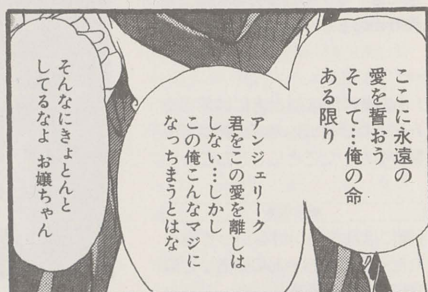




杉山志保子

オオカミな青年









オスカー様の手ほどき



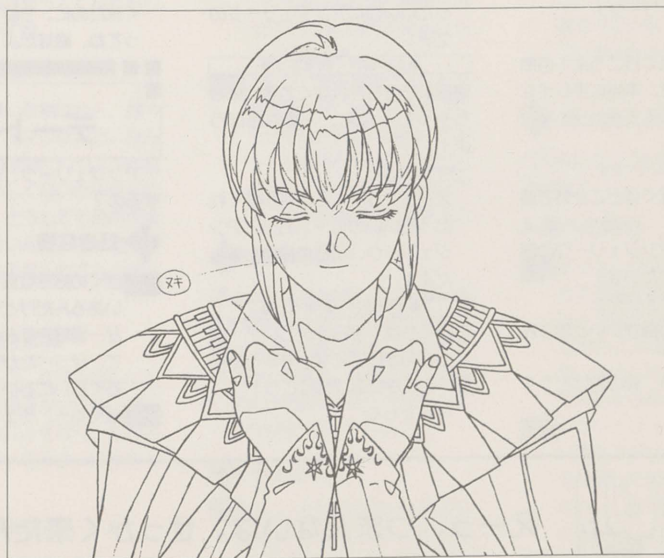






メッセージ♥テスト〈オスカーへの答え 1B 2B 3B 4C 5B 6C 7B 8B 9C 10D-A-C-B

ACT. 6
マルセル編



Marcel

私の部屋



もちろん私も遊びたいんですけど…

デートのお誘い

よろこんで！（共通）

◆通常◆

うん、ぼくだってすっごくうれしいよ。だって、アンジェリークと一日中一緒なんだもん！じゃあ、今日は何して遊ぼうか？

☞外へ行きたい

アンジェリークはどこに行きたいの？

☞公園

公園って、いつも人がいてにぎやかで楽しいよね！早く行こうよ、アンジェリーク！

☞森の湖

そう？じゃ早く行こうよ！自然がいっぱいで、本当にキレイな場所なんだよ！

☞キャンセル

a.どっちでもいいです

A.あのね、ぼくはどこか外で遊びたいな。

B.ぼくは、アンジェリークの部屋で話してたいな！

b.あなたの好きな所で

A.ぼくは、公園がいいと思うんだけど…？

B.そう？じゃ、森の湖はどう？

ごめんなさい…

◆平日：約束あり◆

あのね、アンジェリーク。日の曜日まで待ちきれなかったんだ。今日これから遊びに行かない？

☞ことわる

あ…そう、そうだね、約束は日の曜日だもんね。あーあ、日の曜日が待ちどおしいな！

◆平日：約束なし◆

あ、こんにちは！今日は何をするつもり？ぼくはアンジェリークと一緒にいたいんだけど！

☞ごめんなさい

えーっ、つまんないな。せっかく来たんだもん、遊んでくれたっていいのにアンジェリークのケチ！

◆土の曜日：約束あり◆

明日まで待ちきれなくて誘いにきちゃった！ねえ、一緒に遊ぼうよ！

☞ことわる

えーっ、今日くらい遊んでくれたっていいのに…。もう、アンジェリーク、明日の約束もなしだよ！

◆土の曜日：約束なし◆

こんにちは！今日は忙しい？　ぼく、なんかヒマになっちゃったんだ。どこかに遊びに行こう！

☞ことわる

えー、そうなの？それじゃ仕方ないや。遊びに行くのは今度にとっておくね。

◆日の曜日：約束あり◆

アンジェリーク、約束は今日だったよね。ぼく、迎えに来ちゃったよ！

☞ごめんなさい

えーっ行けなくなったの？ぼく、せっかく迎えに来たのに、ひどいや、アンジェリーク！

◆日の曜日：約束なし◆

アンジェリーク！今日は約束してなかったけど、せっかくの日の曜日だし一緒に遊ぼうよ！

☞ごめんなさい

えー、だめなの？ぼく、せっかく来たのに。今度はうんって言ってね、絶対だよ！

デート中

…アンジェリーク、どんなお話をするの？

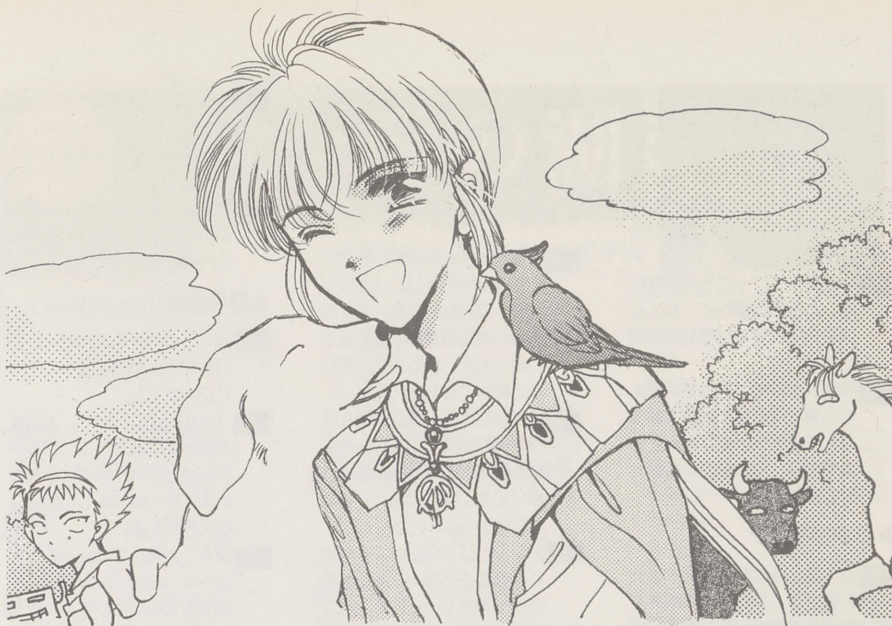
好きな物

A.ぼくの好きな食べ物はいっぱいあるんだけど中でもプリンが一番好きなんだ。プリンって、ほっぺたが落ちそうになるくらいにおいしいんだよ。

B.ぼくねー、チェリーパイが大



えーっ、つまんないな。せっかく来たんだもん、遊んでくれたっていいのにアンジェリークのケチ！



好きなんだ。だっておいしいんだもん。ぼく、チェリーパイをはじめて作った人に感謝してるんだよ。こんなにおいしいものを作ってくれてありがとうってね。

嫌いな物

A. ぼくの嫌いな物はねー、食べ物だとピーマンなんだ。なんで嫌いなのかっていうとねー、おいしくないからなんだ。

B. ぼくは、どうしても鳥肉が食べられないんだ。だって鳥さんを食べるなんてこと…ぼくには…。

理想の女性像

アンジェリーク、ぼくは優しくて動物好きな女の子がいいな。アンジェリークのことをぼく、そんな女の子だと思ってるよ。言っちゃった…はは。

苦手な女性像

苦手な女性像！？うーん…あ、そうだ。ぼく、心の冷たい人はきらいだよ。やっぱり、思いやりってものが大事だと思うんだ。

趣味の話

A. ぼくの趣味はねー、動物と遊ぶことだよ。ははは、おかしい？でも、ぼくは、動物と遊ぶのが大好きなんだもん。やっぱり趣味だよ。

B. ぼくは、草花を育てることが好きなんだ。とってもとっても大好きなんだ。植物ってねー、愛情をそそいでやると、それにこたえてくれるんだよ。だから育てがいがあるよ。

故郷のこと

ぼくの生まれた星のことを思い出すときに、一番に目に浮かぶのは、緑いっぱいの野山だよ。ぼくの生まれ育った星は、それくらい自然に恵まれた星なんだ。だから、とっても空気がおいしいんだよ。

身近なこと

A. ぼく、動物や植物が大好きなんだ。アンジェリークには前にも言ったかな？言葉は通じないかもしれないけれど気持ちはね、通じ合わせることができるんだよ。

B. ぼくはね、よく甘えん坊だって言われるんだ。自分ではそう思っていないんだけどね。でもみんなに言われるから本当なのかなって思っちゃうんだ。やっぱり守護聖の中で一番年下だから、みんなに甘えているのかもしれないね、ぼく。

物の考え方

どんなことについての考えを聞きたいの？

▶星への関心

A. エリューシオンのこと、ぼく、とても好きなんだ。アンジェリークは女王候補なんだからちゃんと発展させてあげてね。きっとだよ、ぼく、信じているからね。

B. アンジェリークががんばっているとエリューシオンのことを応援したくなるんだ。がんばれー、がんばれーって感じだよ。

C. うーんとね、ぼく、それには、全然興味ないんだ。

▶女王候補の事

A. ぼくは、女王候補として一生

懸命がんばっているアンジェリークってえらいと思うよ。何たってエリューシオンを育成しているんだもん。責任重大だよね。いろいろ悩んだりするかも知れないけれどがんばってね。

B. 守護聖ってけっこう大変なんだ。女王の仕事って、もっと大変みたいだよ。でもがんばってね。

C. 守護聖ってね、思っていたより大変な仕事なんだよ。女王なんて、もっともっと大変なんだから、やめといた方がいいと思うよ。

▶仕事は好きか

A. ぼくは、守護聖の仕事って大好きだよ。だっていろんな人をぼくの力で、幸せにできるんだもん。

B. ぼく、守護聖の仕事が、大好きってわけじゃないけれど、嫌いじゃないよ。アンジェリークが、ぼくの力を使ってくれるとうれしいな。

C. 本当のこと言うとねー、ぼく、嫌いなんだ、守護聖の仕事って。だって、とってもめんどうなんだもん。

▶仲間への関心

A. 守護聖のみんなはね、とてもいい人ばかりだよ。だから、ぼく、みんな好きなんだ。中には、乱暴な言葉を使う人もいるけれど、ぼくが困っていると助けてくれるんだ。

B. 話が合う人もいれば、あんまり合わない人もいるよ。でも、ぼくはできるだけみんなと仲良くしたいなーと思っているんだ。

C. アンジェリークだけに本当のことを言うとねー、あんまり好きじゃないんだ　だって、ぼくのこと、みんな子どもあつかいするんだもん。

▶外は好きか

A. ぼくはね、外に行くのが大好きなんだ。部屋に閉じ込もっていても楽しくないもんね。

B. ぼくねー、たまには外で遊びたいなーって思うんだよ。外でハネをのばすのも楽しいと思うよ。

C. ぼくねー、外に行くのは好きじゃないんだ。だって疲れるもんね。

▶話は好きか

A. ぼく、お話するのはだ――い好きだよ。だってとっても楽しいんだもん。

B. うーん…ぼくはねー、お話するのって大好きってわけじゃないけど、嫌いってこともないよ。やっぱり楽しいお話なら大好きだよ。

C. ぼく、お話しするのって好きじゃないんだ。みんな、ぼくを子どもあつかいするんだもん。アンジェリークは、そんなことしないでね。お願いだよ。

…これくらいでいいよね？じゃあ、ぼく、帰るから。バイバイ。



Marcel

森の湖



自然がとってもお似合いですね

散歩中

あっマルセル様だわ

◆通常◆

あ,アンジェリーク!!偶然だね!

A. ぼくね、自然て大好きなんだ。だからここはとっても好きな場所なんだよ。

B. ぼくね、きれいな自然って大好きなんだ。だからね、ここもね、大好きなんだよ。

約束しちゃおっかな

☞お願いする

日の曜日、他に予定はないの?

☞はい

うん、わかったよ。ぼく、楽しみにしてるね!

☞いいえ

あれ、何かおかしいよ、アンジェリーク。ぼくに、ちゃんと言ってほしいな。

☞やめとく

こんにちは!!アンジェリークに会えてぼく、とってもとってもうれしいよ。

◆平日:約束あり◆

日の曜日の約束、ぼく、とっても楽しみにしてるから、忘れないでね。

祈りの滝

滝にお祈りしてみようかな?

☞そうしよっと

あ,アンジェリーク!!偶然だね!

☞会いたかった

本当?ぼく、うれしいよ。ぼくもアンジェリークに会いたかったんだ。お互いにラッキーだね。はははは。

☞偶然ですね

こんにちは!アンジェリーク!!がんばってね. ぼく、応援するよ。

デート中

ロマンチックだわ

A. アンジェリークと一緒だとこの風景がいつもよりも一段ときれいに見えるよ。アンジェリークって周りまで、きれいに見せちゃうんだね。

B. アンジェリークと、ここにやって来ると、いつもより周りの緑が元気になる気がするんだ。きっと木や草花もアンジェリークのやさしさを感じるからだと思うよ。

C. アンジェリークとここでお話しするのが、ぼく、とっても好きなんだ。なんでかっていうとね、とっても楽しい気分になるからだよ。だから今もとても楽しい気分だよ

パシャッ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい

はははは。でもこういうところの水の冷たさって気持ちいいんだよね。

どこまで行けるかな?

☞ここから先は行けないのね

あのねー、そこから先は行っちゃダメなんだよ。戻っておいでよ。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

もう帰っちゃうの?

☞はい

帰るんだね。じゃあ、ぼくが部屋まで送ってあげるよ。

◆私の部屋◆

アンジェリーク、今日はとっても楽しかったね。また行こうね。じゃあね、バイバイ。

☞いいえ

もっと遊んでいこうね。だってここってもきれいなんだもん。

デートトラブル!

Wブッキング!!

◆日の曜日:他の守護聖様とデート中、約束中の守護聖様がロザリアとツーショットで出現!◆

A. そうだったっけ?でも、今、ぼく、アンジェリークと一緒だから、もういいよ。

B. あー、アンジェリークとも約束してたんだよね。ぼく、すっかり忘れちゃっていたよ。でもアンジェリークも楽しそうだね。じゃあ今度またね。

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日:散歩中◆

アンジェリーク、育成の方はうまくいってるの?ぼくにできることなら何でもやってあげるよ。

◆日の曜日:ロザリアとデート中◆

こんにちは!!アンジェリーク。がんばってね。ぼく、応援してるから。

Marcel

執務室

うれしい！私も大好きですっ！

平日

アンジェリーク？君ってぜんぜん女王様候補って感じがしないや。なんか、変な感じ！！

いらっしゃい！アンジェリーク。大陸の方は順調に発展してる？

ぼく、前からずっと思ってたんだ。君になんかしてあげたいなー…って。

ふふふ、なんか、君がここにいるのって、変な感じ！ちょっと、うれしいな。

いつも一緒にいられないのって、すごくさびしいな。でも、仕方ないんだよね。

やっと来てくれたんだね、アンジェリーク!!だって大好きなんだもん、いっぱい待ったんだよ！

- ぼくになんの用事？
  - 力を貸して
    - ぼくの力がいるんだね。それで、どうしたいの？
      - 育成
        - どのくらいの力を贈ればいいの？
          - 少し
          - たくさん
          - (力がたりない)
      - 妨害
        - どのくらいの力を奪えばいいの？
          - 少し
          - たくさん
          - (力がたりない)
  - 話に来た
    - 何の話をするの？
      - 私のこと
        - アンジェリークのこと？そうだなあ
          - アンジェリークの大陸はエリューシオンだったね。きっと一生懸命育てていると思うけど、エリューシオンを育てるのって楽しいの？ ●
          - アンジェリークはどこかに行くのって好き？ ■
          - アンジェリークって本当に女王になりたいの？ ◆
          - アンジェリークはまじめに試験を受けているの？ ♥
          - アンジェリークは女王候補なんだよね。やっぱりさあ、ロザリアのことやぼくたち守護聖のことが気になるの？ ♠
          - アンジェリークはいろんな人とお話をしているんだろうね。人とお話をすることが好きなの？ ♣
            - はい！／いいえ！
      - (力がたりない)
        - それにはアンジェリークの力が2必要なんだ。あれ、もうその力が残ってないみたいだよ。

①へ

②へ



★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方
各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次（右どなり）のブロックの中からいずれか（14通りあります）の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

少し育成するんだね、任しといてよ。

たくさん育成するんだね、任しといてよ。

それにはアンジェリークの力が（2／4）必要なんだ。あれ、もうその力が残ってないみたいだよ。

少し妨害するんだね、ぼく、忘れないよ。

たくさん妨害するんだね、ぼく、忘れないよ。

それにはアンジェリークの力が（2／4）必要なんだ。あれ、もうその力が残ってないみたいだよ。

やっぱり！！　ぼくの思ったとおりだよ。

ンジェリークもそうなんだ。ぼくたち、気が合うね！

ぼくがアンジェリークでもきっとそう答えるよ！…だってね、

やっぱりそうなんだ。あははは。

やっぱりそうだろうね。ぼくもそうだろうなって思ったもん。

アンジェリークもそうなんだ。ぼくと同じだね。ぼくたち、気が合うね！

ぼくがアンジェリークでもそう答えるよ！！

えーっ！！そうなの？ぼく、意外だよ。

えーっ！そうなの？ぼくとは違うんだね。

ふーん、そうなんだ…。でもね、

えー！　アンジェリークはそう考えていたの？ぼくとは違うんだね。

アンジェリーク、そんなんじゃ女王になれないよ。もっとがんばってよ。

あれえ、そうなの？ぼくとアンジェリークの考えって、少し違うんだね。

ふーん、そうなんだ…。

●
- …なにかを育てることって、とっても楽しいよね。そのうえエリューシオンの育成では育てる側の思いを受けとめてくれる人たちがいるんだからね。
- …エリューシオンの民ってアンジェリークに頼りっきりなんでしょ？そんなのを育成するのは楽しくないと思うな。

■
- …ぼくはね、執務室にいるよりも、やっぱり外に出て明るい陽の光を受ける方が好きなんだ。
- …アンジェリーク、ぼくはねえ、部屋でのんびりしているのが好きなんだ。

◆
- 女王陛下は、とてもすばらしい方なんだ。アンジェリークも女王候補なんだからがんばって、あんな風になってよ。
- …女王って、とっても大変みたいなんだもん。ぼくなら、女王にはなりたくないな。

♥
- やっぱり、手抜きをしたり、不まじめだったりするのはいけないことだと思うんだ。
- …いつもまじめだと疲れちゃうよ。ある程度は適当にやってもいいんじゃないかな。

♠
- ぼくは、他の人たちがなにをやっているのかを知るのって大事なことだと思うんだ。それがわかると、自分がなにをやるのか決めるときに役立つからね。
- みんな、自分で考えて何をやるのか決めてると思うんだ。だから気にしなくていいんじゃないかな

♣
- …ぼくは、いろんな人とお話しするのって、とってもおもしろいと思うよ。
- …ぼくはね、ダラダラとした長話ほど、もったいない時間の過ごし方はないと思うよ。

今日のお話で、ぼくはアンジェリークのことが今までより、もっとわかるようになったと思うよ。

①

②

人のうわさ

誰の話をするの？

キャラクター選択

アンジェリークのことを話すの？アンジェリークのこと？そうだなあ…

ロザリアのことを話すの？ロザリアのこと？うーん…

××のことを話すの？××のこと？うーん…

キャンセル

今回のお話はやめにしちゃうの？

キャンセル

用事はないの？

はい

そうなの。じゃあ、またね、アンジェリーク。

いいえ

じゃあ、もう一度聞くね。

(再訪問)
また会えたね！アンジェリーク、今日はなんだかよく会うね！

アンジェリーク、もう育成の依頼は、聞いてるよ。前の依頼を取り消すの？

アンジェリーク、もう妨害の依頼は、聞いてるよ。前の依頼を取り消すの？

はい

じゃあ、ぼく、前の依頼のことは忘れちゃうからね。

いいえ

じゃあ、前の依頼のままにしておくからね。

アンジェリークってさ、すごくかわいいから、ぼく会えるのをいつも楽しみにしているんだ。だからどんどん会いに来てね。

アンジェリークには女王候補試験をがんばってほしいな。

ぼくを子どもだと思ってるんでしょ。そんなアンジェリークって嫌いだよ。

ぼくが話せることはこれくらいだよ。アンジェリーク、参考になった？

ロザリアのことはぼく、大好きなんだ。だってやさしいからね。

ぼく、あの人のこと、嫌いじゃないよ。もっと仲良くなれたらいいなって思ってるんだ。

ぼく、ロザリアのこと嫌いなんだよ。ぼくのことを子供あつかいするんだもん。

ぼくが話せることはこれくらいだよ。アンジェリーク、参考になった？

××のことはぼく、大好きなんだ。だってやさしいからね。

ぼく、あの人のこと、嫌いじゃないよ。もっと仲良くなれたらいいなって思ってるんだ。

ぼく、××のこと嫌いなんだよ。ぼくのことを子供あつかいするんだもん。

アンジェリークってとっても気に入られているみたいだよ。

アンジェリークのことは好きでも嫌いでもないみたいだよ。

アンジェリークのことは、嫌いみたい。

そういえば、女王陛下のお話をするときは、すごく真剣な目をしてるみたい。だから、試験をがんばれば仲良くなれるんじゃないかなって思うよ。

あと、ぼくが知ってるのは…あ、そうだ。とっても話好きな人なんだよ。

…そういえば他の守護聖の行動を気にはしないみたいだよ。

…そういえば、あの人っていつも他の守護聖の行動を気にしてるみたいだよ。

…そういえば、自分の執務室でのんびりしているのが好きなタイプみたいだよ。

…そういえばねエリューシオンのことにはまるで興味がないみたいだったよ。

…そういえば、エリューシオンのことをとっても気に入っているみたいだよ。

…そういえば、あんまり女王候補のことに興味がないみたいだよ。

そしてね、じっとしているよりは動き回っている方が好きな性格だよ。

…そういえば、人とお話しすることが嫌いみたいだよ。

あとね、ぼくが見ても行き当たりばったりで行動することが、よくあるんだよ。

…そういえば、いつも理由を持って行動しているって感じかな。

ぼくが話せることはこれくらいだよ。アンジェリーク、参考になった？

日の曜日

アンジェリーク、こんにちは！！

- 今日は日の曜日だから、育成や妨害はできないんだ。アンジェリーク、何しに来たの？
- 今日はアンジェリークと約束していた日だよね。どうしようか。

部屋への誘い
- うん、わかった。ぼく、アンジェリークの部屋に行くね。
- …せっかくだけど、アンジェリークの部屋にぼくが行くのはよくないんだって。ぼく、なぜだかはよくわからないけど今回は行かないよ。
- …アンジェリーク、守護聖は、女王候補の部屋に行くようなこと、しない方がいいんだって。ぼく、よくわからないけど今回は行かないよ。今日の約束もなかったことにしてね。
  - （再訪問）ごめん、アンジェリーク。今日は遊ぼうって気分じゃないんだ。
- （力がたりない）
  - でも、アンジェリークにはぼくを部屋に呼ぶ力が残ってないみたいだよ。今度は、もっと力がある時に呼んでね。

外への誘い
- 今から二人で外に行くの。楽しそうだね。アンジェリーク、どこに行くの？
  - 公園
  - 森の湖
  - （力がたりない）
  - キャンセル

キャンセル
- 用事はないの？
- どうしたの？アンジェリーク。

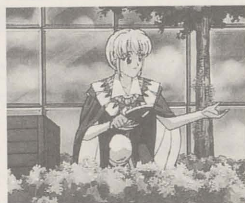
趣味イベント

『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

今、チュピが外に行きたいって言ってたんだよ。アンジェリークも一緒に外に遊びに行く？
☞はい
わぁい。早く行こうよ！
(イベント→私の部屋)
さっきのはね、きっとチュピがみんなを連れてきてくれたんだよ。ね、やっぱりチュピはアンジェリークのこと好きなんだよ！じゃ、チュピが眠いって言っているから、そろそろ帰るね。お休みアンジェリーク。
☞いいえ
えー、行かないの。じゃあ、チュピと一緒に出かけるから、バイバイ。



チュピのおかげでまた仲良くなれたけど…もう帰っちゃうなんて、まだ私よりチュピの方が大事なのかしら？



お手伝いできてうれしかった。これからもいっしょにお花を育てていきたいな♥

ちょうどよかった。これから、花壇の手入れをするところなんだけど、一緒にやらない？
☞はい
うれしいな！！じゃあ、道具を運んでくるね！
(イベント→私の部屋)
ううん。ぼくの方こそとっても助かっちゃった。でも、今日植えた球根からどんなきれいな花が咲くかとっても楽しみだよね！
☞いいえ
ふうん。じゃ、ぼくは花壇の手入れするから帰ってね。

じゃあ、早く行こうよ、アンジェリーク。

ぼくはね、今日は公園に行こうなんてまるで思わないんだ。ごめんね。

あのね、ぼく、今日は公園に行こうって気分じゃないんだ。ごめんね。

(再訪問)
ごめん、アンジェリーク。今日は遊ぼうって気分じゃないんだ。

じゃあ、早く行こうよ、アンジェリーク。

ぼく、そんなところに行く気はないよ。ごめんね。そのうち、また誘ってよ

ぼく、そんなところに行く気はないんだ。だから行かないよ。今日の約束はなかったことにするからね。

(再訪問)
ごめん、アンジェリーク。今日は遊ぼうって気分じゃないんだ。

でも、アンジェリークには遊びに行くだけの力が残ってないみたいだよ。今日は、もう帰って寝た方がいいよ。

外へ行くの、やめちゃうの？
- はい — じゃあ、アンジェリークの部屋で遊ぶの？
- いいえ — やっぱり外に行きたいんでしょ、アンジェリーク。

- はい — そうなの。じゃあ、またね、アンジェリーク。
- いいえ — じゃあ、もう一度聞くね。

- どこにしよう — うーんと…、やっぱりアンジェリークが決めてよ。
- 帰ります… — 帰っちゃうの。ぼく、楽しみにしてたのに…でも仕方ないね、用事があるのなら。

他の守護聖の執務室

…なんだって。あれ、アンジェリーク。…それじゃあ、ぼくは帰るからね。じゃあ、アンジェリーク、バイバイ。

Marcel

公園



ちょっぴりお姉さんの気分です

散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

あ、アンジェリーク!!偶然だね！

◆2度目以降◆

また会えたね！！アンジェリーク、今日はなんだかよく会うね！

☞お願いする

うん、わかったよ。ぼく、楽しみにしてるね！

☞やめとく

こんにちは！！アンジェリークに会えてぼく、とってもとってもうれしいよ。

◆他に約束あり、力がたりない◆

あれ、何かおかしいよ、アンジェリーク。ぼくに、ちゃんと言ってほしいな。

◆平日：約束なし◆

ぼくね、ここに来ると元気が出てくるんだ。だからアンジェリークも元気にがんばってね。

◆平日：約束あり◆

日の曜日の約束、ぼく、とっても楽しみにしてるから、忘れないでね。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

ぼく、待ってるんだけど…ロザリア、まだ来ないんだ。

◆2度目以降◆

それにしてもおそいなあ、ロザリア。

◆日の曜日：ロザリアとデート中・約束なし◆

アンジェリーク、育成の方はうまくいってるの？ぼくにできることなら何でもやってあげるよ。

デート中

ぼく、待ってたよ！アンジェリーク！！！

公園入り口（デートスタート）

アンジェリーク、少し歩こうよ。

◆噴水右まで移動◆

ぼく、アンジェリークと公園をお散歩できてとってもうれしいんだ。そうだねー、あっちのベンチの方へ行ってみようよ。

ベンチの前

アンジェリーク、あのね、あの二人はいつもこんな調子なんだよ。ひょっとして二人のことがうらやましいの？

☞はい

A. ふーん、やっぱりうらやましいんだね。…アンジェリークって素直だね！

B. ふーん、やっぱりうらやましいんだね。でもぼくは二人のまねは、あんまりしたくないなーって思っていたんだ。アンジェリーク、今日は、もう帰ろうよ。

☞いいえ

A. ふーん。アンジェリークはうらやましくないの？実はぼくもなんだ。ずっと二人で話しているときっと話すことがなくなっちゃうよね。

B. ふーん。アンジェリークはうらやましくないの？ぼくは、アンジェリークとあの二人みたいにいっぱいお話したかったのに…がっかりしちゃったよ。もう今日は帰るね。

神鳥の像（右）

じゃあ、今度はあそこにある鳥の像のところに行ってみようよ。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ」

決まっていますよ、だってさ。なんかぼく、ほめられてうれしいなあ。今、アンジェリークはぼくと公園をお散歩して、いっぱいお話しているよね。でも女王候補なんだから他の守護聖ともお話しなくちゃいけないんだよね。アンジェリークはどちらとお話をしたいと思う？

☞（正解）

あったりー！アンジェリーク、ぼく、ぜーったい話を聞いたらいいと思うよ。

☞（不正解）

えーっ！！そうなの！？アンジェリークって不思議だね。なんかわかんないから、もう帰るね。

ときめきの丘

えーとねー、女王候補としてのアンジェリークに聞くけれど

A. エリューシオンの人口って〇〇〇人より多いの？

☞（正解）

よく知っているね。ぼく、ここに来る前に調べてきたんだよ。ぼく、これからは、もっとエリューシオンのことを気にするようにするね。

☞（不正解）

アンジェリークってそんなことも知らないの。ぼく、がっかりしたよ。アンジェリークがそんななんだもん。エリューシオンのこと、もう気にしないよ。ぼく、帰るからね。

B. フェリシアの人口って〇〇〇人より多いの？

☞（正解）

アンジェリークってロザリアの育成している大陸のことまで知っているんだ。さすがに女王候補だね。ぼくも見習おっと。

☞（不正解）
知らないの。女王候補なんだからちゃんと知っておかないといけないよ。

C. ロザリアと仲よしの守護聖はどっちかな？

☞（正解）
アンジェリークってとっても物知りなんだね。さすがに女王候補に選ばれただけはあるね。ぼくも他の守護聖と、もっと仲良くするよ。

☞（不正解）
えー、知らないの。でもそれでいいよね。ぼくも他の守護聖と仲良くすることないもんね。

D. エリューシオンの建物数はフェリシアより多いの？

☞（正解）
やっぱり当たったね。試験を受けているんだから当たり前なのかな。ぼく、女王候補は女王をめざしてがんばった方がいいなって今までよりも思うよ。

☞（不正解）
アンジェリークって女王候補なのにそんなことも知らないの。がっかりしちゃった。何かぼくもやる気なくなっちゃった。今日はもう帰るからね。

女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ」
あんなこと言ってるよ。やっぱり、ぼくたちお似合いなんだよ。
これはね、女王陛下の像なんだよ。女王陛下っていうのはとにかくエライんだよ。アンジェリークだってひょっとしたら、女王陛下になるかもしれないんだよね。それで聞くけど、やっぱり女王候補って大変なの？

☞はい

A. そうかもね。守護聖だって大変だもん、女王候補は大変で当たり前だよ。でもアンジェリーク、投げ出さないで、最後までがんばってね。

B. やっぱり大変なんだね。きっと疲れてるだろうから休んだ方がいいよ。今日はもう帰るからゆっくり休んでね。

☞いいえ

A. 大変なことを大変なことと思わずにやってるんだね。アンジェリークって本当にえらいと思うよ。

B. アンジェリーク、守護聖でも大変なんだよ。女王候補はもっともっと大変なはずだよ。今日は、もう帰るからね。もう少し考えてみてね。

神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますからがんばってくださいね」
こんなに応援されるとがんばらないといけないね。ところでアンジェリークちょっと歩き疲れたんじゃないの？

☞はい

A. 近くに休憩できる場所があるから、もうちょっと歩いてね。

B. アンジェリークもなの。ぼくも疲れたなあって思ってたんだ。二人がそう思ったんだもん。今日はもう帰ろうね。

☞いいえ

A. アンジェリークは元気な女の子だもんね、これくらい平気だよね。もうちょっと歩こうよ。

B. アンジェリークは本当に元気だね。でも、もうぼく、くたびれちゃったんだ。だから今日はもう帰ろうよ。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート◆

あれぇ？　もう誰かいるみたいだよ。仕方ないね、先に行こうよ。

たたずみドーム

…アンジェリーク、ぼくの話を聞いてね。

A. 女王陛下はね、いっつも主星にいてね、世界全体のために働いているんだよ。だからアンジェリークは女王陛下とあんまり会うことができないよね。でも女王陛下はアンジェリークのこと期待しているみたいだよ。がんばってね。

B. この飛空都市はねー、新しい世界をよりよく発展させるための施設なんだよ。女王陛下がいる主星とは次元回廊っていうものでつながっているんだ。次元回廊っていうのはね、王立研究院の下にある大きな穴のことだよ。

C. ぼく、守護聖のなかでは一番の新入りなんだ。だから今の女王陛下が選ばれたときのことはなんにも…。そのときの守護聖で今も守護聖なのはジュリアス様とクラヴィス様とルヴァ様だけなんだ。だからぼく、アンジェリークたちにはすごく興味があるんだ。がんばってね。

D. 王立研究院のパスハと占いの



こんにちは！！アンジェリークに会えてぼく、とってもとってもうれしいよ。

館のサラはぼくたちとは違う種族なんだって。二人は、とっても仲がいいそうなんだ。森の湖に二人でいるところを見たって人もいるよ。とってもお似合いだよね。

E. 守護聖の力ってね、いつかは弱くなっちゃうんだって。そうなるとね、その守護聖は、新しい人と交代するんだよ。ぼく、一番新しく守護聖になったから、まだ自分が交代することって想像できないな。

◆お話終わり◆

…じゃあもう、行こうよ？
☞はい
→移動
☞いいえ
じゃあ、もう一度話すね。

入り口

このまま帰るのはなんかもったいないね。もう少しだけお散歩しようね。

ドキドキの木陰

こうして二人きりで木陰にいると、ぼく、なんか照れてきちゃうな。きっとアンジェリークがとってもかわいいからなんだと思うよ。
☞そんな…
照れてるの？でもアンジェリークがかわいいのはホントのことなんだよ。…そろそろ行こうよ。

お花畑

こうして見るとアンジェリークってとっても、お花が似合うんだね。
☞そんな…
ぼくの言ってることはおせじじゃないよ、ホントのことだよ。ホントにアンジェリークはお花が似合うんだもん。ぼく、こんなに似合う人他に知らないよ。…じゃあ、もう行こうか。お花の似合うアンジェリーク。

噴水の前

この噴水って、なんかとってもやさしい感じがするんだ。まるでアンジェリークの心みたいだね。
☞そんな…
きっと、ぼくなんかよりもエリューシオンのみんなの方が、そのことを知っているんだろうね。みんなのためにも育成をがんばってね。…じゃあ、行こうよ。とってもやさしい心のアンジェリーク。

入り口

A. じゃあ帰ろうよ。ぼくが部屋まで送ってあげるよ。

B. じゃあ帰ろうよ。ぼくが部屋まで送ってあげるよ。ぼく、アンジェリークともっと話したいんだ。

C. じゃあ帰ろーよ。部屋まで送るよ。ぼく、もうちょっとだけアンジェリークと一緒にいたいんだ。

私の部屋へ

A. 今日は、本当におもしろかったね。アンジェリークのこともよくわかったもん。また公園を一緒にお散歩しに行こうね。

B. 今日は、とっても楽しかったね。だからアンジェリーク、今度また行こうね。じゃあね、バイバイ。

C. アンジェリーク、また一緒に公園に行こうね。じゃあね、バイバイ。

デートトラブル！

ひっどーい！これって二股!?

◆平日：ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. アンジェリーク、怒らないでよ。ロザリアと約束はしてたんだけどぼく、もう行く気はなくなっちゃったんだ。ロザリア、日の曜日の約束はなかったことにするよ。また今度ね。

B. …そんなに怒らないでよ。ぼくだって少しは反省してるんだから。もういいよ、そんなこと言うんなら、今日は帰るよ。

次の日の曜日に約束している守護聖様がいる!

◆平日：他の守護聖様に約束をほのめかされて◆

アンジェリーク、今の話ってホントなの？
☞正直に言う

A. そうなの…。でも話はいろんな人から聞いた方がいいと思うよ。

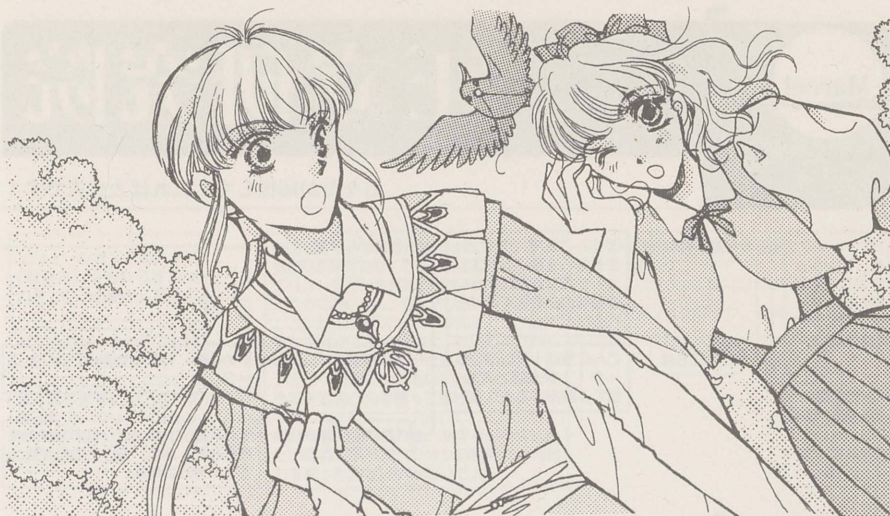
B. アンジェリーク、それってぼく、なんかイヤだよ。ぼく、もう今日は帰る。

☞やめとく

A. そんなことどうだっていいよ。だって今日はこうしてぼ



…そんなに怒らないでよ。ぼくだって少しは反省してるんだから。



くと楽しくお散歩してるんだからね。

B. はっきりしないんだね。でもぼく、なーんかヤな感じがするんだ。だからもう帰るね。

まさか！マルセル様が…

◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

あー、そうだったね。ぼく、すっかり忘れちゃってたよ。

☞もう帰る！！

A. アンジェリーク、ぼくが悪かったよ。ごめんなさい。だから帰らないでね。

B. アンジェリークがそう言うのなら仕方がないね。今日はもう帰ろう。

☞そこまでは…

A. はー、びっくりした。でも怒って帰ったのがアンジェリークじゃなくてよかったよ。

B. アンジェリーク、ぼく、なんかやる気がなくなっちゃった。今日はもう帰ろうよ。

きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖さまとデート◆

あれ、今日は僕と約束していたのに…

☞あやまる

A. 仕方ないね。でも今度約束したら必ず守ってね。

B. 約束を破るなんて…ひどいや！

☞ごまかす

A. あれ…？ぼく、間違ってたのかな？そんな気がしてきた…じゃあ、ぼく、帰るよ。

B. 約束を破るなんて…ひどいや！

あっ！今日は○○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：マルセル様とデート中◆

アンジェリーク、今の話ってホントなの？

☞あやまる

A. よく正直に言ったね。ぼく、えらいと思うよ、アンジェリーク。

B. そうだったの。なーんかぼく、そういうのイヤだな。アンジェリーク、もう今日は帰ろうよ。

☞ごまかす

A. なんだったんだろうね。でも、別に気にするようなことじゃなかったみたいだね。

B. そうだったの。なーんかぼく、そういうのイヤだな。アンジェリーク、もう今日は帰ろうよ。

ひっどーい！約束してたのにー

◆日の曜日：ロザリアとのデートに遭遇◆

あー、アンジェリークとも約束してたんだよね。忘れちゃってたよ。ごめんね。

他の守護聖様とデート中

たたずみドームの前

◆通常◆

あー、アンジェリークだ！ん、二人なの。いいな、いいな。だってお似合いなんだもん。

☞そんな

照れなくたっていいよ。ホントにホントに似合いなんだから。

☞うふふ

今度は、ぼくを誘ってね。

◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

あー、アンジェリーク！！ぼく、今ね、ロザリアを待っているんだよ。

たたずみドーム内

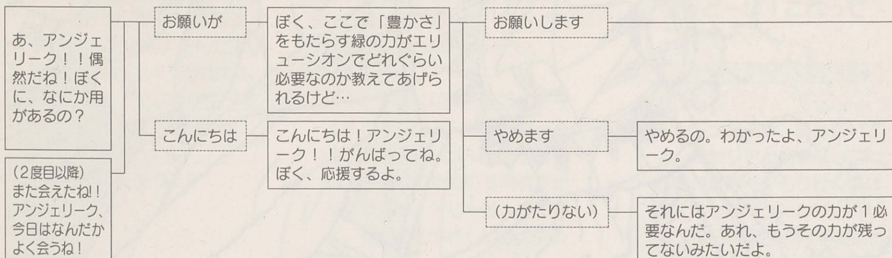
◆日の曜日◆

ロザリア…？と思ったけど、なーんだ、アンジェリークか。ぼく、ロザリアを待っているんだけどまだ来ないんだ。

Marcel

王立研究院

あなたが応援してくれれば大丈夫です！



Marcel

占いの館

ジュリアス様は…やっぱり苦手ですか？

あ、アンジェリーク！！偶然だね！ぼくに、なにか用があるの？

- お願いが → アンジェリークのお願いって何？
  - 仲良くしたい → アンジェリークは誰と仲良くしたいの？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くしたいの？
    - 守護聖本人 → ぼくともっと仲良くなりたいの？
  - 仲良くして → アンジェリーク。ぼく、誰と仲良くすればいいの？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くすればいいんだね？
    - キャンセル → 今回のお願いはやめちゃうの？
  - (力がたりない) → それにはアンジェリークの力が１必要なんだ。あれ、もうその力が残ってないみたいだよ。
- こんにちは → こんにちは！アンジェリーク！！がんばってね。ぼく、応援するよ。

(2度目以降) また会えたね！！アンジェリーク、今日はなんだかよく会うね！ぼくに、なにか用があるの？

- お願いが → アンジェリークのお願いはもう聞いたけど…？
  - それでも！！ → それじゃあ、もう一回お願いを聞くよ。
  - やめます… → やめるの。わかったよ、アンジェリーク。

エリューシオンでは人々に「豊かさ」をもたらす緑の力を、○○必要としてるよ。

ぼくの力が、あと○○だけいるみたいだよ。

ぼくは今までに○○の力を贈ったよ。エリューシオンではね、この力は○番目の力になるんだよ。

…エリューシオンではね、人々に「豊かさ」をもたらす緑の力が、とても求められているよ。エリューシオンを発展させたいのならぼくのところにおいでよ、ね、アンジェリーク。

豊かさも少しは必要みたいだね。だから、ぼくの力も贈っておいた方がいいよ。アンジェリーク、いつでもいいからぼくのところに来てね。力を贈ってあげるよ。

あれ？今、ぼくの力は、あまり必要ないみたいだね。エリューシオンの育成には他の力を贈った方がいいみたいだよ。

今度は望みの予測を見たらいいと思うよ。

アンジェリーク、参考にしてね。

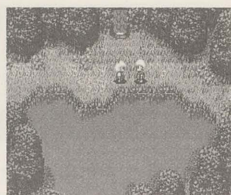
ええ！	ぼく、絶対、アンジェリークのお願いを忘れないよ。
いいえ！	アンジェリークは誰と仲良くしたいの？
キャンセル	今回のお願いはやめちゃうの？ → はい：やめるの。わかったよ、アンジェリーク。／いいえ：アンジェリークは誰と仲良くしたいの？

ええ！	ぼく、絶対、アンジェリークのお願いを忘れないよ。
いいえ！	アンジェリークは誰と仲良くしたいの？
キャンセル	今回のお願いはやめちゃうの？ → はい：やめるの。わかったよ、アンジェリーク。／いいえ：アンジェリークは誰と仲良くしたいの？

ええ！	ぼく、アンジェリークのお願いを忘れないよ。
いいえ！	アンジェリーク。ぼく、誰と仲良くすればいいの？

ええ！	やめるの。わかったよ、アンジェリーク。
いいえ！	アンジェリーク。ぼく、誰と仲良くすればいいの？

Marcel 恋愛イベント



一緒に森をお散歩しましょう！

第1段階

◆森の湖◆

「ぼく、この湖に来るのは大好きなんだ。だってね…」
「きゃっ、リボンが！」
「チュピってば、ぼくの後についてきちゃったんだ！　まったくもう、チュピったら…ごめんね、アンジェリーク大丈夫だった？
「…はいっ！」
「よかったぁ。あ、でもリボンが曲がっちゃってるよ。ちょっと直してあげる！　あ、リボンが。ぼくが直してあげるね。はいっ、これでもう大丈夫だよ」

◆私の部屋◆

「今日はごめんね。チュピがいたずらしちゃったりして…。チュピのこと、許してくれる？」
☞「…はいっ！」
「よかった！　きっとチュピも君のことが好きだから、あんなことしちゃったと思うんだ。今度はじゃましないでって言っておくからね！」
「あの小鳥さんのおかげでマルセル様ともっと仲良くなれちゃった」

☞「いいえ…」
「そうなの…？　でもチュピも嫌いだからやったわけじゃないと思うんだけどな…」
「そんなつもりじゃなかったのに…。マルセル様に嫌われちゃったかな…？」



第2段階

◆森の湖◆

「そういえば、この前は言いそびれちゃったね。ぼくがこの場所を大好きなのはね…ぼくが生まれた惑星に感じが似ているからなんだ。森と野原がずっと続いててとってもきれいで豊かな星だよ。ここに来るまではぼくはそこで育ったんだ家の近くにお気に入りの小さな森があってね、拾った木の実を植えたり…あ、ぼくだけ話してる。ぼくの話ばっかりで、つまんなくない？」
☞「そんなぁ！」
「そう？じゃあ今度は森の動物さんたちの話をしちゃおうかな」

☞「そうかも」
「でも、ぼくのことといろいろ知ってもらいたかったんだ」

◆私の部屋◆

「アンジェリーク、今日は楽しかったね。知ってる？あの場所は『恋人達の湖』ともいわれてるんだよ。ねえねえ、ぼくたち恋人同士に見えてたかな。見えてるといいなあ。なんてね！　今度もまた一緒に森の湖に行こうよ。いいよね？」

☞「よろこんで！」
「本当に？　うれしいなあ。だってぼくアンジェリーク大好きなんだもん！」
「うふふ、マルセル様ってば私のこと大好きだなんて…『大好き』!?」

☞「ごめんなさい」
「君にとってのぼくは恋人にはなれないんだね。つまんないけど仕方ないや」
「…マルセル様、ごめんなさい」

告白

◆森の湖◆

「マルセル様、私、あなたのことが好きなんです」
「でも、アンジェリーク、女王さまにならなくってもいいの?」
☞「…はいっ!」
「ホントに? うれしいなあ、だって、ぼくも大好きだったんだよ! そのうち、一緒に、ぼくの生まれた星に行こうね。ぼくのお気に入りの森を案内するよ。そして二人で遊ぼうね。ずっとずっと、仲良く…ね、アンジェリーク…」

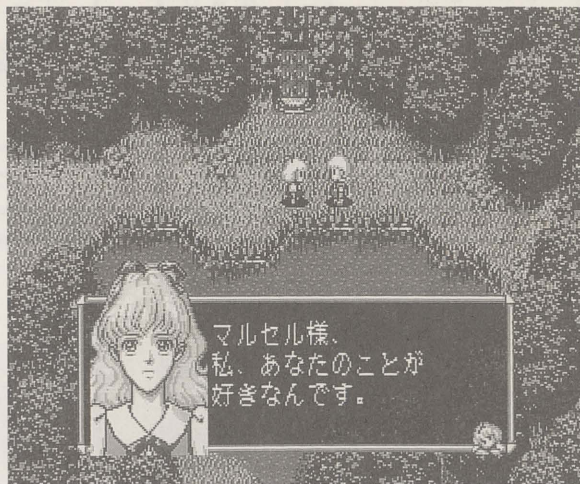
☞「いいえ…」
「じゃあ試験の方も、もっとがんばらなくちゃね。ぼくは何も聞かなかったことにするよ」

◆失敗◆

「えーっそうだったの?でもぼくアンジェリークのことそこまで考えたことなかったんだ。ごめんね」

◆私の部屋◆

「アンジェリーク、今日はびっくりしちゃったけど、またぼくと遊んでくれるよね? アンジェリークと遊ぶのって、すごく楽しいんだ。じゃあね、また!」



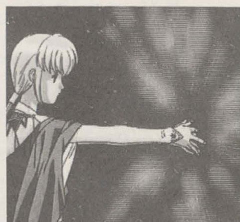
力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

それじゃあ、女王候補たちの望み通りにぼくたちの力を贈るよ。

アンジェリークのお願いで緑の「豊かさ」をエリューシオンに贈るよ!
アンジェリークのお願いで緑の「豊かさ」をフェリシアからなくしちゃうよ!
フェリシアの緑の「豊かさ」をなくしちゃおっと!
エリューシオンに緑の「豊かさ」を贈ってアンジェリークに喜んでもらおっと!
緑の力よ、エリューシオンの人々に「豊かさ」をもたらして!
フェリシアから人々に「豊かさ」をもたらす、緑の力をなくしちゃうよ。

今は少しだけ贈っておくね!
ちゃんと、たくさん贈るからね!
少しだけど、へらしちゃうね。
たくさん減らすからね。





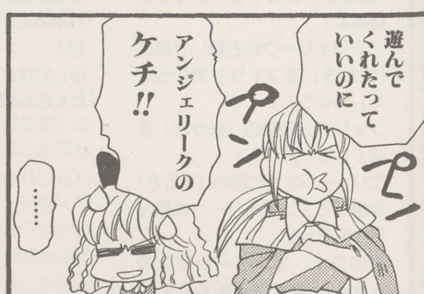
押田J・O

遊びかた









そそがれた愛情【?】









メッセージ♥テスト〈マルセル〉の答え 1A 2A 3C 4A 5B 6C 7C 8B 9C 10D-A-C-B

ACT. 7
ゼフェル編



Zephel 私の部屋

意外と恥ずかしがり屋さん…ですね



デートのお誘い

よろこんで！（共通）

◆通常◆

けっ、そんなに大げさに喜ぶなよ、まったく…。まあ、こっちだって悪い気はしねーけどな。で、どうすんだよ？

☞外に行きたい

じゃ、どこに行くか、早く決めろよ。

☞公園

公園かぁ。結構、人に会うんだよな。ま、いっか。行こうぜ！

☞森の湖

決めたらさっさと行こうぜ！

☞キャンセル

a.どっちでもいいです

A. じゃ、どっか外に出かけようぜ。

B. じゃ、この部屋で話でもするか。

b.あなたの好きな所で

A. しょーがねえな。…じゃ公園だ、公園！

B. じゃあ…森の湖に行こうぜ！

ごめんなさい…

◆平日：約束あり◆

よう、アンジェリーク。日の曜日まで待ってんのもカッタルイからよ、今日これから出かけようぜ。

☞ことわる

ちっ、しょーがねぇなー。日の曜日まで待っててやるか。…ちゃんと予定、空けとけよっ。

◆平日：約束なし◆

よう、アンジェリーク。ヒマだったらどっか遊びに行こうぜ。

☞ごめんなさい

おめー、オレがせっかく誘いに来てやったのに断るのか！！やってらんねーな。

◆土の曜日：約束あり◆

よう、アンジェリーク。約束は明日だったけどよ、今日、ヒマになったんで誘いに来たぜ。

☞ことわる

なんだよ、そんなにエリューシオンが大事なのかよ！？もう明日は遊んでやんねーぞっ。

◆土の曜日：約束なし◆

よう、アンジェリーク。なんか退屈だったんで遊びに来てやったぜ。どっか行くか？

☞ことわる

けっ、何だよ、急にイイ子になりやがって。そんなにエリューシオンがいいならずっと行ってろよ。

◆日の曜日：約束あり◆

アンジェリーク、今日はオレと遊ぶんだろ？迎えに来てやったぜ。

☞ごめんなさい

てめー、何様だと思ってんだよ！もうおめーとなんて遊んでやんねーぞっ。

◆日の曜日：約束なし◆

よう、アンジェリーク。日の曜日ってなんかヒマだよな。どうする？どっか行くか？

☞ごめんなさい

ちぇっ。せっかく誘ってやったってのによ。つまんねーの！

デート中

おめーは何を話そうってんだ？

好きな物

A. オレは飲みもんによけいな色とか味とかついてんのはジャマなだけだと思ってるからよ。ふだん飲むのは、たいていミネラルウォーターだぜ。

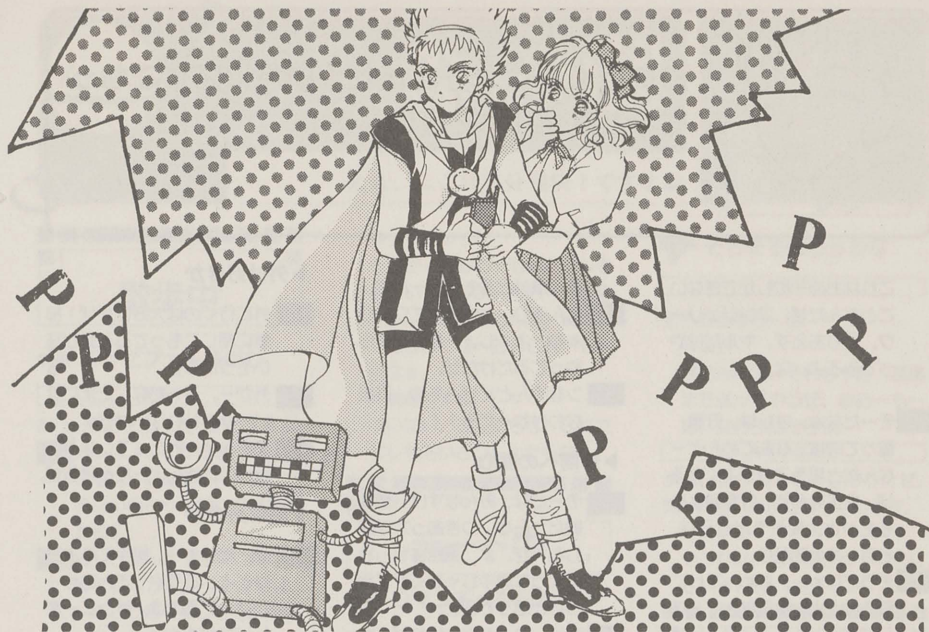
B. そーだなぁ…。食い物でいえば、辛いものが好きだぜ。特にチキンカレーなんか好物なんだけど…。あ、マルセルにはナイショだぜ。あいつ、鳥なんか食うって言ったら怒るからよ。

嫌いな物

A. そりゃー、甘いもの、生クリ



あ、マルセルにはナイショだぜ。あいつ、鳥なんか食うって言ったら怒るからよ。



ームとかだぜ。好きこのんで、あんなのを食うヤツの気が知れないぜ。

B. ジャムとか、やたらベタベタした甘いモンはサイテーだぜ。見たくもねーよ。

♣理想の女性像

何？　理想の女性像だぁ？オレは女なんか嫌いだぜ！スグに泣くし、甘えりゃいいと思いやがって！！そうじゃない女がいたら、ちょっとは考えなおしてもいいけど…。ったく、どーしよーもねーぞ。

♣苦手な女性像

何？　苦手な女性像だぁ？だいたい女は嫌いだぜ！ちょっとなんか言っただけで、スグ泣くしよ。ったく、泣きゃーいいと思いやがってよ。どいつもこいつも！

♣趣味の話

A. 趣味っていっても、そんなにご大層なもんじゃねーけどよ…そーだな、オレわりと機械いじりなんか好きだなぁ。けっこー、おもしれーんだぞ、これが。

B. ヒマなときにはオレは、よくスカッシュなんかやるぜ。スカッシュなら相手がいてもいなくてもできるからな。なにもかも忘れてボールを打ち続けるのは、意外とおもしれーもんだぜ。

♣故郷のこと

オレの故郷の星ってのは、あんましキレイな所じゃなかったぜ。人工天体ってぐらいなもんだから、本当に機械ばっかりでよ。おめーの育ててる星…エリューシオンだっけ、あんなのこそ、故郷の星って感じなんだろうな。いいよな…エリューシオンのヤツら…

♣身近なこと

A. あーあ、うざってーの。別に、改めて話すことなんかないぜ。

B. どーでもいいけどよ、おめー、オレの前で身長の話なんかすんなよな。言っといたからな。これでしゃべったりしたらマジで怒るぞ。…ったく、あと1センチなのによ…

♣物の考え方

考えって…なんのだよ？

▶星への関心

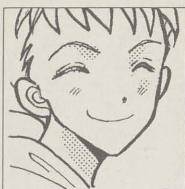
A. そーだなぁ…なんか、一生懸命、生きてるって感じで、けっこー好きだぜあいつらのこと。おめーも、ちゃんとめんどーみてやれよ。それが女王候補としての務めだろうし、なんたっておめーはエリューシオンの天使様、なんだからよ。

B. ま、せいぜいがんばれよってトコだな。

C. 興味ねーな。ん！？　文句あんのか！しゃあねーだろ、実際興味ねーんだから。

▶女王候補の事

A. おめー、もしかしたら女王候補になって、いろいろ悩む事があるかもしれないけどな、



外に行くのは大好きだぜ！部屋に閉じこもってると気が狂いそうになる。

これはおめーにしかできないことなんだぜ。アンジェリーク。とりあえず、ヤルだけやってみろよ。な。

B. そーだなぁ。オレは、守護聖ってのは、なんてめんどーなんだと思うことがよくあるぜ。女王なんて、守護聖よりももっと大変そうだからな。おめーも大変だな。

C. そうだなぁ…。おめーだけに言うけどよ、女王なんて、なんにもいいことないんだぞ！？オレがおめーの立場だったら、女王候補なんてやめちまうぜ。

▶仕事は好きか

A. 好きも嫌いもねーよ。オレがやらなくちゃ、おめーら、困るだろ？それにな、やってみると意外とおもしれーんだ。

B. あんまり…、好きってワケじゃねーよ。しょーがねーから、やってるだけだぜ。

C. ンなめんどくせーもの、好きなわけねーだろ！！

▶仲間への関心

A. そーだな、みんなすげー個性的だからな。つきあって退屈しねーぜ。ま、退屈させられるような連中じゃなくてよかったと思ってるぜ。

B. まぁ、いーヤツもいればイヤなヤツもいるけど…てきとーにつきあってやってるってトコだぜ。

C. どいつも気にいらねーな。他のヤツら、ホント、オレの気にいらねーことばかりするんだぜ。

▶外は好きか

A. 外に行くのは大好きだぜ！部屋に閉じこもってると気が狂いそうになる。

B. 外かー。そーだな、たまにはいーかもしれないけどよ。

C. ああん？　外だぁ？ンなトコ行くの、めんどーだと思うぜ。

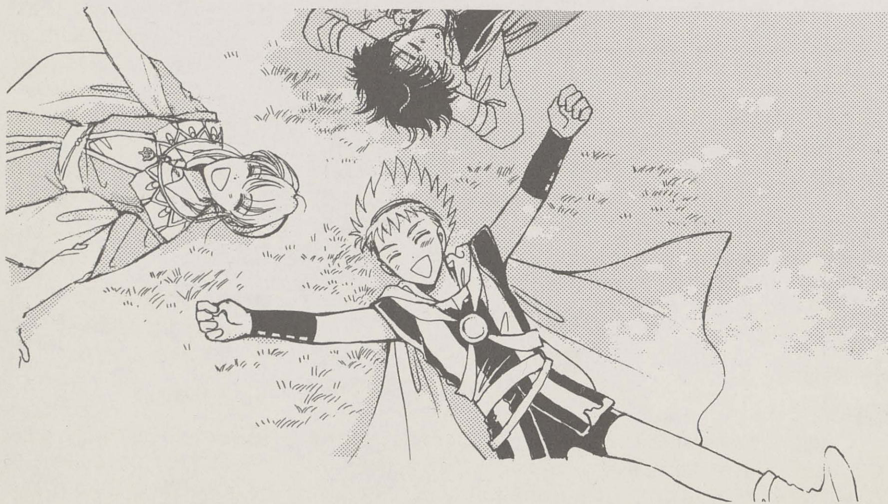
▶話は好きか

A. そーだなぁ…、相手にもよるけどよ。こうやって、おめーと話してるのは、けっこー楽しい気がするぜ。

B. 別に…あーんまりってトコだな。

C. ヤなこった。

…そんなところだ。もう、いーかよ？じゃ、オレは帰るぜ。あばよ。



Zephel

森の湖

ええ、ここは気分爽快！ですよね



散歩中

あっゼフェル様だわ

◆通常◆

おっ、誰かと思ったらおめーかよ。

A. オレは、ここが好きだぜ。ここでは、なにものにも捕らわれない自由ってやつを感じるからな。

B. オレ、あんまり自然に親しむってことがなかったからよ。…ここで感じることを大事にしてんだ。

約束しちゃおっかな

☞お願いする

日の曜日、他に予定はないんだろうな？

☞はい

しょーがねえな。おめーのお願いは、一応覚えておくよ。

☞いいえ

変な奴だな。まぁ、いいか。

☞やめとく

よぉ。おめーは迷惑なくらい元気者だな。ま、その元気でがんばるこった。

◆平日：約束あり◆

日の曜日の約束な、絶対に忘れんじゃねーぞ、アンジェリーク。

祈りの滝

滝にお祈りしてみようかな？

☞そうしよっと

おっ、誰かと思ったらおめーかよ。

☞会いたかった

そうかー。おめーもか。オレもどういうわけか、おめーの顔を見たいと思ってたんだ。偶然ってのはけっこーおもしれーもんだなぁ。

☞偶然ですね

はいはい、こんにちは。これでオレもあいさつしたからな。

デート中

ロマンチックだわ

A. ここは気分がスッキリするけっこーいいトコだよな。お前もそう思うだろ。ここにいると、オレ、妙に落ち着くんだ。

B. おめーも、物好きだよな。オレとこんなトコに来るなんてよ。でもな、オレ、けっこーここが好きなんでな、おめーをちょっと見直したぜ。

C. オレ、変なんだけどおめーとここに来るとなぜか心が落ち着くんだ。おめーの持つやさしさがオレの心をなごませてるのかもな。

パシャッ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい

なにやってんだ、おめーはよ。水が冷たいのは、当たり前じゃねーかよ。

どこまで行けるかな？

☞ここから先は行けないのね

そこから先は行けねーぜ。わかったら、とっとと戻ってくるこったな。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

そろそろ帰ろーぜ。

☞はい

帰るんだな。それじゃあ、部屋まで送ってやるぜ。おめーも一応、女の子だからな。

◆私の部屋◆

まあ、とりあえず楽しかったぜ。気が向きゃあまた行ってやるぜ。

☞いいえ

そうだな、もう少しゆっくりしていってもいいか。

デートトラブル！

Wブッキング!!

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中、約束中の守護聖様がロザリアとツーショットで出現！◆

A. こんなとこでお前に会うなんてな。ま、今日の約束、ありゃあなしだ。おめーも楽しくやってるこったし、オレも今日はロザリアと楽しくやるぜ。

B. ったく！そんなことだろうと思っていたんだよ！

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日：散歩◆

おめー、育成の方、ちゃんとやってんのか。ま、せいぜいがんばるこったな。

◆日の曜日：ロザリアとデート中◆

アンジェリークかよ。まあ、せいぜいがんばってくれ。

Zephel

執務室

…どーせ私はおめでたいですよ♥

平日

めんどーだって言ってんだろ！ ったくよー、ずーずーしーっていうか、遠慮がないっていうか！

いいか、よく聞けよ。オレはあんまり関わりたくないんだよ！ちょろちょろ来るんじゃねーよ!!

おめーも、めでたいなー。女王候補なんてゴタクを真に受けて、せっせと育成に励んでるのかよ？

おめー、けっこー根性あるみてーだな。…さすが女王候補だぜ。

おめーも大変だよな。女王候補だ、なんだって勝手に決められて。ちょっと同情するぜ。

オレ、何てゆーか、そのさー…アンジェリーク、おめーの力になってやるぜ。

で、オレになんの用だよ？

- 力を貸して
  - オレの力がいるんだな。で、どうする？
    - 育成
      - どのくらいの力を贈ればいいんだよ？
        - 少し
        - たくさん
        - (力がたりない)
    - 妨害
      - どのくらいの力を奪えばいいんだ？
        - 少し
        - たくさん
        - (力がたりない)
- 話に来た
  - 何の話をしたいんだよ？
    - 私のこと
      - おめーのことかよ、そうだなぁ…
        - おめーの育ててる大陸はエリューシオンとかいったっけか。大陸を発展させるってのはおもしれーか？ ●
        - そうだなー、おめー、どっか行くのって好きか？ ■
        - じゃ聞くけどよ、おめー、本当に女王になりたいか？ ◆
        - おめーは、マジメに試験してんのかよ？ ♥
        - そういえば、おめーは女王候補なんだよなー。やっぱり、ロザリアが何してるかとかオレたち守護聖のこととか気になるか？ ♠
        - おめーってよ、他のヤツらのトコにもよく話しに行ったりしてるんだろーな。人と話したりするの好きな方か？ ♣
          - はい！／いいえ！
    - ②へ
  - (力がたりない)
    - それをやるにはおめーの力が２必要なんだぜ。ん、その力が残ってねえじゃねーか。
- ①へ



★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方
各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次（右どなり）のブロックの中からいずれか（14通りあります）の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

少し育成するんだな、心配するな。ちゃんと力を贈ってやるぜ。

たくさん育成するんだな、心配するな。ちゃんと力を贈ってやるぜ。

それをやるにはおめーの力が（2／4）必要なんだぜ。ん、その力が残ってねーんじゃないか。

少し妨害するんだな、覚えといてやるよ。

たくさん妨害するんだな、覚えといてやるよ。

それをやるにはおめーの力が（2／4）必要なんだぜ。ん、その力が残ってねーんじゃないか。

へー、そうなのか。ま、俺がおめーの立場なら同じこと答えたかもな。

へェ…。おめーもか…。実は、オレもなんだ。

そーだよな！オレがおめーの立場でもきっと同じ答えだぜ。だってよ、

へー…。そりゃー意外だな。

だろうな。オレがお前でもきっと同じこと答えるぜ。

へー…。おめーもか…。オレもだぜ。気が合うな！

そーか、おめーもそう思うかよ！オレがおめーの立場でもきっと同じ答えだぜ。

だろーな。おめーはそーいうヤツだって思ってたぜ。

だろーな。おめーはそーいうヤツだよ。けど、オレは違うぜ。

でもよ、オレがおめーの立場だったら違う答だったと思うぜ。

はんっ。おめーのことだからそんなこったろうと思ったぜ。

しょーがねーな。そんなことでどうするんだよ！？

そーかよ。ったく…。オレは違うからな、覚えとけ。

オレが、おめーの立場だったら違う答だと思うぜ。

●
…あいつらはあいつらなりに一生懸命だってことは、すっごく、よくわかる。がんばってほしいぜ。

…だいたいよー、オレが気にいらねーのは、あいつら自力でなんとかしようって根性がねーことだぜ。

■
…狭っくるしいトコに閉じこもってると息がつまっちゃうもんな。やっぱ外の方がいいぜ。

…外なんか行くのはうざってーよな。ったくよー。部屋で機械いじりでもしてる方がおもしれーぜ。

◆
女王様ってのは、やっぱりすげー存在だと思うぜ。このオレが尊敬しちゃうくらいだもんなぁ…。おめーも、ああなれたらすげーと思うぜ。

…女王ってのは、ホントに大変らしいからな。あんなのはパスしたほうがよっぽどイイぜ。

♥
…まあ、しよーがねーからやることはやらねーとな。

…なんでも、テキトーにしときゃいいんだぜ。まったく、みんなマジすぎてヤだよな。

♠
ヤツらはヤツらなりに考えて行動しているんだ。オレが気にすることじゃねーよ。

…相手が何してるかってのは、重要なんだぜ。「敵を知り、己を知らば百戦危うからず」ってな前にルヴァが教えてくれたんだけど、多分、こーいうことをいう時の言葉だったと思うぜ。

♣
…ま、いろんなヤツと話してると、けっこー、おもしれーと思うぜ。

…べちゃべちゃ話して喜ぶヤツって、いったいなんなんだと思うぜ。

でもよ、なんにせよ、今の話で、おめーのことが少しわかった気がするぜ。

①

②

人のうわさ → 誰の話をしたいんだよ？ → キャラクター選択
- アンジェリークのことを話すってんだな？おめーのことかよ、そうだなぁ…
- ロザリアのことを話すってんだな？ロザリアのことか、そうだなー…
- ××のことを話すってんだな？××のことか、そうだなー…

キャンセル → どうした、やめちまうのか？

キャンセル → 何の用もないってことか？
- はい → いい加減にしろよ。おめーのわがままに付き合うほど、オレはヒマじゃねーんだよ。
- いいえ → 特別サービスだ。もう一度聞いてやるから、今度はちゃんと答えろよ。

（再訪問）また、おめーかよ。今日はよく会うな。
- おい、おめーから育成の依頼はもう聞いてるぞ。前の依頼は取り消すってのか？
- おい、おめーから妨害の依頼はもう聞いてるぞ。前の依頼は取り消すってのか？
  - はい → 仕方ねえな、前の依頼のことは忘れるからな。
  - いいえ → 思わせぶりなこと言って面倒くさい奴だな。前の依頼のままにしておくぞ。

ま、おめーもよくやるよな。ちょっとはえれーと思うぜ。

まあ、勝手にやってなって感じだぜ。

はっきり言うけどな、おめーみたいなヤツは気に入らねーんだよ!!

オレが話せることはこんくらいだぜ。せっかくこのオレが教えてやったんだから参考にしろよな。

ロザリアはわりといいヤツだと思うぜ。オレはけっこー好きだけどな。

ま、普通のヤツだと思うぜ。

だいたいオレは、ロザリアのことは気にいらねーんだ。

オレが話せることはこんくらいだぜ。せっかくこのオレが教えてやったんだから参考にしろよな。

××はわりといいヤツなんだぜ。オレはけっこー好きだな。

ま、普通のヤツだと思うぜ。

だいたいオレは、××のことは気にいらねーんだ。

そうだ、知ってっかよ？あいつ、おめーのことをけっこう気に入ってるぜ。

ま、テキトーに女王候補たちのお相手をしてやっているみたいだな。

そーだ、おめーのことをあんまり好きじゃねぇって知ってたか？

そういえば、ものすごく女王を尊敬してるんだぜ。おめーも試験をがんばれば仲良くなれるかもな。

あと、人と会ったり話したりするのが、すっげー好きらしいぜ。

…そーいえば他の守護聖のやることを気にはしないみたいだぜ。

…そーいえば、他人のやることをいちいち気にしやがるヤツなんだぜ。

…そーいえば、自分の執務室に閉じこもっていることが多いな。

…そーいえばエリューシオンのことにはまるで関心を持っていないみたいだぜ。

…そういえば、エリューシオンのことをすげー気に入っているみたいだぜ。

…そーいや、女王候補としてのおめーらには、あんまり興味がねぇみてーだぜ。

性格的にはな、じっとしているのが嫌いなタイプだぜ。

…そーいえば、人と会ったり話したりすることが大嫌いなタイプなんだぜ。

…そーいえば思いつきで行動することが多いタイプだぜ。

…そういえば、思いつきだけで行動するなんてことがねーな。

オレが話せることはこんくらいだぜ。せっかくこのオレが教えてやったんだから参考にしろよな。

日の曜日

よお。これであいさつはしたからな。

今日は日の曜日だからよ、仕事は休みだぜ。何しに来たんだよ？

今日はおめーと約束していたな。で、どうするんだよ。

部屋への誘い

仕方ねえな。来いって言うのなら行ってやるよ。

…行かないぜ。気が乗らねえ。それ以上の理由は必要ないだろ。

うーん、今日は気が乗らねーや。だからおめーの部屋には行かねーぜ。今日の約束はなかったってことにするからな。

（再訪問）
しつこいな。今日はおめーなんかと一緒にいたくないんだよ。

（力がたりない）

でも、おめーにはオレと遊ぶだけの力が残ってねーじゃねーかよ。オレを誘うんだったらもっと力がある時にするんだな。

外への誘い

外に遊びに行くだと。で、どこへ行くってんだ？

公園

森の湖

（力がたりない）

キャンセル

キャンセル

何の用もないってことか？

ちっ、どうしたってんだ？はっきりしろ！

趣味イベント

『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

いいとこに来たな。これからちょっとこいつを改造してやるんだけど、おめーも、見ていくか？
☞はい
やっぱ、おめーも興味あるか。じゃ、こっち来てよく見てろよ。
（イベント→私の部屋）
今日の改造は、あいつに学習機能を付けたんだ。危険な場所へ一度行ったら二度と行かないような…もしかしたら、おめーよりあいつの方が、よっぽど頭がいいかもしんねーぞ。なーんてな。じゃ、アンジェリーク。あばよ。
☞いいえ
なんだよ。人がせっかく見せてやるっていうのに。なら、とっとと帰れよ。


危険な場所へ二度と行かないようになんて…ゼフェル様って本当はすごく優しいのね！


いい運動にはなったけど…やっぱり手加減していただきたかったわ。…私の力はもうないわね。

あ、おめー、スカッシュやりに行きたくないか？ちょうど今から行こうと思ってたんだ。
☞はい
よーし。手加減はしねーぞ！！
（イベント→私の部屋）
でも、おめー、結構やるじゃねーか。少しは見直したぜ。でもおめー、疲れたろ。今日はゆっくり休めよ。じゃな。
☞いいえ
やっぱおめーには無理か。…だよな。どう見ても、おめートロそうだもんな。

わかったよ。じゃあ、行こうぜ。

今日は気が乗らねえ。わかったら、さっさと帰るんだな。

公園！？　気が乗らねえ。オレは行かないぜ。さっさと帰れ。

（再訪問）
しつこいな。今日はおめーなんかと一緒にいたくないんだよ。

わかったよ。じゃあ、行こうぜ。

オレは、湖に行く気はないぜ。話は終わりだ。さっさと帰りな。

オレは、湖に行く気はないな。今日の約束は、なしってことにするぜ。

（再訪問）
しつこいな。今日はおめーなんかと一緒にいたくないんだよ。

でも、おめーには遊びに行くだけの力が残ってねーじゃねぇかよ。もう帰って寝た方がいいぜ。

なんだ、外へ行くのはやめか？
- はい → じゃ、おめーの部屋に来いって言うのか？
- いいえ → なんだ、やっぱり外へ行きたいんじゃねーかよ。

- はい → いい加減にしろよ。おめーのわがままに付き合うほど、オレはヒマじゃねーんだよ。
- いいえ → 特別サービスだ。もう一度聞いてやるから、今度はちゃんと答えろよ。
- どこにしよう → そんなことはおめーが決めろよ。
- 帰ります… → まったく、それなら最初からここに来るんじゃねえよ。

他の守護聖の執務室

…ってことらしいぜ。ん、アンジェリークか。…オレは帰るぜ。じゃあな、アンジェリーク。

公園

Zephel



今日だけは怒らないでくださいね

散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

おっ、誰かと思ったらおめーかよ。

◆2度目以降◆

また、おめーかよ。今日はよく会うな。

☞お願いする

しょーがねえな。おめーのお願いは、一応覚えておくよ。

☞やめとく

よぉ。おめーは迷惑なくらい元気者だな。ま、その元気でがんばるこった。

◆他に約束あり、力がたりない◆

変な奴だな。まぁ、いいか。

◆平日：約束あり◆

よお、アンジェリーク。日の曜日の約束な、絶対に忘れるんじゃねーぞ。

◆平日お互いに散歩中：約束なし◆

ま、たまにはこんな所に来るのも気分転換になっていいと思うぜ。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

ったく、遅いな…まだ来ないのかよ、ロザリアのやつ。

◆2度目以降◆

何だよ、何か用か。ロザリアはまだ来てねえよ。

◆日の曜日：ロザリアとデート・約束なし◆

おめー、育成の方、ちゃんとやってんのか。ま、せいぜいがんばるこったな。

デート中

おっ、来たな。待ってたぜ。

公園入り口（デートスタート）

じゃ、少し歩くからな。

◆噴水右まで移動◆

ま、せっかく公園に来たんだからよー、ちょっと回ってみっか。おめーは、オレについてきな。

ベンチの前

聞いてらんねーな。オレは、ちょっと勘弁してくれって思うけど、ひょっとして、おめーは二人がうらやましいと思ったんじゃねーのか？

☞はい

A. やっぱ、そーなんかよ。まあ、お前がそー思ってるなら、しゃーねーな。

B. やっぱ、そーなんかよ。おめーは、うらやましいと思うのか。なら、オレはついていけねーな。今日はもう帰るぜ。

☞いいえ

A. やっぱ、そーなんかよ。ま、いいや。確かにオレたちには関係ねーしよ。

B. やっぱ、そーなんかよ。おめー、オレの前だからンなこと言ってんだろ。気に入らねーな。今日はもう帰るぜ。

神鳥の像（右）

今度はよ、あそこに見える鳥の像に行ってみようぜ。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ」

やっぱよ、見るヤツが見ればわかるんだよな、オレのカッコよさがよ。オレも一応、守護聖だからよ。おめーにいろいろ教えてやんなきゃならないと思って話してやってんだ。でもオレだけじゃなくって他のヤツの話も聞いとけ、って言われたら、おめーはどっちと話したい？

☞（正解）

よくわかったな。あいつはいいヤツだから話を聞いてやってもいいと思うぜ。

☞（不正解）

おめーってヤツには、人を見る目がねーんだな。こりゃあオレは、つきあってらんねーぜ。オレはもう帰るからな。

ときめきの丘

おめー、女王候補だよな。で、聞くけどよ、

A. エリューシオンの人口は○○○人より多いのかよ？

☞（正解）

おめー、んなこと、よく知ってるな。さすがに女王候補だな。オレも、もう少しエリューシオンのことを考えてやるぜ。

☞（不正解）

おめー、そんなことも知らないのかよ。それでよく女王候補なんかやってられるな。オレはもう帰るぜ。エリューシオンのこともオレの知ったこっちゃねーからな。

B. フェリシアの人口は○○○人より多いのかよ？

☞（正解）

おめー、そんなことまで知ってるのかよ。女王候補ってのは、えれーもんなんだな。オレ、少しは見習わなきゃな。

☞（不正解）

知らねーよな。人のことなんかよ。知ったところで腹がたつだけだぜ。

C. ロザリアと仲のいい守護聖はどっちだ？

☞（正解）

おめー、ンなことよく知ってい

るな。さすが女王候補だぜ。オレも、守護聖のヤツらのこと、もうちっとは詳しくならねーとな。
☞（不正解）
知らねーのかよ。ま、オレが他の守護聖と仲良くすることねーのと同じことだな。
D. おめーが育てているエリューシオンの建物数はフェリシアより多いのかよ？
☞（正解）
さすがにご当人はよくわかっているよーだな。知ってて当たり前といえば当たり前だからな。それにしても、やっぱ女王候補は女王をめざすもんだって改めて思ったぜ。
☞（不正解）
何だよ、おめー、こんなことも知らねーのかよ。…ったく、全然やる気ねーんだな。もう今日はお前につきあってやる気がうせたぜ。

女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ」
おめー、今のが、おせじってヤツだぜ。勘違いするなよ。
これは、世界を導く女王陛下の像なんだぜ。陛下は…、ま、とにかくえらい人なんだってよ。おめーも、女王候補として試験を受けてるんだよな。女王候補か…。女王候補ってのは、やっぱ大変なのか？
☞はい
A. だろーな。守護聖だってけっこー大変なもんだからよ。でもな、逃げるのはスゲーカッコ悪いことだからな、まあ、最後までがんばれって言っといてやるよ。
B. そう感じるってことはよ、おめー、きっと疲れてるんだぜ。今日はもう帰るからよ、ゆっくり休むんだな。
☞いいえ
A. おめーは、えれーよな。女王候補っていう立場を楽しんでるみてーだよな。オレでも感心するぜ。
B. おめー、なめてんのか。女王候補っていうのはすげー、重要な立場のはずだぜ。今日はもう帰るからよ、ゆっくり考えるこったな。

神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますからがんばってくださいね」
あんなこと言われたらがんばるしかねーな。ところで、ちょっと聞くけどよ、おめー、ちょっと歩き疲れたんじゃねーのかよ？
☞はい
A. やっぱ疲れてたんだな。近くに休憩できる所があるから、そこまで歩くぞ。
B. そっか。オレもちょっと歩くのはあきてたんだ。よーし、それなら今日はもう帰ろうぜ。
☞いいえ
A. お前、確かに元気があり余っているよーに見えるもんな。じゃあ、もうちょっと歩こうぜ。
B. おめーは、ホントに元気だな。でもよ、オレの方は疲れちまったんだ。だからよ、今日はもう帰ろーぜ。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート中◆

おっと。先客がいるぜ。ジャマするのは、悪いな。仕方ねーや、行こうぜ、アンジェリーク。

たたずみドーム

…ひと休みするついでによ話をしてやるぜ。
A. 女王陛下はな、いつも主星にある宮殿にいてな、そこで世界全体のことを考えてるんだってよ。おめーも女王候補だから女王になって、あんなことするかもしんねーんだよな。まあ、せいぜいがんばるこったな。
B. この飛空都市ってのは、新しく発見された世界をよりよく発展させるための施設なんだぜ。けっこー、たくさんの人が働いてるから、それで、ここみたいな遊べる場所もあるんだな。
C. 今の陛下が選ばれたときの守護聖で残ってんのはジュリアスとクラヴィスとルヴァだけのはずだぜ。オレはマルセルの次に新顔なんだ。だからオレにとってはよ、おめーらが初めての女王候補なんだ　おめーらには、なるべくがんばってほしいと思ってんだ。ホントだぜ。
D. 王立研究院のパスハと占いの館のサラってな、オレたちとは違う種族なんだってよ。だから二人ともあんなに背がデカいんだろな。ちょっとうらやましいよな…あ、おめー、今、オレの身長、考えただろ？ったく、デカけりゃいいってモンじゃねーだろ！



…ったく、全然やる気ねーんだな。もう今日はお前につきあってやる気がうせたぜ。

E. 守護聖の力っていっても無限じゃなくて、いつかは弱まっちまうもんなんだ。そしたら跡を継ぐヤツを連れてきて、いろいろ教えてから、交代ってことになるらしいんだけどよ、オレんときなんか、ホント突然で、考える余裕なんてなんにもなかったぜ。ったく、あんときゃ…。

◆お話終わり◆

…じゃあ、もう行くぜ、い一かよ？

☞はい

→移動

☞いいえ

しょーがねぇな。もう一度話してやるよ。

入り口

悪いがもうちょっとだけつきあってくれよ。

ドキドキの木陰

こうやって二人きりで木陰にいるとよー、オレ、なんか照れてきちまうんだぜ。おめーが、カワイイからかもしれねーな。

☞そんな…

照れてんのかよ、おめー。…照れてるお前も、なんかカワイイかもしんねーな。…じゃ、そろそろ行くぞ、アンジェリーク。

お花畑

こーして見てみっとよー、おめーって、意外なことに花が似合うんだなー。

☞そんな…

おめー、照れてるみてーだけど、ホントのことだぜ。オレには、おめーが輝いて見えたくらいだ。…そろそろ行こうぜ、花よりまぶしいアンジェリーク。

噴水の前

この噴水の流れを見てるとなんかおめーの心に似てるなーと思っちまうぜ。おめーの心がこの流れのように澄みきっているからだろーけどな。

☞そんな…

まー、こんなことは、俺よりエリューシオンの民の方が、よくわかってんだろーな。民のためにも育成の方、がんばれよな。…じゃー、そろそろ行くか。アンジェリーク。

入り口

A. それじゃーよ、帰るぜ。しかたねーから部屋まで送ってやるぜ。

B. それじゃあよ、帰るぜ。ついでによ、部屋まで送ってやるよ。

C. それじゃあよ、帰るぞ。部屋まで送ってやるぜ。どーいうわけか、おめーともうちょっと一緒にいたいと思ってんだ、オレ。

私の部屋へ

A. 今日はよ、なかなかおもしろかったぜ。おめーも、けっこーおもしろいヤツだしよ、また一緒に公園を散歩するのも悪くねーな。じゃあな、あばよ。

B. 今日は、そーだな…、まあ、おもしろかったぜ。また機会があったら行ってもいーぜ。じゃ、オレは帰るからな、あばよ。

C. 今日のことは、ま、しゃーねーな。じゃあな、あばよ。

デートトラブル！

ひっどーい！これって二股!?

◆平日：ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. まー、落ち着けよ、アンジェリーク。確かによ、ロザリアと約束はしてたけどよ、もう今は気が変わっちまったんだ。ロザリア、日の曜日の約束はなしだからな。

B. うるせーんだよ、オレが誰と約束しようと勝手だろ。もう今日は帰るぜ。

次の日の曜日に約束している守護聖様がいる!

◆ 平日：他の守護聖様に約束をほのめかされて ◆

アンジェリーク、これはどーいうことなんだよ？

☞正直に言う

A. そうなのかよ。ま、オレとは、あんまり関係ねーこった。それにいろんなヤツの話を聞くのもおもしれーだろうからな。

B. ホントかよ。けっ、やってらんねーぜ。お前なんかとつきあってられっかよ。今日は、もう帰るぜ。

☞やめとく

A. ま、どうでもいっか、そんなこと。どっちにしたって今はおめーは、俺とこーして一緒にいるんだからよ。

B. はっきりしねーな。なんかシラけちまったぜ。今日はもう帰るからな。



オレが悪かったからよ、おめー、こんなことで怒って帰るなよ。…わかったな。



まさか！ゼフェル様が…

◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

悪かったな。ロザリア。あやまったからな、もーガタガタ言うんじゃねーぞ。

☞もう帰る！！

A. オレが悪かったからよ、おめー、こんなことで怒って帰るなよ。…わかったな。

B. おめーが、そう言ってんなら、仕方ねーな。帰ることにするぜ。

☞そこまでは…

A. ロザリアは怒って帰っちまったか。ま、いいか。おめーが残ってくれたんだから。

B. なんかおめー、文句あるみてーだな。気に入らねーな。今日はもう帰るぞ。

きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中◆

おい、今日はオレと約束してたんだろーが。ちっ、おめーってやつは…

☞あやまる

A. 仕方ねーな。でもよ、今度約束したときは絶対スッポかすなよ。

B. ごまかそうってのか。おめーは、とことんふざけたヤツだな。

☞ごまかす

A. …オレ、勘違いしてたかな…そんな気がしてきたぞ。…なんか疲れてきた。オレはもう帰るぜ。

B. ごまかそうってのか。おめーは、とことんふざけたヤツだな。

あっ！今日は○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：ゼフェル様とデート◆

アンジェリーク、これはどーいうことなんだよ？

☞あやまる

A. へぇ…おめー、なかなか正直なんだな。見直したぜ。

B. そーいうことかよ。オレ、約束を守らねーヤツは嫌いだからな、今日はこれで帰るぜ。

☞ごまかす

A. なんだったんだ…。ま、いーか。

B. そーいうことかよ。オレ、約束を守らねーヤツは嫌いだからな、今日はこれで帰るぜ。

ひっどーい！約束してたのにー

◆日の曜日：ロザリアとのデートに遭遇◆

げっ、アンジェリーク。今日の約束な、ありゃあなしだ。今日はロザリアと遊ぶんだよ。

他の守護聖様とデート中

たたずみドームの前

◆通常◆

へえ、二人か…アンジェリークもやるじゃねーか。なかなかお似合いだぜ。

☞そんな

照れることは、ねーぜ。ホントにお似合いなんだからよ。

☞うふふ

今度、オレと遊ぼーぜ。

◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

ちっ、見つかったか。オレは、ロザリアを待っているんだよ。

たたずみドーム内

◆日の曜日◆

ロザリアか…？と思ったら、なんだ違うじゃねーか。…実はオレ、ロザリアを待っているんだがよ、まだ来ねーんだぜ、あいつ。

Zephel 王立研究院

つっけんどんだけど優しいんですね

- おっ、誰かと思ったらおめーかよ。オレに、なんか用があるんだろ？
- （２度目以降）また、おめーかよ。今日はよく会うな。
  - お願いが → ここでは、オレは「器用さ」をもたらす鋼の力がエリューシオンでどれくらい必要なのか教えてやれるけどよ…。
    - お願いします
    - やめます → 途中でやめるくらいならはじめから言うなよな。
    - （力がたりない） → それをやるにはおめーの力が１必要なんだぜ。ん、その力が残ってねえじゃねーか。
  - こんにちは → はいはい、こんにちは。これでオレもあいさつしたからな。

Zephel 占いの館

「おめー」じゃなくって、私の名前は…

- おっ、誰かと思ったらおめーかよ。オレに、なんか用があるんだろ？
  - お願いが → オレに、おめーは何をお願いするってんだ？
    - 仲良くしたい → それで、おめーは誰と仲良くしたいんだ？
      - キャラクター選択 → ××と仲良くしたいのかよ？
      - 守護聖本人 → オレと仲良くなりたいのかよ？
    - 仲良くして → おめーは俺に、誰と仲良くしろってんだ？
      - キャラクター選択 → ××と仲良くすればいいんだな？
      - キャンセル → なんだ、お願いはやめちまうのか？
    - （力がたりない） → それをやるにはおめーの力が１必要なんだぜ。ん、その力が残ってねえじゃねーか。
  - こんにちは → はいはい、こんにちは。これでオレもあいさつしたからな。

- （２度目以降）また、おめーかよ。今日はよく会うな。オレに、なんか用があるんだろ？
  - お願いが → おめーの願いはもう聞いただろ。それでもか？
    - それでも！！ → ったく、仕方ねえな。おめーの願い、もう一回聞いてやるよ。
    - やめます… → 途中でやめるくらいならはじめから言うなよな。

エリューシオンでは、人々に「器用さ」を与える鋼の力を、〇〇必要としてるぜ。

オレの力が、あと〇〇だけ必要みたいだな。

オレの力は今までに〇〇贈ったぞ。エリューシオンでは、これは〇番目のものだぞ。

…器用さも求められているみてーだな。少しはオレの力を贈っといた方がいいってわけだ。どうしてもっていうならオレのところに来るこった

…エリューシオンでは人々に「器用さ」を与える鋼の力が、求められているみたいだぜ。もしエリューシオンを発展させようってんならオレのところに来るこったな。

オレの力は、今んところ必要じゃねーみたいだな。エリューシオンの育成には他の力を贈るんだな。

今度は望みの予測でも見るこったな。

せっかくこのオレが教えてやったんだから参考にしろよ。

ええ！ — わかった。おめーの願いは覚えておくよ。

いいえ！ — それで、おめーは誰と仲良くしたいんだ？

キャンセル — なんだ、お願いはやめちまうのか？

はい — 途中でやめるくらいならはじめから言うなよな。

いいえ — それで、おめーは誰と仲良くしたいんだ？

ええ！ — わかった。おめーの願いは覚えておくよ。

いいえ！ — それで、おめーは誰と仲良くしたいんだ？

キャンセル — なんだ、お願いはやめちまうのか？

はい — 途中でやめるくらいならはじめから言うなよな。

いいえ — それで、おめーは誰と仲良くしたいんだ？

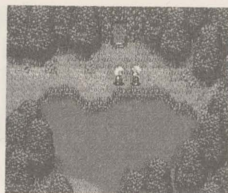
ええ！ — わかった。おめーのお願いを、一応、覚えておいてやるよ。

いいえ! — おめーは俺に、誰と仲良くしろってんだ？

ええ！ — 途中でやめるくらいならはじめから言うなよな。

いいえ! — おめーは俺に、誰と仲良くしろってんだ？

Zephel 恋愛イベント



どーせのーてんきだもん！

第1段階

◆森の湖◆

「アンジェリーク、お前っていつ見ても元気だよな。のーてんきとか何とか言われてんじゃねーか？」
☞「そうかも」
「けっ、だっせーな。自分で認めてどうすんだよ。でも、それがおめーのいいトコだよな。一緒にいるとつまんないことなんかみんな忘れちまうんだ。それに何言ってもメゲないしな！　好き勝手話せるヤツができて、オレもけっこう楽しいんだぜ」

☞「そんなぁ！」
「オレが言ってるってワケじゃねーだろ。怒んなよ」

◆私の部屋◆

「部屋まで送っていただいてありがとうございました。」
「いや、別に、そんなことはいいんだけどよ…。えっと…そうだ！　おめーにだったら、オレの自慢のメカを見せてやってもいいぜ！」
☞「うれしい」
「そっかー！　じゃあまた二人で遊ぼーぜっ」
「ゼフェル様って取っつきにくいと思ってたけど…。よかった。とっても楽しかった」

☞「あの、でも…」
「なんだよ、ヤなのか!?　だから女はつまんねーんだよな！」
「ゼフェル様を怒らせちゃったみたい。せっかくいい雰囲気になってたのに…」



第2段階

◆森の湖◆

「アンジェリーク、お前よく見ると結構カワイイな」
☞「そうかも」
「けっ、うぬぼれてやがるぜ。…でもまあ、オレにはそう見えるんだからよ」
☞「そんなぁ！」
「ちっとは自覚しろよ。それともオレの美的感覚を疑ってるってワケじゃねーだろ？」

「だからよー、オレがさー、おめーのことをカワイイって思ってたって、別にかまわねーよな？」
「どういう意味ですか？」
「あーもう、いいって！　後で言うからよ！　ったく、こんな人が来るところで言えるか！」

◆私の部屋◆

「今日も送っていただいてありがとうございました。ところでさっき言いかけてたことって…？」
「ちっ、覚えてたのかよ。…つまり、オレはけっこう本気でさ、おめーはどうかなって…」
☞「うれしい」
「ホントかよ!?　そんなふうに言われたらますます好きになっちまうじゃねーかっ！」
「ひょっとしてゼフェル様、私のこと…。きゃっどきどきしちゃう！」

☞「あの、でも…」
「何だよ、オレがここまで言ってるってのに、はっきりしねー奴だな！　オレはそーゆーのが嫌いなんだよっ！」
「何よ、ゼフェル様ってば自分勝手なんだから！　もう知らない！」

告白

◆森の湖◆

「ゼフェル様、私、あなたのことが好きなんです」
「え？　な、なんだ。なに言ってんだよ、おめー、女王になるのはやめたのかよ？」
☞「…はいっ！」
「そうだ、女王になんかならなくったっていいんだ！　お前にはその…オレが付いててやるからよ！　このやろー、オレがそのうち言おうと思ってたのに、先に言いやがって。ったく……好きだ!!」

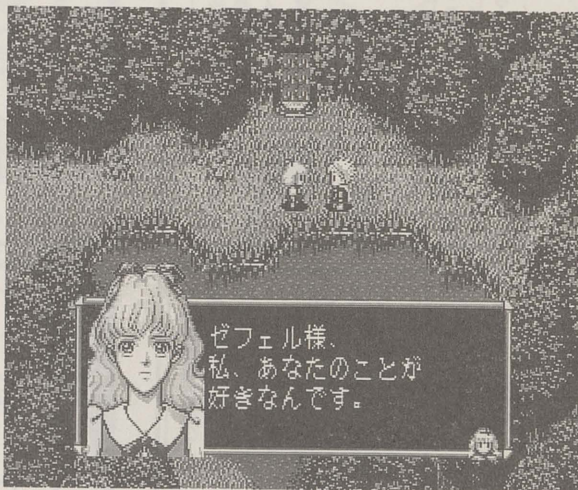
☞「いいえ…」
「結局そうなんだろ？ま、いいや。今日のことは忘れといてやるぜ」

◆失敗◆

「クッ、何言ってんだよ。俺はお前のこと好きだとか思ってるわけねーだろっ」

◆私の部屋◆

「あのよー、アンジェリークそんなに落ち込むなよな。友達ってのも変かもしれねーけど、オレにとって、おめーはいいヤツなんだからな」



力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

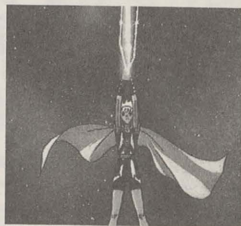
じゃあよ、女王候補たちの望み通りによ、オレたちの力を贈るぜ。

しょーがねーからアンジェリークのいう通りエリューシオンのヤツらに鋼の「器用さ」を贈るぜ
めんどくせーけどアンジェリークのいう通りフェリシアのヤツらの鋼の「器用さ」を奪うぜ
やっぱ、フェリシアに鋼の「器用さ」を贈っとくのは、もったいねーよな。
アンジェリークってヤツはほっとけねーから、内緒でエリューシオンに、鋼の「器用さ」を贈っとくぜ

鋼の力よ、エリューシオンの人々に「器用さ」を与えろ！
フェリシアから人々に「器用さ」を与える鋼の力を、奪ってしまえ！

少し贈ってやるからよ。
とりあえず、たくさん贈っとくからよ。

ま、少しだけどよ。
今回はたくさん奪うからな。



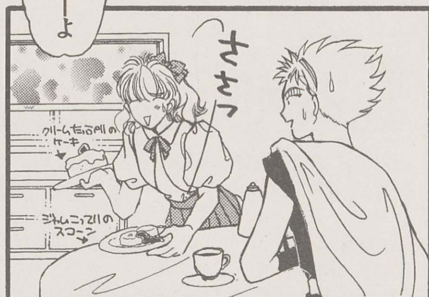


杉山志保子

嫌いなものは？









アンジェにおまかせ









メッセージ♥テスト〈ゼフェルくんの答え〉 1B 2C 3C 4C 5B 6A 7C 8C 9B 10D-C-B-A

ACT. 8 オリヴィエ編



Olivie

私の部屋



"ヒ・ミ・ツ"は、なしですよ！

デートのお誘い

よろこんで！（共通）

◆通常◆

そう言ってもらえるとこっちまでうれしくなっちゃうね。ふふっ。じゃ、アンジェリーク。今日は何したいのかなぁ？

☞外へ行きたい

どこに行きたいか教えてくれる？

☞公園

公園ね、あそこは結構楽しいよー。おもしろい人たちもいるしね。じゃあ、行こっか。

☞森の湖

うんうん。森の湖ね。じゃあ、出かけよっか。

☞キャンセル

a.どっちでもいいです

A. じゃあねェ…どっか外に出かけるってのはどう？

B. そーだ、この部屋で話でもしよっか？

b.あなたの好きな所で

A. そうだねェ…じゃ公園にしようか？

B. じゃ森の湖に行くってのはどう？

ごめんなさい…

◆平日：約束あり◆

あのねぇ、アンジェリーク突然で悪いんだけどさ、日の曜日の約束、今日ってわけにはいかない？

☞ことわる

はいはい。じゃ日の曜日に会いましょーね。

◆平日：約束なし◆

アンジェリーク、元気ィ？ところで、今日は私と一日楽しく過ごしちゃおーとか思わない？

☞ごめんなさい

あら残念。つれないねぇ。

◆土の曜日：約束あり◆

はぁい、アンジェリーク。明日の約束はもちろん覚えてるけど、今日じゃダメかなぁ？

☞ことわる

あーあ。今日だったら行けたんだけどねェ。ま、仕方ないか。こっちこそゴメンねー。

◆土の曜日：約束なし◆

はぁい、アンジェリーク。何してるかなと思ってさ。そーだ、ヒマだったら私と遊ばない？

☞ことわる

そっかー、そーゆーのもあったよねェ。じゃまた今度ってコトで。じゃあね。

◆日の曜日：約束あり◆

はぁい、アンジェリーク。お迎えに来たよん。一緒に遊びに行くでしょ？

☞ごめんなさい

そりゃあ参っちゃうねェ。ま、今日はしょうがないけど。

◆日の曜日：約束なし◆

はぁい、アンジェリーク。元気にしてるー？日の曜日だし、お誘いに来たよん。

☞ごめんなさい

なぁにダメなの？せっかく日の曜日なのに。たまには息抜きも必要じゃないかなァ。

デート中

じゃあ何？なに話そうか？どんなことでも聞いてよ。

好きな物

A. ふふっ、アンジェリーク。ドリアンて食べたことある？なんていうかな、とにかくすごいんだから。トロピカルフルーツ系は大好きだから、つい手を出しちゃったんだけどさ。え？どうだったかって？ふふふ。あれだけは食べてみなきゃわかんないよ。でも食べた後で私に文句は言わないでね。



はぁい、アンジェリーク。お迎えに来たよん。一緒に遊びに行くでしょ？



B. 私さ、キャビアって好きなんだよね。ただ、びっしりキャビアってのはヤだよ。シーフードの冷菜とかに、ちらっとのってるのを食べるときのプチプチが好きなんだよねェ。

嫌いな物

A. なに？食べ物のこと？料理本来の味を台無しにしちゃう調味料って嫌い。特にタバスコとか。あんな辛いモノかけて何がおいしいんだろ。だいたい辛いのが好きだなんて舌がニブいんじゃない？…別に、昔、知らずに一本かけちゃったことなんて関係ないからね。

B. 美容に悪いモノはパス！辛いの、油っこいのはお肌の大敵だし、カロリーがやたら高いのもダメ。サラミソーセージ？あんな両方かねそなえたのは、もう論外！

理想の女性像

そりゃ、カワイイ娘かな？でもカワイイっていうのは外見じゃなくってね、しぐさとか雰囲気とか言葉とか…そういうの全部がカワイイなぁってこと。そういう娘って、なんか好きなんだ、私。

苦手な女性像

女の子ってのは基本的にはみんなカワイイんだけど、たまにどーしてもそうじゃないってコがいるよね。外見じゃなくって、気持ちの問題。すっごくワガママだとか、逆になんでも暗く考えちゃうとか、さ。ちょっとならまだフォローできるけど、いつもそうだと重くなっちゃうよねェ。

趣味の話

A. 見てわかるでしょ。メ、イ、ク。髪の先から爪先まで、手をかけてないとこはないよもう趣味っていうより生きてる証っていっても過言じゃないね。そだ、アンジェリークにも今度したげよっかな？ふふっ、きっとすっごく映えると思うなあ。

B. 音楽！かな。聞くのも演奏するのも大好きなんだ。ハープがお得意の人もいるけど私はオールマイティ。なんでもこなせるよ。ま、自己流だけどね。好きなものを好きなように楽しく弾くってのがイイんだよね。それが趣味ってもんじゃん？

故郷のこと

ふふふ、ヒ・ミ・ツ。なぁんてね。何てゆーか、ま、イナカだったわけよ。主星からは遠いし寒いし、不便だしつまんないし。だから、ここは自分のいる所じゃないってね、飛び出して来ちゃったってわけ。まあ、今となってはイイ思い出ってヤツ？あ、でもこの話は他の人には絶対秘密だからね。

身近なこと



ふふふ。キ、ラ、イ。

A. 私のチャームポイントはやっぱりこの目かな？そりゃ、ファッションもメイクも大切だけどさ、人間の美しさの基本は中身だからね。目ってさ、その中身を一番よく表してるとこだからさ　アイメイクは特に…あれ？ちょっと違っちゃった？

B. 私がこんなファッションだってのが気になる？でもねェ、これがポリシーだからね。曲げないよ。だって、美しいものはより美しく飾りたてなきゃもったいないじゃん！

物の考え方

考えっていってもいろいろあるけど…なに？

▶星への関心

A. じつはねぇ、私、けっこうエリューシオンのことって気になっちゃってるんだ。だぁってカワイイじゃん、あのコたちってさ。しっかり育成してあげてよ、天使様！

B. エリューシオンだっけ？ま、せいぜいがんばってよってとこかな。

C. なーんだ、そんな話ー？悪いけど興味ないなぁ。

▶女王候補の事

A. 女王候補ってけっこう大変そうだよね。でもさ、誰でも一生懸命になってる時の姿って美しいからさ　そういうとこをいっぱい見せてくれちゃうコには思わず応援しちゃうよ。アンタもがんばってね！

B. 女王様をめざすのも大変だとは思うけどさ、もう選ばれちゃったんだからしかたないじゃん。ここまで来たんだからさ、とりあえず後悔はしないようにしてほしいなぁ。

C. 女王ってさぁ、あんまりおもしろそうじゃないじゃん。つまんないこと無理してやったって疲れちゃうだけだしさ、自分が楽しいことをすんのがイチバンだよ

▶仕事は好きか

A. 私ほど仕事熱心な守護聖もいないんじゃないかな。人に力を贈るだけじゃなく自分自身も日夜、美しさを追求しているんだからさ。エライと思わない？

B. まーね。「美しさを贈る、夢の守護聖」っていう肩書きは気に入ってるからさ。お仕事の方もほどほどにやってるよ。

C. 大っキライだよ！めんどくさいし、つまんないし、自由はないし。いいことないじゃん。あーあ、守護聖になんてなるハズないと思ってたのになぁ。

▶仲間への関心

A. あの連中？「おもしろい！」の一言につきるね。実際あんな連中とずーっとつきあってきてるんだよ？おもしろくなきゃ、やってらんなかったと思うよ。

B. まあ、フツウ。かな？気の合う人もいれば虫の好かないヤツもいるしさ。疲れない程度につきあってあげてるってカンジだね。

C. 実を言うとね、あんまり好きじゃないんだ。好かれてないのに好きになってやる義理もないしね。ま、自分は自分、人は人ってとこかな？

▶外は好きか

A. もう、大好き！だってさぁ、外には楽しいことがいっぱいころがってるんだよ？それを見過ごしちゃうなんて、もったいないと思わない？

B. 外ね、嫌いじゃないよ。楽しいことも美しいものもじっとしてるだけじゃ手に入んないからねェ。

C. 外ねェ…。イマイチだね。近頃ツいてなくってさあ、あちこち出歩いても全然いいコトないんだよね。別に外に行かなくったって家ン中でも楽しいことはいっぱいあるしさ。

▶話は好きか

A. 好きに決まってるじゃん！そうでなかったらここでアンタとお話なんかしてないよ。それとも、話するのが大っキライの私とか、想像つく？

B. 話、ねェ…。私もその日その日の気分で生きてるからねー。好きだったり嫌いだったりどっちでもなかったりってとこかな？

C. ふふふ。キ、ラ、イ。

…ま、こんなとこかな。こんなんでよければそのうちまた話したげるよ。それじゃ、私はそろそろ帰るね。じゃねー。

Olivie

森の湖

私も一緒にいると気持ちいいです



散歩中

あっオリヴィエ様だわ

◆通常◆

はぁい、お元気ィ？アンジェリーク。

A. ここにいるとさ、ハートがきれいになる気がしない？自然のおかげかなあ。

B. 自然の美しさってホントの美しさだと思うんだ。ありのままの姿で美しいって最高だよねェ。

約束しちゃおっかな

☞お願いする

アンジェリーク、その日はヒマなの？

☞はい

はいはい。じゃあ、日の曜日は楽しく過ごそうね。

☞いいえ

ちょっと変だよ、アンジェリーク。…ま、いっか。

☞やめとく

はぁい、アンジェリーク。いつも元気いっぱいだね。こっちも元気になれるよ。

◆平日：約束あり◆

約束は日の曜日だからね、忘れちゃダメだよ。

祈りの滝

滝にお祈りしてみようかな？

☞そうしよっと

はぁい、お元気ィ？アンジェリーク。

☞会いたかった

ホントに？私もアンジェリークに会いたいなーって思ってたんだ。やっぱ偶然ってあるもんなんだねェ。

☞偶然ですね

はぁい、こんにちは。今日も元気そうだね？アンジェリーク。

デート中

ロマンチックだわ

A. ここは、本当にきれいで気持ちいい場所だね。今、本当に気分いいんだ。こんなに気持ちがいいのはアンジェリークと一緒ってコトもあるかもね。

B. アンジェリークといるといつでも楽しいんだけど今日は、また特別に楽しく感じるね。やっぱり周りがキレイだからかな。ふふっ。

C. ここってさあ、いつ来てもとっても楽しい気分になっちゃうよね。そのうえアンジェリークと一緒なんだもん、今日、こんなにシアワセなのも当然かなっ。

パシャッ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい

ホントにアンジェリークはまだまだコ・ド・モなんだから。

どこまで行けるかな？

☞ここから先は行けないのね

あぁ、そこから先は立入禁止なんだって。どうがんばっても、無理。いい加減あきらめなよ。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

帰っちゃうのかな？

☞はい

そう、じゃあ部屋まで送っちゃおっと。

◆私の部屋◆

アンジェリーク、今日はとっても楽しかったよん。じゃ、またね。バーイ。

☞いいえ

そうだね。せっかく来たんだからもっと遊んでいかなくちゃソンだよねェ。

デートトラブル！

Wブッキング!!

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中、約束中の守護聖様がロザリアとツーショットで出現！◆

A. そうだったっけ？忘れちゃったなあ。じゃ、また今度ね。

B. あーら、アンジェリーク。残念だったけどあなたとの約束は、キャンセルさせてもらったから。アンジェリークも楽しくやっているみたいだし、お互い様ね。

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日：散歩中◆

育成はうまくいってる？私もできるだけのことはやってあげるからさ、がんばってみてね。

◆日の曜日：ロザリアとデート中◆

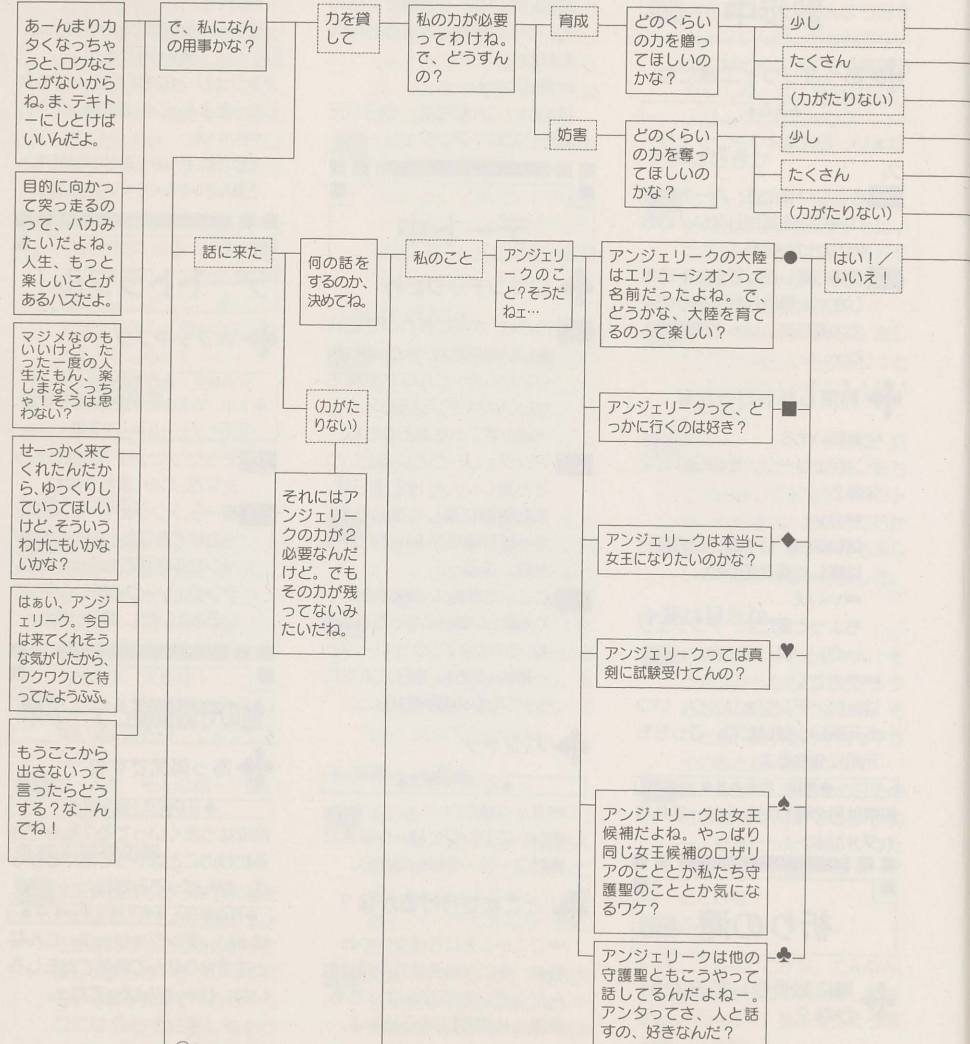
はぁい、アンジェリーク。こんなとこで会うなんて偶然でおもしろいね。じゃ、がんばってねェ。

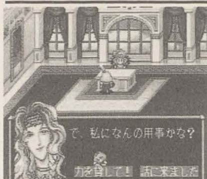
執務室

Olivie

はいっ！リラックスしてがんばります！

平日





★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方
各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次(右どなり)のブロックの中からいずれか(14通りあります)の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

少し育成する、ね。ちゃんと覚えておくから、楽しみにしておいてよ。

たくさん育成する、ね。ちゃんと覚えておくから、楽しみにしておいてよ。

それにはアンジェリークの力が（2／4）必要なんだよ。でも、今はその力が残ってないみたいだね。

少し妨害する、ね。ま、一応、覚えておくから。

たくさん妨害する、ねェ。ま、一応、覚えておくからさ。

それにはアンジェリークの力が（2／4）必要なんだよ。でも、今はその力が残ってないみたいだね。

でしょ？　そーだと思ってたんだよねェ。

アンジェリークも？私とおんなじじゃん！けっこう気が合うのかな。

あ、そうなんだー。ま、私がアンジェリークでも、そう答えるね。だぁってさ、

やっぱりそうなんだ。そうじゃないかなって思ってたんだけどさ。

でしょ？私でもきっと同じことを答えたと思うよ。

アンジェリークも？私とおんなじじゃん！私たち、けっこう気が合うかもね！

あ、そうなんだー。ま、私がアンジェリークでもそう答えるね。

そうなの？ふーん、私とは違うんだ。

へぇ、そうなんだ？私とは違うねェ。

ふぅん、そうなんだ。…ま、イイけど。でもさぁ、

そーなんだ。私の考えとは違うねェ。

しよーがないなあ、そんなんじゃ女王様になれないよぉ？

へえ、そうなの。私とは違うんだね。

ふぅん、そうなんだ。…ま、イイけどね。

●
…大陸の民もさ、あのコたちなりにがんばって、発展しようとしてるんだよね。それを手伝ってあげてると思うと、ちょっと気分よくない？

…育成なんてメンドーなだけじゃん？私ならやってらんないと思うな。

■
…私は執務室になんか、縛りつけられたくないね。外に出かけた方がゼッタイ楽しいじゃん！

…だってさ、この辺じゃ外に出かけても、あんまりおもしろいトコがなくてつまんないんだもん。

◆
…私もね、ときどきはマジメに思っちゃうんだ。やっぱり女王陛下って、偉いヒトなんだなって…

…女王なんて、どうせ大変なだけだよ。もし私が女の子でも、なりたいとは思わないねェ。

♥
やっぱ、新しい女王を決める試験だからさ、いい加減な気持ちで受けちゃダメだよね。

…あんまりマジすぎると途中で息切れしちゃうよ、きっと。テキトーにやってればいいんじゃないかな。

♠
他人がやってることって何かおもしろそうじゃん。自分が何かやろうとする時の参考にもなるしさ。そーいうことは知っておいてもソンじゃないと思うよ。

自分は自分、人は人。他人の行動なんか全然、関係ないね。第一、それぞれが考えて行動してるんだからさ、自分が気にしても仕方ないじゃん。

♣
…私は人とお話するのってけっこう好きなんだ。楽しい話は楽しい時間をくれるからね！

…無意味なおしゃべりって美しくないじゃん。楽しけりゃまだイイけどそうとは限んないもんね

今日話したおかげで、私もアンジェリークのことを少しはわかったみたい。ま、楽しかったよ。

①

②

人のうわさ → じゃあ、誰の話をしようか？ → キャラクター選択

- アンジェリークのことを話そうってわけ？アンジェリークのこと？そうだねェ…
- ロザリアのことを話そうってわけ？ロザリアのことね、そうだねェ…
- ××のことを話そうってわけ？××のことね、そうだねェ…

キャンセル → 今回のお話はやめちゃうのかな？

キャンセル → なーんだ、ここまで来て用事なしってわけ？

- はい → ふぅん、なんでもないの。じゃ、またね。
- いいえ → じゃあ、何なのかな？今度はちゃんと答えてね。

(再訪問)
あら、アンジェリーク。今日はよく会うね。

- アンジェリーク、もう育成の依頼は聞いたんだけど…前の依頼は取り消しってわけ？
- アンジェリーク、もう妨害の依頼は聞いたんだけど…前の依頼は取り消しってわけ？

- はい → じゃあ、前の依頼のことは忘れたげるね。
- いいえ → じゃあ、前の依頼をそのまま覚えとくからね。

アンジェリークってばいつも明るくて元気だね。そんなとこがとってもカワイイと思うよ。

私は、アンジェリークはいいコだと思ってるよ。だからさ、これからも仲良くしようね。

はっきり言うとね、私はアンジェリークのこと好きじゃないんだ。

私が話せることはこのくらいってトコかな。参考になった？ま、がんばってね。

私、あのコのことはけっこう好きだよ。気は強そうだけどキレイなコだよね。

すごく仲がいいってワケじゃないけど…普通かな。私は、結構おもしろいヤツだと思ってるけど。

…気に入らないね。

私が話せることはこのくらいってトコかな。参考になった？ま、がんばってね。

アンジェリークはどう思ってるのか知らないけど私は、いいヤツだと思っているよ。

すごく仲がいいってワケじゃないけど…普通かな。私は、結構おもしろいヤツだと思ってるけど。

…気に入らないね。

アンジェリークのことをお気に入りみたいだね。…ふふっ。

アンジェリークのことは女王候補の一人としてしか見てないみたいだね。…ガッカリした？

アンジェリークのことは嫌いみたいだねェ。

そういえば、女王陛下のことを、とっても尊敬してるんだ。だから試験をがんばれば仲良くなりやすいと思うけど…ねっ。

性格的にはね、人と話をすることが大好きでさ。社交的ってコトかな。

…そういえば他人の行動は気にしないってタイプだね。

…それにさあ、すぐヤキモチやくからそのことを考えて行動しなきゃね。

そうだねェ、自分の執務室でのんびりしてることが多いみたい。

…そういえばエリューシオンには全然、関心がないってさ。

…そーいえば、エリューシオンのことをとっても気に入っているみたいだったね。

…そういえば、女王になろうなんて気が知れない、なんてことを言ってたな。

それはともかく元気なヤツだからさ、じっとしてることには耐えらんないらしいね。

…そういえば人と話すことなんかキライらしいね。

…そういえば結構、気まぐれでねェ、気分だけで行動しちゃうこともあるみたいだよ。

…そういえば、あんまり無意味な行動はとらないみたいだね。

私が話せることはこのくらいってトコかな。参考になった？ま、がんばってね。

日の曜日

はぁい、アンジェリーク。今日も元気かな？元気みたいだね。

今日は日の曜日だから仕事はお休み。何しに来たのかな？

はぁい、今日はアンジェリークと約束していた日だね。ところで、どこに誘ってくれるのかな。

部屋への誘い

せっかくだから行っちゃおうかな。

…アンジェリーク、私が言うのもなんだけどそれは、あんまりいいことじゃないねェ。私、今回は遠慮しとくね。

…アンジェリーク、私が言うのもなんだけどそれは、あんまりいいことじゃないかもね。今回は遠慮するからさ。約束もなかったってことにしといてよ。

（再訪問）
今日は、ちょっと遊ぶ気分じゃないんだ。わかってよね。

（力がたりない）

でも、アンジェリークには私と遊ぶだけの力が残ってないみたいじゃん。今度は、もっと力がある時に誘ってほしいなあ。

外への誘い

外に遊びにねぇ…で、どこへ行こうっていうのかな？

公園

森の湖

（力がたりない）

キャンセル

キャンセル

なーんだ、ここまで来て用事なしってわけ？

あれ？どうしちゃったのかな？

趣味イベント

『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

やだなぁもう、今ちょうどメイク直してたトコで…。…ねぇ、ルージュの色とか選ぶの手伝ってくれる？
☞はい
ああ、よかった。さっきから迷ってて…。どっちがいいと思う？
(イベント→私の部屋)
こっちこそ、助かっちゃったからね。なかなかの色感覚だね。じゃ、今日はこれでいってみるね。じゃね、アンジェリーク。
☞いいえ
ふうん。自分のセンスに自信ないのかな？ま、いいや。またねー。



お化粧の勉強はまだまだこれからだけど、ほめていただいてうれしかった♥ 私って才能あるのかしら？



オリヴィエ様の音楽って、とっても楽しい気分になるわ。また明日から、女王試験がんばろっと。

ねえ、せっかくだから、今日は一緒に楽器を演奏してみない？教えてあげるから。
☞はい
じゃ、今日はちょっとクラシカルに、リュートにしてみようかな？
(イベント→私の部屋)
よろこんでもらえたかな。結構面白いモンでしょ？自分勝手に楽器を弾くって楽しいよね。こっちこそ今日はとってもたのしかったよん。じゃね、アンジェリーク。
☞いいえ
あらら。興味ない？まあ、じゃ、そのうちに気が変わったらね。

今日は特に予定ないし、行くことにするね。

公園か…気が乗らないな。悪いんだけど帰ってちょうだいね。

公園…は、ちょっと気が乗らなくってさ。悪いけど帰ってもらえる？

(再訪問)
今日は、ちょっと遊ぶ気分じゃないんだ。わかってよね。

今日は特に予定ないし、行くことにするね。

うーん、せっかくだけど湖に行く気はないんだ。悪いんだけど帰ってね。

うーん、せっかくだけど湖まで行く気はないんだ。約束はなかったことにしておいてよ。

(再訪問)
今日は、ちょっと遊ぶ気分じゃないんだ。わかってよね。

でも、アンジェリークには遊びに行くだけの力が残ってないみたいだねェ。今日はもう帰って寝た方がいいんじゃない？

外へ行くのをやめちゃうのかな？
- はい — じゃあ、お部屋に呼んでくれるのかな？
- いいえ — ってことは、やっぱり外に行きたいんだ。

- はい — ふぅん、なんでもないの。じゃ、またね。
- いいえ — じゃあ、何なのかな？今度はちゃんと答えてね。
- どこにしよう — それはアンジェリークが決めてほしいなあ。
- 帰ります… — あら、もう帰っちゃうの。残念だなあ。

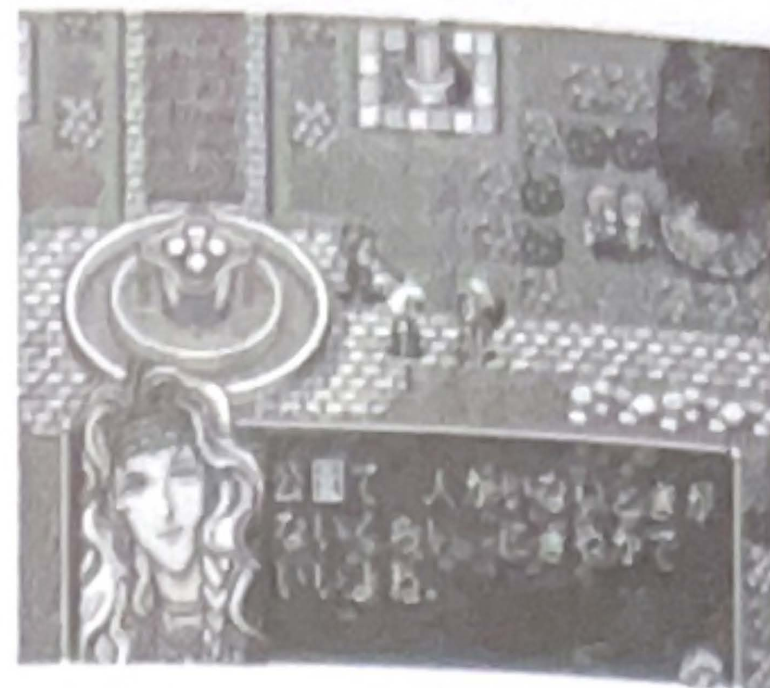
他の守護聖の執務室

…ってわけでね。あら、アンジェリーク。…私はこれで帰るからさ。じゃあね、アンジェリーク。

Olivie

公園

何が起こるか、ワクワクします



散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

はぁい、お元気ィ?アンジェリーク。

◆2度目以降◆

あら、アンジェリーク。今日はよく会うね。

☞お願いする

はいはい。じゃあ、日の曜日は楽しく過ごそうね。

☞やめとく

はぁい、アンジェリーク。いつも元気いっぱいだね。こっちも元気になれるよ。

◆他に約束あり、力がたりない◆

ちょっと変だよ、アンジェリーク。…ま、いっか。

◆平日：約束あり◆

約束は日の曜日だからね、忘れちゃダメだよ。

◆平日：約束なし◆

公園てさ、いろんなコトがあっておもしろいよね。つまんないことなんかすぐ忘れちゃえるよ。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

まだ来ないんだよ、ロザリアってば。

◆2度目以降◆

ロザリアったら、どうしたんだろ。まだなんだ。

◆日の曜日：ロザリアとデート中・約束なし◆

育成はうまくいってる?私もできるだけのことはやってあげるから さ、がんばってみてね。

デート中

はぁい、アンジェリーク。今日は楽しもうねェ。

公園入り口(デートスタート)

ちょっと歩こうか。

◆噴水石まで移動◆

公園て、人がいないときがないくらい、にぎやかでいいよね。ん?あのベンチ、今日もカップルがいるじゃん。とりあえず向こうに行ってみよっか。

ベンチの前

あらら、思ったとおりアツアツのお二人だったみたいだねェ。おや、アンジェリーク、うらやましいのかなー?

☞はい

A. きゃははっ、やっぱりね!素直でいいよ、アンジェリーク!

B. きゃははっ、やっぱりね!でも私、自分があんなマネしようとは思わないしさ。なーんか、つまんなくなっちゃったな。も、帰ろっと。

☞いいえ

A. きゃははっ、やっぱりね!自分は自分、人は人。基本だよねェ。幸せのカタチなんて人それぞれなんだしさ。

B. きゃははっ、やっぱりね!そういうと思ったけど…つまんないやね。せっかくいろいろお話しちゃおうと思ってたのにさ。もう帰っちゃおっと。

神鳥の像(右)

じゃ、さ、あの神鳥の像のとこに行ってみよーよ。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ」

あら、なに当たり前のこと言ってんだろねェ。

アンジェリークとここでこうして話してんのは楽しいけど、一応、これもお仕事って建前でさ。アンタのためになるような話をしろって言われててね。…ここだけの話、キビシイのがいるからさ。だから、他の連中の話も聞いた方がいいんだけどどっちの話を聞くっていえば、私が喜ぶと思う?

☞(正解)

そのとーり!私が信頼できると思う話を聞いてほしいからね。

☞(不正解)

そこで、どーしてそっちを選ぶのさ。ひょっとして私のこと、よくわかってなかったんじゃないの?だったら、やることがもっとあるはずだよ。さ、今日はもう帰ろっか。

ときめきの丘

じゃあ、女王候補としてのアンジェリークに聞いちゃうけど

A. エリューシオンの人口は〇〇〇人より多いかなぁ?

☞(正解)

さすが女王候補だね、アンジェリーク!私もエリューシオンのこともっと考えなくちゃって気になってきたよ。

☞(不正解)

こんな基本的なこと間違えないでよねー。エリューシオンの天使様がこんなんじゃ、私も興味なくなっちゃうなあ、ホント。

B. フェリシアの人口は〇〇〇人より多いかなぁ?

☞(正解)

おっ、エライじゃん！ロザリアの大陸のことまでちゃんとチェックしてるんだ。ちょっとは私も見習わなきゃね。

☞（不正解）

なんだ、知らないの。知っておかなくちゃダメじゃない。

C. ロザリアと仲のいい守護聖はだーれだ？

☞（正解）

よく知ってるねぇ。ちょっと感心しちゃうな。私ももっと他の連中のこと気にしてあげようかな？

☞（不正解）

なんだ、知らないのォ？ま、他人同士のことだから別にかまわないよね。

D. エリューシオンの建物数、フェリシアより多いかな？

☞（正解）

ちゃんと知ってるじゃん。エライエライ。といっても女王候補だから当然か。でもさあ、そうやって女王を目指す女王候補ってやっぱりいいよね。なんか応援しちゃうよ。

☞（不正解）

こんなことも知らないなんて、がっかりだなあ。アンジェリーク、アンタは女王候補なんだよ？女王をめざして…って、なんか言う気力もなくなっちゃった。今日はもう帰ろ。

女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ」
ふふっ。ありがと。
女王陛下の像ってさ、…美しいよね。心の美しさが形に表された美しさっていうのかな。誰が女王になるにしてもそういう美しさを持った女王になってほしいな。でもさ、アンジェリークどお？　女王候補ってやっぱり大変？

☞はい

A. そっかー。やっぱ大変なんだねェ。でも、アンジェリークにはがんばってほしいな。大変だけどがんばっちゃう女の子って、すっごくカワイイんだからさ！

B. ってことは、結構疲れてきてんじゃない？ゆっくり休ませてあげたくなっちゃったな。今日はもうこれで帰ってまた明日からがんばってよ、ね？

☞いいえ

A. ふぅん。スゴイじゃん。あれが大変じゃないなんてさ。感心しちゃうね。

B. そりゃちょっと違うんじゃない？　女王候補ってのを甘く見すぎだよ。今日はもう帰って、ゆっくり考えてみた方が、アンタのためだと思うね。

神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますからがんばってくださいね」
あらら、人気者じゃん。これはがんばんなきゃね。ところでさ、アンジェリーク、ちょっと歩き疲れたんじゃない？

☞はい

A. ごめんねエ。もうちょっとだけ歩いて。すぐそこに休憩できる場所があるからさ。

B. そう?聞いてよかったよ。私もそろそろ歩き疲れてきてたんだ。じゃ、今日はこれで帰ろ、ね？

☞いいえ

A. うんうん。確かに元気そーだね。じゃ、も少し歩こうか。

B. アンタってばホント元気だね。うらやましいよ。私はもう疲れちゃってさ。今日はこれで帰ろうよ。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート中◆

あれ？先客がいるみたい。おジャマするのはちょっと悪いよねェ…。ということで行っちゃおうよ、アンジェリーク。

たたずみドーム

…ちょっとおもしろいお話をしてあげようか。

A. 女王陛下の本名って知ってる？アンジェリークっておっしゃるんだよ。あれ？　ひょっとして少し気になってたの？でもさ、アンジェリーク。女王陛下は尊称でしか呼ばれなくなっちゃうからね。ちょっとさびしいかもね。

B. この飛空都市はさ、新しく発見された世界を調査したり、発展を助けたりするための施設なんだ。アンタたちの育ててる大陸の民にとっては、天の神様がいる場所にも思えるってワケ。そこから降りてきて願いをかなえてくれるんだからアンタたちが天使様って呼ばれるのも当然だね。

C. 今の陛下が選ばれたときの守護聖で、残ってるのはジュリアスとクラヴィス、ルヴァの3人だけでね、その後に、リュミエールとオスカー、私が守護聖になって、3人のお子



そこで、どーしてそっちを選ぶのさ。ひょっとして私のこと、よくわかってなかったんじゃないの？

様たちは結構新しいんだよ。だから私とかにとって、女王候補ってのは、アンタたちがはじめてなんだ。だから興味もあるし、がんばってほしいなって思ってるんだよ。

D. 王立研究院のパスハと占いの館のサラちゃんの話だけどさ、知ってる？あの二人、異種族って。そういえば、サラちゃんの服とかアクセサリーって手作りだってさ。上手だし似合ってるよねェ。でも、まだまだ私にはかなわないと思うけどね！

E. 守護聖の力っていっても無限じゃなくて、いつかは交代するもんなんだけど、実は私、楽しみなんだ。守護聖やめたら、今よりずっと自由に生きていけると思うとさ、何かワクワクしちゃうんだよねー。あ、でも、これ他の連中には内緒にしといてね。頭の固いヤツがうるさいんだ、これが。

◆お話終わり◆

…じゃあ、行こうか？

☞はい

→移動

☞いいえ

じゃあ、もう一度お話しちゃうよ。

入り口

もーちょっとだけつきあってちょーだい。

ドキドキの木陰

ここにいると、向こう側にいる人からは何してるか見えないんだよねェ。…ねェ、アンジェリーク、なんかドキドキしない？私のドキドキはきっとアンジェリークがカワイイからだよ。

☞そんな…

ふふっ、照れちゃってほんとカワイイんだから！じゃ、そろそろ行こうね。

お花畑

ふぅん、アンジェリーク。アンタってば花がよく似合うじゃん。

☞そんな…

信用してよ、アンジェリーク。美しさを司る、この私が言ってるんだからさ。ずっとこのままアンジェリークを見ていたいけど…。そろそろ行かなきゃね。

噴水の前

見てごらんよ。このきれいな水の流れ。まるでアンジェリークの心みたいだ。

☞そんな…

ま、こんなふうに思うのは私一人じゃないよね。エリューシオンのみんなもきっとそう思ってるよ。じゃ、行こう、アンジェリーク。…キレイだよ。

入り口

A. じゃ、帰ろーか。部屋まで送ってあげる。

B. じゃあ帰ろうか。部屋まで送らせてちょーだい。もうちょっとあんたと話したいんだ。

C. じゃあ帰ろーか。部屋まで送ってあげるよ。もうちょっとだけアンジェリークと一緒にいたいんだ、私が。

私の部屋へ

A. アンジェリーク、こんなこともあるよ。めげないでちょうだいね。それじゃあ、私は帰るから。

B. 今日は、結構おもしろかったね。またそのうち一緒に行ってみない？じゃあ、私、帰るから。バイバイ。

C. アンジェリーク、また一緒に公園に行こうね。じゃあね、バイバイ。

デートトラブル！

ひっどーい！これって二股!?

◆平日：ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. ま、落ち着きなよ、アンジェリーク。ロザリアと約束してたのはホント。でも、今、気が変わっちゃってさ。約束はなかったってコトにするね。そーゆうワケで、ロザリア悪いんだけどさ、日の曜日のことは忘れちゃってねェ。

B. …なーんか、気まずくなっちゃったねぇ。私、こういう雰囲気好きじゃないんだ。今日はもう帰ろっと。

次の日の曜日に約束している守護聖様がいる!

◆平日：他の守護聖様に約束をほのめかされて◆

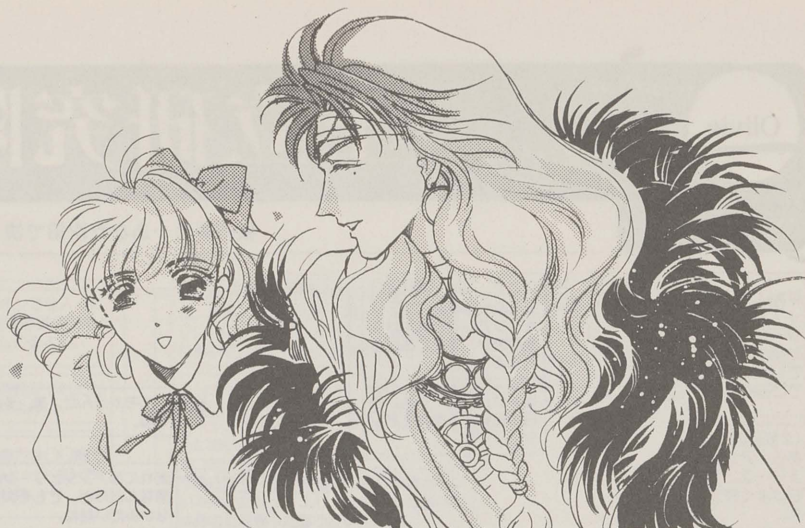
アンジェリーク、これってどーいうこと？

☞正直に言う

A. へぇ、そうなの。別にいいんじゃない。たくさんの人と話



ずっとこのままアンジェリークを見ていたいけど…。そろそろ行かなきゃね。



せばそれだけ楽しいからね。
B.今、私と話してるのにそんな約束してたの。なんかヤだなー。今日はもう帰ろっと。
☞やめとく
A.でもさあ、今、アンジェリークと一緒にいるのは、私なんだよね。今日が楽しければ日の曜日のことなんかどーでもいいや。
B.はっきりしないねぇ。なーんか、つまんなくなっちゃったな。もう帰ろっか。

✤まさか！オリヴィエ様が…

◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

そうだったっけ？忘れちゃってたなー、ごめんね、ロザリア。
☞もう帰る！！
A.ゴメン、謝るからさぁ、帰るなんて言わないでよ。ねっ？
B.アンジェリークがそう言うんならしょうがないね。もう帰ろっか。
☞そこまでは…
A.アンジェリークが怒って帰っちゃわなくてホントによかったよ。
B.アンジェリーク、悪いけど、今日はもう帰ることにしたからさ。

✤きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中◆

今日は私との約束があったハズだよ。
☞あやまる
A.まあ今回は仕方ないね。でも今度は守ること、絶対だからね。
B.私との約束を破るなんてさアンジェリークもやってくれるねェ。
☞ごまかす
A.あれ？そうだったっけ？じゃ、私これで帰るね。
B.私との約束を破るなんてさアンジェリークもやってくれるねェ。

✤あっ！今日は○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：オリヴィエ様とデート中◆

アンジェリーク、これってどーいうこと？
☞あやまる
A.アンジェリークってばけっこう正直なんだ。見直しちゃったなぁ。
B.そうだったんだ。私は、ウソつくコとは一緒にいたくないね。今日はもう帰るから。
☞ごまかす
A.なんだったんだろうね。ま、いっか。
B.そうだったんだ。私は、ウソつくコとは一緒にいたくないね。今日はもう帰るから。

✤ひっどーい！約束してたのにー

◆日の曜日：ロザリアとのデートに遭遇◆

はぁい、アンジェリーク。残念だったけどアンタとの約束は、キャンセルね。ゴメンねェ。

他の守護聖様とデート中

✤たたずみドームの前

◆通常◆

あら、今日は二人なんだ。あやしいなぁ。
☞そんな
照れちゃってアンジェリークってばカワイーんだ。
☞うふふ
今度は、私と遊ぼうねェ。

◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

今日は二人なの。私もロザリアを待っているんだよ。

✤たたずみドーム内

◆日の曜日◆

ロザリア…？と思ったら違った。ロザリアを待ってんだけどまだ来ないんだよね。

王立研究院

Olivie

私の夢は…あなた次第で決まります

はぁい、お元気ィ？アンジェリーク。なんか用があるんでしょ？言ってごらんよ。

（２度目以降）あら、アンジェリーク。今日はよく会うね。

- お願いが → ここで、私は「美しさ」をもたらす夢の力がエリューシオンでどれだけ必要なのか、教えてあげられるよ？
  - お願いします
  - やめます → やめちゃうんだ。ま、それもいいかもね。
  - （力がたりない） → それにはアンジェリークの力が１必要なんだけど。でもその力が残ってないみたいだね。
- こんにちは → はぁい、こんにちは。今日も元気そうだね？アンジェリーク。

占いの館

Olivie

実は人一倍気を使われてるんですね？

はぁい、お元気ィ？アンジェリーク。なんか用があるんでしょ？言ってごらんよ。

- お願いが → ここでのお願いっていうと対人関係のことだけど？
  - 仲良くしたい → で、私は、誰との間を取り持てばいいのかなぁ？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くしたいってワケね？
    - 守護聖本人 → ふぅん。私と仲良くなりたいんだ？
  - 仲良くして → それじゃ、私は誰と仲良くすればいいのかな？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くすればいいんだね？
    - キャンセル → やめちゃうんだ。ま、それもいいかもね。
  - （力がたりない） → それにはアンジェリークの力が１必要なんだけど。でもその力が残ってないみたいだね。
- こんにちは → はぁい、こんにちは。今日も元気そうだね？アンジェリーク。

（２度目以降）あら、アンジェリーク。今日はよく会うね。なんか用があるんでしょ？言ってごらんよ。

- お願いが → あれ？アンタのお願いは、もう聞いたはずだよ？
  - それでも！！ → じゃ、あらためてお願いを聞いたげるよ。
  - やめます… → やめちゃうんだ。ま、それもいいかもね。

エリューシオンでは人々に「美しさ」を贈る夢の力を、〇〇必要としてるよん。

あと〇〇私の力がそれだけ必要みたいだよん。

今までに私の力は〇〇贈ったよん。エリューシオンで、〇番目の勢力ね。

美しさもそれなりに求められてるみたいだね。まあ、私の力も少し贈っておいた方がいいかな。その気になったら、私のところにおいで。力を贈ってあげるからさ。

エリューシオンでは人々に「美しさ」を贈る夢の力が、かなり求められてるね。エリューシオンを発展させたかったら私のところにおいで。

今のところ、私の力はあんまり必要じゃないみたいだねェ。エリューシオンの育成には他の力を贈ったほうがいいかな。

今度は望みの予測を見たらどうかな。

参考になったかな？ま、がんばってね。

ええ！ — お願いは覚えとくからさ。ま、私に任せといてよ。

いいえ！ — で、私は、誰との間を取り持てばいいのかなぁ？

キャンセル — 今回のお願いをやめちゃうのかな？
- はい — やめちゃうんだ。ま、それもいいかもね。
- いいえ — で、私は、誰との間を取り持てばいいのかなぁ？

ええ！ — お願いは覚えとくからさ。ま、私に任せといてよ。

いいえ！ — で、私は、誰との間を取り持てばいいのかなぁ？

キャンセル — 今回のお願いをやめちゃうのかな？
- はい — やめちゃうんだ。ま、それもいいかもね。
- いいえ — で、私は、誰との間を取り持てばいいのかなぁ？

ええ！ — ま、一応、お願いは覚えておくからね。

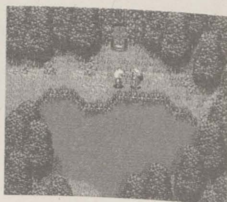
いいえ! — それじゃ、私は誰と仲良くすればいいのかな？

ええ！ — やめちゃうんだ。ま、それもいいかもね。

いいえ! — それじゃ、私は誰と仲良くすればいいのかな？

Olivie 恋愛イベント

突然そんなこと言われたら…キャッ♥



第1段階

◆森の湖◆

「ふふっ、アンジェリーク、あんたを見てるとホントあきないねェ」
「どうしてですか?」
「やだ、悪く取んないでよ。あんたの楽しそうな顔を見てると、こっちまで楽しくなるってコト。いつも楽しそうにしてるってのは、やろうと思ってできる事じゃないんだよ。一種の才能。ロザリアになに言われても全然こたえてないじゃん?」
☞「そうかも」
「そうそう、その調子。楽しくっておもしろいのがイチバンだからねェ」

☞「そんなぁ!」
「あらら心で泣いてたワケ? それでも笑顔を失わないってのはエライねェ」

◆私の部屋◆

「アンジェリーク、おかげで今日はけっこう楽しかったよん。あんたも私のおかげで楽しかった…かな?」
☞「…はいっ!」
「ふふっ、ありがと。じゃあ、また二人で楽しく遊んじゃおうねェ」
「オリヴィエ様ってほんとに楽しい人! いくら話しててもあきないわ」

☞「いいえ…」
「あ、そう。ヒトを不機嫌にさせんのもうまいじゃん」
「オリヴィエ様が気を悪くしちゃった。どうしてあんなふうに答えちゃったのかしら」



第2段階

◆森の湖◆

「アンジェリーク、ちょっとそこに立っててみて。…ふうーん」
「ななっ、なんですか?」
「あんたさぁ、自分はセンスないなとか思わない?」
☞「そうかも」
「センスがないとまでは言わないけどさ、自信がないなら何とかしなきゃね」

☞「そんなぁ!」
「この程度じゃ、まだまだ甘いんだよねェ」

「まあ今はまだ女学生だし、大目に見てあげるけどね。女王を目指すんなら美しさも意識してほしいなぁ。素材はいいんだから。これは私の保証付き」

◆私の部屋◆

「今日は美しさについてちょっと語っちゃったけどホントは必要なかったかもね。だぁって、あんたってばカワイイんだもん!無理に背伸びして、美しさなんて身につけなくったってね　こんなことを私に言わせた女の子は、アンジェリークあんたが初めてなんだよ。実は。ここで私が突然『好き』って言ったら…どうする?」
☞「うれしい」
「ふぅん。そう思ってくれるんだ?じゃあ、そのうち言ってみよーかな」
「オリヴィエ様があんなこと言うなんて…。もう、すっごくドキドキしちゃった!」

☞「あの、でも…」
「きゃはははははっ。冗談だよじょーだん。私だって一応、守護聖なんだからね」
「冗談だったの? わざわざ守護聖…って言うことはそれ以上は無理なのね。仕方ないわ」

告白

◆森の湖◆

オリヴィエ様、私、あなたのことが好きなんです」

「ふぅん。女王の座より恋を選ぶってコト？」

☞「…はいっ！」

「偶然だねェ。私も好きな人が…あら、ガッカリした？　でも、今、目の前にいる人なんだけど…ね。いつも冗談言ってるけど、今はホントに本気だよ。アンジェリーク、好・き・だ・よ。あ、信用してないな？　そういうコは…!!」

☞「いいえ…」

「それはそれでいいんだよ。じゃあ今日のことはお互い忘れましょうってことで。試験がんばってねェ」

◆失敗◆

「ふぅん。そうなの？でもねェ私はそういうややこしいのはヤなんだ。悪いねー」

◆私の部屋◆

「ほら、元気出しなって、アンジェリーク！　確かに私じゃそーゆうのに向かないけどさ、あんたが好きになるヤツも好きになってくれるヒトもこれからどんどん現れるんだよ？　あんたはまだまだこれから、なんだからさ」



力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

じゃあ、女王候補たちの望み通りに私たちの力を贈ろうかな。

リクエストにおこたえして夢のもたらす「美しさ」をエリューシオンに贈ってみよう！！

ご要望にしたがって夢のもたらす「美しさ」をフェリシアからなくしちゃうからね！

フェリシアの「美しさ」を一夜の夢のようにはかなくしちゃうね！

「美しさ」を夢にのせて、密かにエリューシオンに贈っといて、あ・げ・よ。

夢の力よ、エリューシオンの人々に「美しさ」を贈ってあげなさい！

フェリシアから人々に「美しさ」を贈る、夢の力を取り去っちゃいなさい！

とりあえず今回は少しだけどね。

今回は、たくさん贈るからねー。

今回は、少し取り上げちゃうよ。

今回は、たくさん取り上げちゃうよ。





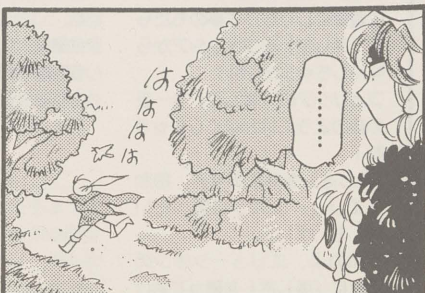
押田J・O

コ・ド・モ









ところきらわず









メッセージ♥テスト<オリヴィエ>の答え 1A 2C 3B 4A 5B 6B 7C 8A 9B 10D-A-C-B

ACT. 9
ルヴァ編



Luva 私の部屋

ゆっくりお話聞きたいな



デートのお誘い

よろこんで!(共通)

◆通常◆

そう言ってもらえると思い切って来てみてよかったなーなんて思いますよ。ええ。さて…今日はどうしましょうか?

☞外へ行きたい

うーん…、どこに行きましょうか?

☞公園

あー、公園ですね。じゃあ行きましょうかー。

☞森の湖

あー、そうですねー。じゃあ行きましょう。

☞キャンセル

a.どっちでもいいです

A. じゃあですね、えっと、どこかに行きましょうか?

B. うーん、私はこのままお話してたいですねー。

b.あなたの好きな所で

A. ええっと、公園はどうでしょうかねー?

B. そうですねー、森の湖に行ってみたいんですが。

ごめんなさい…

◆平日:約束あり◆

ええっと、アンジェリークあの、日の曜日に約束してたんですけど、今日じゃいけませんか?

☞ことわる

あー、そうですよねー。すみません、無理言って…じゃあ日の曜日に、あの、待ってますから。

◆平日:約束なし◆

あー、アンジェリーク、あの、よかったら今日一日一緒に話でもしませんか?

☞ごめんなさい

ああ、あなたも忙しいんですよねー。すみませんね無理言っちゃって…。えっと、また来ますね。

◆土の曜日:約束あり◆

あ、明日の約束なんですが都合が悪くなりそうなんで今日というわけにはいきませんかー?

☞ことわる

あ、こっちこそ無理言ってすみませんでした。えっと、機会があったら次はぜひ行きたいです。

◆土の曜日:約束なし◆

あのー、今日は土の曜日ですけど、エリューシオンに行かないなら一緒に出かけませんか?

☞ことわる

やっぱりそうですよねー。どうもすみませんでした。あ、でも、機会があったらどこか行きましょう。

◆日の曜日:約束あり◆

あー、アンジェリーク。えっと今日は約束してましたよね。一応、迎えに来たんですけど…。

☞ごめんなさい

えー、そうなんですかー。うーん、都合が悪いっていうなら仕方ないですね。

◆日の曜日:約束なし◆

あのー、今日は何の約束もしてなかったんですけど、えーと、よかったら一緒に出かけませんか?

☞ごめんなさい

いえ、あの、こちらこそーじゃあまた、今度。

デート中

ええっと、でも…何を話したらいいんでしょうか?

好きな物

A. ええと、私はもともとお茶は好きなんですけど、世界にはいろんなお茶があるもんですよねー。紅茶、緑茶をはじめ、番茶ほうじ茶ウーロン茶。これにおせんべいがつけばもう、幸せです。あ、おせんべいはしょうゆ味だと、なお良いですねー。

B. 好きな食べ物ですかー?ネギとトウフのミソ汁っていうのがあるんですが、知ってますか?ええと、こっちに来てから初めて口にしましてねえ。以前、本で読んで知ってはいたんですが、いやー、おいしいですねぇ絶妙って言葉はこのためにあるような気さえしちゃいますよ。

嫌いな物

A. 嫌いってわけじゃないんですが、フライドチキンてどうしてあんなに食べにくいんでしょうかね。持ちにくいし、手はべたべたになっちゃうし。その後で本を読むのにも困るんですよねー。

B. ええと、そーですねぇ…。あの、ブルーチーズって知ってますかー?見てるとね、どうやって作ったのか、あれの成分は…とかどうしても考えちゃうんですよ、私。そんなこと考えなきゃいいのに、考えてしまったら、もう食べられないじゃないですかー。

理想の女性像

ええと…、何事にも興味を持って、常に自分を高める努力をおこたら

ない女性というのはいいですね。向学心があるとでも言ったらいいんでしょうか、知的探究心は大切にしたいですよねー。

苦手な女性像

うーん、そうですねえ…、やるべきことをしない、できるのに努力しないという人はちょっと…。より良い自分をめざす、努力するというのは人間に与えられたすばらしい力だと思うもので、それをおこたる人は、どんなにきれいでも…。あ、あなたはそんなことないですよっ。

趣味の話

A. まあ、月並みですけど、読書ですかねえ。書物というのはね、知識を与えるだけじゃなくそこから想像の翼をさらに広げさせてくれる…。これが読書の真の楽しみじゃないかと思うことがありますよ。

B. あの、守護聖になってから釣りを覚えましてね。釣り糸をおろして待ってる時間が結構楽しくて、なんだか、私の性格に合ってるみたいです。ただ、私のいるところには魚以外のものが多いようでこないだも引きが強いなと思ったら海底でした。ここの森の湖では釣りをしちゃいけないそうで、ちょっと残念ですねー。

故郷のこと

えーと、前にも言ったかもしれませんが、砂漠ばっかりの星です。年中砂嵐が吹き荒れてて、人はすみっこでひっそり暮らしてるって感じでしたかね。でもそんな環境でも、いえだからこそ人は知性を求めるんだなと実感してましたよ。

身近なこと

A. 私の家は先祖代々、学者でしてね、私も守護聖にならなかったら、先生か学者になってましたよ。歴史とか考古学とか好きだったんですけどね…私が生まれた頃の話がもう研究されてるんですよ。そんな昔のことになってたのか…って、しみじみ思っちゃいましたね…。

B. 私も結構、長い間守護聖をやってますからね、本が多くなってしまって大変なんですよ。一度整理し直さなくては、と思っているんですが。誰か手伝ってくれそうな人いないですかねぇ。

物の考え方

えーと、何についての考えですか?

▶星への関心

A. エリューシオンについては守護聖としても、私個人としても、大いに興味がありますね。この宇宙で守護聖の力がどう作用し、あのけなげな人々がどう発展していくのか、楽しみですよ。

B. まあ、私も守護聖ですからどちらを応援するというのはないですが、関心がないわけではありませんよ。

C. ええと、あなたの育ててる…なんて名前でしたっけ?すみません、あんまり興味がなかったもので…。

▶女王候補の事

A. うん、女王候補ってのはホントに大変でしょう?でもね、女王様はもっと大変なんですよ。この試練を乗り越えて初めて、女王の立場での考え方ができるようになるんでしょうねぇ。がんばってくださいね、アンジェリーク。二人を応援してますから。

B. あー、そうですねぇ。アンジェリーク。あなたが女王になりたいって言うなら応援しますしなりたくないんだったら、それはそれでかまわないと思いますよ。ええ。

C. 女王がいかに大変か、守護聖である私はよく知ってますからねー。できればあなたにはそんな苦労はさせたくないですね…。

▶仕事は好きか

A. それはもちろんですよ。知恵を与える地の守護聖に選ばれたことを心から光栄に思ってます。私も、できる限り女王陛下と世界の人々のために役立ちたいと思ってるんですよ。

B. 守護聖は世界の存続に欠かせない存在ですからね。好きとは言えませんが仕事は真面目にしてますよ。でもこの質問て、まるでお見合いみたいですねえ。

C. 守護聖というのは、世界のためにはなくてはならない存在だというのはわかってるんで



いえ、あの、こちらこそーじゃあまた、今度。



んーと、それはですねえ…私の口が重いということで察してくださいよ。

すけどねー。その仕事となるとどうも…本に囲まれて研究生活を送れたらどんなに楽しかったかと思うと…ですね。

▶仲間への関心

A. みんないい人たちばかりだと思いますよ。仲良くやっていきたいものです。

B. うーん、改めてそう言われると考えちゃいますね。まあ、可もなく不可もなくごく普通に思ってますよ

C. んーと、それはですねえ…私の口が重いということで察してくださいよ。あの人たちとのつきあいで神経を使うよりは、静かに本を読んでいたいですね。

▶外は好きか

A. いやあ、外を出歩くのは結構、好きなんですよ。日々新たな発見があったりして、うれしいですね。

B. そうですねー、時には屋外に出ていろいろな体験をするのもいいと思いますよ。知識というものは自分で体験してはじめて真実となるんですから。

C. えーと、そうですねえ。私は外に出かけるよりは、家の中にいる方が好きなんですよ。

▶話は好きか

A. ええ、近頃は人と話すことが、すごく重要だと思えてきました。知識っていうのは書物だけではなく、人との会話の中から得られることも多いですからねー。

B. うーん、あんまり好きとか嫌いとかいうものじゃないですねー。話をするっていうのは、人間に与えられた意志疎通の手段の一つですから、重要だとは思いますが…

C. ええと…。私はあまり人と話すのが得意じゃないんで…好きとか以前にうまく話せないんですよ…。

…ええと、まあ、こんなとこですかね。いいでしょうか？じゃ、そういうことで。私は帰りますね。それでは、また。



Luva

森の湖

一緒に自然に溶けていきたい…



散歩中

あっルヴァ様だわ

◆通常◆

あー、偶然ですね、アンジェリーク。

A. ここは、人を素直な気持ちにさせますよね。それは、周囲の自然の力なんでしょうね。

B. いつも元気なあなたですがこの自然に恵まれた地ではいつも以上に、生き生きと見えますねぇ。

約束しちゃおっかな

☞お願いする

日の曜日、あなたに他の予定はないですか？

☞はい

あ、わかりました。ええと、誘ってくださってどうもありがとう。

☞いいえ

ええ、何でもないんなら別にかまわないんですが…何だったんでしょうねぇ？

☞やめとく

こんにちは。えーと、今日も元気そうで何よりです。

◆平日：約束あり◆

えー、日の曜日のことなんですが、あのー、その一…忘れないでくださいね。信じてます。

祈りの滝

滝にお祈りしてみようかな？

☞そうしよっと

あー、偶然ですね、アンジェリーク。

☞会いたかった

そうだったんですかー、私もあなたに会いたいなと思っていたんですよ。偶然ですね。

☞偶然ですね

あー、こんにちは。うーん、やはりあいさつは人の心をなごませますね。

デート中

ロマンチックだわ

A. えーと、ここはとても気持ちのいい場所ですね。アンジェリーク、あなたもそう思っていると私もうれしいです。

B. こうして自然の豊かな場所に来ると心が洗われるような気がしますねぇ。

C. あなたとここに来ると私は、とてもさわやかな気分になるんですよ。…きっとあなたの明るさが私の心を暖めてくれるからだと思いますよ。

パシャッ

◆滝の水で遊ぶ◆

☞きゃっ冷たい

そうですか、そうでしょうね。水は冷たいですよね。うんうん…。

どこまで行けるかな？

☞ここから先は行けないのね

ああ、そこから先は立入禁止ですよ。

そろそろ帰ろっかな

◆通常◆

では帰りますか？

☞はい

わかりました。えー、でしたら、部屋まで送らせてくださいね。

◆私の部屋◆

今日はとても楽しかったですよ。えーと、できればまた行きたいですね。

☞いいえ

そうですね。せっかくですから、もう少しの間、ゆっくりしていきましょうか。

デートトラブル！

Wブッキング!!

◆日の曜日：他の守護聖様とデート中、約束中の守護聖様がロザリアとツーショットで出現！◆

A. えー、その、だからですね…すみません。あなたとの約束を破ってしまいました。
すっかりあなたとの約束を忘れていました。本当にすみません。

B. いや、あやまらなければならないのは私です。私も今まですっかり忘れていましたから。

他の守護聖様とデート中

あっ偶然ですね

◆日の曜日：散歩中◆

あの、育成の方はうまくいってますか？私もできるだけの協力はしますからね。

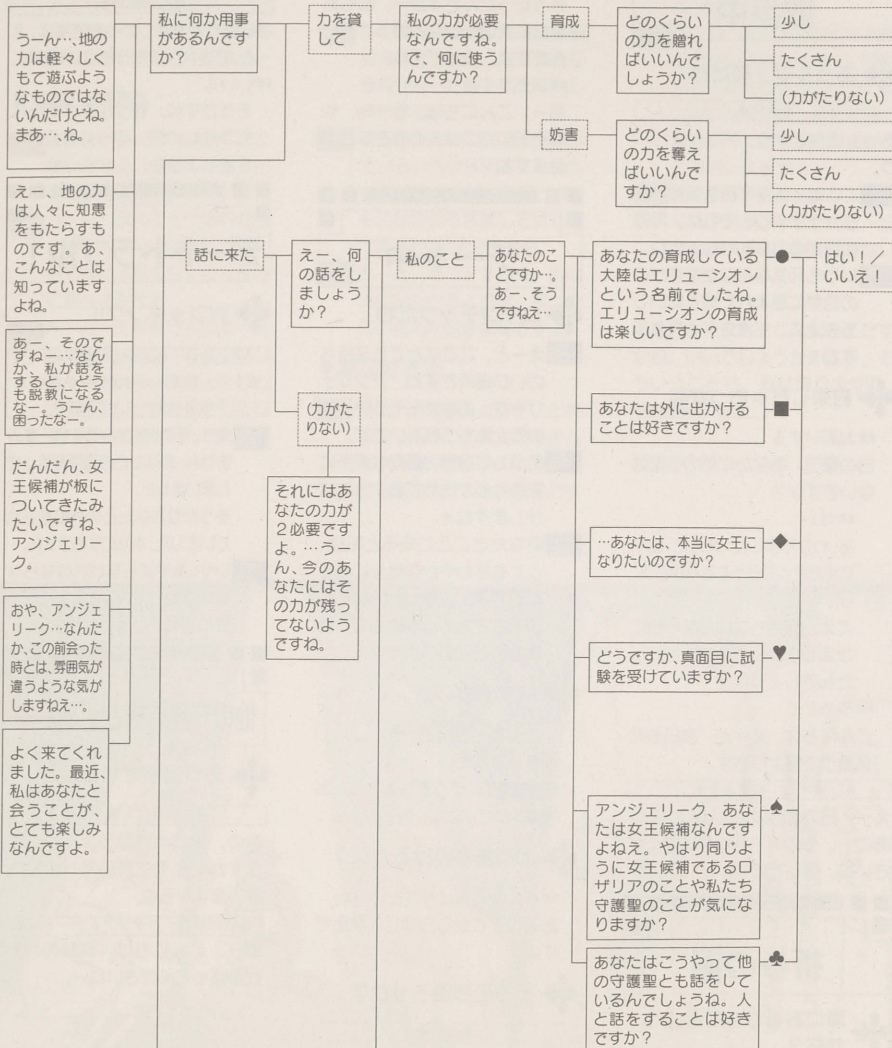
◆日の曜日：ロザリアとデート中◆

あー、こんにちは。試験の方もがんばってくださいねー。

Luva 執務室

えーと…あ、私までうつっちゃった☆

平日





★チャート図の途中にある●■◆♥♠♣の見方

各質問には、すべてアンジェリークが「はい！」もしくは「いいえ！」で答えます。それに対して、守護聖様はどの質問についてもその次(右どなり)のブロックの中からいずれか(14通りあります)の対応をします。そして、次のメッセージへと会話が進んでいきます。このとき、左ページにある質問の「●」に対する返答は右ページの「●」以降のメッセージになるわけです。以下のマークも同様となります。

少し育成するんですね、わかりました。忘れずに地の力を贈りますよ。

たくさん育成するのですね…わかりました。忘れずに地の力を贈りますよ。

それにはあなたの力が(2／4)必要ですよ。…うーん、今のあなたにはその力が残ってないようですね。

少し妨害するんですね、覚えておきますよ。

たくさん妨害するんですね覚えておきますよ。

それにはあなたの力が(2／4)必要ですよ。…うーん、今のあなたにはその力が残ってないようですね。

そうですね。多分そう答えると思っていましたよ。

あー、そうですよねぇ。私もそう思いますよ。

そうですね。私があなたの立場でもそう答えるでしょうね。…やっぱり、

そうですか。私もあなたの立場だったらそうだと思いますよ。

やはり、そういう答えになるでしょうね。私があなたの立場でもそう答えるでしょう。

あなたもそうなのですか。私と同じですね。

そうですね。私があなたの立場でもそう答えるでしょうね。

そうですか…。そういうのも一理あるかもしれませんが…。

そうですか…。そういうのも一理あるかもしれませんが…。

はあ、そうなんですか…。立場が違うんですから仕方ないのかもしれないですけどね…、

…あなたはそう考えているのですか。うーん…。

うーん、そうなんですか。うーん…

そう考えているのですか。私とは違う考え方ですね。

そうですか…。

●

…私は自分の判断によってエリューシオンを育てていくのは楽しいだろうなと思いますよ。

…エリューシオンに対しては、力を贈る対象として以上の関心は、あまり持てませんねぇ。

■

…やはり、新しい知識は自ら体験してこそ身に付くものですからね。部屋に閉じこもってばかりいないで、いろんな所に出かけてみるのも大切ですよね。

…私は、外で遊ぶことより部屋で本でも読んでいる方が好きなんですよ。

◆

…女王陛下は、やはり偉大な御方だと思いますよ。いつでも世界のことをお考えになり、誰よりも深い愛情を世界に注いでいらっしゃいます。アンジェリークもがんばってくださいね。

…女王というのは、非常に大変な役目ですからね、私だったら遠慮してしまいますよ。

♥

これは次期女王を決める大事な試験なんですから、遊び気分で受けるのでは困りますよ。

…そうですねえ、力が入りすぎても、うまくいかないものですからねえ…。多少は力を抜いて試験を受けた方がよいと思いますよ。

♠

…他人が何をやっているかということは、自分が何をしたらよいのかということと同じ位、重要ですよ。「敵を知り、己を知らば百戦危うからず」、と言いますからね。

自分のことは自分で判断しなくてはいけません。他人のことは参考にするくらいがいいでしょう。いたずらに気にするのはよくないと思いますよ。

♣

…やっぱり、いろんな人と話すと、自分では思いつかなかった考えや自分と違う考えが聞けたりするんで知的な刺激を受けるとでも言いますかね、うん、まあとても面白いものですよ。

…長い時間、無駄なおしゃべりをするのは言葉を軽んじることです。私は好きじゃないですね

まあ、今日話したことで、私もあなたのことをより知ることができてよかったですよ。

①

②

人のうわさ

ええと、誰の話をしましょうか?"

キャラクター選択

アンジェリークのことを話すんですね?あなたのことですか…。あー、そうですねえ…

ロザリアのことを話すんですね?ロザリアですか…。そうですねぇ…

××のことを話すんですね?××ですか…。そうですねぇ…

キャンセル

やめるんですか?

キャンセル

用事はないんですか?

はい

なんでもない、ですか。じゃあ、また何かあったら来てください。

いいえ

そうですか。じゃあ、もう一度聞きますね。

(再訪問)
あれ、アンジェリーク。ええと、今日はよく会いますねー。

今日は、もうあなたから育成の依頼を聞いてますけど。前の依頼を取り消しですか?

今日は、すでにあなたから妨害の依頼を聞いてますけど。前の依頼を取り消すんですか?

はい

えー、では前の依頼のことは忘れますから。うーん、そうするのならもう一度あなたのお願いを聞かなくちゃいけませんね

いいえ

えーと、それでは前の依頼をそのまま覚えておきますね。

えと、その…。あなたのがんばる姿には、いつも感心させられてますよ。ええ、ホントに…。

あなたはすごい力を秘めているのですから、自分を信じて、がんばってくださいね。

えー、申し訳ないんですが私はあなたのことに興味がわかないんですよ。…すいませんが。

私があなたに話すことはこれくらいですね。うーん、今の話、参考になったでしょうか？

そうですねえ、かなり仲がいいような気がしますよ。はあ、もちろん私とロザリアの話ですが…。

そうですねえ…、私とは特に仲がいいってわけではありませんが、困った時には、きっと力になってくれる優しい人だと思いますよ。

うーん、私はあの人とは親しくないので、何とも言えないですね。

私があなたに話すことはこれくらいですね。うーん、今の話、参考になったでしょうか？

私にとっては信頼できる友といった存在ですよ。本当にいい人ですし、頼りになりますね。

そうですねえ…、私とは特に仲がいいってわけではありませんが、困った時には、きっと力になってくれる優しい人だと思いますよ。

うーん、私はあの人とは親しくないので、何とも言えないですね。

うーん、どうもあの人はあなたに対して、あまり良い感情を持っていないようですね。

好き嫌いの感情抜きに、守護聖として女王候補のあなたと接しているようですね。

どうやらあなたのことを非常に気に入っているようですねぇ。

そういえば、女王陛下への尊敬の念は並大抵ではありませんよ。あなたが試験をがんばるときっと今より仲良くなれるでしょうね。

…ああ、そういえば、あの人は社交的で人と話しをすることがとても好きなんですよ。

…そういえば他の守護聖の行動を気にすることはないみたいですねぇ。

…それに加えて、他の守護聖の行動を気にするところがありますね。

…あ、付け加えるなら、外に出かけるよりも執務室でじっとしている方が好きなようですよ。

…そういえば…エリューシオンのことには関心がないみたいですね。

…ああ、そうだ。あの人はエリューシオンのことを結構気に入っているようですよ。

…そういえば、女王になりたがる人のことを不思議に思っているようですよ。

性格的には執務室でのんびりするより外に出歩く方が好きなようですねぇ。

…他に付け加えることは…そういえば人と話すことが苦手みたいなんですよ。

…あと付け加えるとすると気分だけで行動しているようなことが、よく見られることですね。

…それから特徴的なことといえば、いつも理由を持って行動してることですね。

私があなたに話すことはこれくらいですね。うーん、今の話、参考になったでしょうか？

日の曜日

こんにちは、アンジェリーク。

今日は日の曜日だから育成や妨害は行わないんですよ。ええと、私に何かご用ですかー？

確か今日は、あなたと約束していた日ですよね。さて、どうしたものですかねえ。

部屋への誘い

えー、そうですね、おじゃまさせていただこうと思います。

…あのですね、守護聖を自分の部屋に呼ぶのはあまりいいことではないと思いますよ。今日のところは遠慮させてもらいますね。

…あのですね、あまり守護聖を部屋に呼ぶのは賛成できないですね。今回は遠慮しときます。申し訳ありませんが今日の約束もなかったことにしてくださいね。

（再訪問）
えーと、申し訳ありませんが、誰かとどこかに行こうという気分ではないのです。

（力がたりない）

ですが、あなたには私を招待するだけの力が残ってないですね。今度は、もっと力がある時に招待してください。

外への誘い

外、ですか…それで、あなたはどこに行きたいんですか？

公園

森の湖

（力がたりない）

キャンセル

キャンセル

用事はないんですか？

どうしたんですか？アンジェリーク。

趣味イベント

『アンジェリークSpecial』だけの特別イベント♥

あー今まで、書庫の整理してたんですが、あの、興味があれば、私の蔵書を見せてあげましょうか？

☞はい

そうですか。あなたも本が好きなのですねぇ。たくさんありますがいろいろ見てください。

（イベント→私の部屋）

いや、とんでもない。しかし、あんな所に、私の著書があったとは…いやあ、照れますねぇ。どんなところに新しい発見があるか、わからないもんですねえ。うんうん。では、私はこれで失礼しますね。アンジェリーク。

☞いいえ

あー、そうですか。結構珍しい物もあって…。いや、またの機会にでも見てくださいね。



ルヴァ様が本を書かれていたなんてちょっと驚き！　でも、いつ頃書かれた本なのかしら？



大丈夫ですよ、魚を見に行ったんですから。次は釣りに行きましょうね？

あー、そうだ。この間、河に魚が泳いでるのを見つけたんですが、一緒に見に行きませんか？

☞はい

それはよかった。あ、ちょっと待ってください。釣り竿を持って行くといいかもしれません。

（イベント→私の部屋）

全然釣れませんでしたが、これでよかったんですね。魚だって、一生懸命生きているんですから…他の生物がじゃましちゃいけませんよね。きっと。ではアンジェリーク。私はこれで帰ります。今日は楽しかったですよ。

☞いいえ

あー、そうなんですか。それは残念です…。今日は私一人で行くことにしますよ。

- えー、断る理由はありませんね。じゃあ、行きましょうか。
- えーと、今日はそんな気分じゃないんですよ。誘ってくれたのにどうもすみません。
- あっ、今日はちょっと用事があったんです。申し訳ないんですが帰ってもらえませんか。
  - （再訪問）えーと、申し訳ありませんが、誰かとどこかに行こうという気分ではないのです。

- えー、断る理由はありませんね。じゃあ、行きましょうか。
- ちょっとねえ、私には湖に行く気はないんですよ　せっかく誘ってくれたのにすみません。
- ちょっとねえ、私には湖に行く気はないんです。すみませんが今日の約束はなかったことにしてください。
  - （再訪問）えーと、申し訳ありませんが、誰かとどこかに行こうという気分ではないのです。

- ですが、あなたには私と外に行くだけの力が残ってないですね。もう帰って寝た方がいいですよ。

- 外に行くのはやめにしますか？
  - はい → えー、私をあなたの部屋に呼んでくれるんですか？
  - いいえ → えーと、ということは、あなたは、外に行きたいということですね。

- はい → なんでもない、ですか。じゃあ、また何かあったら来てください。
- いいえ → そうですか。じゃあ、もう一度聞きますね。

- どこにしよう → うーん…やっぱりあなたが決めてくれませんか。
- 帰ります… → 帰るのですか…えー、そうですね、じゃあ、何かあったら、また来てください。

他の守護聖の執務室

…というわけです。おや、アンジェリーク。…そろそろ私は帰りますね。それではね、アンジェリーク。

Luva

公園



あんまり照れないでくださいね

散歩中

声をかけてみよっと

◆通常◆

あー、偶然ですね、アンジェリーク。

◆2度目以降◆

あれ、アンジェリーク。えええと、今日はよく会いますねー。

☞お願いする

あ、わかりました。ええと、誘ってくださってどうもありがとう。

☞やめとく

こんにちは。えーと、今日も元気そうで何よりです。

◆他に約束あり、力がたりない◆

ええ、何でもないんなら別にかまわないんですが…何だったんでしょうねぇ？

◆平日：約束あり◆

えー、アンジェリーク、日の曜日のことなんですがせっかくの約束なので忘れないでくださいね。

◆平日お互いに散歩中：約束なし◆

気分転換できましたか？こういう所でのんびりして気分をスッキリさせるってのもいいですよね。

◆日の曜日：ロザリア待ち◆

うーん、ロザリアを待っているんですが…まだみたいですねぇ。

◆2度目以降◆

んー、ロザリアはまだ来ませんねえ。

◆日の曜日：ロザリアとデート・約束なし◆

あの、育成の方はうまくいってますか？私もできるだけの協力はしますからね。

デート中

あ、アンジェリーク。待ってましたよ。

公園入り口（デートスタート）

せっかく来たんだし、少し歩きましょうか。

◆噴水石まで移動◆

今日も天気いいし、うれしいですねえ。あ、向こうに行ってみましょうか。

ベンチの前

…ふぅ、これ以上は近づくこともできませんねぇ。うーん、何ていうか、その…ああいう二人はうらやましいと思いますか？

☞はい

A. はあ、そうなんですか。ま、あなたがそう言うなら普通はそうなんでしょう。うんうん…。

B. はあ、そうなんですか。なんだか今日は気持ちがズレちゃってるような…。もう帰りましょうか。

☞いいえ

A. はあ、そうなんですか。そうですよねえ、あれはちょっとはずかしいですよねえ。…よかった。

B. はあ、そうなんですか。…なんか今日は意見が合わないみたいですねえ。もう帰った方がよさそうですね。

神鳥の像（右）

とりあえず、ここは離れて…向こうの神鳥の像のところにでも行ってみましょう。

一般人「今日はお二人でお散歩なんですね。キマッテいますよ」

え…？わ、私たちのことでしょうかね。

こうして公園でのんびり話してるのも楽しいですがあなたも女王候補の一人ですからね。一人の守護聖だけでなく、みんなの話も聞かなければならないんですよ。この二人ならどっちの話が聞きたいですか？

☞（正解）

そうですね、彼ならば信頼できると思いますよ。いい選択です。

☞（不正解）

それは…あんまりおすすめできない答えですね。守護聖間の関係を知っておくのも女王候補として必要なことです。こんなことじゃ試験の方も心配です。今日はもう帰りましょう。

ときめきの丘

それでは、女王候補としてのアンジェリークに質問しますけどねー、

A. エリューシオンの人口は○○○人より上ですか？

☞（正解）

うん、さすがは女王候補。私ももっとエリューシオンのことを考えるようにしないといけないですねー。

☞（不正解）

あれ？　違いますよ。しっかりしてくださいよ、アンジェリーク。女王候補がそのようでは私もエリューシオンに本気で取り組もうって気が失せちゃいますよー。

B. フェリシアの人口は○○○人より上ですか？

☞（正解）
ああ、さすがは女王候補、アンジェリーク。フェリシアのことにも詳しいんですね。私も、あなたのその姿勢を見習わなくては…と思いますよ。
☞（不正解）
はあ、そうなんですか。知らないんですか…。うーん、確かに人のしていることですからねぇ。

C. ロザリアと仲のいい守護聖はどちらでしょう？
☞（正解）
よく知ってますねえ。さすがは女王候補。私も、他の守護聖のことをもっと知らなくては、と思います。
☞（不正解）
おや、知らないんですね。まあ、他の人のことまで気にかける必要ないですからね。

D. あなたが育てているエリューシオンの建物数はフェリシアの建物数より多いんですか？
☞（正解）
ああ、正解ですねぇ。ま、試験を受けているんだから当たり前ですかねー。やはり女王候補には女王をめざしてがんばってほしいですね。そういう姿勢は好ましいですよ。
☞（不正解）
うーん。こんな基本的なこともわかってないなんて女王を目指す女王候補とは思えませんねえ。こんなところで私と話しているより、やるべきことがたくさんありそうですよ。今日は帰りましょう。

女王陛下の像

一般人「お二人さん、なかなかお似合いですよ」
えっ、ええ。(…どきどき)
女王陛下の像の前に来るとなぜかいつも立ち止まってしまいますねえ。不思議な気がしますが、陛下ご自身も不思議な魅力をお持ちの方なんですよ。自分から何かしてあげたいって思わせるような…。そういえば、あなたは女王候補だった頃の陛下になんとなく雰囲気が似てるような気がしますよ。どうです？　やっぱり女王候補は大変ですかー？
☞はい
A. うーん、そうなんですか。そうでしょうね。いきなりでしたからねー。でも、くじけずにやりとげてくださいね。がんばるあなたを応援してますから。
B. ああ、そうなんですかー。そんな大変なのに、歩き回らせちゃって…疲れたでしょう？　今日はもう帰りましょう。明日からは、また元気な姿を見せてくださいねー。
☞いいえ
A. さすが女王候補に選ばれただけのことはありますね。なんでも前向きに考える…いいことだと思いますよ。
B. いや、そんなはずはないと思うんですけど…。きっとまだまだわかってないんでしょうね。今日はこれで帰ることにして、いろいろ考えてみてください。思い当たることもあると思いますよ。

神鳥の像（左）

一般人「こんにちは。今日はお二人なんですね。アンジェリークさんには期待してますからがんばってくださいね」
おやおや、あんなふうに応援してくれる人がいるんですねー。ところでアンジェリークちょっと歩き疲れたんじゃないですかー？
☞はい
A. あ、すいませんでしたね。あの、少し歩くけど休憩できるとこに行きましょう。
B. そうですかー。じゃあ、そろそろ帰りましょうかね。
☞いいえ
A. そうですか。安心しましたよ。じゃあ、もうちょっと歩きましょうか。
B. 悪いんですけど、私の方は結構疲れちゃいましてねー、今日はこれで帰りましょう。

◆たたずみドーム：ロザリアがデート中◆
おや？　休憩しようと思ったんですが…先客がいるようですね。あー、仕方ありませんね。行きましょうか、アンジェリーク。

たたずみドーム

…ひと休みするついでに少し話しますね。
A. そういえばあなた方は定期審査のときくらいしか女王陛下とお会いできませんよね。世界を導く女王はあの宇宙から離れられないんですよ。それでもあなた方にはとても期待なさっていますよ。
B. 飛空都市というのは新しい世界の調査や発展の手助けのために設置されるものなので、私たち守護聖がいる聖殿は女王試験に使うため、今回特別に建てられたものなんですよ。ですから守護聖は、次元回廊を通って、主星の陛下の宮殿にうかがったりしてるんです。
C. …今の女王陛下が選ばれたときには、私はもう守護聖でしたからね、女王候補だった頃の陛下のとも知ってるんですよ。今のあなたみたいにいつも元気で明るい方でした。そのときの守護聖で今も残っているのは私の他には、ジュリアスとクラヴィスだけですね。あなたも女王候補として自分なりの女王像というものを考えてみるといいと思いますよー。
D. 王立研究院のパスハと占いの館のサラは私達とは異なる文明を発達させた異種族なんです。遠い故郷の星を二人で出てきてから、宇宙を放浪し、かなり苦労してきたようですねえ。その経験がサラとパスハの特殊能力をさらに発達させたのだと思いますよ。…ダジャレじゃなくて…。

E. 私たち守護聖の力も永遠のものじゃないですからね、いつかは弱まるときがやってくるんですよ。そのときは、同じ力の素質を持った人に守護聖の地位を譲るんですが、私も長いこと守護聖をやってますからね。そのときのことが、不安でないわけではありません でもね、きっと、私よりもふさわしい人が私の跡を継いでくれると信じてますから。うん。

◆お話終わり◆

…それでは行きますか？
☞はい
→移動
☞いいえ
じゃあ、もう一度話しますね。

入り口

すみませんが、もう少しだけつきあってください。

ドキドキの木陰

木陰でゆっくりするってのもいいですねえ。ここはドキドキの木陰って呼ばれているのですが、どうしてですかね？あなたと一緒にいると、こんなに心が落ち着くというのに…。
☞そんな…
…もう、そんな照れないでくださいよー。こっちまではずかしくなってきちゃうじゃないですかー。…じゃ、アンジェリーク。そろそろ行きましょうね。

お花畑

あ、あの、アンジェリーク花々に囲まれたあなたって本当にかわいいですねえ…。
☞そんな…
本当に、本当ですよ。あなたは花のように…いえ、花よりも…。…もう、行きましょうか、アンジェリーク。

噴水の前

この水の流れを見ていると水が優しさをもたらす理由というのが、なんとなくわかる気がしますねー。でも、アンジェリーク。あなたの心はこの水よりも優しく、澄みきっていると思いますよ。
☞そんな…
こんなことは私よりもエリューシオンの人々がよくわかってますよ。きっと…。あなたのために、みんなのために…。試験の方もがんばってくださいね。では行きましょう。優しい「天使様」、アンジェリーク…。

入り口

A. では帰りますか。部屋まで送りますよ。

B. それでは帰りますか。あなたの部屋まで送らせてください。あの、もう少しあなたと話したいんですよ。

C. それでは帰りましょう。あなたの部屋までご一緒させてください。えー、もう少しだけ一緒にいたいなあと思ったものですから。

私の部屋へ

A. 今日は本当に楽しかったですね。あなたの考えを聞くこともできましたからね。私はあなたに守護聖として質問していたのに、いつの間にかそのことを忘れていましたよ。できればまた行きたいものですね。それでは私はこれで。

B. 今日は、なかなかおもしろかったですね。また機会があったらご一緒してください。では私はこれで…。

C. えー、ちょっと今日はお互いに残念でしたね。でもこんなこともありますよ。今度はがんばってくださいね。では、私はこれで。

デートトラブル！

ひっどーい！これって二股!?

◆平日：ロザリアとのデート約束が発覚◆

☞たずねる

A. 落ち着いてくださいよ、アンジェリーク。ロザリアとは確かに約束していました。あなたが怒る気持ちもわかります。ですからロザリアとの約束はなかったことにします。えーと、ロザリア、本当にすみません。日の曜日の約束のことは忘れてください。

B. …えー、まー、そのー…私があなたの気持ちを考えていませんでしたね。申し訳ありません。…今日はもう帰ります。

次の日の曜日に約束している守護聖様がいる！

◆平日：他の守護聖様に約束をほのめかされて◆

アンジェリーク、どういうことな



本当に、本当ですよ。あなたは花のように…いえ、花よりも…。



あのー、もしよかったら今度は私と…あ、いや何でもないです。

のですか？

☞正直に言う

A. …そうですか。それは悪いことではないと思いますよ。私一人だけの話を聞くよりいろんな人の話をたくさん聞いた方がよいと思いますからね。

B. えーと、なんて言うのかな…やっぱり私だってそんなことされたら不愉快に感じますよ。…今日は、もう帰ることにしますね。

☞やめとく

A. えー、あなたが日の曜日に誰と約束しようと私には口をはさむ権利はありません。今日、私とこうしておつきあいくださってるのですからね。

B. んー、はっきりとは答えてくれないんですね。なんかさみしいですよ。…今日はもう帰りましょう。

まさか！ルヴァ様が…

◆日の曜日：デートの約束をしていたロザリアに見られちゃった◆

あ、そういえば…。まったく忘れていました。本当に申し訳ありません。

☞もう帰る！！

A. 帰るなんて言わないでくださいよ。お願いしますから。

B. あなたがそう言うのなら仕方ないですね。帰ることにしましょう。

☞そこまでは…

A. 怒って帰ったのがあなたでなくてほっとしましたよ。

B. …あの、すみませんが今日はもう、帰ることにしましたから。

きゃっ！私ったら…どうしよう

◆日の曜日：他の守護聖さまとデート中◆

おや、今日は私との約束の日では…

☞あやまる

A. ついうっかりというのはまあ、誰にでもあることですからね。今度約束したときには守ってくださいね。

B. アンジェリーク、約束を破られると誰だっていい気はしませんよ。

☞ごまかす

A. そうでしたか？…私の勘違いでしたかね…私はこれで帰りますね。

B. アンジェリーク、約束を破られると誰だっていい気はしませんよ。

あっ！今日は○○様と約束してたんだ!!

◆日の曜日：ルヴァ様とデート中◆

アンジェリーク、どういうことなのですか？

☞あやまる

A. よく正直に言いましたね。素直に自分の非を認めるのは、簡単なようで難しいことです。でもあなたにはそれができました。とても立派ですよ。

B. …やはりよほどのことがない限り、約束は守らなくてはいけませんよ。…今日はもう帰ることにしますよ。

☞ごまかす

A. なんだったんでしょうね。…まあ、なんでもいいんですがね。

B. …やはりよほどのことがない限り、約束は守らなくてはいけませんよ。…今日はもう帰ることにしますよ。

ひっどーい！約束してたのにー

◆日の曜日：ロザリアとのデートに遭遇◆

えー、その、だからですね…本当にすみませんっ。あなたとの約束を破ってしまいました…。

他の守護聖様とデート中

たたずみドームの前

◆通常◆

おや、今日は二人ですか…はー、いやいやなかなかお似合いですよ。

☞そんな

そう照れることはありませんよ。本当にお似合いですよ。

☞うふふ

あのー、もしよかったら今度は私と…あ、いや何でもないです。

◆日の曜日：ロザリアとの約束あり◆

あなた方も二人ですか。いや、私もここでロザリアを待っているのです。

たたずみドーム内

◆日の曜日◆

ロザリアですか…？あ、違いましたね。実は私、ロザリアを待っているんですよ。

Luva

王立研究院

ルヴァ様は私の心をなごませてくれます

あー、偶然ですね、アンジェリーク。えーと、私になんか用があるんですか？
(２回目以降)あれ、アンジェリーク。ええと、今日はよく会いますねー。

- お願いが → 私は、ここで「知恵」をもたらす地の力がエリューシオンでどれだけ必要なのか、教えられるんですが…
  - お願いします
  - やめます → うーん、それもいいでしょうね。大切なのはあなたが自分で判断することですから。
  - (力がたりない) → それにはあなたの力が１必要ですよ。…うーん、今のあなたにはその力が残ってないようですね。
- こんにちは → あー、こんにちは。うーん、やはりあいさつは人の心をなごませますね。

Luva

占いの館

あー…ではよろしくお願いします！

あー、偶然ですね、アンジェリーク。えーと、私になんか用があるんですか？

- お願いが → ここでは対人関係を良くすることができますが…？
  - 仲良くしたい → ええと、では誰と仲良くしたいんですか？
    - キャラクター選択 → ××と仲良くしたいんですね？
    - 守護聖本人 → ええと、私と仲良くなりたいんですねー？
  - 仲良くして → それで、私は誰と、仲良くしたらいいんですか？
    - キャラクター選択 → えーと、××と仲良くするんですね？
    - キャンセル → お願いをやめるんですか？
  - (力がたりない) → それにはあなたの力が１必要ですよ。…うーん、今のあなたにはその力が残ってないようですね。
- こんにちは → あー、こんにちは。うーん、やはりあいさつは人の心をなごませますね。

(2度目以降)あれ、アンジェリーク。ええと、今日はよく会いますねー。えーと、私になんか用があるんですか？

- お願いが → あなたのお願いは、もう聞いたと思うんですが…？
  - それでも！！ → うーん、そうするのならもう一度あなたのお願いを聞かなくちゃいけませんね
  - やめます… → うーん、それもいいでしょうね。大切なのはあなたが自分で判断することですから。

エリューシオンでは、人々に「知恵」を与える地の力を、○○必要としてますよ。

うーんと、私の力が、あと○○程度必要なようですね

今までに私は○○の力を贈りました。えーと、これはエリューシオンで○番目の勢力ですね。

知恵も求められてますね。そうですねー、まあ、私の力も少し贈っておいた方がいいでしょうねぇ。そのうち、私のところに来るといいですよ。力を贈ってあげますよ。

…エリューシオンでは人々に「知恵」を与える地の力が、非常に求められています。エリューシオンの発展を望んでいるのでしたら、私のところに来て下さい。きっと力になれますよ。

えーと、さしあたって私の力は必要じゃないみたいですねー。エリューシオンの育成には、他の力が効果的だと思いますよ。

今度は望みの予測を見たらいいと思いますよ。

うーん、そうだね、今の話を参考にしてがんばってくださいね。

ええ！ — あなたのお願いは忘れずに、しっかりと覚えておきますよ。

いいえ！ — ええと、では誰と仲良くしたいんですか？

キャンセル — お願いをやめるんですか？
- はい — うーん、それもいいでしょうね。大切なのはあなたが自分で判断することですから。
- いいえ — ええと、では誰と仲良くしたいんですか？

ええ！ — あなたのお願いは忘れずに、しっかりと覚えておきますよ。

いいえ！ — ええと、では誰と仲良くしたいんですか？

キャンセル — お願いをやめるんですか？
- はい — うーん、それもいいでしょうね。大切なのはあなたが自分で判断することですから。
- いいえ — ええと、では誰と仲良くしたいんですか？

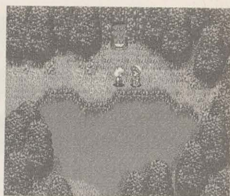
ええ！ — うーん…あなたのお願いは覚えておきますよ。

いいえ! — それで、私は誰と、仲良くしたらいいんですか？

ええ！ — うーん、それもいいでしょうね。大切なのはあなたが自分で判断することですから。

いいえ! — それで、私は誰と、仲良くしたらいいんですか？

Luva 恋愛イベント



これも口説き文句…ですよね？

第1段階

◆森の湖◆

「こういう静かな場所を二人でゆっくり歩くというのもいいもんですねー。天気もいいし…そういえばこの星はいつも天気がいいですよねー。私が生まれ育った惑星っていうのは、年中砂嵐が吹き荒れてて、まあ『砂の星』って呼ばれてるくらいで。あー、だから今でも天気がいいってだけで気分が良くなっちゃうんですが、えーっと、そんなのって変ですかね？」

☞「そうかも」

「うーん、やっぱりそうですか。わかってても他の人に言われちゃうと、心に突き刺さるもんですねー。『人間の精神は周囲の影響により形成される』という書物から得た知識も、こうして日常の中で確かめていくことができるんですねー。うーん…実感」

☞「そんなぁ！」

「そうですよねー。やっぱり人間の心持ちって天気に左右されちゃうとこがありますよねー」。

「ルヴァ様ってやっぱりちょっと変わってるかも」

◆私の部屋◆

「わざわざ送っていただいてありがとうございました。

「私は話すのがあんまりうまくないんで、退屈させちゃったんじゃないかと心配だったんですよ。大丈夫でした？　つまんなくなかったですか？」

☞「…はいっ！」

「そう言ってもらえると私も次の機会には何を話そうかなーなんて前向きに考えちゃいますよ。いやー、うれしいですねー」

「ルヴァ様に喜んでもらえちゃった」

☞「いいえ…」

「うーん、そうだったんですかー」

「ルヴァ様に悪いこと言っちゃったわ」



第2段階

◆森の湖◆

「ええっと、今日はですね、ちゃんと話すことを考えておいたんですよ。アンジェリーク　。えーとですね、えーっと…知識と知恵の違いについてなんですけどねー。あー、あなたは知識と知恵について考えたこととかありますか？

☞「…はいっ！」

「うーん、それはとってもいいことですね」

☞「いいえ…」

「じゃあ、いい機会ですから一緒に考えてみましょうか」

「知恵というのはあらゆる人の心に眠っているものなんですよ。で、知識はそれを目覚めさせるための道具というわけですね。知識を上手に使って取り出した知恵を上手に使う。それができる人を賢い人っていうんですね。でも知識と知恵はあるだけじゃ何もできない。でもなくても何もできない。うーん、難しいかな？」

◆私の部屋◆

「今日はためになるお話をありがとうございました」

「いいえー、こちらこそ。あなたと一緒にいてとても楽しかったですよ。あなたの方は、どうです？私と一緒にいて楽しんでもらえました？」

☞「…はいっ！」

「それはうれしいですねー。また難しい話をしちゃったみたいで、どうしようと思ってたんですよ。どんな話でもちゃんと耳を傾けてくれるなんて、アンジェリーク、あなたは本当に優しいんですねー」

「あんなに私を気遣ってくださるなんて…。優しいっていうならルヴァ様のほうだわ」

☞「いいえ…」

「うーん、やっぱり私は女の子とつきあうには向かないんですかね。あきらめますよ」

「ルヴァ様、ごめんなさい」

告白

◆森の湖◆

「ルヴァさま、私、あなたのことが好きなんです」

「ええっ？　えーと、アンジェリーク。あのう、それって…女王の座を目指すのはやめちゃうって事ですか？」

☞「…はいっ！」

「じゃあ本当に私のことを…なんて言ったらいいのか…ええと、すごく、うれしいですよ、アンジェリークいつも天使のように軽やかで、輝いてるあなたが、私を見ていてくれたなんて…。でも気付きませんでした？　私もずっとあなたのことを見ていたんですよ…」

☞「いいえ…」

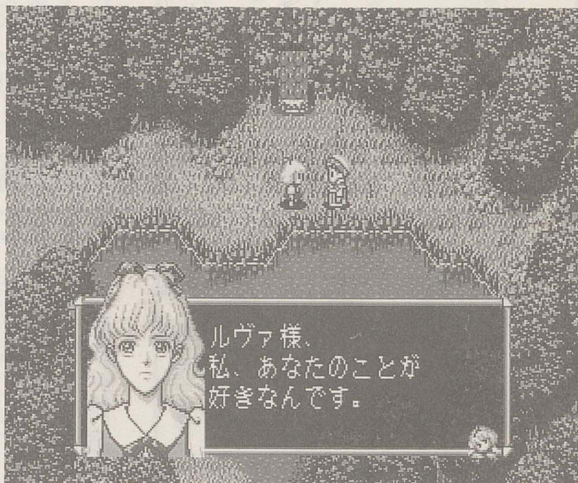
「うーん、では今日のことは何も聞かなかったことにした方がいいですねー。でもうれしかったですよ」

◆失敗◆

「うーん。とっても申し訳ないんですが、私にとってアンジェリークはそういう対象じゃないんですよ」

◆私の部屋◆

「アンジェリーク。あの、誤解しないでくださいね。あなたはとっても魅力的で可愛いし、だから私は、…私なんかでは、到底つり合わないような気がしてしまうんですよ。でも、もう何を言っても言い訳にしかなんないですね。…ごめんなさいっ！」



力を使う

ここではアンジェリークのために力を使う時のセリフをまとめました。

あー、アンジェリークの望み通り、地の「知恵」をエリューシオンに贈ることにします。
あー、アンジェリークの望み通り、地の「知恵」をフェリシアから失わせることにします。
あー、フェリシアから地の「知恵」を失わせます。
あー、エリューシオンに地の「知恵」をもたらしておけば、アンジェリークも喜んでくれますかね。
地の力よ、エリューシオンの人々に「知恵」を与えなさい。
フェリシアから人々に「知恵」を与える、地の力を減らしましょう。

ええと、今回は少し贈っておきましょう。
ええと、今回はたくさん贈りましょう。
ええと、少しだけですがね。
ええと、たくさん…失わせますね。





杉山志保子

口べたなあなた









恋人たちの花園



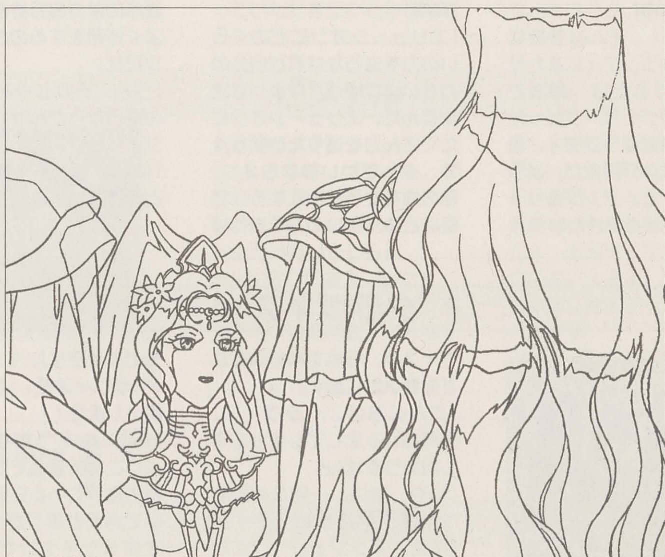






メッセージ♥テスト〈ルヴァ〉の答え 1C 2C 3A 4C 5C 6C 7B 8C 9A 10A-D-B-C

ACT.10 アラカルト



守護聖様にごあいさつ

ディア様に飛空都市を案内されていると…



執務室

ランディ



「こんにちは、ランディ。アンジェリークに、依頼の仕方について教えてあげていただけないかしら」
「ディア様！　そんな重要なことをこのランディにまかせていただけるとは…感激です！　アンジェリークだったね。俺の名前はランディ。勇気を運ぶ風の守護聖だ。よろしくな！　で、アンジェリーク。何の説明を聞きたい？」
「力を貸して！」
「とりあえず力について説明しておくよ。話についてはもっと得意そうなやつに後で聞いてくれ。育成はエリューシオンに俺の司る力を送る。妨害はフェリシアに送った力を俺の手に戻すんだ。この二つから依頼の内容を選んでもらうことになる。だからこういうふうに聞くよ。俺の力を何に使いたいんだい？」
「育成」
「エリューシオンにどのくらいの力を送るかは君が自分の力をいくつ使うかによって決まるんだ。エリューシオンにたくさん力を送りたいなら４つ、少しでいいのなら２つ、君の力を使うことになる。今回はどのくらいの力を送ればいいんだい？」
「少し」
「少し育成するんだね。君の依頼は忘れずに覚えておくから、まかせておいてくれよ。とまあ、こんな風に依頼をしてもらうわけだけど、その日の内なら依頼をやり直すこともできるんだ。この場合注意してほしいのは、依頼を取り消しても一度使った君の力は戻ってこないということだ。残りの自分の力を考えて効率よく依頼をするのが育成のコツだぜ」
「うん。それじゃあ、次の月の曜日からがんばれよ、アンジェリーク」
「はい、ランディ様、ありがとうございました」

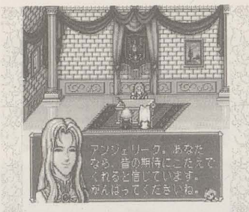
クラヴィス



「ということだそうですよ。…これはディア様。アンジェリークもご一緒ですね。クラヴィス様。それでは私はこれで失礼いたします」
「こんにちは、クラヴィス。突然おじゃましてしまって申し訳ありません」
「いや、別に。…何か用があったのではないのか、ディア」
「ええ、アンジェリークにここの案内をしているのです。アンジェリーク、こちらは闇の守護聖クラヴィス。闇は人々の心に安らぎをもたらすものなのです」
「クラヴィス様、よろしくお願いします！」
「ああ。…そうだな、お前によいことを教えてやろう。お前の持っている生徒手帳に書いてあると思うが、『0キー』を使ったキャンセルのことだ。これによって、力を使わずに依頼を打ち切ったり、広い場所の中からすぐ出ていくことができる。また、二つの

選択を前にして答えに迷ったときに、『どちらでもない』答えを選ぶこともできるのだ。ただし、答えがイエスとノーを意味している場合に『0キー』を使うとノーと答えたことになる。『0キー』は便利だが、使い方には気をつけた方がいい。…ああ、『0キー』といえば、人の声をさえぎることもできるとういう。…便利なものだな。…まあ、お前には難しい話だったかも知れないが。では、アンジェリーク。せいぜいがんばるのだな」
「はい、がんばります！クラヴィス様、ありがとうございました」

リュミエール



「これは…ディア様。アンジェリーク。またお会いしましたね」
「アンジェリーク、こちらは水の守護聖リュミエール。人の心を優しさで満たす水の力を司る方です。申し訳ありませんが、アンジェリークにここでのお話の仕方について教えてあげていただけますか？」
「話の仕方、ですか…そうですね、では何について話しましょうか？」
「私のこと」
「このように話題を選んでいただいて、それについてのあなたの考えをたずねるという形になります。もちろんあなたには自分の考えを率直に語っていただきたいと思うのですが、答えによっては、あまり相手に喜ばれないこともあるようですよ。私が言うのも何ですが、皆個性の強い人ばかりですから…ね。ですが話をするという事はその人の考えを知る上でもより親しくなるためにも大切な事だと思いますよ」
「アンジェリーク。あなたなら、皆の期待にこたえてくれると信じています。がんばってくださいね」
「はい、リュミエール様。ありがとうございました」

ゼフェル



「あ、ディア様。あとえっとアンジェリークだっけか？何か用かよ？」
「こんにちは、ゼフェル。相変わらず元気そうですね。アンジェリークに自己紹介していただけないかしら」
「自己紹介だあ？　ったく…鋼の守護聖のゼフェルだ。与えるモンは器用さ。こんなとこでいいかよ？」
「は、はい。ゼフェル様、よろしくお願いします！」
「あのよー、アンジェリーク。日の曜日とかは、オレたち守護聖もけっこうヒマしてるからよ、お前もヒマだったら呼びに来てみろよ。気が乗ったら一緒に遊んでくれるかも知んねーぜ」
「わあ、ほんとですか？　ありがとうございました」

王立研究院

ジュリアス

「アンジェリーク、こちらにいらっしゃるのは輝く誇りを与える、光の守護聖ジュリアス」
「アンジェリーク。ここに来るとは熱心だな。結構なことだ。何か用があるのか？」
「こんにちは」
「まずあいさつをするとはよい心がけだ。あいさつはよりよい人間関係の基本でもある。忘れるな。頼み事がある



場合は改めて出直してもらうことになっているのだが、今日は特別に教えてやろう。私達守護聖も惑星育成には関心がある。ゆえにここで自分の力がどの程度必要とされているか調べるのだ。お前が望むならば、正確なデータを教えてやってもよいが、それにはお前の力が一つ必要だ。お前が力を使えるようになる今度の月の曜日からここ会った守護聖に聞くがよい」
「はい、ジュリアス様。ありがとうございました」

占いの館

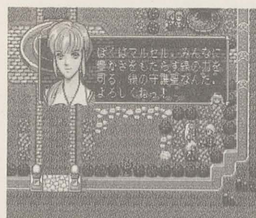
オリヴィエ



「こんにちは、オリヴィエ」
「あれ、ディアじゃない。ここで何してんの？　…ってアンジェリークにガイドしてるってわけね」
「あの…、こんにちは！」
「へえ、ちゃんとあいさつしてくれるなんて、親密度アップしちゃうね。私の名前はオリヴィエ。人々に美しさを贈る、夢の守護聖。…とか言うとちょっとカッコイイかな。でも、アンジェリーク。ここに来るってことは、ひょっとして人間関係で悩んでるってこと？　そういうときはここにいる守護聖に話してみなよ。きっと力になってくれると思うよ。もちろん私もね。あんたが誰かと仲良くなりたい時は『仲良くしたい』って言って、相手を教えてくれればいいし、誰か二人を仲良くさせちゃいたい時は『仲良くして』って言って、その二人を教えてくれればいいよ。あとは取り持ってくれる人の気持ち次第ってヤツね。うまくいきゃ、二人の相性が良くなるってワケ。ま、早い話がサラちゃんのおまじないと同じことをしてあげられるってこと。力は1つでいいからね。じゃ、アンジェリーク。よく見てよく考えて、一番いい道を探すんだよ。なあんてねっ」

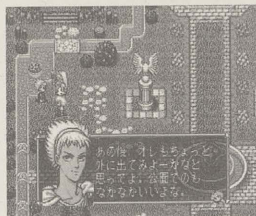
公園

マルセル



「あら、あちらにマルセルがいるようですね。少しお話をしてみましょう」
「あ、ディア様！　それに女王候補のアンジェリーク…だよね。こんにちは！ぼくはマルセル。みんなに豊かさをもたらす緑の力を司る、緑の守護聖なんだ。よろしくねっ！あれ、ひょっとしてぼくと日の曜日に遊ぼうって約束しにきたの？」
「ええっ？」
「あは、やっぱり違うよね。でもこの公園では日の曜日の予約ができるって聞いたことがあったんだ。それって女の子から男の子にしか言えないんだって。どうしてかなあ？ここの公園はとってもきれいだし、楽しいよ。いろんな人がいていろんな話をしてくれるしね。世界とか惑星とか、ためになりそうな話もあったから人と話すって大切なことなんだなって思ったよ。そういえばさっきゼフェルに会ったんだ。まだむこうのほうにいるんじゃないかな？　じゃね、アンジェリーク。月の曜日から、女王試験、がんばってね！」

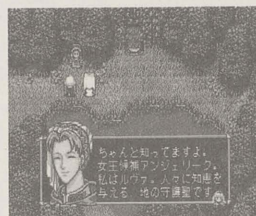
ゼフェル



「よお、アンジェリークじゃねえか。今日はよく会うな。あの後、オレもちょっと外に出てみよーかなと思ってよ。公園てのもなかなかいいよな。守護聖でも出歩くのが好きな奴には、けっこういろんなとこで会えるらしいぜ」
「では、アンジェリーク。そろそろ行きましょう」

森の湖

ルヴァ



「ここは森の湖。静かな自然を求めて訪れる人も…あら、そちらにいらっしゃるのは、ルヴァ…？」
「おや、お久しぶりですねーディア」
「まあ、このあいだお会いしたばかりなのに。まさかこの子のこともお忘れなのではありませんか？」
「ちゃんと知ってますよ。女王候補アンジェリーク。私はルヴァ。人々に知恵を与える、地の守護聖です」
「よろしくお願いします、ルヴァ様」
「ところでルヴァ、なぜお一人で森の湖へいらしたの？」
「いや、何となく誰かに呼ばれたような気がして…ん？一人で来ちゃいけないんですかー？」
「いけないというわけではありませんが、ここの別名は…」
「ええっ？こ、恋……？　何か不思議なことが起こる場所だとは聞いてましたがそんな別名が…。うーん、まだまだ私の知らなかったことが、世界にはいっぱいあるんですねー」
「それではあなたの部屋に帰りましょうね」

私の部屋

オスカー



「ではアンジェリーク」
「あれ、誰か来たみたい…」
「よう、お嬢ちゃん。女王候補ってのにはもう慣れたかい？　おや、これはディア様」
「オスカー、よいところにいらしたわ。女王候補に自己紹介をしてはいただけないかしら？」
「こちらこそ、喜んで。俺はオスカー。人々に強さを与える、炎の守護聖だ。覚えたかな？　お嬢ちゃん。今日はお嬢ちゃんの様子を見に来たんだが…次からは遊びの誘いに来る奴もいるかも知れないからな。ま、予行練習にでもなればと思って来てみたのさ。じゃあな、お嬢ちゃん。ごきげんよう、ディア様」



押田J・O

マルセル様のオススメ!









オスカー様の機転









夢イベント

守護聖様同士の関係を完全チェック！

J……ジュリアス
C……クラヴィス
R……ランディ
Lum …リュミエール
Os……オスカー
M……マルセル
Z……ゼフェル
Oli …オリヴィエ
Luv …ルヴァ

本当は仲いいんじゃない？



J　クラヴィス！　貴様の日頃の職務怠慢、目に余るものがある。陛下が決められたこの試験に対して、なぜ真面目に取り組まぬのだ!?
C　別に…。不真面目にしているつもりはないが？
J　その態度が…！
Luv　ま、まあ二人とも落ち着いて…。
J　私は常に冷静だ！ルヴァ、お前も自分の考えは、はっきりさせておいたらどうだ。
Oli　まあったくジュリアスもクラヴィスも相変わらずなんだから。ちょっとはお互い進歩しなよ。
Luv　ああ、オリヴィエ、いいところに来てくれましたねー。
Oli　べつにィ。仲裁に来たワケじゃないよ。たまたま通りかかっただけ。ったく、仲がいいんだか悪いんだか知らないけど。これじゃ、次の女王になる子も大変だね。

人の話は最後まで聞けよ！



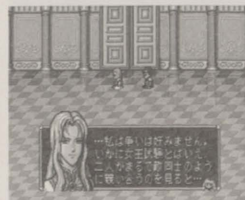
R　ゼフェル、お前はマルセルの手本となるべき先輩なんだぞ！　なのに、何だ、場所柄をわきまえない、あの言葉づかいは。そんなことでいいと思っているのか!?
Z　ったく、るせーな！　ンなコト、お前に言われる筋合いじゃねーだろ！
R　ゼフェル、そんななげやりになるんじゃない。いいか、自分の感情をコントロールし、守護聖の…
R　またかっ、ゼフェル、お前はどうして人の話を最後まで聞こうとしないんだ！

素直なクラヴィス様♥



Lum　…近頃、クラヴィス様は少し変わられたような気がします。何か…明るくなられたような…。あの二人の女王候補のおかげなのでしょうね。
C　そう…かもしれんな。
Lum　…よいことです。
C　よい？　お前はそう思うのか？
Lum　ええ、心から。
C　そうか、お前がそう言うのなら、そうなのだろう。…あの二人には礼を言わねばならんな。

水面下のたたかい？



Os　どうした、水の守護聖様。悩み事でもおありかな？
Lum　…誰かと思えば、オスカー。何か御用ですか？
Os　これは、ご挨拶だな。なんだ、あの二人のお嬢ちゃん方のことが、それほど気になるか？
Lum　…私は争いは好みません。いかに女王試験とはいえ、二人がまるで敵同士のように競い合うのを見ると…
Os　フッ、顔に似合ったキレイ事を言ってくれるぜ。だがな、競争はより高い成果をもたらす。あの二人も競い合うことによって互いに成長していってるんだ。それはお前にもわかるだろう。それとも何か、女王陛下のなさることに異議を申し立てるつもりか？
Lum　そんな…！　それでも、私は…。…いえ、これも新たな女王の誕生のためには、必要なことなのでしょうね…。

女王陛下の剣となります



Os　いよいよ、ですね。女王陛下の交代も…。
J　ああ、そうだな。果たしてどちらが次期女王となるのか、我々も見守っていかなくてはならん。
Os　この試験の結果、どちらが女王になろうと、俺は自分の信念に従って行動するだけです。俺は女王陛下の剣として、この身と忠誠を捧げようと決心しているのですから。
J　たのもしいことだな。さしずめ私は陛下の盾といったところか。だが、我々守護聖は全員が盾であり剣でなくてはならないのだ。それを忘れないでほしい。
Os　わかっております、ジュリアス様。

マルセル様の精一杯



M　ねえ、ランディ。アンジェリークも、ロザリアも、一生懸命がんばってるみたいだったね。ぼくもがんばらなくちゃ。
R　はは、マルセル、その調子だぞ。
M　ぼくはまだ守護聖になったばかりだけど…女王陛下と二人の女王候補のために、自分のできる精一杯のことをしようと思う。それがぼくの「がんばる」なんだ。

極楽鳥のオリヴィエ様



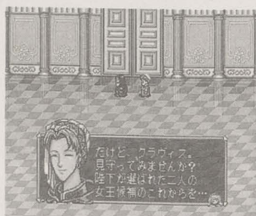
Oli　はぁい、オスカー。お元気ィ？…ってアンタが元気じゃないワケないか。
Os　オリヴィエ。そういうお前も相変わらずだろうが。その派手な格好、またジュリアス様に何か言われたんじゃないのか。
Oli　ヤだなぁ、言われても、ハイそうですかっておとなしく聞く私じゃないってば。それより、アンタ、あの二人の女王候補のコトけっこう気に入ったみたいだねェ？
Os　フッ。あのお嬢ちゃん方はまだまだお子様さ。この炎のオスカー様のお相手には役不足だぜ。
Oli　まぁた、そういうコト言って。ホントのトコはどうなのさ？
Os　さあね。じゃあな、極楽鳥のオリヴィエ様。
Oli　…ったく、うまく逃げられちゃったな。でも…極楽鳥ってどういうイミさ、オスカー！

守護聖はイヤなんだよっ！



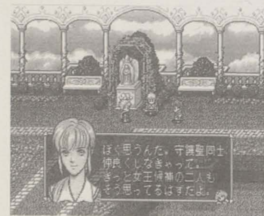
Luv　ゼフェル、女王陛下の前でくらい、おとなしい口をきいてくださいよー。
Z　るせーんだよ、ったく何から何までよお！
Luv　ゼフェル…
M　どうかなさったのですか、ルヴァ様？
Luv　ああ、マルセル…。あなたはいつも素直で優しい子ですね。…それに比べてゼフェルは…いえ、比べてはいけないのでしょうが…。やはり私の教育が至らないせいでしょうかねぇ…。
M　ルヴァ様、そんな…。ゼフェルだって、いつかきっと、ルヴァ様のお心をわかってくれますよ。
Luv　そうだといいんですがね…
Z　…別にルヴァの気持ちがわかんねえワケじゃないんだ。ただ、…オレは守護聖なんて、なりたくなかっただけなんだよ！

共に見守りましょう



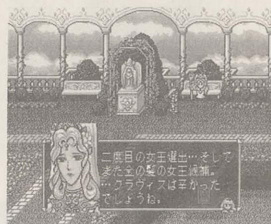
Luv　おや、こんなところに一人でどうしたんです、クラヴィス。
C　ああ、ルヴァか。…いや、何、近頃考えることが多くてな。…私は、もう、疲れてきているのかもしれない。闇の守護聖としての自分に、この長い時間に…。
Luv　この長い長い間、本当にいろいろなことがありましたからね。だけど、クラヴィス。見守ってみませんか？　陛下が選ばれた二人の女王候補のこれからを…
C　…そうだな。それも、悪くはないかもしれんな。

仲良し仲良し



M　ぼく思うんだ。守護聖同士仲良くしなきゃって。きっと女王候補の二人もそう思ってるはずだよ。だからここで約束して。もう二人ともケンカしないって。仲良くするって。お願いだから！
R　ああ、分かった。約束するよ。マルセル安心してくれ。
M　約束だからね！
Z　けっ、しょうがねーな。仲良くしてやるよ。
R　あ、ゼフェル、何だその態度！
M　ランディ！　さっそく約束破る気？
R　あ、いや、そんなつもりじゃなくて…
Z　そーそ、仲良くしなきゃな！

クラヴィス様の過去が…



Luv　思い出しますね、陛下とあなたが女王候補として来た頃のことを。
Dia　あのときは…私も陛下もまだスモルニィ女学院の生徒でしたわ。
Luv　あのときの守護聖で残っているのは、私とジュリアス…そしてクラヴィスだけになってしまいましたね。
Dia　二度目の女王選出…そしてまた金の髪の女王候補。…クラヴィスは辛かったでしょうね。
Luv　でもですね、ディア。きっともう大丈夫だと思うんですよ。あの子の素直さ元気さは、かたくななクラヴィスの心にも春の陽射しをもたらしてくれたと思いますよ。それにしても、陛下の即位式のクラヴィスの態度にあのジュリアスがよく何も言いませんでしたねえ。ディアがよほどうまく取りなしてくれたんでしょう？　いやあ、助かりましたよ。
Dia　え？　私はジュリアスには何も…ルヴァが話してくださったのではないのですか？
Luv　いいえー私も何も…ということは、ジュリアスは？
Dia　未だに何もご存じないのかしら…。まあ。

女王候補の旋風



J　ゼフェル！分かっているのか！
Z　けっ！　ンなことオレの知ったこっちゃねーや！
J　…まったく、頭の痛い…。
Lum　ジュリアス様。
J　リュミエールか。困ったものだな、正しいことを正しいとすらわからないというのは。それとも、何にでも反発すればよいとでも思っているのか。
Lum　…そうでしょうか。人にはそれぞれ事情がありそれぞれのやり方があるのではないでしょうか。それを配慮することなく、正しいことをわからせることが正しいとは、私には思えません。なによりも、それが争いの原因となってしまうことは悲しいことだと思います…
J　…誰の肩を持っているのだリュミエール。
Lum　これは、私の意見です。強いて言えば…女王候補の考え方に影響された、とも言えるでしょう。
J　女王候補の？…そうか。

男の心配するなんて…？



Os　これはこれは、クラヴィス様。…相変わらず、自分だけの闇を見つめていらっしゃる御様子。お疲れになるのも分かりますね。けれどあなたがそんな調子だと、心を痛めてるものもいるようですよ。
C　…私には関係のないことだ。
Os　フッ…。俺としたことが、他の男の心配をしてやるとはな。まあ、いいか。たまにはこんな役もやってみるもんだ。

オリヴィエ様が応援！



Oli　あーあ。けっこう長くかかるモンなんだね、女王試験て。早くカタつけちゃえばいいのにさ。がんばってよね、小さな天使たち。なぁんてね！　きゃははははっ！

きゃはっ！　いい夢見てね



Oli　今頃、あのコたちも夢の中…か。この夢は惑星育成試験にがんばるあなたに向けて送られています。定期審査の結果はいかがでしたでしょうか？　なぁんてね！　これで少しでもいい夢を見られたらいいね。ちょっとは楽しくなってくれてるかな。でも、もうすぐ起きるトコだったかな？

定期審査

このひと言で、ハートの力の行方が決まります



女王陛下

「今日は皆に、二人の内でどちらが女王候補としてふさわしいと思うか聞きたいと思う。各々司る力にかけて、己が信じる女王の名を告げよ」

ディア

「では、アンジェリークとロザリアでは、どちらが女王にふさわしいと思うか申し上げて下さい」



ジュリアス

☞現時点においてはアンジェリークの方が女王にふさわしいと思われます。
☞現時点においては私には判断がつきかねます。
☞現時点においてはロザリアのほうが女王にふさわしいと思われます。

クラヴィス

☞アンジェリークの方が新たな女王としてふさわしい。
☞私は…そうだな、今回は優劣をつけることができない。
☞ロザリアの方が新たな女王としてふさわしい。

ランディ

☞俺は、今のところアンジェリークこそ女王にふさわしいと思います。
☞俺は今はどっちとも言えないから、今回の投票はキケンします。
☞俺は、今のところロザリアこそ女王にふさわしいと思います。

リュミエール

☞私はアンジェリークこそが女王にふさわしく思えます。
☞私はどちらとも決めかねます。
☞私はロザリアこそが女王にふさわしく思えます。

オスカー

☞アンジェリークの方が女王になるべきだと思います。
☞俺にはどちらかを選ぶなんて罪なことはできません。
☞ロザリアの方が女王になるべきだと思います。

マルセル

☞ぼくは、アンジェリークが女王になる方がいいと思います。
☞ぼく、今回はどっちにも決められません。
☞ぼくは、ロザリアが女王になる方がいいと思います。

ゼフェル

☞オレは、アンジェリークの方がいいと思うぜ。
☞どっちとも言えねぇな。今回はオレ、パスするぜ。
☞オレ、ロザリアの方がいいと思うぜ。

オリヴィエ

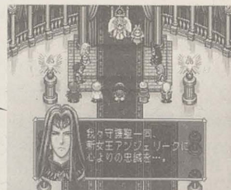
☞私はアンジェリークの方がイイと思うな。
☞そうだねェ…ちょっと決められないなぁ。今回はパスしとくね。
☞私はロザリアの方がイイと思うな。

ルヴァ

☞私はアンジェリークの方が女王にふさわしいと思うんですけど。
☞迷いますねぇ…、私の見たところでは引き分けですね。
☞私はロザリアの方が女王にふさわしいと思うんですけど。

女王エンディング

感動の女王エンディングをもう一度…



伝説の島に建物到達！

ジュリアス
「とうとうこの日が来たのだな。エリューシオンがついに…到達したのだな。／とうとうこの日が来たのだな。フェリシアがついに…到達したのだな。決まった！これで女王が決定したぞ！」

クラヴィス
「ん？エリューシオンはとうとうやったのか？／ほう…フェリシアはとうとうたどりついたようだな。…これで女王の決定だな」

ランディ
「これは…、ついにエリューシオンはやったんだな。／これは…、ついにフェリシアはやったんだな。これで、女王が決定したんだな！」

リュミエール
「これは…とうとうエリューシオンは到達したのですね。／これは…とうとうフェリシアは到達したのですね。これで女王となる方が決まりましたね。」

オスカー
「これは…エリューシオンはとうとうたどりついたんだな。／これは…フェリシアはとうとうたどりついたんだな。これで、女王は決まりだな」

マルセル
「あー、エリューシオンは目標の島にまでたどりついてる!!／あー、フェリシアは目標の島にまでたどりついてる!!　これで、女王陛下は決まったねっ！」

ゼフェル
「ん!?　よく見てみりゃエリューシオンはたどりついてるじゃないか。／ん!?　よく見てみりゃフェリシアはたどりついてるじゃないか。女王は決まったぜ！」

オリヴィエ
「あーら、とうとうエリューシオンはたどりついたんだ。／あーら、とうとうフェリシアはたどりついたんだ。これで、女王が決まったってワケだね！」

ルヴァ
「えーと、これはっと…とうとうやりましたね、エリューシオンはとうとう…／えーと、これはっと…とうとうやりましたね、フェリシアはとうとう…。これで、女王になる人が決まりましたねぇ」





大神官「やったです、ついに伝説の島にたどりついたです！何が起こるですかー、わくわくー　…あっ!?」

女王陛下「今こそ、世界は救われる。そなたの育てた新しき宇宙の力をもって、星々を全て受け取ってほしい」

大神官「あっ、天使様。たった今、天の女王様からお告げがあったです。夜空の星が増えるけど、いいですかって言われたです。きれいなお星様が増えるなら大歓迎です！天使様。早くお星様をいっぱいもらってきてくださいですー」

アンジェ「うん。みんな心配しないで待っててね」

女王陛下「それではアンジェリーク。星々を、生命を、力を…この宇宙のすべてを送ろう。すべてを慈しみ、導く心を持って、静かに目を閉じ、心の扉を開くのだ……アンジェリーク。さあ、ゆっくりと目を開けて…」

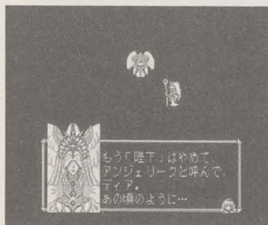
アンジェ「あ、女王陛下！」

女王陛下「ありがとうアンジェリーク。そなたのおかげで、星々の移動は無事に終わった。世界は救われたのだ。滅びゆく

宇宙の悪い影響を新しい宇宙に与えないよう私がここにとどまり、こちらの空間を閉ざす。ゆえに、今ここで、女王の座をそなたに譲ろう。エリューシオンの人々を導いた気持ちを忘れずに、二つの世界を…頼む、アンジェリーク…」
アンジェ「そんな…、女王陛下！」

女王とディア

女王陛下「ディア…どうしてここに？ここはもう生命あるものの世界ではないのよ。もうすぐこの宇宙は完全な虚無に閉ざされるわ。私の力がまだあるうちに、あなただけは早く…」
ディア「いいえ、陛下。最後まであなたと共におります。スモルニィの頃から、私たちずっと一緒だったではありませんか」
女王陛下「そうだったわね、ディア。あなたはずっと私を励まし支えてくれたわ。あなたがいなかったら私、とてもここまで来ることは出来なかったわ…」



ディア「無事にこの空間を閉ざすことが出来たら皆の待つ新しい宇宙に、一緒に参りましょう。そして二つの世界を治める新しい女王の誕生を祝福しましょう。ね、女王陛下」
女王陛下「もう『陛下』はやめて、アンジェリークと呼んで、ディア。あの頃のように…これからあの頃の私たちにもう一度戻るのよ」
ディア「ええ、アンジェリーク…」

こうして、旧宇宙からの星々の移動は無事終了した。生まれて間もない新しい宇宙には、もう一つの世界を受け入れてもなお充分な余裕があったのだ。世界の危機とそれが回避されたことを知った人々はみな、驚き、そして喜んだ。ただ…。移動後の主星に女王と女王補佐官ディアの姿はどこにもなかった…二人の無事を信じながらも、隠しきれない不安を抱いたまま新女王アンジェリークの即位の儀が執り行われることになった。………

女王即位の儀

ジュリアス「女王と守護聖の名においてここに、試験の終了と新たなる女王の誕生を宣言する。アンジェリーク、女王の玉座へ！」
アンジェ「いいえ…」
ジュリアス「何を言っているのだ、アンジェリーク。これは女王に選ばれたお前の義務なのだぞ」
クラヴィス「アンジェリーク…お前にすべてを託した女王の信頼を無にしてほしくはない…」
アンジェ「そうだったわ…。私は二つの世界の女王としてみんなを導いていかなきゃならないんだわ。…はいっ！　つつしんで女王の御位をお受けいたします」

女王陛下「どうやら即位の儀には間に合ったようだ。
アンジェ「陛下、ご無事で！」
女王陛下「思ったより手間取ってしまってな。…すまぬ。皆には心配をかけたな。即位の儀の前に…もう一人の女王候補、ロザリア・デ・カタルヘナを、これへ。ロザリアはアンジェリークに及びこそしなかったが、女王となる素質と能力はすばらしいものがあった。今回の経験を生かし、女王補佐官としてその能力を世界のために役立ててほしいのだが…どうであろう、アンジェリーク」
アンジェ「うれしい♥」
ロザリア「いいこと、アンジェリークあんたってば相変わらず何にも知らないし、頼りないことこのうえないわ。だから私がついていてあげることにしたのよ。がんばってもらうわよ、新女王陛下」
アンジェ「うん！　ありがとう、ロザリア」
女王陛下「では、アンジェリーク。改めて女王の座と力をそなたに譲り渡そう」
ディア「私たちの役目は終わりました。もう、あなた方と言葉を交わすこともないでしょう」
女王陛下「２５６代目にして新しき世界の初代女王、アンジェリークよ、女王の玉座へ！」
ジュリアス「ここに、新女王アンジェリーク陛下の即位を宣言する！」
クラヴィス「新女王にぜひあいさつをしたいという者が…」
アンジェ「えっ？」
サラ「おめでとう、アンジェリーク。いえ、女王陛下とお呼びしなくてはなりませんのね」
パスハ「惑星の民たちも、心から陛下を慕っておりました。その育成を指導できたことを私は光栄に思います」
サラ「私もですわ、新女王陛下。陛下のお役に立てたことを一生誇りに思います。最後に陛下と世界の幸福を祈らせてください。全ての人を愛し全ての人に愛されますように…」



守護聖様の誓い

①守護聖とアンジェリークのどちらも告白なし
②アンジェが守護聖をふった。
③守護聖がアンジェをふった。
④両方とも告白していないが、親密だった。

ジュリアス

①「光の守護聖ジュリアス、新女王陛下に永遠の忠誠を捧げます。我が司る、この世界のすべての光が陛下の御為に輝かんことを…。そして、新女王陛下の御世に、誇り高き光を掲げんことを…」
②「…陛下。あの日以来、私は陛下が女王となられることだけを信じておりました。見事二つの世界の女王になられた陛下とともに、同じ時を過ごせたことを誇りに思います。光の守護聖ジュリアス、我が司る輝く誇りにかけて永遠の忠誠を誓います。この身の、命のある限り」
③「新女王陛下。やはり陛下こそ女王にふさわしい方であったと、改めて確信いたしました。世界を救い、輝ける未来に導く真の女王としてこそ、私が陛下に願った姿だったのですから。光の守護聖ジュリアス、新女王陛下に永遠の忠誠を捧げます。…すべての光を陛下の御為に…。」
④「私は、思いもかけなかった暖かい光の存在を陛下に教えて頂いたような、そんな気がしております。偉大なる新女王陛下。光の守護聖ジュリアス、永遠の忠誠を捧げます」



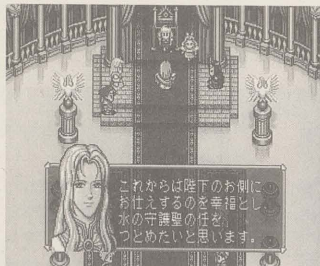
クラヴィス

①「金の髪の新女王よ。我が司る闇の力をもって、私はお前に仕えよう。女王とは時に辛いことを決断しなくてはならない。だが忘れないでほしい。私たち守護聖がいるということを」
②「そうか、アンジェリーク。お前も女王となるのだな。これもまた、運命…か。新女王アンジェリークよ。自らの運命を決めた女王。安らぎに満ちた日々がその上にあることを祈ろう」
③「アンジェリーク。やはりお前が女王…か。新女王よ。運命に流されず自らの道を決めた女王よ。過去に捕らわれることなく己の道を歩むがいい。安らぎに満ちた日々がその上にあることを祈ろう。」
④「…アンジェリーク。お前もやはり女王の座を選ぶか。それがお前の運命であり、私の運命でもあるのか。…女王とは唯一の存在であるがゆえ、その身には常に孤独の影が射す。それをお前は選んだ。だが覚えておいてほしい。お前をいつも見ていた者が少なくとも一人はいたということを…」

ランディ

①「おめでとうございます、新女王陛下。この試験で、俺自身も少しは成長できたような気がします。この風の守護聖ランディ、陛下のために全力をもってお仕えいたします！」
②「陛下とともに過ごした試験期間は一瞬のようで、しかし同時に、永遠とも思える長い時でした。俺にとって陛下は尊敬し、お守りすべき存在です。それはいつの日も変わることはありません。これまでも、これからも。…永遠に」
③「新女王陛下。ご即位、おめでとうございます。このランディ、陛下のお幸せを心から願い、風の守護聖として、全力をもってお仕えいたします。試験期間中のいろいろな出来事は、大切な思い出として心の中にしまっておきたいと思っています」
④「…陛下。お気づきになられなかったかも知れませんが俺はずっと陛下のお役に立ちたいと思っていました。女王候補だった陛下の為に自分の力が役に立つのが、本当にうれしかったです。いつも一生懸命でした。今日からは女王候補ではなく女王陛下のために、この風の守護聖ランディ、全力をつくします」

リュミエール



①「水の守護聖リュミエール、謹んでご即位のお祝いを申し上げます。陛下の御世に、絶え間ない水の流れのような優しさが満ちあふれますように…。いかなる時も慈しみと思いやりの心を忘れず、世界をお導きください」

②「アンジェリーク。やはりあなたの優しさは世界の人々全てに向けられるものだったのですね。ただ、肖像画を大切に持っていることだけはお許しください。新女王陛下。湖のように穏やかに優しく流れのように絶え間なく、世界をお導きください」

③「新女王陛下。…あのときの私の選択が正しかったのかどうか…ずっと考えていました。ですが今、救われた世界と陛下のお姿を拝見すると、少なくとも間違ってはいなかったと思えます。新女王陛下。いかなる時も慈しみと思いやりの心を忘れず、世界をお導きください」

④「おめでとうございます、新女王陛下。女王候補であられたときの陛下の明るい笑顔は、いつも私に限りない幸福を与えてくださいました。これからは陛下のお側にお仕えするのを幸福とし、水の守護聖の任をつとめたいと思います」

オスカー

①「あのお嬢ちゃんが新女王陛下か…。お嬢ちゃんは、この俺から見ても、女王にふさわしく魅力的だったからな。新女王陛下。このオスカー炎の守護聖として、陛下に心よりお仕えいたします。この力が尽きるまで…」

②「陛下のご即位をお祝い申し上げます。この炎のオスカー、陛下に対して、心よりの忠誠を捧げます。…心より、誓います。今までの俺の、女王候補のお嬢ちゃんへの想いと同じくらい、真剣な気持ちで…」

③「お嬢ちゃん。とは、もうお呼びいたしません。大陸の人々を導き、世界を救われた陛下はもはや、素晴らしい魅力を持った、大いなるお方です。炎の守護聖オスカー。この剣と精神をもって新女王陛下に真の忠誠を誓います」

④「お嬢ちゃん。と呼ぶのもこれが最後か。残念だな。お嬢ちゃんも女性の魅力が身についてきたな…。ここでさらっていってしまいたいくらいの、な。おおっと、聞かなかったことにしてくれよ。それはこの瞬間までだ。これからは、このオスカー我が剣と精神をもって陛下に忠誠を誓います」



マルセル

①「アンジェリーク。ううん、もう、陛下って呼ばなきゃならないんだね。なんか変な感じだけど、でも、アンジェリークは本当にがんばってたから女王になれたんだよね。ぼくも緑の守護聖として一生懸命、がんばります！新女王陛下」

②「アンジェリーク…ほんとに女王様になったんだね。ぼく、いろいろ迷惑をかけちゃったと思うけど、でも、今は心からおめでとうを言うよ。新女王陛下、御即位、おめでとうございます」

③「おめでとうアンジェリーク試験がんばってたもんね。ぼく、あの飛空都市でのことはずっと忘れないよ。…新女王陛下。ぼくもいっしょうけんめいがんばります」

④「アンジェリーク。やっぱり女王様になっちゃうんだねぼく…ぼくホントはね、ううん、何でもないよ。新女王陛下や前女王陛下のように、ぼくもいっしょうけんめいがんばります」

ゼフェル

①「あのよ…アンジェリークおめーやっぱりすげぇよ。なんだか、オレも人のためになることをしたくなっちまった。女王陛下。オレも、オレの精いっぱいのできることで陛下のお力になります！」
②「ほんとに、…おめーにはさんざん振り回された気がするけどよ…。でも、おめーはちゃんと女王になったんだもんな。ったく、しょうがねえな！応援してやるよ、アンジェリーク陛下！」
③「アンジェリーク。やっぱりおめー、すげーよな。ちゃんと女王になっちまったじゃねーかよ。オレ、おめー…じゃねぇや女王陛下の力になるぜ。これからも、ずっとな。前にも言ったろ？イイ奴ってのは変わんねーんだからよ」
④「そっか…おめー女王になっちまうんだな。アンジェリーク。オレもおめーに言ってやりたいことがいろいろあったんだけど、な。もう、しょうがねーや。新女王陛下。オレも、オレのできる限りのことで陛下の力になります。…これでいいよな？」

オリヴィエ

①「おめでと、アンジェリーク。ま、責任とか義務とか、あんまりカタく考えないで気楽にやってね。だぁって、女王が幸せじゃなかったら、世界をいい方向に導くなんてできないよ!?　ねっ、新女王陛下！」
②「ヤダなあ、ホントに女王になっちゃうなんてさ。ま、あんまりムリしないでがんばってよね。イヤミとかで言ってんじゃないよ。誤解しないでね。大好きだったのはホントなんだからさ。だから笑ってよ、アンジェリーク。笑顔のあんたは最高！にカワイイんだから。ね？」
③「よく似合うよ、新女王陛下。私の言ったとおりだよね？アンタはまだまだこれからなんだよ。これから本当の女王になっていくんだからカタく考えないの！これからは世界のみんなのために、元気でカワイイ女王陛下でいてよね。私もお手伝いしたげるからさ。」
④「おめでと、新女王陛下。大好きだったアンタに、とびっきりの美しい夢を贈るよ。ただし、オリヴィエからじゃなく、夢の守護聖からだけど、ね。よろしくね、新女王陛下」

ルヴァ

①「おめでとう、新女王陛下。試験の時は正直言って少し心配でしたが、あなたならきっと大丈夫でしょう。どんな時もその明るさと元気を忘れずに、がんばってくださいね。もちろん、私も全力で新女王陛下のお手伝いをさせて頂きますよ」
②「あー、アンジェリーク…。その、ですねぇ。何と言ったらいいか……私は、あなたがいつも輝いていてくれれば、それにまさる幸せは無いと思っているんです。だから、どうか明るいあなたでいてください。幸福な女王は宇宙の全てを幸せにできるんですから」
③「アンジェリーク…。覚えておいてください。あなたの、女王候補だったあなたの日々を。あなたは本当にすばらしい女王候補でしたよ。まぶしすぎるくらいに…新女王陛下。私は地の守護聖として、心よりお仕えいたします」
④「アンジェリーク。あなたならきっと素晴らしい女王となるでしょうね。でも、ときには大変なこともあるかもしれません。そんなときは立ち止まって周りを見てみてください。私は…、いえ、私たちはいつも陛下と世界のため守護聖としてお力になるのですから」

クラヴィス「我々守護聖一同、新女王アンジェリーク に心よりの忠誠を…」
ジュリアス「二つの世界の新女王、アンジェリーク陛下に永遠の栄光を！」

かくして新女王は誕生した。256代目にして、新しき世界の初代女王アンジェリーク。新宇宙暦、元年。女王試験開始から、○○○日後のことであった。

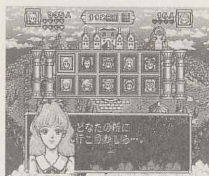


あなたの守護聖様の親密度がわかる!?

メッセージ♥テスト

メッセージについての10問のクイズで、
守護聖様との親密度をチェック！
あなたは何問答えられますか？

ルール



★問10以外は３択方式です。ABCの中から正しいものを選んでください。
★１問20点。200点満点で親密度をチェックしてください。
★答えは、この本を調べればすべてわかります。
★テストの答えは、各守護聖様の４コマコミック下に記載されています。

ジュリアス……………………………………………



1 女王試験前日、謁見の間での「クラヴィス、これは女王陛下の○○なのだ。」○○に入るのは次のうちどれ?
A お考え　B ご決断　C ご意志

2 森の湖でデート中、「…お前とここにいると、なぜか心が○○のだ。」○○に入るのは次のうちどれ？
A 落ち着く　B なごむ　C おだやかになる

3 好きな食べ物のテリーヌの評価で「…美味であるばかりでなく○○なものだから～」○○に入るのは?
A 上品　B 高級　C 希少

4 好きな食べ物のエスプレッソの評価で「あの○○味わいとコクのある香りとの調和が心地よいのだ。」○○に入る言葉は？
A まろやかな　B 深い　C この上ない

5 理想の女性像「○○と優しさと賢さを兼ね備えた女性だな」の○○に入るのは？
A 愛らしさ　B 清純さ　C 美しさ

6 苦手な女性像「○○な女性は、どうしても好きになれない。」○○に入る言葉は、は次のうちどれ？
A 無作法　B 傲慢　C 不遜

7 公園デートでの「…ではそろそろ行くぞ、○○アンジェリークよ。」○○に入る言葉は次のうちどれ？
A 限りない優しさを持つ　B 花のように可憐な
C 限りなく澄んだ心の

8 公園デートでの「…お前の取り柄は明るくて○○なことだったから…」○○に入る言葉は次のうちどれ？
A 聡明　B 元気　C 健康

9 私の部屋での「この私の誘いを断るとはよほど熱心に育成に励んでいるのだろうな。」これ、いつ断ると言われる？
A 平日　B 土の曜日　C 日の曜日

10 次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
A. 手加減していたのではお前の上達のためにもならないからな。
B. チェスでの考え方は、女王試験と通じるものがある。
C. 惨敗でも仕方あるまい。
D. これで試験の参考となるとよいのだがな。

クラヴィス…………………………………………



1『私のこと』を『話に来た』時、間違えても出てこないメッセージは次のうちどれ？
A そうか…。 B …私は違うな。
C 私の考えとは違うな。

2 苦手な女性像「…○○人間とはあまり近づきたくないものだ。」○○に入る言葉は次のうちどれ？
A 騒がしい B うるさい C わずらわしい

3 公園でアンジェのことを「…○○天使」と言いますが、○○に入るのは？
A 愛らしい B 心優しき C 清らかなる

4 公園では出てこないメッセージでは、次のうちどれ？
A それでは帰るぞ。 B では帰るぞ。
C もう今日は帰るぞ。

5 公園デーでの「まったく○○お前は元気だな」○○に入るのは？
A いつでも B 驚くほど C 不思議なほど

6 私の部屋での「…そうか。」これ、いつ断ると言われる？
A 日の曜日 B 約束した日の曜日
C 約束した週の平日

7 夢イベントでジュリアスにとがめられた時の「○○…。不真面目にしているつもりはないが？」○○に入るのは？
A 知らぬな B 何のことだ C 別に

8 中央の島にエリューシオンの建物が建った時、最初に漏らす言葉は？
A ほう… B ん？ C これは…

9 女王即位の時の「○○新女王よ。」○○に入るのは？
A 心優しき B 金の髪の C 二つの世界の

10次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
A．お前は「闇」とはどんなものなのか知っているのか？
B．大抵の者は「闇」と聞くだけで私を避けるというのに。
C．…アンジェリーク。
D．お前は私を恐れないな。

ランディ…………………………………………



1 女王試験前日、謁見の間でマルセルを見送った時の「俺も○○！」○○に入るのは？
A がんばるぞ B 手を抜けないぞ
C 負けられないぞ

2 執務室での「おれはけっこう○○なんだ。」○○に入る言葉は？
A 面倒が嫌い B 気が短い方 C 話すのが苦手

3 公園デートで、話を聞く相手の質問に間違えた時の最初の一言は？
A 知らないのか。 B がっかりだな。
C 本気かい？

4 公園にある噴水の前での「…そして○○君の心のように…」○○に入るのは？
A 清らかな B 済みきった C 純粋な

5「そうだなあ…、食べ物だと、○○が嫌いだな。○○に入る言葉はどれ？
A トマト B グリンピース C シイタケ

6 苦手の女性像「…○○女の子は好きになれないな。」○○に入る言葉は？
A 心の冷たい B わがままな C 高慢な

7 約束していた日の曜日、私の部屋に迎えにきた時の第一声は？
A やあ、待ったかい？ B やあ、迎えにきたぜ
C やあ、支度はできてるかい？

8 夢イベントでゼフェルを叱る時の「何だ、○○をわきまえない、あの言葉づかいは。」○○は？
A 場所柄 B 状況 C 自分の立場

9 女王即位の時の「俺にとって陛下は尊敬し、○○存在です。」○○に入るのは？
A 全力でお仕えすべき B 忠誠を捧げるべき
C お守りすべき

10次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
A．じゃあな。
B．これは君と一緒だったからに違いないな。
C．今日は楽しかったよ。
D．また公園に一緒に散歩に行きたいものだよ。

リュミエール



1 ディアに聖殿を案内された時の、一番最初のセリフは？
A これは…ディア様。 B いえ、別に。
C ということだそうですよ。

2 執務室で用件をキャンセルした時のメッセージは、次のうちどれ？
A やめるのですか？ B 何も用事はないのでしょうか？ C そうですか。では、また何か頼みがあれば、来てくださいね。

3 好きな物について「…○○も大切だと思っています。」○○に入る言葉は？
A 色や形、香り B 色と形、香り
C 色、形、そして香り

4 苦手な女性像「そうですね…○○な女性は避けたいですね。」○○に入る言葉は？
A 高慢 B 贅沢 C 身勝手

5 公園での「…では、行きましょうか。○○アンジェリーク…。」○○に入るのは？
A 優しく美しい心の B 限りない優しさを持つ
C 優しく聡明な

6 趣味イベントを断った時の「○○ことを言ってしまいましたね」○○に入る言葉は？
A 身勝手な B 押しつけがましい
C ずうずうしい

7 森の湖での「こんな○○自然の中にいると、本当に心がなごみますね。」○○に入るのは？
A すばらしい B おだやか C 美しい

8 夢イベントでオスカーと言い争った時に叫ぶセリフはどれ？
A それは…！ B そんな…！ C …いいえ！

9 女王即位の時の「○○ご即位のお祝いを申し上げます。」○○に入る言葉は？
A 心より B 謹んで C 敬意をもって

10 次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
A. アンジェリーク。
B. あなたのほほえみは百億の花にもまさるでしょう。
C. 本当ですよ。
D. では、行きましょうか。

オスカー



1 女王試験前日、謁見の間での「…このオスカー様には○○かな。」○○に入るのは？
A 幼すぎる B お子様すぎる C 子供すぎる

2 執務室での出迎えメッセージで、1番好印象な時の第一声は？
A よう、アンジェリーク。 B よう！ よく来たな。 C よう、お嬢ちゃん！

3 公園での「…そろそろ行こうぜ、○○お嬢ちゃん。」○○に入る言葉は？
A 限りない優しさを持つ B 花よりかわいい
C 宝石のように輝く瞳の

4 好きな物で「コーヒーなら○○に限るぜ。」○○に入るのは？
A ブラック B アメリカン C カプチーノ

5 身近なこと「俺は心ある人からは○○と呼ばれているのさ。」○○に入るのは？
A 愛と勇気と真実の人 B 愛と正義と真実の人
C 愛と勇気と正義の人

6 嫌いな物「じつは、俺は○○が嫌いなんだ。」○○に入る言葉は、次のうちどれ？
A エスカルゴ B アスパラ C マヨネーズ

7 公園から帰るとき「そろそろ帰るぞ。」のあとに続く言葉は？
A 部屋まで送らせてもらうぜ。 B 部屋まで送るからよ。 C 部屋まで送るぜ。

8 夢イベントでクラヴィスと会った時の「○○、クラヴィス様」○○に入るのは？
A いかがしました B これはこれは
C おやおや

9 女王即位の時の「…心よりお仕えいたします。この○○…。」○○に入るのは？
A 命ある限り B 剣に誓って
C 力が尽きるまで

10 次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
A. また今度一緒に公園に行こうぜ。
B. じゃあな。
C. 俺は楽しみにしているからな。
D. お嬢ちゃん今日はお互い物足りなかったな。

マルセル……………………………………



1 ディアに公園を案内された時の、「…ぼくと日の曜日に〇〇って約束しにきたの？」〇〇に入る言葉はどれ？
　A 遊ぼう　B 会おう　C デートしよ

2 執務室の出迎えメッセージ「ふふふ、なんか、君がここにいるのって、〇〇な感じ！」〇〇は次のうちどれ？
　A 変　B 不思議　C あったか

3 公園での「…じゃあ、行こうよ。〇〇アンジェリーク。」〇〇に入る言葉はどれ？
　A お花の似合う　B とってもかわいい
　C とってもやさしい心の

4 好きな物「…中でも〇〇が一番好きなんだ。」〇〇に入る言葉は、次のうちどれ？
　A プリン　B チェリーパイ
　C ミルクチョコレート

5 趣味の話「ぼくの趣味はねー、〇〇ことだよ。」〇〇に入る言葉は？
　A 草花を育てる　B 動物と遊ぶ
　C 動物とお話しする

6 森の湖での「きゃっ冷たい」への返答の第一声は次のうちどれ？
　A あは。　B そうだよね！　C ははははは。

7 夢イベントでゼフェルとランディに注意した時の「〇〇だからね！」〇〇は？
　A きっと　B 絶対　C 約束

8 中央の島にエリューシオンの建物が建った時、最初に漏らす言葉は？
　A あれぇ!?　B あー、　C わーい!!

9 女王即位の時の「…ぼくも〇〇がんばります。」〇〇に入る言葉は？
　A 精一杯　B できる限り
　C いっしょうけんめい

10 次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
　A．ん、二人なの。
　B．だってお似合いなんだもん。
　C．いいな、いいな。
　D．あー、アンジェリークだ！

ゼフェル……………………………………



1 執務室の出迎え「ったくよー、〇〇っていうか、遠慮がないっていうか！」〇〇は？
　A あつかましー　B ずーずーしー　C こすい

2 執務室で森の湖に誘って断られる「…湖に行く気はないぜ。〇〇。…」〇〇は？
　A 気が乗らねえ　B とっとと帰んな
　C 話は終わりだ

3 公園での「陛下は…ま、とにかく〇〇人なんだってよ。」〇〇に入るのは？
　A 偉大な　B すげー　C えらい

4 私の部屋の「ちぇっ。せっかく誘ってやったってのによ。つまんねーの！」これ、いつ断ると言われる？
　A 平日　B 土の曜日　C 日の曜日

5 公園での「…〇〇お前も、なんかカワイイかもしんねーな。」〇〇に入るのは？
　A 笑ってる　B 照れてる　C スネてる

6 嫌いな物「そりゃー、甘いもの、〇〇とかだぜ。〇〇に入る言葉は？
　A 生クリーム　B ジャム　C チョコレート

7 趣味の話「ヒマなときにはオレは、よく〇〇なんかやるぜ。」〇〇に入るのは？
　A 機械いじり　B 背くらべ　C スカッシュ

8 夢イベントでマルセルに叱られた時の「けっ、〇〇。仲良くしてやるよ」〇〇に入る言葉は次のうちどれ？
　A わかったよ　B ったく　C しょーがねーな

9 女王即位の時の「前にも言ったろ？〇〇ってのは変わんねーんだからよ。」〇〇は？
　A 宇宙　B イイ奴　C 気持ち

10 次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
　A．今日はもう帰るぜ。
　B．気に入らねーな。
　C．オレの前だからンなこと言ってんだろ。
　D．やっぱ、そーなんかよ。

オリヴィエ……………………………………………



1 女王試験前日、謁見の間での「…あーあ、結局○○なんないワケね。」○○に入る言葉は次のうちどれ？
A 行かなきゃ　B やらなきゃ C 力貸さなきゃ

2 ディアに占いの館を案内された時の「…うまくいきゃ、二人の○○が良くなるってワケ。」○○に入るのは？
A 仲　B 親密度　C 相性

3 執務室での「○○に向かって突っ走るのって、バカみたいだよね。」○○は？
A 目標　B 目的　C 未来

4 デートを断られて再訪問「…ちょっと遊ぶ気分じゃないんだ。○○。」○○に入る言葉は次のうちどれ？
A わかってよね　B ごめんね　C またねー

5 趣味イベントでの「じゃ、今日は○○に、リュートにしてみようかな？」○○に入る言葉は次のうちどれ？
A 気分転換に　B クラシカル　C ロマンチック

6 公園での「…サラちゃんのアクセサリーって○○だってさ。」○○に入るのは？
A 本物　B 手作り　C 特注品

7 身近なこと「私のチャームポイントはやっぱりこの○○かな？」○○に入る言葉は？
A 髪　B ホ・ク・ロ　C 目

8 趣味の話「もう趣味っていうより○○っていっても過言じゃないね。」○○に入る言葉は次のうちどれ？
A 生きてる証　B 命　C ライフワーク

9 夢イベントでのひとり言「がんばってよね、○○天使たち。」○○に入る言葉は？
A カワイイ　B 小さな　C 優しい

10 次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
A．またそのうち遊びに行ってみない？
B．バイバイ。
C．じゃあ、私、帰るから。
D．今日は、結構面白かったね。

ルヴァ……………………………………………



1 ディアに森の湖を案内された時の「…うーん、まだまだ私の知らなかったことが○○にはいっぱいあるんですねー。」○○は？
A 世の中　B ここ　C 世界

2 執務室での「…地の力は軽々しく○○ものではないんだけどね。」○○はどれ？
A あつかう　B 使う　C もて遊ぶ

3 執務室での「○○、真面目に試験を受けていますか？」○○に入るのはどれ？
A どうですか　B あなたは　C えー

4 公園でのパスハとサラの話「…、宇宙を○○、かなり苦労してきたようですねえ。」○○は？
A 彷徨って　B 旅して　C放浪し

5 私の部屋での「いえ、あの、こちらこそーじゃあまた、今度。」これ、いつ断ると言われる？
A 平日　B 土の曜日　C 日の曜日

6 好きな物の話で会話に出てこないのは？
A 紅茶　B ウーロン茶　C 玄米茶

7 恋愛イベントの「…私たちは、知識と知恵のように、お互い○○あって…」○○は？
A 助け　B おぎない　C 支え

8 夢イベント。ゼフェルの件で「…マルセル…。あなたはいつも○○優しい子ですね」○○は？
A 真っ直ぐで　B 明るくて　C 素直で

9 女王即位の時の「…だから、どうか○○あなたでいてください。」○○はどれ？
A 明るい　B そのままの　C 元気な

10 次の語群を正しく並び替えて、メッセージを完成させて
A．いや、そんなはずはないと思うんですけど…。
B．今日はこれで帰ることにして、いろいろ考えてみてください。
C．思い当たることもあると思いますよ。
D．きっとまだまだわかっていないんでしょうね。

スーパーファミコン版 ONLY!
幻(?)のメッセージ

公園の大道芸人

スーパーファミコン版『アンジェリーク』では、公園デートの時に大道芸人と出会えるというイベントがありました。モデルは歴史上の人物ばかりとか？

吟遊詩人

「さあ、皆の衆、今日も私の英雄叙事詩を聴いてくだされ」
　竪琴を弾く。
「ご静聴どうもありがとうございますじゃ私も今日は楽しかったですぞ」

象使い

「おい、カル、みなさんにごあいさつだ。ちなみにカルというのはこの象の名です」
　象が鳴く。
「それではみなさん、さようなら。今日はどうもありがとうございました」

発明家A

「うーん、どうしたらいいんだろう。この問題は難しいな。そうだ、決めたぞ。今日のディナーは特製シチューにしよう」

発明家B

「レディース、アンド、ジェントルメン。働いて、いいものを作って便利な世の中にしましょう。私もがんばってみなさんのお役に立つようなものを作ります」

芸術家

「よし、この大理石に命を吹き込んでやる」
　彫刻をしていると、彫刻が砕け散る。



「ああ、私の作品が……。がっくりだ」

戦いの聖女？

　アクションして
「目には見えませんがみなさんの背には美しい翼があるのです。その翼の力を信じて夢に向かって飛び立ちましょう」

大学教授？

大小の鉄球を落として
「どうだ。大きさに関係なく落ちる速さは同じだ。試しもしない事を信じきるな。自分の頭で考え、自分の手で試すのだ。科学的思考はそこから生まれるものだ」

音楽家A

ヴァイオリンを演奏して
「今日はみんなのおかげで気持ちよく演奏できたよ。また来てください」

音楽家B

指揮棒をふった後
「これで演奏を終える。この演奏はあなた方の耳ではなく、心に訴えたものだ。決してオーケストラを雇う金がなかったのだとは思わないでほしい」

航海王子？

　望遠鏡で周りを見て
「見える、見えるぞ。望遠鏡で見るとお客さんの顔がドアップで見えるぞ」
　再びキョロキョロして「大航海時代を舞台とした一人芝居、楽しんでいただけたでしょうか。今日は見てくださって、大変ありがとうございました。ではさようなら」

科学者？

　リンゴが落ちてきて何かが閃めいた様子。



「このようにリンゴが落ちてくるのは引力があるからです。それはともかく私はリンゴが大好きです。プレゼントはリンゴをください」

英雄？

「今日も余の自信満々の言葉を聞かせよう。余の辞書に不可能という文字はない、だ。皆も自信を持って物事をなすのだ。自信は自身を表現するのに必要だぞ」

画家

「うーん、傑作が描けそうだ。インスピレーションがわいてきたぞ。」
キャンパスに絵を描いて
「これで完成だ。うん、我ながらよい出来だ。今日は満足いくものが描けたぞ」

冒険家

セスナ機が飛び立つと
「翼よ、これが天上界だ。この世界は戦争のない平和な世界なのだ」

サイボーグ？

体をガチガチと動かして
「この間、短距離離走で負けてしまいました。今度は勝ちます。レーシングカーなんかに負けたままでは、いられません」

アンジェリーク
メッセージコレクション

1996年11月15日　初版発行
1996年12月20日　2版発行

カバーデザイン●有限会社 ペーパーストーン
（小平ゆかり）
カバーイラスト●由羅カイリ
本文デザイン●澤田千尋
本文イラスト●杉山志保子
押田J・O
イラスト協力●株式会社スタジオライブ

発行者●襟川陽一
発行所●株式会社 光栄
〒223　横浜市港北区箕輪町1-23-3
電話●045(561)6861
DTP・印刷・製本●日興美術株式会社

●電話によるお問い合わせには応じられません。
また、本書の内容を超える質問には
お答えできない場合があります。
●ご質問は、小社ユーザーサポート係まで
封書(返信用切手同封のこと)にてお願いいたします。
●乱丁・落丁はお取り替えいたします。
●定価はカバーに表示してあります。

ISBN4-87719-411-8 C0076